

第 1 章 兄に育てられる

1-1 平穏な日々

- 1 I-resu yubi※1
p.1 イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 2 upsorpo ne
ウブソロ ポ ネ
懐子として
わたしを懐に抱いて
- 3 chipirkaresu
チピリカレス
～ことよい 成育をする
大切に育て
- 4 i-y-ekarkar.
イ イエカラカラ
我に・～を施す
てくださいました。
- 5 Tane ne kusu
タネ ネ クス
今 になった 故
今、
- 6 semor borono
セモロ ポロノ
(否定+強勢) 大きく
わたしがもう少し大きく
- 7 shikup-an wa
シクア アン ワ
成長し・我が て
なって
- 8 inkar-an ko
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
眺めると、
- 9 ineapkusu
イネア ヌクス
どうしたもの 故に
なんとまあ
- 10 a-ewak ushike
アエワ ヌ ウシケ
我が・住む いつも～する 所
わたしの住まいは
- 11 pirika wa
ピリカ ワ
美しく て
美しくて
- 12 atomte wa
アトム テ ワ
人が・光らせて
立派だった
- 13 shiran nankor'a!
シラン(←シリアン) ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
様子 ある だろう か
ことでしょうか!
- 14 Tam boro chise
タム(←タン) ボロ チセ
この 大きな 家
この大きな家
- 15 upsoro sonno
ウソロ ソンノ
その懐 本当に
の中は本当に
- 16 atomte kashba.
アトム テ カシバ
人が・光らせる 過ぎる
美しく飾り付けられていました。
- 17 Rorunsoba※2 ta
ロルンソバ(←ロロ ウンソバ タ)
上座の 座頭 に
上座のかみて側には
- 18 taban iyoikir
タバ(←タブアン) イヨイキリ(←イオ イキリ)
今ここに ある 物を入れる物(=容器) 列
宝壇が
- 19 rambesh kunne
ラム ベシ クンネ
低い崖 のように
低い崖のように
- 20 chishiturire,
チシトゥリレ
自身が 自分を伸ばさせる
ずらりと連なっていて、
- 21 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上面一帯に
- 22 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい光が
- 23 eshimaka.
エシマカ
そこで 自身を開く
ピカピカひらめいていました。
- 24 Nei kotchake
ネイ コツチャケ
その 前方
その手前には
- 25 chituye amset※3
チトウイエ アムセツ
された 切る 高床
一段高くつくられた台座が
- 26 chishiturire,
チシトゥリレ
自身が 自分を伸ばさせる
延びていて、
- 27 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上で
- 28 i-resu yubi tura
イレス ユビ トウラ
我を・育てる その兄 と一緒に
育ての兄さまと
- 29 ouse tun a-ne wa
オウセ トウン アネ ワ
ただ～だけ 二人 我ら・であつて
たった二人きりで
- 30 okai-an.
オカイアン
いる・我らは
暮らしていました。
- 31 Tokap an ko,
トカプ アン コ
昼 ある と
昼になれば
- 32 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 33 pirika shuke
ピリカ シュケ(←スケ)
よい 炊事
心をこめて煮炊き
- 34 koyairikta-
コヤイリクタ
に対して 自身を 高所に
にかいがいしく
- 35 ante kane,
アンテ カネ
置く 状態で
立ち働き、
- 36 tun a-ne wa
トウン アネ ワ
二人の 我ら・であつて
二人で
- 37 keran ibe a-ki.
ケラン(←ケラ アン) イベアキ
味 ある 食事 我らは・する
おいしく食べました。
- 38 A-okere ko,
アオケレ コ
我らが・～を終える と
食事が終わると、
- 39 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 40 ikorka nuye
イコロ カ ヌイエ
宝刀の上 に彫刻する
刀の鞘さやや
- 41 tomika nuye
トミカ ヌイエ
富の上(刀の鞘外側)に彫刻する
宝器表の彫り物
- 42 kokipshiriechui.
コキプシレチウ(←コキプ シリエチウ)
に向かって ほしい 大地へ～を刺す
に熱中しました。
- 43 Nei samake ta
ネイ サマケ タ
その 側の所 で
そのそばで
- 44 yaiturashinot-an.
ヤイトウラ シノツ アン
自身と共に遊ぶ・我は
わたしは一人で遊んでいました。
- 45 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは

※1 i-resu yupi「我を・養育す・兄」故あつて父母におくれたヒーローが、かうして先づ誰の手に養はれて如何に成長してゐるかの叙述を以て始まるのがアイヌ詞曲の型である。…この yupi(兄)といふ語はアイヌでは必ずしも骨肉上の關係を意味しない。akor yupi(我が兄)と呼ぶ場合もさうである。それを特に i(我を)-resu(養ふ、育てる)といふ修飾語を添へてよぶ場合は、寧ろ骨肉上の兄では無い場合である。…」(研W239)

※2 「rorun-so-pa<横座の頭>すなわち、屋内の炉より奥の部分の称」(金Ⅱ-59)

※3 chituye amset「…造りつけではなく、切つて造つた、即ち移動のできるように別にこしらへたる座の意。…炉ばたの常の座 amso より一段高くつくつた台座で、ざつとまな板様の形をした、涼み台程の大きさの、もつと低いもの」(研W241)。…屋内の上座に、このヒーローの常にすわっている amset「すわり台」がある。…造りつけでなく、持つて移すこともできるようにしつらえてある意。昔は床板がなく、こうして地蚤を妨いだといふ(金Ⅱ-60)、…三尺に五尺ほどのもので花むしろをもつて掩つてその上に坐する(金Ⅵ-28)」

1-2 突然の独り寝

- 46 kanna kanna
カンナ カンナ
上の方へ 上の方へ
何度も何度も
- 47 i-kohosari,
イコホサリ
我・に向かって 振り向く
わたしの方へ向いては、
- 48 otuhenkuror※1
オトウ ヘンクロロ (←ヘンクル オロ)
幾度も二つのうなづき(←顔 陰の内)
ニコニコと
- 49 orehenkuror
オレ ヘンクロロ
幾度もの三つのうなづき
何度も
- 50 i-koanukar kane
イコアナカラ カネ
我・に・置く+(他動詞化語尾) 状態で
うなづきながら、
- 51 keshto kane
p.2 ケシト カネ
毎日の状態で
毎日毎日
- 52 ramma kane
ラムマ カネ
いつも の状態で
何事もなくおだやかに
- 53 okai-an awa,
オカイアン アワ
い・我らは たところが
暮らしていましたが…
- 54 Shineanto ta
シネアント タ
一つ ある日 に
とある日のこと
- 55 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 56 a-santekepo
アサンテケポ
我が・出る その手+(指小辞)
わたしの手
- 57 amba kane,
アマバ カネ
手に持つ 状態で
をとって、
- 58 abe teksam
アベ テクサム
火 すぐ傍
ろばた
炉端
- 59 chiesanke.
チエサンケ
自身をそこに 出す
に出て来ました。
- 60 Oshisounwa※2
オシソウンワ
その尻 右座 に行つて
右座の
- 61 abesam ne
アベサム ネ
火 そばに
炉端に
- 62 i-eare koro
イエアレ コロ
我を・そこに 座らせ ながら
わたしを座らせて
- 63 ene itak i ;
エネ イタク イ
こう 言う こと
言うことには、
- 64 " Koninkar kusu !
コニンカルクス(←コン インカラ クス)
早く! 見る +(感嘆の助詞)
「これこれ、
- 65 A-tureshipo !
アトゥレシポ
我が・妹+(指小辞)
わが可愛い妹よ!
- 66 itak-an chiki
イタカン(←イタク アン) チキ
言っ・我が たら
われの言うことを
- 67 pirikano nu yan !
ピリカノ ヌ ヤン
よく 聞き なさい
よくお聞き!
- 68 Tane bakno
タネ バクノ
今 まで
これくらい
- 69 shukup menoko
シュクフ メノコ
成長した 女
女の子が大き
- 70 anakne
アナクネ(←アン ヤクネ)
ある ~すれば
なつたら、
- 71 shinen ne
シネン ネ
一人 になる
一人で
- 72 hotke yakka
ホツケ ヤッカ
寝 ても
寝ても
- 73 pirika ruwe ne.
ピリカ ルウェ ネ
いい 事実 である
いいのだよ。
- 74 Hushkotoiwano
フシコトイ ワノ
古く(強意) から
昔から
- 75 shinrit ubashkuma
シンリツ ウバシクマ
祖先 互いに物事を教え伝える
祖先に関するウバシクマ(言い伝え)
- 76 otta ne yakka
オッタ(←オロ タ) ネ ヤッカ
の所に であつ ても
でも
- 77 'menoko anakne
メノコ アナクネ
娘 は
『女の子が
- 78 tambe bakno
タムベ バクノ
これ ほど
これほど
- 79 okai wa
オカイ ワ
あつ て
大きくなってからも
- 80 okkayo turanno
オクカヨ トウランノ
成人男子 と一緒に
男と一緒に
- 81 ramma hotke ko
ラムマ ホツケ コ
いつも 寝る と
いつも寝ているのは
- 82 sonno wembe ne
ソノ ウエムベ(←ウエンベ) ネ
本当に 悪いこと である
本当にいけないことで
- 83 ashtomap ne '
アシトマフ ネ
恐ろしい こと である
恐ろしいことになる』
- 84 ari hawash.
アリ ハワシ(←ハウアシ)
と 声ある
と言っている。
- 85 Tambe kusu
タムベ(←タンペ) クス
この こと 故に
それゆえに

※1「その上その上へ重なる意味の接頭辞・顔・陰の内/三つ うなづき>こっちへ向いてににことあとち、"よしよし"と何べんもうなづくこと」(金 I-362)

※2 unwa「【格助詞】=unwa un-wa<に行く・して>~へ」(田773)

- 86 tantewano
タン テ ワノ
今ここから
これからは
- 87 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 作法
アイヌの慣習は
- 88 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうなの
- 89 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 90 tantewano
タン テ ワノ
今ここから
これからは
- 91 usa shuke hemem
ウサ シュケ ヘメム
種々の 炊事する でも
いろいろな料理や
- 92 shitchashnure hemem
シツチャシヌレ(←シリ チャシヌレ) ヘメ
ム
あたりを さっぱりさせる も
掃除の仕方や
- 93 kemeiki hemem
ケメイキ(←ケム エイキ) ヘメム
針で 物事をする でも
針仕事も
- 94 e-yaihanokkar aine
エ ヤイ ハノクカラ アイネ
汝は・自分を 馴らす そのうちに
稽古して、そのうち
- 95 menoko bakno
メノコ バクノ
成人女子 ほどに
一人前の娘に
- 96 shukup ita,
シュクブ イタ
成長した 時に
なった時には、
- 97 nani yairamkotpa wa
ナニ ヤイラム コツパ ワ
すぐに 自身の心 を結ぶ して
すぐに結婚して
- 98 sonno katkemat nep
ソンノ カツケ マツ ネブ
真の あり方 ある 女性 になるもの
まことの淑女になるもの
- 99 tapokai na.
タ オカイ ナ
今ここに ある(←tapan 複) よ
なのだよ。」
- 100 ari itak kane,
アリ イタク カネ
と 言う 状態で
と言って、
- 101 ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
こうこうしかじかと
- 102 abeare-an
アベ アレ アン
火を座ら せる・人が
火の焚き
- 103 kuni hene
p.3 クニ(←クン ヒ) ヘネ
すべきこと でも
方や
- 104 shuke-an
シュケ アン
炊事する・人が
料理の
- 105 kuni hene
クニ(←クン ヒ) ヘネ
すべきこと でも
仕方や
- 106 munuye-an※1
ムヌイエ(←ムン ヌイエ) アン
ごみを掃く・人が
は
掃き掃除の
- 107 kuni hene
クニ(←クン ヒ) ヘネ
すべきこと でも
仕方など
- 108 i-ebakashnu.
イ エバカシヌ
我に・～を教え諭す
をわたしに教えました。
- 109 Tane shirikunne ko,
タネ シリクンネ コ
今は 辺りの様子 暗い と
やがて日が暮れると、
- 110 oshisoun
オ シソウン
その尻 右座 に向く
右座の方の
- 111 kakenchai
カケンチャイ
掛けざお
か ざお いこう
掛け棹(=衣桁)
- 112 chorobo ke ta
チヨロボケ タ
その下の所 に
の下に
- 113 kani mukru
カニ ムクル
金の 枕
きれいな枕が
- 114 chishiturire,※2
チ シトゥリレ
自ら おのれを 伸ばさせる
ずうっと伸びており、
- 115 mukru kurka
ムクル クルカ
枕 の上面
その枕の上
- 116 i-ehotkere,
イ エ ホツケレ
我を・そこに 寝させる
に兄さまはわたしを寝かせ、
- 117 tu pirika kunip※3
トゥ ピリカ クニッ
二つの 良い はずのこと
たくさんのよいこと
- 118 re pirika kunip
レ ピリカ クニッ
三つの 良かる べき こと
いくつものいい話
- 119 i-ebakashnu koro
イ エバカシヌ コロ
我に・～を教え諭す ながら
でわたしをなだめながら、
- 120 too kor
トオ コロ
ずっと遠く 持つ(?)
遠く離れた場所にある
- 121 amset kurka
アムセツ クルカ
広やかな 台 の上面
寝台
- 122 orikin※4 hotke.
オリキン ホツケ
そこに 昇り 寝る
に上がって兄さまは寝ました。
- 123 Shiriki chiki
シリキ チキ
その様をし たら
そうしたら
- 124 annisapno
アンニサッノ(←アラ ニサッノ)
全く 不意に
突然急に
- 125 ouse shinen ne
オウセ シネン ネ
ただ～だけ 一人 になる
たった一人だけで
- 126 i-hotkere-ambe
イ ホツケレ アム ベ
我を・寝る させる 人が(←an) もの
寝せられたもの
- 127 ne kusu
ネ クス
である 故に
だから、
- 128 eashka nishmu-an.
エアシカ ニシム アン
とても 寂しい・我は
本当にわたしは寂しかった。
- 129 Ene hetapne
エネ ヘ タッネ
こう かこれはまあ
あんなにもまあ
- 130 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまに
- 131 a-yaikotukukbare※5
ア ヤイコトウクバレ
我が・自身に 突き出さ+(複数語尾) せる
(不詳。ピタツとくっついて?)
- 132 a-koshipombenere
アコシポムベネレ
我がに 自分を 赤ん坊 にならせる
(不詳。赤ん坊みたいに寝ていた?)
- 133 humi okai rok awa,
フミ オカイ ロク アワ
その感情 あつ た ところが
のであったのに、

※1 「munuye《幌別》掃く」(方103)、「munnuwe ムンヌウエ【自動詞】<ごみ・を掃く>掃き掃除をする」(田400)

※2 chishiturire,「shi-turi<おのれを・伸ばす>、それへ chi-~re<自らを~させる>がついて結局 shituri<長く伸びている>意。」(金 I-55)

※3 《壹野茂訳》「二つのいい話/三つの良い言葉」(教IX-63)

※4 orikin「o-rikin<そこ・昇る> o- は単に方向をさしている(その時は e-)のではなくに、そこへ<尻>をつけておちついたさきを表す」(金 II-305)

※5 参考: tukuku tuku-ku 「突き出している」(語法) 「yaikotukkare 味方スル, vi. *To side with.*」(B565)

1-2 突然の独り寝

- 134 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 作法
人間の慣習や
- 135 kamui buri
カムイ ブリ
神の 習慣
神々の風習は
- 136 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなこと
- 137 konep ne kusu
コネ^プ ネ クス
(調律)であるもの である 故に
だから、
- 138 tantewano
タン テ ワノ
今ここから
これからは
- 139 tap korachi
タ^ッ コラチ
この 如く
このように
- 140 ouse shinennepo
オウセ シネン ネ^ポ
ただ~だけ 一人 である+(指小辞)
一人きりで
- 141 hotke-an ruwe
ホツケ アン ルウエ
寝る・我は その事実
わたしが寝ること
- 142 okai chiki,
オカイ チキ
ある したら
になるのなら、
- 143 yaituyashkarap-an
ヤイトウヤ^ッカラ^ッ アン
自身に同情する・我は
自分がかわいそうで
- 144 mokor boka
モコ^ロ ボカ
眠り さえも
なかなか寝つけ
- 145 an-etoranne.
アネトランネ(←アン エトランネ)
我は・~いやがる
ません。
- 146 Bichish-an,
ビ チ^シ アン
かすかに泣く・我は
わたしは忍び泣きながら、
- 147 hemakashi wa
ヘマカシ(←ヘ マ^ッアシ) ワ
頭奥へ立てる して
奥の方から
- 148 hesashi wa
ヘサシ(←ヘ サ^シ) ワ
頭前立てる して
いろり
囲炉裏がある前の方へと
- 149 shikirmamba-an
シキルマ^ムバアン
自ら寝返りする(sikirmama複)・我は
何度も寝返りを打っていました。

- 150 Aine aine
アイネ アイネ
そして そして
そうやってやっているうちに
- 151 tane anakne
タネ アナ^ッネ(←アン ヤ^ッネ)
今 ある ~すれば
とうとう
- 152 shiribeker
p.4 シリ ベケレ
辺りの様子 明るい
夜明け
- 153 ehanke ko
エ ハンケ コ
そこに近い と
近くに
- 154 raboki ta
ラボキ タ
~している間 に
なって
- 155 eashiri ponno
エアシリ ポンノ
初めて 少し
ようやくトトロ
- 156 mokor-an.
モコ^ロ アン
眠る・我は
眠りました。
- 157 Kunnewano※1
クンネ ワノ(←クンネ イワノ)
暗い時から
まだ暗いうちから
- 158 hobuni-an chiki,
ホブニ アン チキ
起き・我が たら
わたしが起き出すと、
- 159 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 160 i-henkotba kor,
イヘン コツバ コ^ロ
我に顔結びつけ ながら
ニコニコうなずきながら、
- 161 "Oyoi oyoi!
オヨイ オヨイ
おお おお
「オオオオ!
- 162 A-tureshipo!
アトウレシポ
我が・妹+(指小辞)
わが可愛い妹よ。
- 163 Katkemat e-ne kusu
カツケ マツ エネ クス
あり方ある女性 汝・である 故に
そなたは淑女だから
- 164 sonno e-itaknu kusu,
ソンノ エイタ^ッヌ クス
真に 汝は・言葉を聞く 故に
本当に聞きわけがよくて、
- 165 shinenne hotke
シネン ネ ホツケ
一人で 寝る
ひとりで寝ても

- 166 e-mokonno noine
エモコンノ(←エ モコ^ロノ) ノイネ
汝は・眠るよくらしく
よく眠れたように
- 167 iramu-an. "ari
イラム アン アリ
思う・我は と
思われる。」と
- 168 itak kane, eashka
イタ^ッ カネ エア^ッカ
言う 状態で それこそ
言っ、ほんとうに
- 169 i-kobuntek chiki,
イコブンテ^ッ チキ
我に・対して喜ぶ したら
お喜びになったから、
- 170 keutum otta
ケウトウ^ム オツ^タ(←オ^ロタ)
心 の所で
心内では
- 171 eashka yayikush※2 kane.
エア^ッカ ヤユイク^ッ カネ
本当に 悔いる 状態である
それこそヒヤツとしました。

※1 kunnewano「《幌別》朝(方252-50)、tanto kunnewano 今朝(方247-14)」kunnewano【副詞】kunne-i-wano<暗い・時・から>朝、朝から」(田363)

※2 yayikush「恥じ入る(金 I-145)、悔いる(金 I-293)、危うい、恥ずかしい、ひやっとした(金 V-204)」

1-3 家事の練習

- 172 A-ki kush ne yak
アキ クスネ ヤク
我が・する べき であると
わたしがすべきだと
- 173 a-yep ne kusu,
アイェ ヌ ネ クス
人が・言う こと だ から
言われたのだから、
- 174 ene ene a-i-y-e-
エネ エネ アイイエ
こう こうと 人が・我に・それを
こうこうと
- 175 bakashnu i korachi
バカシヌ イ コラチ
教える こと の如く
教えられたように
- 176 a-ki chiki, shino
アキ チキ シノ
我が・する なら 真に
すれば、本当に
- 177 a-eashkai manu.
ア エアシカイ マヌ
我が・それを できる と言う
できるようになるとか。
- 178 I-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 179 i-kobuntek,
イコブンテク
我に・対して 喜ぶ
お喜びになるなら
- 180 shino a-enubetne.
シノ アエヌベツネ
真に 我は それで 嬉しい
ほんとうにわたしも嬉しい。
- 181 A-eyaisembir-
アエヤイセムビリ
我が・それについで 自身の 陰
わたしはひそかに
- 182 omina kane,
オミナ カネ
そこで 笑う 状態で
ひとり笑いしながら、
- 183 shino keshto
シノ ケシト
本当に 毎日
ほんとうに毎日
- 184 yuptek-an
ユプテク・アン
締める+ちよつと~する・我は
わたしは勤勉につとめ、
- 185 pirikano
ピリカノ
よく
一生懸命
- 186 shuke hemem
シュケ ヘテム
炊事する も
料理も
- 187 a-eyaihanokkar※1
アエヤイハノクカラ
我が・について 自分を 訓練する
練習し、
- 188 shino a-eashkai.
シノ アエアシカイ
真に 我は・に関して 出来る
ほんとうに上手になりました。
- 189 Pirika aep
ピリカ アエッ
よい 我ら が食べる 物
よき食べ物
- 190 rai sonabi
ライ ソナビ
特大の 高盛椀
山盛りの高盛飯を
たかもりめし
- 191 i-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さま
- 192 a-kobunikar chiki,
アコブンカラ チキ
我が・に 持ち上げさせ たら
にわたしが差し伸べたら、
- 193 uina wa
ウイナ ワ
受け取って
兄さまは受け取って
- 194 rikunruke
リクンルケ(←リク ウンルケ)
高く置く
高盛飯を高くささげ
- 195 raunruke
ラウンルケ
低く置く
低くささげて
- 196 koonkami wa e,
コオンカミ ワエ
~に 拝礼して 食べる
はいれい
拝礼してから召し上がり、
- 197 sonno sonno
ソノ ソノ
本当に 真に
まことにまことに
- 198 shuke-an eashkai
シュケアン エアシカイ
炊事する 我が それが出来
わたしの煮炊きは上手で
- 199 shino keran
シノ ケラン(←ケラアン)
誠に 味ある
ほんとうにおいしい
- 200 ruwe ne
ルウェ ネ
その事実 である
のだ
- 201 ari itak kane
アリ イタク カネ
と 言う 状態で
と言って
- 202 i-henkotpakar※2 chiki,
p.5 イヘンコツパカラ チキ
我が・顔 結びつけさせる から
ニコニコうなずいて見せたから、
- 203 shino a-enubetne.
シノ アエヌベツネ
真に 我は それについて 嬉しい
わたしもとても嬉しく思いました。
- 204 Kesukuran
ケスクラン(←ケシ ウ克蘭)
毎晩
毎晩
- 205 hotke-an ko
ホツケアン コ
寝る・我は と
わたしは寝ると
- 206 nishmu-an wa
ニシムアン ワ
寂しく・我は て
寂しくて
- 207 bichish-an,
ビチシアン
かすかに 泣く 我は
忍び泣き、
- 208 yayeramushitne※3 batek
ヤイェラム シツネ バテク
自分でその心 苦しむ ばかり
ひとりで煩悶ばかり
はんもん
- 209 a-ki a koroka,
アキ アコロカ
我が・した けれど
わたしはしていたけれど、
- 210 tane anakne
タネ アナツネ(←アン ヤクネ)
今 ある ~すれば
とうとう
- 211 yairamkikkar-an.
ヤイラム キツカラ アン
自身の 心を抑える・我は
あきらめました。
- 212 Ramma tashi
ラムマ タシ
いつも (強調)
きっと
- 213 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 作法
人の習慣が
- 214 ene okai i ne yak
エネ オカイ イネ ヤク
こう ある こと であると
こうなのだ
- 215 a-i-y-ebakashnu ko,
アイエバカシヌ コ
人が・我に・~を教え諭す と
教えられたのに、
- 216 kama tap korachi
カマ タブ コラチ
を超えて この ごとく
それ以上(?)このように
- 217 hembara bakno
ヘムバラ バクノ
いつ まで
いつまで
- 218 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も
- 219 chish batek
チシ バテク
泣く ばかり
泣いてばかり

※1 hanokkar「hannokar.ハンノカラ教ヘル、訓練スル。v.t. To teach.To break in(as a horse). Syn:Epakashnu.」(B150) ehanokkar「《幌別》習う」(方162-17) yaihanokkar「《幌別》自習する」(方162-17)

※2 原綴 ihenkotpakara

※3 biyayeramushitne/a-ki kane《萱野茂訳》「一人で思い煩い」(教25-116)

1-4 刺繡^{ししゅう}を独習する

- 220 a-ki apkusu
アキ アックス
我が・～をし たとしても
いたとて
- 221 konep raka ne p※1
コネ^ラ ラカ ネ^プ
(調律)何か 益 になる もの
どうにかなるもの
- 222 an ? ari
アン アリ
か と
でもないと思ひ直して
- 223 ramushiborore-an.
ラムシボロレアン
その心 おのれを 大きくする・我は
がまんしました。
- 224 Orowano ponnoka
オロワノ ポンノカ
それから 少しも
それからは少しも
- 225 chish-an somoki
チ^シ アン ソモキ
泣く・我は (否定) する
泣かずに、
- 226 eashka mokonno-an.
エア^シカ モコンノ(←モコ^ロノ) アン
それこそ 眠るよく・我は
本当にぐっすり眠りました。
- 227 Inkar-an ko
インカラン(←インカ^ラ アン) コ
眺める・我が と
眺めると、
- 228 nekona shikop
ネコナ シコ^ヲ(←シ^ク オ^ヲ)
どんな 目 が付く者
どのような生まれの
- 229 nekona barop
ネコナ バロ^ヲ(←バ^ラ オ^ヲ)
どんな 口 が付く者
どんな育ちのお方が
- 230 tekekar kunip
テケカ^ラ(←テ^ク エ^カラ) クニ^ヅ
手 でを作る はずの 物
お作りになったもの
- 231 ne nankor' a !?
ネ ナンコ^ラ(←ナンコ^ロ ヤ)
である だろう か
なのでしょう。
- 232 Oshisoun
オシソウン
その尻 右座 に向く
右座の方にある
- 233 kamui chikirbe
カムイ チキ^リベ
神の 刺繡衣
神々しい^{ししゅうぎ}刺繡着や
- 234 kani chikirbe
カニ チキ^リベ
金の 刺繡衣
色とりどりの豪華な刺繡着が
- 235 rikun kakenchai
リクン(←リ^ク ウン) カケンチャイ
上にある 掛けざお
上段の^か掛けざお(衣^{いこう}桁)と
- 236 ram kakenchai
ラム カケンチャイ
低い 掛けざお
下段の掛けざお
- 237 eereweuse,
エエレウエウセ
共にそれでたわむ
をたわませ、
- 238 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上面一帯に
- 239 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュ^ヅキ
二つの 神 陽 光線
たくさんの神々しい光
- 240 re kamui chupki
レ カムイ チュ^ヅキ
三つの 神 陽 光線
いくつもの神彩が
- 241 uweshimaka.
ウウエシマカ
互いそこで自身を開く
ひらめいています。
- 242 Anramasu
アンラマス(←ア^ラ ラマス)
全く好感が持てる
まったく面白く
- 243 a-uwesuye.
アウウエスイエ(←ア ウ エ スイエ)
我は・互いに 気持ちを揺らす
楽しい気分になりました。
- 244 Shut ketushi
シュツ ケトウシ
祖母の 長持ち
嫁入道具が入っている^{ながもち}長持ち
- 245 a-tekkushbare,
アテ^ク ク^シバレ
我は・手を通させる
わたしは手を差し入れ、
- 246 sarambe usep
サラム^ベ ウセ^ヅ
上等の布 反物
絹の布地を
- 247 a-sapte wa
アサ^テ ワ
我は・前に出し(sanke^複)て
取り出して
- 248 ikarkar tenki
イカ^ラカ^ラ テンキ
物を飾る 小箱
裁縫箱を
- 249 a-shisam-
アシ^{サム}
我は・自分の 傍
自分のわき
- 250 omare kane.
オマレ カネ
に位置させる 状態である
におきました。
- 251 Kakenchai otta
カケンチャイ オツ^タ(←オ^ロ タ)
掛けざお の所^に
掛けざおに
- 252 rachitke chikirbe
p.6 ラチツケ チキ^リベ
ぶらさがる 刺繡着
下がっている^{ししゅうい}刺繡衣の中から
- 253 ponno isaikano※2 okaibe
ポンノ イサイカノ オカイベ
少し たやすく あるもの
造りやすそうなものを
- 254 a-rapte wa
アラ^テ(ranke^複) ワ
我は・降ろし て
下に降ろして、
- 255 a-kirbakirba
アキ^リバキ^リバ
我は・を回す(kiru^複)+(重複)
てっくり返し
- 256 a-makpamakpa
アマ^クパマ^クパ
我は・開ける(maka^複)+(重複)
おっくり返し
- 257 pirikano
ピリカノ
よく
じっくりと
- 258 a-nukar a
アヌカ^ラ ア
我は・～を見 た
さんざん見るに

※1 nep raka ne「<何～か 為、益 なる>なにかになる、なににもならず、無益なり(研740)、<何の、何～か の滓、澱 なる>何の甲斐があるか、何にもならないと嘆く(金 I -189)」

※2 isaikano「isayka-no 容易ナ,adv.Easily.syn.Eattereke-ne.」(B203)

1-5 一人前の娘になる

- 259 a-nukar a aine
アヌカラ ア アイネ
我は・～を調べ見た そのあげく
見てから
- 260 a-koikar, ※1 keshto
アコイカラ ケシト
我は・にそれを作る 毎日
わたしは作りはじめ、毎日
- 261 koanutushtek
コアヌトウシテク
に置く我を忘れて夢中になる
夢中になって
- 262 a-ki aine
アキ アイネ
我は・をし ているうちに
刺繍をしているうちに
- 263 irukaitom ta
イルカイトム タ
短い間 中 に
たちまち
- 264 sonno a-eashkai.
ソノノ アエアシカイ
本当に 我は・～が出来た
本当に上手になりました。
- 265 Tu shukupramkur ※2
トゥ シュクプラムクル
二つの若い 胸陰
それからいくつもの
- 266 re shukupramkur
レ シュクプラムクル
三つの若い 胸陰
年月を
- 267 a-unoshbare,
アウノシバレ
我は・互いに 追う+(複数語尾) させる
おくりむかえ、
- 268 tane ne kusu
タネ ネ クス
今 である 故
今はもう
- 269 shinotnumatpo
シノツヌマツポ
遊ぶ ひも+(指小辞)
肌着えりもとの襟元のひもを
- 270 a-rikoraye. ※3
アリコライエ(←ア リク オライエ)
我は・高い所にやる
結ぶくらいに大きくなりました。
- 271 Pirika-an kotomne ※4
ピリカ アン コトムネ
美しい・我は のようである
わたしは美人であるらしく
- 272 a-tomsam konna
アトムサム コンナ
我が・身体中央部 側 (調律)
わたしがいるそばは
- 273 shikaye kane
シカイエ カネ
自分を折る 状態で
稲妻のように屈折した光が
- 274 mike kane
ミケ カネ
光り輝く 状態で
ピカピカ照り輝き、
- 275 okutchi ※5 urar
オクッチ ウララ
そこ 暗くなる もや
薄くかげるもや
- 276 urar tumu
ウララ トウム
かすみ の中
そのもやに
- 277 a-yayomare.
アヤヨマレ(←ア ヤイ オマレ)
我は・自身を入れる
わたしは包まれていました。
- 278 A-karkar kunip
アカラカラ クニッ
我が・作る+(他動詞化語尾) はずのもの
わたしが刺繍したものは
- 279 tu kamui nish ne
トゥ カムイ ニシ ネ
二つの 神 雲 をなす
いくつもの神々しい雲
- 280 re kamui nish ne
レ カムイ ニシ ネ
三つの 神 雲 をなす
たくさんの神々しい雲となって
- 281 yayebumpa.
ヤイエブムバ(←ヤイエブンバ)
自身で頭をあげる(puni複)
立ち昇ります。
- 282 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 283 katu ne kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 284 a-karkar kunip
アカラカラ クニッ
我が・作る+(他動詞化語尾) はずのもの
わたしの刺繍を
- 285 erayap kunip
エラヤッ クニッ
～で感心する はずのもの
感心するの
- 286 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 287 kotomkorkaiki,
コトム コロカ イキ
似つかわしい けれども+物事 をする
いいのにそうではなく、
- 288 pirikano
ピリカノ
よく
しっかり
- 289 i-kohebumba
イコヘブムバ(hepuni複)
我・に向かって 顔を上げる
わたしの方に顔を上げて
- 290 kusu ne ko,
クス ネ コ
ようとすると
見ようとしては、
- 291 i-tukarikepo
イトウカリケポ
我・の手前の所+(指小辞)
遠慮深くわたしのすぐ手前の所
- 292 koshikerana-
コシケラナ
にその目 低い方
へ目を
- 293 atte kane,
アッテ カネ
を掛ける 状態で
伏せて、
- 294 tekkakipo
テクカキポ
手垣、ひさし+(指小辞)
手びさしを

※1 a-koikarkarの誤記か？

※2 「sukup-ram<若き・胸>若さ、unoshpare<互いに追いかける>は 二つの若さ三つの若さがどんどん追っかけるようにどんどん育つ、の意(金Ⅱ-64)、幾つもの若いよわいをの意。幾年も幾年も(金Ⅲ-162)」

※3 「一人前の女になるや否や誰でも着る一種の成女着(mo-urを)胸のひらかめよう首の根っこまで左右から固く合せる意(金Ⅰ-62)」

※4 「-ne は -no(副詞法語尾、強意)であってもよい(金Ⅱ-70)」

※5 okutchi「o-kutchi<そこ・暗くなる>うすく騒る意。貴人など、もやがかうってかげるようによく見がたいこと(金Ⅰ-58)」

- 295 rikunruke
リクンルケ(←リク ウイルケ)
高く置く
高く
- 296 raunruke kane,
ラウンルケ(←ラ ウイルケ) カネ
低く置く 状態で
低くかざしながら、
- 297 "Sonno hetapne
ソノ ヘ タッネ
本当 かこれはまあ
「本当にまあ
- 298 a-tureshipo !
アトゥレシポ
我が・妹+ (指小辞)
わが可愛い妹よ!
- 299 ebenuburbe※1 hene
エベヌブルベ ヘネ
血筋 濃い者 でも
優れた先祖の血を引く者でも
- 300 ne rokbe kusu,
ネ ロクベクス
であった者 故
あった故か、
- 301 ashkai hetapne
アシカイ ヘ タッネ
上手だ かこれはまあ
なんとまあ達者で
- 302 irayapka
p.7 イラヤヅカ
人を感心するさせる
たまげた
- 303 ki ruwe okai !
キ ルウェ オカイ
～をする 事実 ある
腕前のことよなあ!
- 304 Tap eashiri
タッ エアシリ
今 初めて
今こそそなたは
- 305 moshit tuika ta
モシッ(←モシッ) トウイカ タ
島 の上 で
国
- 306 isam teketok
イサム テケトク(←テク エトク)
無い 手先
一番の刺繍の腕前
- 307 e-ne ruwe ne."
エネ ルウェ ネ
汝・である 事実 である
になった。」
- 308 ari itak kane
アリ イタク カネ
と 言う 状態で
と言って、
- 309 boo hene i-omap.
ボオ ヘネ イオマッ
もっと でも 我を・可愛がる
さらにわたしを可愛がりました。
- 310 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さま

- 311 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 312 Inerokbekusu !
イネ ロクベクス
何と あった ことゆえ
何とまあ!
- 313 shiretokkoro wa
シレトクコロ(←シリ エトクコロ) ワ
容子の 先端 を持つ て
美男子で
- 314 okai nankor'a !?
オカイ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
ある だろう か
いらしたことでしょうか。
- 315 Kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神のようなお姿から発する
- 316 urar kusu
ウララ クス
もや 故に
もやのため
- 317 imeru kusu
イメル クス
ものの きらめき 故に
光のせいで目がくらんで
- 318 a-nukar boka
アヌカラ ボカ
我が・～を見る さえも
わたしにはよく見ることさえ
- 319 ewen※2 kane.
エウエン カネ
で 悪くなる 状態だ
できません。
- 320 Utashba ue-
ウタシバ ウエ
相互い 互がそれで
お互いに
- 321 yaikiroratte※3 kane,
ヤイキロアッテ カネ
自身を 楽しく掛ける 状態で
楽しみ合いながら、
- 322 ramma kane
ラムマ カネ
いつもの 状態で
いつもいつも
- 323 katkor kane
カツコロ カネ
常態を持つ 状態で
変わり無く平穩に
- 324 okai-an.
オカイアン
いる・我らは
暮らしていました。

1-6 狩り上手な兄

- 325 Shineaniwano
シネアニワノ(←シネ アン イワノ)
一つある時 から
ある時期から
- 326 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 327 ekimne ko,
エキムネ コ
その頭山 であると
狩りに出かけて、
- 328 kamui chikoikip
カムイ チコイキヅ
熊神 我らが 捕えるもの
熊や
- 329 yuk chikoikip
ユク チコイキヅ
鹿 我らが 捕えるもの
鹿を
- 330 tup shumaukoro
トゥブ シュマウコロ
二つ 死んだ獲物 を持つ
何頭も
- 331 rep shumaukoro.
レブ シュマウコロ
三つ 死んだ獲物 を持つ
たくさんとって来ました。
- 332 Ineapkusku
イネ アックス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ
- 333 chikoikip
チコイキヅ
我らが 捕えるもの
えもの
獲物になってくださった
- 334 kamui utar
カムイ ウタラ
神 たち
神々の
- 335 keraha pirika wa
ケラハ ピリカ ワ
その味 よく て
味がおいしかった
- 336 humash nankor'a !
フマシ(←フム アシ) ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
気がする だろう か
ことでしょうか!
- 337 Usa huibe ari
ウサ フィベ アリ
様々な 生で 食べる物 と
生で食べる肝臓と
- 338 a-borosep hene
アボロセヅ ヘネ
人が・言う もの でも
呼ばれているものも
- 339 sonno a-ekatnu.
ソノ アエカツヌ
本当に 我は・好きだ
わたしは大好きです。
- 340 Boronno a-e,
ボロンノ アエ
たくさん 我は・食べる
いっぱい食べて

※1 「epe-nupur-pe<血すじ・濃いもの>親・先祖の血すじが濃く流れている人」(金Ⅲ-67)

※2 「(貴人にて半ば神の如き首領なる故おのづからその身より霞か霧のやうなるものを発してよく見えず、又さんらんと光華をはなつそのまばゆきばかりの装ひに目くらむやうにてよく見えず)」(研761)

※3 yaikirorante の誤記か? 既出例: aeyaikiror/-ante kane/ramma kane/katkor kane/okaian.「われら/たのしく(脚注: yai-kiroroan-te<自身をたのしくする、たのしく暮らす>)/毎日毎日/無事に/くらしていた。」(金Ⅴ-328)、aeyaikiror/-ante kane.「われら楽しみ/合った(脚注: a-e-yai-kiroran-te<われら・それについて・自身を・喜ば・せる>一同楽しいおもいをした)。」「(金Ⅰ-357)

- 341 a-etumashnu.
アエトウマシヌ(←ア エトウム アシヌ)
我は・それで 力が 充分ある
わたしは丈夫になりました。
- 342 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 343 sui reba,
スイ レバ
また 沖漁に出る
沖漁にも出て
- 344 rebun chikoikip hene
レブン チコイキブ ヘネ
沖にいる 獲物 でも
魚も
- 345 boronno
ボロンノ
たくさん
どしどし
- 346 eyanarutu.
エヤナルトウ
それで 陸の方 に寄せる
陸へ持ちかえりました。
- 347 Kimun chikoikip hene
キムン チコイキブ ヘネ
山にいる 獲物 でも
山の獲物も
- 348 rebun chikoikip hene
レブン チコイキブ ヘネ
沖にいる 獲物 でも
沖の獲物も
- 349 inkinebe
インキネベ(←インキネ ッヘ)
いずれであるものか
どちらの獲物に
- 350 urabokkari wa
ウラボッカリ ワ
互いに 低い所 下回って
優劣がつけられる
- 351 humash nankor'a!
フマシ(←フムアシ) ナンコラ(←ナンコロヤ)
気がする だろうか
でしょうか!
- 352 Arobittano
アロビッタノ(←アラオビッタノ)
全く皆
全部
- 353 uneno korachi
p.8 ウネノ コラチ
同じ ごとくに
同じように
- 354 shino kera pirika.
シノ ケラ ピリカ
真に その味 よい
とってもおいしい。
- 355 Keshto shisakbe batek
ケスト シサクベ バテク
毎日 減多に 無いもの ばかり
毎日珍味や
- 356 kirbu batek
キリーブ バテク
脂身 ばかり
ごちそうであるしろみなど
- 357 usa keran ibe
ウサ ケラン(←ケラアン) イベ
種々の 味 ある 食事
色々おいしい物ばかり
- 358 a-ki kane
アキ カネ
我らは・~をする 状態で
食べて
- 359 okai-an awa,
オカイアン アワ
い・我らは たところが
暮らしていたところ…

第2章 兄のウパシクマ(先祖譚)

2-1 村の名はポンテセウ

- 360 Shineanto ta
シネ アント タ
一つ ある日 に
とある日のこと
- 361 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 362 ene itak i;
エネ イタ^ッ イ
こう 言う ことには
言うことには、
- 363 "Koninkar kusu!
コニカ^ックス(←コン インカ^ラクス)
早く! 見る+(感嘆の助詞)
「これこれ、
- 364 A-tureshipo!
アトゥレシポ
我が・妹+(指小辞)
わが可愛い妹よ!
- 365 itak-an chiki
イタカン(←イタ^ッアン) チキ
言っ・我が たら
わが言うことを
- 366 pirikano nu yan!
ピリカノ ヌ ヤン
よく 聞き なさい
よくお聞き!
- 367 Hoshki tukbe
ホ^シキ トウ^クベ
先に 生える者
われは先に生まれた者
- 368 a-ne kusu,
アネ クス
我・である 故に
であるから、
- 369 tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今こそ
- 370 nekona shino
ネコナ シノ
どう 本当に
本当にどんな
- 371 shinrit koro be
シンリツ コロベ
先祖 を持つ者
祖先を持っている
- 372 a-ne wa,
アネ ワ
我ら・であって
われらなのか、
- 373 tane bakno
タネ バ^ッノ
今 まで
今まで何故
- 374 te ta e-resu-an wa
テ タ エレス アン ワ
ここで 汝・を育て・我が て
ここでわれがそなたを育てて
- 375 okai-an ruwe ne ya,
オカイ アン ルウェ ネ ヤ
いる・我が 事実 である か
きたのか、
- 376 shinrit ubashkuma
シンリツ ウバシクマ
祖先 互いに物事を教え伝える
先祖の起原や言い伝えの話を
- 377 a-ye wa
アイエ ワ
我が・言っ て
そなたに言っ て
- 378 e-nure kusu ne.
エヌレ クス ネ
汝に・聞か せる つもり である
聞かせよう。
- 379 Tan a-kor kotan
タン アコ^ロ コタン
この 我らが・持つ 村
このわが村の
- 380 reikor katu
レイコ^ロ(←レ コ^ロ) カトウ
名前 を持つ その有様
名は
- 381 PonTeseu
ポン テセウ
小 テセウ
ポンテセウ
- 382 ne ruwe ne.
ネ ルウェ ネ
である 事実 である
というのだ。
- 383 Teeta kane
テエタ カネ
昔 の状態で
その昔、
- 384 PonTeseu un kuru
ポンテセウ ウン クル
小テセウに住む お方
ポンテセウびとである
- 385 a-koro ainu
アコロ アイヌ
我らが・持つ 父
わが父は
- 386 yayirwakikoro
ヤユイ^リワキコロ(←ヤイ イ^リワキ コ^ロ)
自分を その兄弟 に持つ
男兄弟は自分だけで
- 387 shine turesh ne wa,
シネ トウレ^シ ネ ワ
一 妹 であって
一人の妹がいて、
- 388 taban kotan
タバ^ン コタン
この 村
この村を
- 389 shikkashima.
シ^ッカシマ
保管する
治めていた。
- 390 Sonno a-koro ainu
ソンノ アコロ アイヌ
本当に 我らが・持つ 父
まことにわが父は
- 391 keutum pirika
ケウトウ^ム ピリカ
精神 良い
りっぱな精神で
- 392 yaikotankamore
ヤイコタン カモレ
自分の 村上 静かにさせる
自分の村を平穩に治め
- 393 utar eyam omap wa,
ウタ^ラ エヤ^ム オマ^ブ ワ
人々 を大切にし 可愛がっ て
村びとを気づかい可愛がって
- 394 nei asuru
ネイ(←ネ) アスル
その 噂
いるというその評判は
- 395 kamui asun ne
カムイ アスン(←アス^ル) ネ
神の 噂 になる
神々の噂となって
- 396 tu kotan kama
トゥ コタン カマ
二つの 村 をまたぐ
たくさんの村々を越え
- 397 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 をまたぐ
幾つもの村々を越え
- 398 chihobunire.
チ ホブニレ
自身を 立ち上ら せる
評判になっていた。

2-2 イヨチ村と親戚に

- 399 Neino korachi sui
ネイノ(←ネノ) コラチ スイ
そのような ごとく また
同じようにまた
- 400 Iyochi un kuru
p.9 イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびとは
- 401 yayirwak ne wa
ヤユイワク(←ヤイ イリワク) ネ ワ
ひとり兄弟 であって
男兄弟は自分だけで
- 402 shine turesh ne,
シネ トウレシ ネ
一 妹 である
一人の妹がおり、
- 403 kotankor hine,
コタン コロ ヒネ
村を持っていて
村を治めていて、
- 404 uneno shiasurashte.
ウネノ シアスル アシ テ
互いに似て 自分の評判を立たせる
同様に評判が高かった。
- 405 Okkayo otta
オクカヨ オッタ(←オロ タ)
男 所で
男のほうは
- 406 shiretok turanno
シレトク(←シリ エトク) トウランノ
様子の先端 と一緒に
びぼう
美貌とともに
- 407 rametok tura
ラメトク(←ラム エトク) トウラ
心先端 とともに
度胸もあわせ持ち
- 408 kimun ison※1 hene
キムン(←キム ウン) イソン ヘネ
山の獲物に恵まれる でも
狩りでも
- 409 rebun※2 ison heneki.
レブン(←レブ ウン) イソン ヘネ キ
沖の豊漁 でも する
漁でも上手だった。
- 410 Menoko otta hene
メノコ オッタ(←オロ タ) ヘネ
女 所で でも
女のほうも
- 411 shiretok tura
シレトク(←シリ エトク) トウラ
容子先端 とともに
美貌とともに
- 412 teketok tura
テケトク(←テク エトク) トウラ
手先 とともに
刺繍の腕も
- 413 shiasuruashte.
シアスル アシ テ
自分の評判を立たせる
評判が高かった。

- 414 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえに
- 415 a-koro ainu
アコロ アイヌ
我らが・持つ 父
わが父は
- 416 turesh turanno
トウレシ トウランノ
妹 と一緒に
妹とともに
- 417 sonno nishpa※3
ソノ ニシパ
まことに 紳士
本当に裕福で立派な男として
- 418 kateomare wa
カテオマレ(←カッ エ オマレ) ワ
形 それを入れる て
イヨチびとを敬愛して
- 419 utashpa
ウタシパ
互いと交換する
それぞれお互いに
- 420 ukoshineupa,
ウコシネウパ
互いに遊びに行く(sinewe 複)
親しく訪ね合い、
- 421 'Taban tewano
タバン(←タッ アン) テワノ
今ここにある ここ から
『これからは
- 422 uchebe※4 irkar
ウチェベ イリカラ
(不詳) 姻戚にする
食べ合う(?)親戚と
- 423 a-ki wa, sonno
アキ ワ ソノ
我らは・~をして 本当の
して、まことの
- 424 shine irwak ne
シネ イリワク ネ
一 兄弟姉妹 である
兄弟姉妹として
- 425 utar neino
ウタラ ネイノ
同族 のように
一族同様に
- 426 uwekatarotke-an
ウ ウェカタロツケ アン
互いと仲よくする・我らは
仲よく
- 427 uwebe-an※5
ウエベアン(←ウ エ ペ アン)
互いに 食事をする・我らが
飲み食いし合
- 428 kusu ne' ari
クス ネ アリ
つもり であると
おうぞ。』と

- 429 sonno ramoshiwano
ソノ ラモシワノ(←ラム オシ ワノ)
誠に 心の奥底 から
本当に真心をもって
- 430 ukoramkoro,※6
ウコラム コロ
互いに心を持つ
話し合い、
- 431 uwesere※7
ウエセレ(←ウ エセレ)
互いに 承知の返事 させる
そのように話が決まった。
- 432 Orowano
オロワノ
それから
それからは
- 433 Okkayo otta
オクカヨ オッタ(←オロ タ)
男 所で
男の方も
- 434 menoko otta
メノコ オッタ(←オロ タ)
女 所で
女の方も
- 435 utashba sonno
ウタシバ ソノ
互いと交換する 本当に
それぞれお互いに本当に
- 436 uwekatarotke rokiné
ウ ウェカタロツケ ロキネ(←ロク ヒネ)
互いと仲よくする たそして
仲よくなって、
- 437 Iyochi um mat
イヨチ ウム(←ウン) マツ
イヨチ に住む 女性
イヨチの姫が
- 438 a-koro kotan
アコロ コタン
我が・持つ 村
わが村
- 439 koitomnukar,
コイトム ヌカラ
にその身を見る
に嫁入りし、
- 440 a-koro unarbe
アコロ ウナラベ
我らが・持つ 叔母
われらの叔母上が
- 441 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 442 koitomnukar.
コイトム ヌカラ
にその身を見る
に嫁入りした。
- 443 Iyochi um mat orowa
イヨチ ウム(←ウン) マツ オロワ
イヨチ に住む 女性 から
イヨチの姫から

※1 ison「←iso-nu-＜獵の獲物の・豊かな＞獵運に恵まれた」(金 I-313)、「【形容詞】獵運めでたき」(語法)、「←isoun 獵運に恵まれた、狩り上手」(聖697)、「【自動詞】iso-n<獲物・(自動詞形成語尾)> 狩獵の獲物に恵まれる、熊や鹿などの獲物がたくさんとれる」(田249)

※2 原綴 rebo

※6 原綴 ukoramkoro

※3 既訳例: nishpa kateomare/kamui kateomare /a-kichi humi/okai rok awa.《萱野茂訳》「物持ちのうわさ/首領のうわさ/私共が/聞いていたので/あなたのことを/お慕いして/いたのであった。」(教XVIII-180)

※4 uchebe 参考: 「uwepe-p=ukure-p=utasa ikup」(金 I-394)「uwepe ki 互いにこのみ食いをする」(久302)「親交する」(語法) eshi-ibeyarbe「たべさせ合うもの」(金IV-241) ueshiiberep [分け合って食べる物](教II-92)

※5 uwebe「【自動詞】親交する」(語法)「uwepe ki 互いにこのみ食いをする」(久302) 参考文例: Sonno irwak shinne/a-ekatarotke uwebe-an/utashba ukoshineuba-an.[本当の兄弟同様に/仲良く飲み食いしあい/かわるがわる訪問しあった。](『ト5』116)

※7 訳例: ari okaibe/eukoramkor wa/euesere.《萱野茂訳》「そうしようと話がきまり」(教II-25)

2-3 両親の遺言^{ゆいごん}

- 444 tun a-ne wa
トウン アネ ワ
二人の 我ら・であって
われら二人
- 445 shiko-an ruwe ne.
シコアン(←シッオ アン) ルウェ ネ
目が付く我らは 事実 だ
が生まれたのだ。
- 446 Iyochi ta sui
イヨチ タスイ
イヨチ で また
イヨチでもまた
- 447 a-kor unarbe umurek
ア コロ ウナ^レベ ウムレ^ク
我らが・持つ 叔母 夫妻
叔母夫婦に
- 448 okkayo shinen
p.10 オ^クカヨ シネン
男 一人
男の子ひとり
- 449 menoko shinen
メノコ シネン
女 一人
女の子ひとり
- 450 ukosapte wa,
ウ コ サ^テテ ワ
互いに(協力しあって)出して
が生まれて、
- 451 ukoomap ramma
ウ コ オマ^ブ ラムマ
一緒に可愛がる いつも
皆でかわいがり合っている
- 452 uwepirika rokine,
ウ ウエピリカ ロキネ(←ロ^クヒネ)
互いと一緒によくなる たそして
幸せにくらしているうちに、
- 453 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 作法
アイヌの習慣は
- 454 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうなの
- 455 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 456 a-eshikop utara
アエシコ^ブ(←アエシ^クオ^ブ) ウタラ
我らが・それで目がついた者 たち
われらの両親は
- 457 uwesamanno
ウウエサマンノ(←ウエサ^ムアンノ)
互いにそばに在る+(副詞語尾)
そろって
- 458 kamui orun,
カムイ オルン
神 の所へ
神の国へ
- 459 baye ruwe ne.
バイエ ルウェ ネ
行く(←oman^複) 事実 である
お帰りになったのだ。
- 460 Chihoppa itak
チ ホ^ッパ イタ^ク
られた置き去 言葉
その遺言^{ゆいごん}が
- 461 ene okai i;-
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあることには—
- 462 a-obitta
ア オビッタ
我らが・皆
われらが皆
- 463 rupne-an chiki,
ル^ッネ アン チキ
大人になる・我らが なら
大人になったら、
- 464 Iyochi un
イヨチ ウン
イヨチ に住む
イヨチの
- 465 a-utari utar
ア ウタリ ウタ^ラ
わが・同族 たち
わが親戚身内たち
- 466 tura utashba
トゥラ ウタ^シバ
と一緒に 互いと交換する
とそれぞれお互いに
- 467 utomnukar-an wa
ウトムヌカラ^ン ワ
互いの体を見・我らは て
夫婦となって
- 468 shinrit chashi
シンリツ(←シリ^リリツ) チャシ
地 筋、腱、根 邸宅、砦、山城
先祖の館
- 469 a-ehorarba wa
アエホラ^ラバ ワ
我らが・に尻を押さえ(horari^複) て
に住んで
- 470 shinrit utar nomi
シンリツ ウタ^ラ ノミ
先祖 たち をまつる
先祖にお神酒や供物と祈りをささげ
- 471 kamui-a-nomi
カムイ アノミ
神・我らが・をまつる
カムイノミをす
- 472 yakne pirika na. - ari
ヤ^クネ ピリカ ナ アリ
ならば よい ぞ と
るがよい—と
- 473 uwesamanno
ウウエサマンノ(←ウエサ^ムアンノ)
互いにそばに在る+(副詞語尾)
二人いっしょに
- 474 i-koitakhoppa※1-
イコイタクホ^ッパ
我らに言葉を残して去る
われらに遺言
- 475 an ruwe ne.
アン ルウェ ネ
人が 事実 である
されたのだ。
- 476 Tambe kusu
タムベ(←タンペ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 477 Iyochi un
イヨチ ウン
イヨチに住む
イヨチの
- 478 a-irwaki utar
ア イ^ッワキ ウタ^ラ
我ら・の兄弟姉妹 たち
わが義きょうだいたち
- 479 newa ne yakka
ネワ ネ ヤ^クカ
であったにしても
も
- 480 aokai utar korachi
アオカイ ウタ^ラ コラチ
我 たち のように
われらと同じように
- 481 ubakashnu kor
ウバカ^シヌ コロ
互いに ~を教え ながら
教え合いながら
- 482 ureshba koro
ウレ^シバ コロ
互いに 育つ(resu^複) ながら
皆で育て
- 483 okai nankoro.
オカイ ナンコロ
ある だろう
きたであろう。
- 484 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村の
- 485 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 の住まい
神居(神域)の
- 486 bentap^カshi※2
ベンタ^ッカシ
上のその上
上に
- 487 kamui orowano
カムイ オロワノ
神 その所から
神の国から
- 488 kanto orowano
カント オロワノ
天 その所から
天の国から
- 489 orapte kunip
オラ^ッテ クニ^ッ
そこに 降ろす はずのもの
降ろされた
- 490 Menashsam※3
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 491 un attush※4 newa
ウン アツ^ウシ ネワ
にある 厚司 と
の厚司と

※1 i-koitakhoppa kane《萱野茂訳》「私共に遺したあと」(教区-64)

※2 訳例: Tomesanpet/pentap^カshi「トメサンペツの/上に」(研797) Shishirhumka/bentap^カshi「シリリフムカ/の頂上」(金 I-287)

※3 menash-sham<東風、東方・側、傍>東方の隣國と考へられてある地名」(研W512)、

※4 attush^フat-us<オヒョウニレの皮・綱>厚司(あつし)、オヒョウニレの木の皮の繊維で織った布」(田34)

- 492 Menashsam
p.11 メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 493 un konchi,
ウン コンチ
にある 帽子
の兜かぶとや
- 494 kamui shibopkep
カムイ シボブケブ
神の(美称) 自身を 暖くするもの
神の美しい衣装や
- 495 kamui korobe
カムイ コロベ
神が 持つもの
神の宝物など
- 496 tu makanshir wa
トゥ マカン シリ ワ
ニ 過ぎ去った 時空 から
何代もの昔から
- 497 re makanshir wa
レ マカン シリ ワ
三 過ぎ去った 時空 から
幾代もの昔から
- 498 a-ukeshkorobe,
アウケシコロベ
人が・互に 末端,尻を持つ物
受け継いできた先祖伝来の物を、
- 499 tane ne yakka
タネ ネ ヤクカ
今 になる ても
今でも
- 500 a-aktonoke
アアトノケ
我が・弟 殿、君
わが義弟どのは
- 501 a-eresu wa
アエレス ワ
人が・それでもって 育て て
それで育てられて
- 502 an yak a-ye.
アン ヤク アイエ
いる と 人は・言う
いるという。
- 503 Nishpa anakne
ニシパ アナクネ(←アン ヤクネ)
紳士 ある ~すれば
裕福で身分ある紳士や
- 504 katkemat anakne
カツケマツ アナクネ
あり方 ある 女性 は
身分高い淑女というものは
- 505 neita bakno
ネイタ バクノ
どこ まで
どこまで
- 506 ne yakka
ネ ヤクカ
であつ ても
も
- 507 uitaknup
ウイタクヌ
互いの 詞を聞くもの
相手の言葉をよく聞き入れるもの
- 508 tapokai na.
タオカイ ナ
今ここに ある よ
なのだよ。
- 509 Pirikano pirikano
ピリカノ ピリカノ
よく しっかり
よくよく
- 510 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 作法
アイヌの慣習や
- 511 katkemat buri
カツケマツ ブリ
あり方 ある 女性 作法
立派な女性の作法
- 512 eashkai wa,
エアシカイ ワ
に関して 出来 て
に習熟して、
- 513 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 514 koitomnukar
コイトムヌカ
に その 身を見る
に嫁入り
- 515 e-ki etokush
エキ エトクシ(←エトクウシ)
汝は・を する ~の先 につく
する準備をする
- 516 ruwe taban na." ari.
ルウェ タバン(←タブアン) ナ
事実 これこのとおり ある よ
のだよ。」
- 517 ari tanepo konna
アリ タネ ポ コンナ
と 今+(指小辞) こそ
と、今はじめて
- 518 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 519 i-bashkuma.
イバシクマ
我に・先祖由来譚をする
わたしに先祖の素性を語りました。
- 520 Tanepo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今はじめて
- 521 tapne kane
タツネ カネ
このような 状態で
かくかくしかじかの
- 522 shinrit korbap
シンリツコロバ
先祖 を持つ+(複数語尾) 者
祖先や
- 523 utar kor kunip
ウタラコロクニ
人々 を持つ はずの 者
親戚を持っているのが
- 524 a-ne hawe
アネ ハウエ
我である その話
わたしなのだということ
- 525 a-nu chiki,
アヌ チキ
我は・~を聞く なら
を聞いたから、
- 526 arkehe ta
アケヘ タ
その半分 で
一方では
- 527 shino nubetne-an kane,
シノ ヌベツネ アン カネ
本当に 喜ぶ・我は 状態で
本当に嬉しかったものの、
- 528 arkehe ta sui
アケヘ タ スイ
その半分 で また
その一方ではまた
- 529 oknatara-an kane.
オナタラ アン カネ
悲しい 状態が続く・我は 状態だ
悲しい気持ちになりました。
- 530 Oroyachiki
オロヤチキ(←オオヤ チキ)
そ 他 の ~すれば
今まで知らなかったものの、
- 531 senne saure
センネ サウレ
(否定) ゆるい
とてつもなくすごい
- 532 a-eshikop utar
アエシコブ(←ア エ シクオブ) ウタラ
我らが・それで 目がついた 者 たち
両親たち
- 533 a-kor rok okai ko,
アコロク オカイ コ
我は・持っ ている と
を 持っ ていながら、
- 534 ponnoka
ポンノカ
少し も
少しも
- 535 a-eshikarun ka
アエシカルン カ
我は・~を覚えている も
わたしは覚えても
- 536 somoki.
ソモキ
(否定) する
いません。
- 537 A-nukar ka
アヌカ カ
我が・~を見る さえも
わたしが物心も
- 538 somokino,
ソモキノ
(否定) する+(副詞語尾)
つかないうちに、
- 539 kamui buri
カムイ ブリ
神の 習慣
神々の風習
- 540 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 慣習
人の慣習は
- 541 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
そういうこと
- 542 konep ne kusu※1,
コネク ネ クス
(調律)である こと である 故に
なので、

※1 原ノートにkusu 脱落。

2-3 両親の遺言

- 543 naa uben rokiné
 p.12 ナア ウベン ロキネ(←ロ^クヒネ)
 まだ 若い た そして
 まだ若いうちに
- 544 kamui orun
 カムイ オルン
 神 の所へ
 神の国へ
- 545 baye wa isam
 バイエ ワ イサム
 行っ て 無くなる
 去ってしまった
- 546 haweokai chiki,
 ハウエオカイ チキ
 言う から
 とおっしゃるのだから、
- 547 shisembir unwa,
 シセムビルンワ(←シ セムビ^リ ウンワ)
 自分の 後ろへ
 後ろへ
- 548 shikiru-an ko,
 シキル アン コ
 自分を回す・我は と
 わたしはふり向いて、
- 549 tu beken nube
 トウ ベケン(←ペケ^レ) ヌベ
 二つの 明るく澄んだ 涙
 数々の清らかな涙
- 550 re beken nube
 レ ベケン(←ペケ^レ) ヌベ
 三つの 清い 涙
 たくさんの清らかな涙を
- 551 yaikoranke.
 ヤイコランケ
 自分 に 落とす
 はらはら流しました。
- 552 Eebakita sui
 エエバキタ スイ
 その上に また
 さらにまた
- 553 utar sak kunip
 ウタ^ラ サ^ク クニ^ツ
 同胞 を欠く はずの 者
 同族もいない
- 554 aba sak kunip
 アバ サ^ク クニ^ツ
 身内 無い はずの 者
 身寄りもいない
- 555 a-ne ruwe ne kuni
 アネ ルウエ ネ クニ
 我・な の である はずと
 わたしなのだと
- 556 a-ramu awa,
 アラム アワ
 我は・思っ たところが
 思っていたのに、
- 557 senne saure
 センネ サウレ
 (否定) ゆるい
 並大抵でない
- 558 utar kor-an
 ウタ^ラ コ^ロ アン
 同族 を持つ・我は
 親戚もいる
- 559 haweokai chiki,
 ハウエオカイ チキ
 言う から
 とおっしゃるから、

2-4 突然の嫁入り

- 563 Shineanto ta sui
 シネ アント タ スイ
 一つ ある日 に また
 とある日のこと、また
- 564 i-resu yubi
 イレス ユビ
 我を・育てる その兄
 育ての兄さまが
- 565 ene itak i;
 エネ イタ^ク イ
 こう 言う ことには
 こう言うには、
- 566 "Hokure hokure!
 ホクレ ホクレ
 早く 早く
 「さあさあ!
- 567 tanto shino
 タント シノ
 この日 まことに
 今日はほんとに
- 568 shiripirika hememki.
 シリピリカ ヘメムキ
 あたりよい もする
 天気もいい。
- 569 Tambe kusu
 タムベ(←タン ペ) クス
 このこと 故に
 それゆえ、
- 570 Iyochi un
 イヨチ ウン
 イヨチ に
 イヨチへ
- 571 eani hoshkino
 エアニ ホシキノ
 お前が 最初に
 そなたが先に
- 572 e-oman kusu ne na.
 エオマン クス ネ ナ
 汝が・行く つもり になるのだ よ
 行くのだよ。
- 573 Tane menoko bakno
 タネ メノコ バクノ
 今はもう 女 までに
 もう一人前の女性に
- 574 e-shikup.
 エ シク^ツ
 汝は・成長する
 そなたはなった。
- 575 Tambe bakno
 タムベ バクノ
 これ ほど
 これほど
- 576 e-shukup
 エ シク^ツ
 汝が・成長する
 大きくなった
- 577 koanakne,
 コアナ^クネ(←コ アン ヤ^クネ)
 に対して あるならば
 なら、
- 578 sonno e-hoku-kor
 ソンノ エ ホク^コ コ
 本当に 汝は・夫 を持つ
 まことにそなたは結婚
- 579 eashkai ruwe ne.
 エ ア^シカイ ルウエ ネ
 に関して できる 事実 だ
 できるのだ。

- 580 'Pirikakuru anakne
ピリカ クル アナクネ
いい人 は
『善い人というものは』
- 581 ukor kush ne
ウコロ クス ネ
互いを持つ つもり である
婚約者
- 582 utar ohonno
ウタラ オホンノ
人々 長い間
同士が、長い間
- 583 somoukorno※1
ソモ ウコロノ
(否定) 夫婦になる+(副詞語尾)
結婚せずに
- 584 uoyak ta okai ko,
ウオヤク タ オカイ コ
互いに別な所 にいる と
離ればなれに暮らしていると、
- 585 tu utursama
トゥ ウトウル サマ
二 間 側
たくさんの合間
- 586 re utur sama
レ ウトウル サマ
三 間 側
合間に
- 587 arwen kamui
p.13 アラ ウエン カムイ
全く悪い 神
極悪の神、
- 588 arwen bito※2
アラウエン ビト
全く悪い 人
大悪神が
- 589 ohosarba
オホサラバ
そこに振り向く(hosari複)
振り向いた
- 590 koanakne
コアナクネ(←コ アン ヤクネ)
に対してある ならば
なら、
- 591 sonno ashtomap
ソンノ アシトマブ
本当に 恐ろしいこと
本当に恐ろしいこと
- 592 ne. 'ari
ネ アリ
になると
になる。』と
- 593 kamui ubashkuma
カムイ ウバシクマ
神の 互いに物事を教え伝える
神話に
- 594 okaibe taban na.
オカイ ベ タバン(←タラ アン) ナ
ある こと これこのとおりある よ
あるのだよ。
- 595 Hokure ! Ene
ホクレ エネ
早く こう
さあ、そうと
- 596 e-ramuoshma i
エラム オシマ イ
汝が・その心 サツと入る 所
納得したところで(?)
- 597 neino
ネイノ(←ネノ)
そのような
その(?)
- 598 shut ketushi oro
シュツ ケトウシ オロ
祖母の 長持ち の中
嫁入道具入れの中に
- 599 e-kon rusui be
エコン(←コロ) ルスイ ベ
汝が・持つ を欲する もの
そなたが持って行きたいものを
- 600 boronno
ボロンノ
たくさん
いっぱい
- 601 eshikte wa se wa
エシクテ ワ セ ワ
それで 満たして 背負って
つめて、背負って
- 602 tunashno oman !
トゥナシノ オマン
早く 行く
早く行け!
- 603 Shino shihobinupka-※3
シノ シホピヌツカ
真に 惜しむ(?)
われは名残りおしく
- 604 an yakka,
アン ヤクカ
我が ても
ても、
- 605 ramma tashi
ラムマ タシ
いつも (強調)
いつも
- 606 a-ki kusu nep
アキ クス ネツ
我が・する つもり であること
われがしようとすることは、
- 607 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 作法
人の慣習や
- 608 kamui buri
カムイ ブリ
神の 習慣
神々の風習が
- 609 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなこと
- 610 konep ne kusu,
コネツ ネ クス
(調律)であること である 故に
なのだから、
- 611 hokure hokure !
ホクレ ホクレ
早く 早く
さあ早く!」
- 612 ari hawash chiki,
アリ ハワシ チキ
と 言う から
とおっしゃるから、
- 613 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
心の底からの 気持ち
わたしは心底おどろい
- 614 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に ~を与える
てしまいました。
- 615 Shinrit itak
シンリツ イタク
祖先の 言葉
先祖の言葉
- 616 chihopba itak
チホツパ イタク
られた置き去 言葉
その遺言が
- 617 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こう
- 618 ne kusu, ramma
ネ クス ラムマ
である 故に いつも
だったから、いつかは(?)
- 619 Iyochi kotan un
イヨチ コタン ウン
イヨチ 村 へ
イヨチ村へ
- 620 oman-an
オマナン(←オマン アン)
行く・我が
わたしが嫁に行く
- 621 nankoro yakka,
ナンコロ ヤクカ
だろう しかし
にちがいがなくても、
- 622 tap korachi
タツ コラチ
この 如く
このように
- 623 ouse shinen a-ne wa
オウセ シネン アネ ワ
ただ~だけ 一人 我が・であって
わたしがたった一人で
- 624 oman-an kuni
オマナン(←オマン アン) クニ
行く・我が はずと
行くと

※1 pirikakuru anakne/ohonno somo/unukar ko/uturu/wen kamui wente/irarap ne-kusu「善き人というものは/久しい間/相見ることせずにいると」(金 I-69) ukor kusu-ne yakka/mashkinno/ohonno kane/uoyak ta/okai ko sui/…/ar wen kamui/ohosarpa ko/wen ruwe tap an na.「結婚をしようとも/あんまり/久しく/ちがった所に/くらしているとき/…/全くわるい神が/こち振り向くと/いけないものだ。」(金 I-411)

※2 bito「kamui」の対語である。邦語の人に似た形であるがアイヌに於ては此は神といふ語と同義語に高まつてゐる(研W252)、邦語のひとと似た語であるが、アイヌ語では殆ど神 kamui と同義語に用ゐられる(研W318)。「←日本語ピト。死者の靈魂《ホロベツ、サル》《雅語》(人243)、人間(人465)」「【名詞】←古い日本語 人(フィット)《雅語》神の同等の人(多くの場合 kamuy<神、神のような立派な人、尊い人)の類義語として、類義語並列の対句に用いられる」(田534)

※3 参考: shihopinuppa「シホピヌツパ、惜ム、v.t. Not caring to spare. Disinclined to let go as one's child or possessions.」(B448)

2-4 突然の嫁入り

- 625 anakne
アナ^クネ(←アン ヤ^クネ)
あるならば
は
- 626 somo a-ramu.
ソモ アラム
(否定) 我は・を思う
思いませんでした。
- 627 Hoshkino
ホ^シキノ
最初に
まず先に
- 628 utashba
ウ タ^シバ
互いと交換する
それぞれお互いに
- 629 unukar-an, orowa
ウ ヌカ^ラ アン オロワ
互いを見る・我らが それから
会って、それから
- 630 eashirine
エ アシリ ネ
で新しくなる(?)
始まる(?)
- 631 kuni batek
クニ バテ^ク
はずとばかり
とばかり
- 632 a-ramu awa…
アラム アワ
我は・思っ たところが
思っていたのに…。
- 633 I-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 634 hoshki tukbe
ホ^シキ トウ^ク ベ
先に 生える者
先に生まれて
- 635 shinrit tutanu p
シンリツ トウタヌ^フ
祖先 の次に位置する者
祖先のあとを継ぐひと
- 636 ne awa,
ネ アワ
であっ たのに
なのに、
- 637 nep kusu
p.14 ネ^フ クス
何 故
どうして
- 638 anih hoshkino
アニヒ ホ^シキノ
彼が 最初に
あのかたが先に
- 639 matkor somokino,
マツコ^ロ ソモキノ
妻を持つ (否定) する+(副詞語尾)
結婚せずに、
- 640 aokai hoshkino
アオカイ ホ^シキノ
我が 最初に
わたしが先に
- 641 annisapno
アンニサ^フノ(←ア^ラ ニサ^フノ)
全く不意に
突然急に
- 642 i-kimattekka,
イ キマツテ^ク カ
我を・あわてさせる
わたしをせかして
- 643 i-hokukore kusu,
イ ホクコレ クス
我に・夫 を与える ために
結婚させようとして、
- 644 shinot boka
シノツ ボカ
遊び なりとも
遊びすら
- 645 eramishkarep
エラミシカレ^フ
知らない者
まだよく知らない
- 646 a-ne awa,
アネ アワ
我・であっ たところが
わたしなのに、
- 647 neita an kotan
ネイタ アン コタン
どこにある 村
どこにある村が
- 648 Iyochi ne wa,
イヨチ ネ ワ
イヨチ であっ て
イヨチなのか、
- 649 ouse shinen
オウセ シネン
ただ~だけ 一人
わたしがたった一人
- 650 a-ne wa
アネ ワ
我が・であっ て
で
- 651 oman-an kusu
オマナン(←オマン アン) クス
行く・我が ために
行けと
- 652 hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
おっしゃるから、
- 653 orhemkusu
オ^ロ ヘ^ム クス
全く何の 故か
いったいどう
- 654 yainu-an nankor' a.
ヤイヌアン ナンコ^ラ(←ナンコ^ロ ヤ)
考える・我は だろう か
考えたらいいのでしょうか。
- 655 A-konramkonna-
アコンラ^ムコンナ(←ア コ^ロ ラ^ム コンナ)
我が・持つ 心 +(調律)
わたしは心
- 656 chupnatara,
チュ^フ ナタラ
すぼまる ~している
細くなり、
- 657 oman-an kuni
オマナン(←オマン アン) クニ
行く・我が はずと
お嫁に行くのは
- 658 oar a-ekatubase
オア^ラ ア エカトウ バセ
まったく 我は・その体 重い
とつても気が進まない
- 659 kane yainu-an.
カネ ヤイヌ アン
状態だ 考える・我は
なあと思いました。
- 660 I-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 661 tu pirika kunip
トゥ ピリカ クニ^フ
二つの 良い はずのこと
たくさんのよき言葉
- 662 re pirika kunip
レ ピリカ クニ^フ
三つの 良かる べきこと
いくつものいいことを
- 663 i-ebakashnu.
イエバカ^シヌ
我に・~を教え諭す
わたしに教えさしました。
- 664 Haweokai ko,
ハウエオカイ コ
言う と
兄さまが話されている
- 665 raboki ta,
ラボキ タ
~している間 に
あいだに、
- 666 oman-an
オマナン(←オマン アン)
行く・我が
わたしがお嫁に行き
- 667 etoranne i
エトランネ イ
いやがる こと
たくないことを
- 668 a-ye chiki,
アイエ チキ
我が・~を言う なら
わたしが話したら、
- 669 nekona tapne
ネコナ タ^フネ
どのように こう
どんなにかまあ
- 670 keutum wen
ケウトウ^ム ウエン
気分 を悪くする
気を悪くし
- 671 ramusarak※1 humi
ラム サラ^ク フミ
その心 苦しむ その感情
ご心配
- 672 okaibe an ari
オカイベ アン アリ
あること ある と
なさることかと
- 673 yainu-an chiki,
ヤイヌ アン チキ
考える・我は なら
思えば、
- 674 tup ne rep ne
トゥ^フ ネ レ^フ ネ
二つ になる 三つ になり
千々に
- 675 a-keutum kashi
ア ケウトウ^ム カシ
我が・気持ち の上
わたしの心は

※1 参考: eramusarak「e-ramu-sarak<それについて・心・苦しむ>(金Ⅲ-81)【他動詞】<で・心・?>~が気がかりである」(田116)、「困ツト思フ」(『ト4』88[原ノート知里メモ])「エラムサラッカ 心配させる」(萱159)

2-5 嫁入り支度

676 chiukoboye kane.
チ ウコボイエ カネ
される 混ぜ合わす 状態だ
乱れます。

677 Orhetobo sui
オ^ロヘトボ スイ
全く頭を回す また
逆にまた

678 yairamatte-an※1
ヤイラムアッテ(←ヤイラムアッテ)アン
自分の心を掛ける・我は
よく考えてみれば(?)

679 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが

680 an kushkeraibo
アン クシケライボ
ある おかげ+(指小辞)
いたおかげで

681 katkemat shikup
p.15 カツケマツ シクッ
あり方のある女性 育ち
淑女の育ちが

682 a-ki ruwe
アキ ルウエ
我は・~をする 事実
わたしはできたので

683 okai ko,
オカイ コ
ある と
あつて、

684 yep neino iki-an
イエ^プ ネイノ イキアン
言うことのように それをする・我が
兄さまが言うとおりにわたしがし

685 somoki a yakne
ソモキ ア ヤ^クネ
(否定)した ならば
なかったならば、

686 chiwenokbare
チ ウエン オ^クバレ
~こと(強意)+悲しませる
兄さまを悲しませること

687 a-ekarkar
ア エカ^ラカラ
我が・~を施す
になる

688 ruwe ne. ari
ルウエ ネ アリ
その事実 であると
のだわと

689 yainu-an.
ヤイヌ アン
考える・我は
考えました。

690 Tambe kusu
タ^ムベ(←タンペ) クス
このこと 故に
そこで

691 chirikibuni-an,
チリキブニアン
自身を高く上げる・我は
わたしは起ち上がり、

692 shut ketushi oro
シュツ ケトウシ オロ
祖母の長持ちの中
嫁入道具入れの中の

693 machikor pirikap
マチコ^ロ(←マツイコ^ロ) ピリカ^ッ
女宝 いい物
首飾りや耳輪などの上等品を

694 nep ne yakka
ネ^ッ ネ ヤ^クカ
何で あつても
何でも

695 a-kon rusuibe
アコン(←コ^ロ) ルスイベ
我が・持つ を欲するもの
わたしが持って行きたいものを

696 boronno a-eshikte,
ボロンノ アエシクテ
たくさん 我は・それで満たす
いっぱいつめて

697 boro shike a-kar,
ボロ シケ アカラ
大きな荷 我は・を作る
荷づくりしてから、

698 shiraraye-an.
シラライエアン
着がえる・我は
わたしは着がえました。

699 Pirikap batek
ピリカ^ッ バテ^ク
美しい物 ばかり
美しいものばかり

700 ashiribe batek
アシリベ バテ^ク
新しい物 ばかり
新品だけの

701 kani kosonte
カニ コソント
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装

702 kani chikirbe
カニ チキ^リベ(←チイキ^リベ)
黄金の 我ら刺繍した物
金らん豪華な着物

703 a-utomechiu※2
アウトムエチウ
我は・互いに中に差す
を襲ね着し、

704 kamui ninkari
カムイ ニンカリ
神の 耳輪
神の耳輪を

705 a-bui unu,
アブイ ウヌ
我が・穴にはめる
わたしの耳につけ、

706 kamui tamasai
カムイ タマサイ
神の 玉連
神の首かざりを

707 a-mut,
アムツ
我は・身につける
首からさげ、

708 kamui chibanup
カムイ チバヌ^ッ
神々しい 我らが頭に巻く物
神々しい鉢巻き

※1 yairamatte「yay-ramu-atte<自分・の心・を掛ける>しっかりする、気をたしかに持つ」(田864)「yairamatte,yairamuatte 注意スル、v.i. To be careful.To watch over one's self. To be circumspect. To be cautious. To pay attention.」(B569) i-eyairamattep/ne noine《萱野茂訳》に狙いを定めている/らしく」(教22-89)

※2 常套句は、arutomechiu「ar-u-tom-e-ciw<全く・相・中・へ・刺す>下から同じ良い小袖のみを襲ねる(金Ⅱ-84)、<全く・互いに・中・に・差す>上から下までそっくり同じつくりの上等のものを着る、ぜいたくな着つけ、豪華な服装(金Ⅲ-85)」

2-5 嫁入り支度

- 709 a-eruriki-
アエルリキ
我は・で髪高く
でもって頭髪を高く
- 710 raiba kane.
ライバ カネ
押しやる(rayeの複) 状態で
おさえました。
- 711 Mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここに
ますます
- 712 ainu kat ne
アイヌ カツ ネ
人間の姿として
人間の姿のよう
- 713 an-an anak
アナナク(←アン アン アナク)
ある・我は は

では
- 714 somoki kotomno,
ソモキ コトムノ
(否定)する らしく
ないみたいで、
- 715 yaikota ne yakka
ヤイコタ ネ ヤッカ
自分で であつても
自分でも
- 716 eashka
エアシカ
とても
まことに
- 717 pirika-an noine
ピリカ アン ノイネ
美しい・我は ように
美しいような
- 718 yainu-an.
ヤイヌ アン
考える・我は
気がしました。
- 719 Yaikatkar-an
ヤイ カツ カラ アン
自身をかたち作る・我は
わたしは身づくろいして
- 720 boro shike a-se.
ボロ シケ アセ
大きな荷 我は・を背負う
大きな荷を背負いました。
- 721 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 722 a-kimui kashi
アキムイ カシ
我が・頭の上
わたしの頭
- 723 i-koruye kane,
イコルイエ カネ
我・に撫でる 状態である
を撫でさす儀礼をしてから、
- 724 a-santekebo
アサンテケボ
我が・その手の先+(指小辞)
わたしの手

- 725 amba kane
アムバ カネ
持つ(ani複) 状態で
をとって、
- 726 soiwasamwa
ソイワ サム ワ
外の側へ
館の外
- 727 a-oshiraiba.
アオシライバ
我らは・そこへ自分をやる(raye複)
へ出ました。
- 728 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 729 soyun yakura
p.16 ソユン(←ソイ ウン) ヤクラ
外にある 櫓

ものみやぐら
物見櫓
- 730 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓の上
その櫓の上に
- 731 chieashi,
チエ アシ
自身をそこに立てる
立ち、
- 732 ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
こうこうしかじかと
- 733 Iyochi kotan un
イヨチ コタン ウン
イヨチ 村へ
イヨチ村への
- 734 baye-an※1 katu
バイエ アン カトウ
行く(oman複)・我がしかた
道順を
- 735 pirikano
ピリカノ
よく
くわしく
- 736 i-ebakashnu.
イエバカシヌ
我に・～を教え諭す
わたしに教えました。
- 737 Ebisun san ru
エビスン(←エビシ ウン) サン ル
頭が浜の方へ出る路
浜手へ下る道路
- 738 ru tuikashi
ル トウイカシ
道の上
その道を
- 739 a-urekushte
アウレクシテ
我は・足を通らせる
わたしが通って
- 740 san-an aine,
サンアン(←サン アン) アイネ
下り行く・我は そのあげく
山城からくだって行くうちに、

- 741 sanota※2 kurka
サノタ(←サン オタ) クルカ
浜方の砂州の上
浜辺
- 742 a-i-y-esanke.
アイイエサンケ(←ア イエ サンケ)
誰かが・我を・そこに出す
に出ました。
- 743 Tu sui hosari-an
トゥ スイ ホサリアン
二回 振り向く・我は
わたしは何度も
- 744 re sui hosari-an
レ スイ ホサリアン
三回 振り向く・我は
何度も振りかえりました。
- 745 Hosari-an bishno
ホサリアン ビシノ
振り向く・我が 一つ一つ+(副詞語尾)
わたしが振り向くたびに
- 746 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 747 okkeukurkan-
オクケウ クルカン
頸骨影末
首骨が
- 748 isam kane
イサム カネ
無い 状態で
見えなくなるほど
- 749 otuhenkuror
オトゥヘンクロ(←オトゥ ヘン クル オロ)
数多重なる顔影内

何度も
- 750 orehenkuror
オレヘンクロ(←オレ ヘン クル オロ)
数多重なる顔影内

何度も首を上下に振りながら
- 751 i-koanukar
イコアヌカラ
我・に対して置く+(他動詞語尾)
にここに
- 752 i-henkotba kane.
イヘンコツバ カネ
我に顔結びつける 状態だ
うなずいていらっしやいました。

※1 原綴 bayen an

※2 sanota「<浜方の・砂原>《雅語》浜の砂原; 砂浜の海寄りの部分」(地117)

第3章 イヨチへの道

3-1 乱れる心

- 753 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 754 ene oman-an
エネ オマナン(←オマン アン)
こう 行く・我が
このようにわたしが行く
- 755 kuni i ne ari
クニ イネ アリ
べき 所 であると
のだと
- 756 a-i-ebakashnu
アイエバカシヌ
人が・我に・～を教え諭す
教えられた
- 757 i korachi
イ コラチ
所 のように
とおりに、
- 758 neita bakno
ネイタ バクノ
どこ まで
どこまで
- 759 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も
- 760 ota teksam beka
オタ テクサム ベカ
砂 すぐ 傍 を通る
海辺の砂浜ぞいに
- 761 earmoisam※1 un
エアモイサム ウン
もう一方の 湾 傍 へ
湾の対岸へ
- 762 oman-an aine
オマナン(←オマン アン) アイネ
行く・我が あげく
わたしが行くうちに、
- 763 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もはや
- 764 I-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 765 bashkuru bakno
バシクル バクノ
鴉 ほど
カラスや
- 766 chikappo bakno
チカポ ポ バクノ
鳥+(指小辞) まで
小鳥くらいに小さく
- 767 a-nukar aine
アヌカラ アイネ
我は・～を見る そのあげく
見えるようになって、
- 768 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
とうとう
- 769 somo a-nukar.
ソモ アヌカラ
(否定) 我は・～を見る
見えなくなりました。
- 770 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 771 otuchishwembe
オトゥチシウエムベ
幾つも重なる 二つの 泣く 悪水
たくさんの涙
- 772 orechishwembe
オレチシウエムベ
幾つも重なる 三つの 泣く 悪水
数々の涙
- 773 a-yayekote.
アヤイエコテ
我は・自身に～を結びつける
にわたしはかきくれました。
- 774 Eashka
エアシカ
とても
それこそ
- 775 ene hetapne
p.17 エネ ヘタツネ
こう かこれはまあ
あんなにもまあ
- 776 i-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 777 i-omap wa
イオマツ ワ
我を・可愛がって
わたしを可愛がって
- 778 shukup turashi
シュクツ トウラシ
人生 をたどる
これまでの生涯
- 779 i-eyairamushitne
イエヤイラム シツネレ
我を・それで 自分 の心 悩ませる
わたしを一生懸命
- 780 i-reshba shiri
イレシバ シリ
我を・育てる(resu複) その様
養育して
- 781 okai rok awa,
オカイ ロク アワ
あつ た ところが
くださったのに、
- 782 naa naa
ナア ナア
まだ まだ
もつともつと
- 783 tura an-an wa
トゥラ アナン(←アン アン) ワ
共に い・我は て
一緒に暮らして
- 784 a-toikonunuke
アトイコヌヌケ
我は・ひどく～に尽くす
しっかり兄さま孝行し
- 785 kuni batek
クニ バテク
ようと ばかり
ようとばかり
- 786 a-ramu awa,
アラム アワ
我は・思つ たところが
思っていたのに、
- 787 hokukoro
ホク コロ
夫 を持つ
結婚
- 788 ne manup
ネ マヌッ
である というもの
なるものを
- 789 a-ki kusu,
アキ クス
我が・をする ために
するために、
- 790 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 791 ekoobi,
エコオビ(←ホピ)
それで～に～を残して去る
兄さまと別れて、
- 792 oman-an shiri
オマナン(←オマン アン) シリ
行く・我が その様
わたしが嫁に行くの
- 793 okai chiki,
オカイ チキ
ある したら
だから、
- 794 tu okkeutum ne
トゥ オクケウトウム ネ
二つの 悲しい 気持ち になる
たくさんの深い悲しみ
- 795 re okkeutum ne
レ オクケウトウム ネ
三つの 悲しい 気持ち になる
悲嘆の気持ち
- 796 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に～を与える
を味わいました。
- 797 Nekona shikop
ネコナ シコッ(←シク オッ)
どんな 目が付く者
それにしてもどんな生まれで、
- 798 nekona barop
ネコナ バロッ(←バヲ オッ)
どんな 口が付く者
どのような育ちのお方なのか、
- 799 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチウンクルー
- 800 pon a-koro yubi
ポン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わが夫になる人と
- 801 pon a-koro sapo newa,
ポン アコロ サポ ネワ
小 我・が持つ その姉 と
その姉上は、
- 802 arekushkonna
アレクシコンナ(←アヲ エクシ コンナ)
全くだしぬけに+(調律)
突然急に
- 803 taban to otta
タバト オッタ(←オタ)
この 日 の所に
今日

※1 earmoisam《藤村説》「ear-moy-sam<全くの・入り江の・傍>」(教46-264)、《萱野茂訳》「アラモイサムの」(教XVIII-101)

3-1 乱れる心

- 804 a-koshireba chiki,
アコシレバ チキ
我は・～に到着する なら
わたしが着いたなら、
- 805 nekona tapne
ネコナ タ^ツネ
どのように こう
どんなにかまあ
- 806 i-ehomatba
イエ ホマツバ
我にそれで 尻を挙げる(←homatu複)
わたしが来たことに驚く
- 807 shiri okaibe an?
シリ オカイベ アン
その様 ある こと ある
ことかしら?
- 808 Nekona tapne
ネコナ タ^ツネ
どのように こう
どのようにまあ
- 809 yayeibakashnu-an
ヤイエ イバカシヌ アン
自身について 教える・我は
自己紹介
- 810 haweokaibe an?
ハウエ オカイベ アン
言う もの ある
したらいいものかしら?
- 811 ari yainu-an chiki,
アリ ヤイヌ アン チキ
と 考える・我は なら
と考えたら、
- 812 rauki mina
ラウキ ミナ
深い所の 笑い
腹の中で
- 813 rauki sapse
ラウキ サ^プセ
深い所の 嘲笑
ひそかに
- 814 makan ne ko
マカン ネ コ
どのようにか なる と
時々は
- 815 a-uwesuye kane.
アウウエスイエ(←ア ウ エ スイエ) カネ
我は・互いに 気持ちを揺らす 状態だ
面白く思ってもいました。
- 816 Tunash apkash
トゥナシ ア^プカシ
早い 歩く
急ぎ足で
- 817 a-kooriori
アコオリオリ
我は・に(不詳)
(不詳)
- 818 apkash tuika ta,
ア^プカシ トウイカ タ
歩く 最中 に
歩きながら、
- 819 kamui kar atui
カムイ カ^ラ アトウイ
神 が造る 海
神々がお造りになった海
- 820 atuiso kurka
p.18 アトウイソ クルカ
海 面 の上
その海面を

- 821 a-uwambare.
アウワムバレ
我は・～を観察する
眺めました。
- 822 Atuiso kurka
アトウイソ クルカ
海 面 の上
海上は
- 823 neita bakno
ネイタ バ^ツノ
どこ までも
どこまでも
- 824 komaknatara.
コマクナタラ
に対して 輝く
明るく輝いていました。
- 825 Netokorchikap
ネトコロチカ^プ
凧いだ海を持つ 鳥
海鳥や
- 826 netokottori
ネトコトリ(←ネトコロトリ)
凧 持ち 鳥
沖の鳥が
- 827 raribe hawe
ラリベ(←ラ^ライベ) ハウエ
潜水して 食う その声
水にもぐって 餌をあさる声
- 828 bebunitara.
ベブニタラ(←ベブン イタラ)
ペブンという音 続いている
にぎやかです。
- 829 Anramasu
アンラマス(←ア^ララマス)
全く 好感が持てる
まったく面白く
- 830 a-uwesuye kane
アウウエスイエ カネ
我は・互いに 気持ちを揺らす 状態で
楽しい気分
- 831 apkash-an.
ア^プカシアン
歩く・我は
わたしは歩いて行きました。

3-2 若者に出会う

- 832 Aine aine
アイネ アイネ
そして そして
そうやってやっているうちに
- 833 tane anakne
タネ アナ^クネ(←アン ヤ^クネ)
今 ある ~すれば
ようやく
- 834 PonTeseu kotan
ポン テセウ コタン
小 テセウ 村
ポンテセウ村と
- 835 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村の
- 836 shirubaknoshki
シルバクノシキ(←シリ ウバ^クノシキ)
地 互いまで 中央
ちょうど真ん中あたり
- 837 a-eba kuni
アエバ クニ
我が・に着く はずと
まで来たように
- 838 a-ramu ita,
アラム イタ
我は・思う 時に
思ったときに、
- 839 toop tuimashit ta
トオ^ツトウイマ シツ(←トウイマ シ^リ) タ
遙か 遠い地 に
はるかかなたから、
- 840 i-etunankar※1
イエトウナンカラ
我に・そこから 向かう
わたしに向かつて
- 841 ponurar tapkop
ポヌラ^ラ(←ポン ウラ^ラ) タ^プコ^プ
小さい 霞 孤峰
かすみの丸い小山の
- 842 ek shiri konna
エ^ク シリ コンナ
来る その様 (調律)
やって来る様子が
- 843 ramamatki.
ラママツキ
ひたすらに
まっしぐら。
- 844 Aritomun ekbe
ア^ライトム ウン エ^ク ベ
全く物の中にある(?) 来るもの
一直線にやって来たものは
- 845 a-etunankar kunip
アエトウナンカラ クニ^プ
我が・それに向かう はずのもの
わたしが行く方向から来たもの
- 846 ne kotomno
ネ コトムノ
である らしく
のように
- 847 iramu-an.
イラム アン
ものを思う・我は
思われました。
- 848 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それで

※1 原綴 Ietunan-nankar

- 849 oribak-an,
オリバ^クアン
おそれ敬う・我は
わたしはつつしみ深く、
- 850 katkemat buri
カ^クケ マ^ツ ブリ
あり方のある女性 作法
立派な女性の
- 851 pirika buri
ピリカ ブリ
よい 作法
礼儀正しいやりかたは
- 852 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなもの
- 853 konep ne kusu,
コネ^ツ ネ クス
(調律)である こと である 故に
だから、
- 854 makun masar
マクン(←マ^クウン) マサ^ラ
奥にある 海辺の斜面
海辺の山寄りの草わら
- 855 a-koyaitunashka,
アコヤイトウナ^シカ
我は・に向かって 自身を 急がせる
まで大急ぎで行き、
- 856 masar kotcha
マサ^ラ コツチャ
海辺の斜面 の前
浜辺の草わら手前の
- 857 satota kurka
サトタ(←サ^ツオタ) クルカ
乾いた砂 の上
乾いた砂地に
- 858 a-shikehe
アシケヘ
我が・その荷物
わたしの荷物を
- 859 a-eantekar,
アエ アンテ カ^ラ
我は・そこに 置^ク(他動詞語尾)
置いて、
- 860 nei kotchake ta a-an,
ネイ(←ネ) コツチャケ タ アアン
その 前の所 に座る・我は
わたしはその前に座り、
- 861 otop chinki
オト^ツ チンキ
髪の毛 の裾
頭を深く
- 862 a-eshitchiure
アエシッチウレ(←ア エ シ^リチウレ)
我は・~を 大地 に刺させる
垂れ
- 863 oribak-an.
オリバ^クアン
かしこまる・我は
行儀よくかしこまりました。
- 864 Otopkautur
p.19 オト^ツカ ウトウル
髪の毛すじの間
髪の毛のすきまから
- 865 a-shikbekare^{※1} wa
アシクベカレ^ワ
我は・目を向^セて
そっとうかがい
- 866 inkar-an ko,
インカラン(←インカ^ラアン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 867 kanakan kunip
カナカン(←カナ^クアン) クニ^ツ
どうある はずのもの
その何者かは
- 868 tane shino
タネ シノ
今 ほんとうに
もうまるですぐ
- 869 ehankeno arki
エハンケノ ア^ラキ
そこに 近い+(副詞語尾) 来る
間近まで近づいて来ている
- 870 ene a-ramu a i
エネ アラム ア イ
こう 我が・を思^ッたこと
と、そうわたしが思^ッた
- 871 korachi,
コラチ
ごとく
ように、
- 872 i-attomsama
イアットムサマ(←イ ア^ラ トム サマ)
我を・全く その真ん中に
まっすぐわたし目指して
- 873 yayomare
ヤヨマレ(←ヤイ オマレ)
自身を入れる
ひたむきに
- 874 apkash shiri konna
アプカシ シリ コンナ
歩く その様 (調律)
歩いて来るようすは
- 875 tunashtunash.
トウナ^シ トウナ^シ
早い+(重複)
急ぎに急ぎ。
- 876 Irukai ne ko
イルカイ ネ コ
暫時 になると
しばらくして
- 877 tap i-tuisama
タ^ツ イトウイ サマ
たった今 我の・すぐ そば
今わたしのすぐそば
- 878 koshireba.
コシレバ
に到着する
に着きました。
- 879 Inkar-an ko,
インカラン(←インカ^ラアン) コ
眺める・我が と
わたしはそれを見て、
- 880 okutchi urar
オクッチ ウラ^ラ
そこが 暗くなる もや
濃いもや
- 881 ponurartapkop
ポヌラ^ラ(←ポン ウラ^ラ) タ^ツコ^ツ
小さい 霞 孤峰
霞の丸い小山の
- 882 tu urar ikkeu
トゥ ウラ^ラ イクケウ
二つの もや 中心
濃いもやの
- 883 re urar ikkeu
レ ウラ^ラ イクケウ
三つの もや 中心
真ん中に向かって
- 884 a-kochari.
アコチャリ
我は・に向かって 散らす
もやを散らしました。
- 885 Urar tum ta
ウラ^ラ トム タ
もや 中 に
もやの中心に
- 886 Ponainuponkuru
ポナイヌポンクル(←ポン アイヌ ポンクル)
若い男 若い人
まだ年若いお方、
- 887 tamba newa^{※2}
タムバ(←タンバ) ネ^ワ
今年 になって
この年では
- 888 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さま
- 889 turpokashno
トゥルポカシノ
垢 たりない、少ない+(副詞語尾)
よりは年下
- 890 chishikupka
チシク^ツカ
自身を 成長させる
くらの
- 891 kotomno okaibe
コトムノ オカイベ
ように見える+(副詞語尾) ある 者
ように見える者が
- 892 kani kosonte
カニ コソ^ンテ
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装
- 893 arutomechiu
アルトメチウ(←ア^ラ ウトム エチウ)
全く互いに 中に差す
を襲ね着し、
- 894 imi shirika^{※3} ta
イミ シリカ タ
物を着る 物の外面 表面 に
衣服の表面に
- 895 a-ye rokokai
アイエ ロ^クオカイ
人々が・言^ッたある
話に聞いていたところの
- 896 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム

※1 shikbekare「そっと窃み見する。顔をあげては見ずに面を俯せたまゝ、畳についている髪のみから見ること」(金 I-116)

※2 tamba newa「この年では(脚注: tan-pa-ne-wa<この・年・である・て>でも意味がとれなくもないが、tanpa-ne-pa<今年・である・年>ということも全く普通である)」(金 I-152)

※3 shirika「表面、つら、顔」(金 II-362)、「sir-ka<物の外面・上、表面>《雅語》顔面、顔貌、容貌、かおかたち」(人94)、「【名詞】人の姿」(切388)

3-2 若者に出会う

- 897 un attush
ウン アットウシ
にある 厚司
の厚司
- 898 kani attush
カニ アットウシ
金の 厚司
豪華な厚司—
- 899 kotbar ka ta
コツバラ カ タ
胸元 上に
襟や
- 900 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上に
裾まわりには
- 901 sep birankani
セブ ビラン カニ
幅広い 平金
はば広の平金が
- 902 chiekarbare※1
チエカラバレ
自身をそこへ 回ら せる
ぐるっとまわりにさがり、
- 903 birankani kurka
ビランカニ クルカ
平金 の表面
平がねの表面に
- 904 tu kani moreu※2
トゥ カニ モレウ
二つの 金の 巴紋
たくさんの美しい紋様
- 905 re kani moreu
レ カニ モレウ
三つの 金の 巴紋
いくつもの豪華なうずまき紋
- 906 chietomtep
チエトム テブ
自身をそこに 光ら せるもの
で飾りつけられた上着の
- 907 ikakushte
イカクシテ
ものの上を通さ せる
上に
- 908 uwokkanikut※3
ウウオク カニ クツ
互いに引かける 金属 帯
かなぐさりのベルト
- 909 tumamkosaiba,
トゥマム コ サイバ
胴にぐるぐる巻き付ける
を胴に締め、
- 910 attush kurka
p.20 アットウシ クルカ
厚司 表面
厚司
- 911 komeritanke.
コメリタンケ
共にキラキラ光っている
とともにピカピカ光っています。

- 912 Kimui kashi ta
キムイ カシ タ
頭 の上 で
頭上には
- 913 Menashsam un
メナシサムン(←メナシ サム ウン)
東方 そば にある
メナシサムの
- 914 konchi,
コンチ
帽子
兜—
- 915 kani konchi
カニ コンチ
金の 帽子
その兜
- 916 kurkashike
クルカシケ
上面一帯
の表面は
- 917 chichari etor
チチャリ エトロ
された 散らす 鈴
パラパラ下がる鈴
- 918 chichari tumshi
チチャリ トウムシ
された 散らす 木製の鎖状の彫刻
バラバラ下がる鎖の房
- 919 chietomtekar,
チエトム テカラ
自身をそこに 光ら せる+(他動詞語尾)
で飾りつけられ、
- 920 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 の光り
神々しい光が
- 921 komaknatara.
コマクナタラ
そこに 輝く
明るく輝いています。
- 922 Kimuirarire※4
キムイ ラリレ
頭頂を押さえつけ させる
頭にかぶる
- 923 konchi reuboki ta
コンチ レウ ボキ タ
帽子 内側の湾曲 の下 に
兜の下には
- 924 kamui sannanu
カムイ サン ナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が
- 925 hetuku chup ne
ヘトウク チュブ ネ
顔、頭を 突き出す 太陽 のように
さし昇る朝日のように
- 926 i-nantasare.
イナンタサレ
我に・顔面から 光を反射させる
まぶしく照り輝いていました。

- 927 Santek※5 ka ta
サンテク カ タ
出る手 上に
手には
- 928 tururun kuwa
トゥルルン(←トゥルル ウン?) クワ
(不詳) トウルル の(?) 杖
トゥルルの杖(?)
- 929 kani kuwa—
カニ クワ
金の 杖
こがねのつえ、
- 930 kuwa kurkashi
クワ クルカシ
杖 の上
つえの表面には
- 931 tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神の 像
たくさんの美しい形
- 932 re kamui noka※6
レ カムイ ノカ
三つの 神の 絵
いくつもの模様が
- 933 chiuwatore,
チウワトレ(←チウ アッ オレ)
自身を互いに 紐 入ら せる
ぐるりと連なり、
- 934 santek kashi
サンテク カシ
前へ出る手 の上
杖もつ手さきは
- 935 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 の光り
霊光が
- 936 koupbetomne.
コウブベトムネ
共に 白子 汁色 になる
白子みたいに光っています。
- 937 Tarushikayop※7
タルシカヨブ(←タラ ウシ イカヨブ)
背負い縄 が付いた 矢筒
背負い縄がついた矢筒
- 938 eshiseturka—
エシセトルカ
それを自分の背 上
を背に
- 939 nere kane,
ネレ カネ
なら せる 状態で
しよって、
- 940 harki sam ta
ハラキ サム タ
左の 側 に
左手に
- 941 karimbaunku
カリムバウンク
桜木皮 付く 弓
ゆづか※8に桜皮を巻いた弓

※1 「シャマンの盛装、腰のまわりに銅貨をぐるっと糸で縫いつけていた。そういう風俗が古い時代に知られていてこういう描写が出て来る」(金 I-153)

※2 moreu「mo-reu<小・曲り>曲線の先が円く止まる模様。アイヌ紋様の主なるもの」(金 I-153)

※3 uwokkanikut「黄金の鉤帯…腰の囲りへーばいにぜんまいのさがつてゐる胴じめ。樺太には今も見受けるが、北海道には、たゞかういふ昔語りに遺つてゐるだけである。古く樺太を通じて船載したシャマンの緊めるもの」(研W250)

※4 訳例: ikoiki konchi/kimuirarire/konchi reubokta/kamui sannanu/komaknatara.《萱野茂訳》「戦いの帽子を/頭に被り/頭の下へ/見える顔/太陽のように輝いている。」(教IX-136~7) kabarbe kasa/a-kimui rarire/kasa rantubep/a-eyainotkirkashi/yupba kane.[薄造りの上等な兜を/頭に被り/兜の緒で/わが顎先に/しっかと締めた。](教60-98)

※5 santek「<前に出ている>意の添え辞・手>手くびからさき(研844, 金 I-75)、飾りていふ語、腕からかけて手全体をいふ語(研W603)」

※6 原綴 noko

※7 原綴 tarushikoyop

※8 弓の握り部分

- 942 kunum noshki
クヌム ノシキ
弓身 真ん中
の握りの真ん中
- 943 amba kane,
アムバ カネ
手に持つ 状態で
を手に持っているので、
- 944 ekimne kusu
エキムネ クス
頭が山の方になる ために
山獵するために
- 945 apkash kunip ne i
アプカシ クニプ ネ イ
歩く はずの者 である こと
歩いている者だと
- 946 a-eraman kane.
アエラマン カネ
我は・わかる 状態だ
わかりました。
- 947 Itasa bakno
イタサ バクノ
それへの 返し までに
その方は逆に
- 948 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの もや 中心
わたしを包む濃いもやの
- 949 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの もや 中心
真ん中に向かって
- 950 i-kocharikar
イコチャリカラ
我・に向かって 散らす+(他動詞語尾)
わたしのもやを散らしました
- 951 yakka, oar
ヤクカ オアラ
けれども まったく
が、まったく
- 952 pirikano
ピリカノ
よく
はっきりとは
- 953 a-netobakehe
アネトバケヘ
我が・その身体
わたしのからだが
- 954 nukar somoki
ヌカラ ソモキ
見る (否定) する
見えない
- 955 noine a-ramu.
ノイネ アラム
らしく 我は・~を考える
ように思われます。
- 956 Kutsam※1 konna
p.21 クツサム コンナ
のど そば (調律)
声が
- 957 tununitara,
トゥヌニタラ(←トウトウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
鈴の音のようにさわやかに、
- 958 beure itak
ベウレ イタク
若い 言葉
若い物言い
- 959 beure kutor ari
ベウレ クトロ(←クツオロ) アリ
若い のど内 でもって
若者の声つきで
- 960 ene itak i ;
エネ イタク イ
こう 言う ことには
言うことには、
- 961 " Usainetapsui
ウサイネ タッスイ
色々これはまた
「これはこれは！
- 962 inkar-an humi
インカラン(←インカラ アン) フミ
眺める・我が 感じ
おれが見た感じでは
- 963 a-oyamokte na.
アオヤモクテ ナ
我は・不審に思う ぞ
何だか変だな。
- 964 Toatpon wa hetapne,
トアツポン ワ ヘタプネ
日 多いのに 少なく て かまあこれは
今日にかぎって、
- 965 tane bakno
タネ バクノ
今 まで
今まで
- 966 arshino boka
アラシノ(←アラ スイ) ボカ
一 回 さえも
ただの一度も
- 967 ekimne
エキムネ
その頭山 である
狩りに出かけたことが
- 968 a-eramishkare awa,
アエラミシカレ アワ
我は・知らなかつ たところ
なかったのに、
- 969 tanto annisapno
タント アンニサプノ(←アラ ニサプノ)
この日 全く 不意に
今日突然急に
- 970 ekimne-an rusui.
エキムネ アン ルスイ
狩獵に行く・我が を欲する
狩りに行きたくなった。
- 971 Tane tokesh an kane
タネ トケシ アン カネ
もう今は 日の末 ある 状態で
もう夕方になっている
- 972 shiran koroka,
シラン(←シリアン) コロカ
様子 ある けれども
にもかかわらず、
- 973 soine-an aike
ソイネ アン アイケ(←アヒケ)
外に出る・我は たすると
出てきたのだったが、すると
- 974 taban ushike un
タバ ン ウシケ ウン
この 場所 へ
ここに
- 975 a-konramkonna
アコンラム(←ア コロ ラム) コンナ
我が・持つ 心 内+(調律)
ふいに
- 976 chiturituri※2
チトゥリトゥリ
自身 を伸ばす+(重複)
行きたくなった。
- 977 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
この こと 故に
それで
- 978 eteun※3 ek-an awa,
エテウン エク アン アワ
頭 へ 来・我が たところが
こっちの方へ来たところ、
- 979 nekon ne
ネコン ネ
どのように なる
どうした
- 980 ruwe ta an ?
ルウェ タ アン
その事実 (強調) ある
ことなのか？
- 981 Neita tu kotan ta
ネイタ※4 トウ コタン タ
どこにか 二つの 村 に
どこの遠く離れた村
- 982 neita re kotan ta
ネイタ レ コタン タ
どこにか 三つの 村 に
どこのはるか離れた村の
- 983 e-ne okaibe
エネ オカイベ
汝・で ある者
そなた
- 984 okai i ta okai ?
オカイ イ タ オカイ
ある こと (強調) ある
でいらっしやるのか？
- 985 Kamui mataba
カムイ マタバ(←マツアパ)
神の 女身内
神の身内である女性
- 986 e-ne ruwe he an ?
エネ ルウェ ヘ アン
汝・である その事実 か ある
なのか？
- 987 Ainu mataba
アイヌ マタバ(←マツアパ)
人間の 女身内
人間の身内である女性
- 988 e-ne ruwe he an ?
エネ ルウェ ヘ アン
汝・である その事実 か ある
なのか？
- 989 Ne wa ek wa
ネ(←ネイ) ワ エク ワ
どこ から 来 て
どこから来て

※1 「<kut-sam のど・そば>《幌別・沙流》【雅語】声」(人157)

※2 「自然に~の方へ行きたくなりて行くと。やはり憑き神のさするわざと人々に理解されるのである」(研785)、《萱野茂訳》「へ私は行きたい衝動にかられた。」(教Ⅹ I-18)

※3 「【副詞】こっちへ」(語法)「此處. adv. Here. This way.」(B137)《萱野茂訳》「こちらの方へ」(教24-97)

※4 参考訳: neita tusui「<何處にか 二度>直譯すれば何處にか二度、どこにか又、なれど、その意は驚きの咏歎で(以下略)」(研910)

- 990 neun oman
ネウン オマン
どこへ 行く
どこへ行こ
- 991 kusu ekbe
クス エクベ
ために 来る者
うとして来た者
- 992 e-ne ruwe ta an ?
エネ ルウェ タ アン
汝・である その事実 (強調) ある
なのか?
- 993 Ainu mataba
アイヌ マタバ(←マッ アバ)
人間の 女身内
人間である女性
- 994 e-ne chiki,
エネ チキ
汝・である なら
ならば、
- 995 seenne nebeka
セエンネ ネベカ(←ネフ ヘ カ)
(否定強調)~しない 何かこれ
ひよつとして
- 996 PonTeseu※1 um mat
ポン テセウ ウム(←ウン) マッ
小 テセウ に住む 女性
ポンテセウ姫、
- 997 a-tureshipo
アトゥレシポ
我が・妹+ (指小辞)
わが許婚者^{いいなづけ}
- 998 e-ne ruwe he an ?
p.22 エネ ルウェ ヘ アン
汝・である その事実 か ある
なのか?
- 999 Oribak tura
オリバク トウラ
慎み と共に
おそれながら
- 1000 iki a yakka,
イキ ア ヤッカ
それをした としても
ではあるが、
- 1001 orotunashno
オロトウナシノ
全く早く
一刻も早く
- 1002 e-koro kotan
エコロ コタン
汝が・持つ 村
そなたの村の
- 1003 reko wa
レコ ワ
名乗っ て
名前を言って
- 1004 i-nure kunak
イヌレ クナク(←クンヤク)
我に・聞かせる べきであると
聞かせてくだ
- 1005 ramu yan !'' ari
ラム ヤン アリ
思い なさい と
され！」と
- 1006 hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
おっしゃるから、

- 1007 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
心の底からの 気持ち
心底おどろい
- 1008 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に ~を与える
てしまいました。

- 1009 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチウンクルー
- 1010 pon a-koro yubi※1
ボン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わが夫になる人と
- 1011 hoshki ruino
ホシキ ルイノ
最初に 強く
一番先
- 1012 a-koekari shiri
アコエ カリ シリ
我が・共に そこに 回る その様
にめぐり会えたことを
- 1013 keutum otta
ケウトウム オッタ(←オロ タ)
心 の所で
心の中では
- 1014 nubetne-an yakka,
ヌベツネ アン ヤッカ
喜ぶ・我は けれども
嬉しく思いましたが、
- 1015 arkehe ta
アケヘ タ
その半分 で
一方では
- 1016 yayikush keutum
ヤユイクシ ケウトウム
悔いる 気持ち
恥ずかしい気持ちも
- 1017 a-yaikore kane.
アヤイコレ カネ
我は・自分に ~を与える 状態だ
わいてきました。
- 1018 Oribak tura,
オリバク トウラ
慎み と共に
おそれ慎みながら、
- 1019 itak uturu
イタク ウトゥル
言葉 その間
しどろもどろに
- 1020 a-rakup kane,
アラクブ カネ
我は・途切れる 状態で
つかえつかえ、
- 1021 itak uturu
イタク ウトゥル
言葉 その間
言葉の合間にも
- 1022 a-mushish kane,
アムシシ カネ
我は・咽せる 状態で
咳払いをオホンコホンはさみながら、
- 1023 tapne kane,
タツネ カネ
このような 状態で
おっしゃるとおり、
- 1024 PonTeseu um mat
ポン テセウ ウム(←ウン) マッ
小 テセウ に住む 女性
わたしはポンテセウ姫
- 1025 a-ne wa,
アネ ワ
我が・であつ て
であつて、

※1 原綴 yobi

- 1026 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 1027 ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
かくかくしかじかと
- 1028 i-bakashnu wa,
イバカシヌ ワ
我に・～教え諭して
わたしに言い聞かせて、
- 1029 tanto iyochi un
タント イヨチ ウン
この日 イヨチ ヘ
今日イヨチへ
- 1030 i-ette katu
イエツテ(←イ エクテ) カトウ
我を・来させる その容子
寄りこしたことを
- 1031 a-koomommomo
アコオモムモモ
我は・～についてくわしい
こまごまとくわしく
- 1032 kane a-ye wa
カネ アイエ ワ
状態で 我は・言っ
てと語り
- 1033 okere awa,
オケレ アワ
終わったところが
おえたところ、
- 1034 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アン ベ)
神 のように ある者
神のようなお方は
- 1035 kisattarara
キサッタララ(←キサラ タララ)
耳を持ち上げ+(重複)
耳をそばだて
- 1036 pirikano
ピリカノ
よく
一生懸命
- 1037 ikokanu wa okai.
イコカヌ ワ オカイ
ものに聞き入っ
ている聞いていらっ
しゃいました。
- 1038 Tanebo itak
タネポ イタク
今+(指小辞) 話す
ようやくわたしが話し
- 1039 okere-an, nani
オケレ アン ナニ
終わる・我が すぐ
おえるとすぐ
- 1040 "Tureshpo !" ari
トゥレシポ アリ
妹+(親称辞) と
「いいなづけよ！」と
- 1041 " Sambe !" ari※1
サムベ アリ
心臓 と
「大事なひとよ！」と
- 1042 itak kane
イタク カネ
言う 状態で
言っ
- 1043 oahuntaiba※2
オアフンタイバ
腰を抜かす
腰を抜かすほど驚いて(?)
- 1044 i-raukotabu,
イラウコタブ
我を・とらえる
わたしの肩をつかまえ
- 1045 i-eshikari,
p.23 イエシカリ
我を・つかむ
わたしを抱きかかえ、
- 1046 "Ene ne kuni
エネ ネ クニ
そう である はずと
「そうであろうと
- 1047 a-ramu a i
アラム アイ
我が・思っ た こと
思っ
- 1048 korachi,
コラチ
のように
とお、
- 1049 PonTeseu um mat
ポンテセウ ウム(←ウン) マツ
小テセウ に住む 女性
ポンテセウ姫、
- 1050 a-tureshipo
アトゥレシポ
我が・妹+(指小辞)
わがいいなづけ
- 1051 ne rok okai !
ネ ロク オカイ
であつ た のである
であつた！
- 1052 Ene hetapne !
エネ ヘタツネ
こう か これはまあ
なんとまあ
- 1053 naa hekachi
ナア ヘカチ
まだ 少年
まだこわっぱに過ぎない
- 1054 a-ne a yakka
アネ アヤッカ
我・であつ た が
俺ではあるが、
- 1055 keshto
ケシト
毎日
毎日
- 1056 kunne hene
クンネ ヘネ
夜 でも
夜も
- 1057 tokap hene
トカプ ヘネ
昼 でも
昼も
- 1058 eani※3 batek
エアニ バテク
お前 ばかり
あんた※3のことばかり
- 1059 a-eyaiko-
アエヤイコ(←ア エ ヤイコ
我は・それについて 自身に向かい
考え
- 1060 shiramse,
シラムセ(←シラム スイエ)
自分の 思い 巡らす
て、
- 1061 hetaktausa
ヘタッタウサ
早く+(感嘆)+色々
一刻も早く
- 1062 okkai bakno
オクカイ バクノ
男 まで
一人前の男に
- 1063 shikup-an,
シクプ アン
成長する・我が
俺がなり、
- 1064 menoko bakno
メノコ バクノ
成人女子 ほどに
一人前の娘に
- 1065 e-shukup wa,
エシクプ ワ
汝が・育っ て
そなたがなって、
- 1066 orotunashno
オロトウナシノ
全く早く
すこしでも早く
- 1067 unukar-an
ウヌカラ アン
互いを見る・我が
会い
- 1068 okai ! ari batek
オカイ アリ バテク
たいなあ と ばかり
たいなあ！とばかり
- 1069 yainu-an,
ヤイヌ アン
考える・我が
思い、
- 1070 e-eyaikataikar-an
エエヤイカタイカラ アン
汝を・それで 恋する・我が
そなたを慕わしく思っていた
- 1071 humi okai awa,
フミ オカイ アワ
その感情 あつ たところが
のであつたところ、
- 1072 pirika kunine※4
ピリカ クニネ
よくなる べきであるように
いいあんばいに
- 1073 I-resu yubi※5
イレス ユビ
我を・育てる その兄
そなたの育ての兄の

※1 原ノート Sambe ari 重複

※2 oahuntaipa「腰を抜かす」(久181) oahuntaye「尻餅をつく」(久181)《萱野茂訳》「しりもちをついた」(教XIV-47)

※3 この話し手の正体は悪狐。化けの皮を時々露呈する。

※4 kunine「べきである(当然態)」(金I-165)「【接続助詞】～するように(することを目指して)」(田361～2)

※5 e-resu-yubi の誤記?

3-3 喜び合う二人

- 1074 koro irenka
コロ イレンカ
持つ 主張
お考えが
- 1075 sonno pirika kusu,
ソノ ピリカ クス
誠に 良い 故に
まことに正しかったから、
- 1076 orotunashno
オロトゥナシノ
全く早く
このように早く
- 1077 unukar-an
ウヌカラアン
互いを見る・我らが
われらは会えた
- 1078 shirian. Sonno
シリアン ソノ
その様 ある 本当に
ようだ。まこと
- 1079 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図(挿入音)として
神のおぼしめしによって
- 1080 taban ushike ta
タバウ シケ タ
この 場所 で
ここで
- 1081 oainusakno
オアイヌ サクノ
そこに人無しに
他にだれひとりいない
- 1082 samasiksakno
サマシク サクノ
その傍に 人目 無い+(副詞語尾)
そばに人目無しに
- 1083 samachashnuno
サマチャシヌノ
その傍さっぱりしている+(副詞語尾)
水入らずで
- 1084 ouse tun a-ne wa
オウセ トウン アネ ワ
ただ~だけ 二人 我ら~であつて
たった二人だけで
- 1085 unukar-an
ウヌカラアン
互いを見る・我らが
会
- 1086 eashkai shiri
エアシカイ シリ
それを できる その様
えたことは
- 1087 shino nubetne-an
シノ ヌベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
まことによるこばしい
- 1088 ruwe ne.
ルウェ ネ
その事実 である
ことだ。
- 1089 Tanto somo
タント ソモ
この日(否定)
今日

- 1090 soine-an-no
ソイネ アンノ
外に出る・我は+(副詞語尾)
俺が外へ出ずに
- 1091 a-ewak ushike ta
p.24 アエワッ ウシケ タ
我が・住む いつも~する 所 に
わが館に
- 1092 e-ek yakka,
エエク ヤッカ
汝が・来 ても
そなたが来ても、
- 1093 I-resu sapo
イレス サポ
我を・育てる その姉
わが育ての姉上
- 1094 a-koshikibip kusu
アコシキ ビッ クス
我が・~に対しその目 びくつく 故に
に気後れして
- 1095 tap korachi
タッ コラチ
この 如く
このように
- 1096 uwekap-an
ウエカプアン(←ウ エカプ アン)
互いに 挨拶する・我らが
あいさつの言葉をかわせ
- 1097 eaikap nankoro."
エアイカッ ナンコロ
それを 出来ない だろう
なかっただろう。」
- 1098 ari itak kane,
アリ イタッ カネ
と 言う 状態で
と言って、
- 1099 i-shikoruye.※1
イシコルイエ
自分の方へしめつける
わたしの頭から両肩や腕をなでました。
- 1100 Ohaine kane ari
オハイン カネ アリ
おそるべき 状態だと
『なるほど』と
- 1101 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
- 1102 yainu-an,
ヤイヌ アン
考える・我は
思い、
- 1103 shino nubetne-an.
シノ ヌベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
本当に嬉しく思いました。
- 1104 "Yuppo!" ari
ユッポ アリ
兄+(親称接尾辞)と
「いとしいお兄さまあ!」と
- 1105 itak-an kane
イタカン(←イタッ アン) カネ
言う・我が 状態で
わたしは言いながら、

- 1106 chinki kese※2
チンキ ケセ
裾 の端を
彼の着物の裾の両はしを
- 1107 a-oukoraiba,
アオウコライバ
我は・そこから 相互に やる(raye複)
両手でつかんでかき寄せ、
- 1108 sankotkkasaba
サンコッカ サバ
前へ出た ひざ 頭
膝がしらから
- 1109 santek kashi
サンテック カシ
前へ出る 手の上
腕にかけて
- 1110 a-koruiruye.
アコルイルイエ
我は・撫でる
撫でさすりました。
- 1111 A-kimui kashi
アキムイ カシ
我が・頭の上
彼はわたしの頭
- 1112 i-koruyekara,
イコルイエ カラ
我・に 撫でる+(他動詞語尾)
を撫でさすり、
- 1113 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
かわるがわる
- 1114 uwekap-an.
ウエカプアン(←ウ エカプ アン)
互いに 挨拶する・我らが
あいさつの礼をかわしました。

※1 「頭をさすってから両肩をさすり腕をさする行事の ruiruye を行ったこと」(金 I-308)

※2 原綴kase。「男子の跼座している膝がしらを uruyruye'等しく撫でさする礼'すること、左右の膝を左右の手で撫でやるしかたで、おのずと衣の裾を左右から寄せるような形となるのでそう云ふ」(研851)、女が男性の裳裾を両手につかんで両拳を左右から寄せるような格好をするもの。これは非常に丁寧な女礼の風。(金 I-183)」

3-4 シラミとり

- 1115 Pon a-kor yubi
ポン アコ^ロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの夫になる人が
- 1116 ene itak i,
エネ イタ^ク イ
こう 言う ことには
言うことには、
- 1117 "Tantewano
タン テ ワノ
今ここから
これから
- 1118 ekimne-an yakka
エキムネ アン ヤ^クカ
狩猟に行つ・我が ても
狩りに行つても
- 1119 ponno moire.
ポンノ モイレ
少し 遅い
ちょっと遅い。
- 1120 Ponno ka
ポンノ カ
少し も
もう少しも
- 1121 e-ekoobi^{※1}-an
エエコオビ アン
汝を・で ~に を残して去る・我は
俺はそなたと別れ
- 1122 ka niukesh.
カ ニウケ^シ
もしきれない
られない。
- 1123 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
この こと 故に
それゆえに
- 1124 te ta ponno
テ タ ポンノ
こゝで 少し
こゝでちょっと
- 1125 shini-an orowa
シニ アン オロワ
休む・我らは それから
われらは休んで、
- 1126 onuman kobak ta
オヌマン コバ^ク タ
晩 の方 で
うす暗くなってから
- 1127 utura-an wa
ウトウラ アン ワ
互いを同伴し・我らは て
一緒に連れ立って
- 1128 a-unihi ta
アウニヒ(←ア ウン イヒ) タ
我が・いる 所 に
わが家に
- 1129 baye-an yakne,
バイエ アン ヤ^クネ
行く(oman複)・我が ならば
帰ったならば、
- 1130 nekon tapne
ネコン タ^フネ
どのように こう
どんなにかきつと
- 1131 i-resu sapo
イレ ス サポ
我を・育てる その姉
わが育ての姉上は
- 1132 usa homatu
ウサ ホ マトウ
~も 尻 を挙げる
驚きもし
- 1133 usa nubetne
ウサ ヌベツネ
~も 喜ぶ
喜びもし
- 1134 usa iyokunure
ウサ イヨクヌレ(←イ オクヌレ)
~も 物事 にあきれる
あきれも
- 1135 ki nankor'a.
キ ナンコ^ラ(←ナンコ^ロ ヤ)
する だろう か
するにちがいない。
- 1136 Naa ponno
^{p.25} ナア ポンノ
まだ 少し
もう少し
- 1137 ukoitak-an rusui.
ウコイタ^ク アン ルスイ
互いに話す・我は を欲す
話していたい。
- 1138 Ponno i-komui
ポンノ イコムイ
少し 我に・シラミを取つ
ちょっとシラミをとつ
- 1139 wa i-kore. "
ワ イコレ
て 我に・与える
てくれ。]
- 1140 ari itak kane,
アリ イタ^ク カネ
と 言う 状態で
と彼は言って、
- 1141 kamuiranketam^{※2}
カムイランケタム
神が降ろした刀
神からさずかった太刀を
- 1142 yaikoante,
ヤイコアンテ
自分で置く
腰から外し、
- 1143 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 1144 un konchi
ウン コンチ
にある 帽子
の兜を
- 1145 yaikoante,
ヤイコアンテ
自分で置く
ぬいで、
- 1146 tururun^{※3} kuwa
トゥルルン クワ
(不詳) 杖
トゥルルの杖(?)
- 1147 turanno
トゥランノ
と一緒に
と一緒に
- 1148 shisam ta are,
シサム タ アレ
自分側 に 座らせる
自分のわきに置き、
- 1149 tap orowa
タ^フ オロワ
それ から
それから
- 1150 a-kokkasaba
アコ^クカ サバ
我が・膝 がしら
彼はわたしに膝
- 1151 enunun.
エヌヌン
そこに 枕する
枕しました。
- 1152 Shiriki chiki,
シリキ チキ
その様をし たら
そうしたから、
- 1153 kamui otobihi
カムイ オトビヒ
神の その髪の毛
わたしは彼の美しい髪の毛を
- 1154 a-chimbachimba^{※4}
アチムバチムバ
我は・かき分け かき分ける
かき分けてシラミを探しました。
- 1155 Nep ka ki ka sak
ネ^フ カ キ カ サ^ク
何 も シラミ も 無い
シラミの一匹
- 1156 nep turihi ka sak.
ネ^フ トウリヒ カ サ^ク
何 の垢 も 欠く
垢の一つも付いていません。
- 1157 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 1158 i-koitakrui.
イコイタ^ク ルイ
我に 向かって 言葉 激しい
わたしにおしゃべりなさいました。
- 1159 Ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
このように

※1 原綴 Eekobi. ekoobil = e-kohopi 背を向ける。それに背を向けて(金Ⅱ-110)、引きかえして(金Ⅰ-277)、e-ko-ho-pi<それに対して・尻・引く、解く、抜く>こっちへ尻をむけて(金Ⅲ-89)「去ル、離ル、(単数) v.t. To leave. To depart from.(sing). Syn: Orowa no oman.」(B112)「~に背を向ける、それと反対に」(聖665)「①【他動詞】<~で・~に・~を残して去る>(?)~と別れる②【副詞】~分かれて(分岐して)、と別れて」(田91)

※2 kamuy-ranke-tam「<神・降す・刀>は、アイヌの造ったものではなく皆邦人の刀工の作なのであるが、アイヌはこれを人造でなく神造のものと考えた」(金Ⅰ-153)、「神授の霊刀。アイヌの習俗、刀剣を伝家の宝物として尊ぶ。されど刀身はほとんど無銘の鈍刀か、アイヌ交易用として特に作りたるもの、或は江差・松前辺にて、蝦夷鍛冶と呼ばれた人たちの造ったものかであるようだ。」(聖715)

※3 原綴 Tururun

※4 cim-pa「<cimi 左右にかき分けるの語幹・(複数形語尾)>」(地18)

3-4 シラミとり

- 1160 shikup katu hene
シク^フ カトウ ヘネ
成長する 容子 でも
育ったことだの
- 1161 pirikano
ピリカノ
よく
熱心に
- 1162 omommomo kane ye,
オモムモ カネ イエ
くわしい 状態で 言う
こまごまとくわしく語り、
- 1163 makan okai i
マカン オカイ イ
どんな ある 所
あるところでは
- 1164 a-euminare kane.
アエウミナレ カネ
我らは・で 笑わせ合う 状態だ
二人で笑い合ったりしました。
- 1165 Itasa sui
イタサ スイ
それへの 返し 再び
お返しに
- 1166 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
- 1167 yaeorushbe
ヤイエオルシベ(←ヤイエオルシベ)
自分についての話
自分のことを
- 1168 ye-an chiki,
イエ アン チキ
話す・我が なら
話したら、彼は
- 1169 iyohumse-
イヨフムセ(←イオフムセ)
物 そこフムという声
合間合間にフムツというカ声
- 1170 echiu※1 kane.
エチウ カネ
を刺す 状態だ
を出して聞きました。
- 1171 Ki ka isam-
キ カ イサム
シラミ も 無い
シラミもない
- 1172 be ne kusu
ベ ネ クス
もの だ から
ものだから、
- 1173 ouse otobih
オウセ オトビヒ
ただ~だけ その髪の毛
わたしはただ彼の髪の毛を
- 1174 a-chimi, uturuhu
アチミ ウトルフ
我は・をかきわける その間
かき分けて、毛髪の間
- 1175 a-kiki kane
アキキ カネ
我は・~を掻く 状態で
をかくだけで、

- 1176 a-kerkeri
アケレケリ
我は・ひっかく
しばらくひっかい
- 1177 kane aine,
カネ アイネ(←アヒケ)
状態でい たして
ているうちに、
- 1178 pon a-kor yubi
ポン アコ^ロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 1179 mashkinno
マシキンノ
あまりにも
あまりにも
- 1180 nubetne kasuibe
ヌベツネ カスイベ
喜ぶ 過ぎるもの
気持ちよすぎたもの
- 1181 konep ne kusu,
コネ^フ ネ クス
(調律)であること である 故に
だから、
- 1182 mokor hesere
モコ^ロ ヘセレ
眠る 息をさ せる
軽く寝息を立て、
- 1183 nep ka
ネ^フ カ
何 も
なにも
- 1184 somo ye aike,
ソモ イエ アイケ(←アヒケ)
(否定) 言う たすると
言わなくなったところ、
- 1185 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
- 1186 arekushkonna
アレクシコンナ(←ア^ラエクシコンナ)
全くだしぬけに+(調律)
突然急に
- 1187 mokonrusui-an,
モコン(←モコ^ロ) ルスイ アン
眠るを欲する・我は
眠気におそわれ、
- 1188 a-yaitemnikor-※2
アヤイテムニコ^ロ
我は・自身の 両腕の間
両腕の間
- 1189 eshisuye-
エシスイエ
そこに 自分を 揺り動かす
に首をたれて
- 1190 hesuiba-an
ヘ スイバ アン
頭 振る(suye 複)・我は
居眠りし、こっくりこっくり
- 1191 herachichi-an kane.
ヘラチチ アン カネ
頭をダラリと下げる・我は 状態だ
舟をこぎはじめました。

- 1192 Iki-an aine
イキ アン アイネ(←アヒケ)
物事をする・我が たして
そうしているうちに、
- 1193 pirika mokoro
p.26 ピリカ モコロ
よき 眠り
ぐっすりと
- 1194 i-annoyekar.
イアンノイエカ^ラ(←イア^ラノイエカ^ラ)
我に・全く からみつく+(他動詞語尾)
正体もなく眠り込んでしまいました。

※1「間々へカ声を入れつつ聞いた—元気づけるため」(金Ⅱ-232)

※2「yai-temnikor-eshisuye<自身の・両腕の間・そこに・自らを・揺り動かす>; 両腕の間に、首をたれて、舟を漕ぐ」(聖647)、「おのが腕の間に/ぐらりぐらりと夜舟を漕ぎて」(研624)

3-5 化け狐

- 1195 Setakno hetap
セタ^クノ ヘ^タッ
ほんのわずかの間 かこれは
短い間だったのか
- 1196 irukai hetapne
イルカイ ヘ^タッネ
しばらく かこれはまあ
長い間だったのか
- 1197 mokor-an aine
モコ^ロ アン アイネ(←アヒケ)
眠る・我は たして
眠りこけているうちに、
- 1198 hunakbakita
フナ^クバキタ(←フナ^クバ^クイタ)
どこに 及んだ時に
どれほどたった時にかようやく
- 1199 a-yaishikarun.
アヤイシカルン
我は・自身に われと気がつく
わたしは気がつきました。
- 1200 Eashka homaturuibe
エア^シカ ホマトウルイベ
本当に 驚き 激しいもの
それこそ非常にびっくりした
- 1201 a-nep ne kusu,
アネ^ッ ネ クス
我であるもの である 故に
ものだから、
- 1202 shiktokoko-an
シ^クトココ アン
目 出っばらせる+(重複)・我は
わたしは目を大きく開けて
- 1203 a-temkoro un
アテム^コロ ウン
我が・両腕間 ヘ
自分の膝を
- 1204 inkar-an awa,
インカラン(←インカ^ラアン) アワ
見・我が たところが
見たところ、
- 1205 seennekasui
セエンネカスイ
まさかまた~しない
まさかまた
- 1206 shiran kuni
シラン(←シリ^ンアン) クニ
様子 ある はずと
状況がそうなっているとは、
- 1207 inkar-an kuni
インカラン(←インカ^ラアン) クニ
眺める・我が はずと
そんなものを見るとは
- 1208 a-ramu rok i,
アラム ロキ(←ロ^クイ)
我は・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 1209 pon a-kor yubi
ポン アコ^ロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者
- 1210 ne kuni
ネ クニ
である はずと
だと
- 1211 a-ramu rokbe,
アラム ロ^クベ
我は・思っ た者
思っていたのは、
- 1212 boro chironnup—
ボロ チロンヌ^プ
大きな 我ら 殺すもの
大ギツネ—
- 1213 numa uturu
ヌマ ウトゥル
毛 の間
毛の間は
- 1214 tontone,
トントネ
毛を抜いた皮 のようである
は
禿げているみたいに毛がなく
- 1215 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その表面に
- 1216 kechaine numa
ケチャイネ ヌマ
(不詳) 毛
ケチャイのような毛が
- 1217 chiechari※1 kane
チエチャリ カネ
自身(?)で 散らす 状態で
ポヤポヤっど(?)
- 1218 eechayaike※2 kane.
エエチャヤイケ カネ
それが そこに 出ている 状態だ
突っ立っていました(?)。
- 1219 Bokna nirushi
ボクナ ニルシ
下方の 牙
下あごの牙が
- 1220 kanna nirushi
カンナ ニルシ
上方の 牙
上あごの牙
- 1221 chiekasure,
チエカスレ
自身 それで 過ぎ させる
に突き出ている、
- 1222 shiktum konna
シ^クトウム コンナ
目色 (調律)
目の色は
- 1223 kunaibe tomne※3 kane,
クナイベ トムネ カネ
フクジュソウの花 色 になる 状態だ
物狂いした人のようにまっ黄色で、
- 1224 a-annanorke※4
アアンナノ^ロケ(←アア^ラナンオ^ロケ)
わが・半 顔 の所
わたしの顔に
- 1225 shikomare
シコマレ(←シ^クオマレ)
目を~に入れる
向かって
- 1226 niteiteye※5
ニテイテイエ
いい顔いい顔(?)
ニヤニヤしながら(?)
- 1227 nimak maka.※6
ニマ^ク マカ
歯 を開ける
歯をむきだしました。
- 1228 Sonno an-eramuka—
ソノノ アネラムカ(←アンエラムカ)
本当に 我は・~で その心の上
わたしはともうす気味悪く
- 1229 kittararke,
キッタラ^ラケ
おそれこわがる
ぞっとし、
- 1230 inkan ne wa
インカン(←インカ^ラ) ネ ワ
ものを見る であって
それを見ただけ
- 1231 a-kip ne koroka,
アキ^ッ ネ コロカ
我は・~をするもの だ けれど
で、
- 1232 turush kinra ne
トゥルシ キンラ ネ
気が立って我を忘れる 狂気 になる
狂わんばかりの怒りが
- 1233 i-kohetari.
イコヘタリ
我に・向かって 頭 をもたげる
わたしにわき起こってきました。
- 1234 "Ayapo!" ari
アヤポ アリ
あ痛 と
「キヤー！」
- 1235 "Oyoyo!" ari
オヨヨ アリ
いやあ と
いやあ！」と
- 1236 itak-an kane
イタカン(←イタ^クアン) カネ
言う・我が 状態で
わたしは叫んで
- 1237 a-matkosanu.
ア マツコサヌ
我は・すばやく立つ パツとする
パツと立ち上がりました。
- 1238 Terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ぶ 最中 に
立ち上がりざまに
- 1239 inkar-an ko※7
インカラン(←インカ^ラアン) コ
眺める・我が と
見ると、

※1 chari「まきちらす、散ず(研W409)、散らす(研W250)」《幌別》散らす、まき散らす」(方142-98)「【他動詞】3~を散らす」(田42)「【2項動詞】①~をまき散らす②~を掻き散らす」(中263)

※2 chayaike「【自動詞】cay-ay-ke<(擬態の語根)・(重複)・という状態になる(自動詞形成)>(とげが)出ている。ayehe chayayke とげが出ている」(田44)

※3 「kunaibe 福寿草なりと、tum 色、されば眞黄な目の色といふことで、恐ろしいきつい目のいろの意といふ。福寿草は普通は kunau といふ」(研629)、《知里ナミ説》目の色の黄なること。普通には福寿草は kunaibe である。kunaipetom は《金成マツ説》人間なら本気でない人の目ののである色(金Ⅲ-59)

※4 「全貌を一度に仰げない心」(金Ⅱ-94)

※5 参考:「ニテイテイエ niteye-teye いい顔いい顔: 誕生日前の幼児がいろいろな表情をすること」(萱345)

※6 参考:「nimakaka ni-makaka <歯・開けている、むいている>《幌別》顔をしかめる、しかめ面をする、洗面つくる(人97)、《幌別》歯をむきだしてしかめつらをしてい(人303)」

※7 原綴 inkarko

- 1240 nerok Menashsam un
ネロク メナシサム ウン
例の 東方 そば にある
あのメナシサムの
- 1241 attush hene
アツウシ ヘネ
厚司 でも
厚司や
- 1242 konchi hene
p.27 コンチ ヘネ
帽子 でも
兜も
- 1243 kamuiranketam hene
カムイランケタム ヘネ
神 が降ろした 刀 でも
神からさずかった太刀も
- 1244 tururun kuwa hene
トゥルルン(←トゥルル ウン) クワ ヘネ
(不詳) トゥルル の(?) 杖
トゥルルの杖(?)も
- 1245 arobittano
アロビッタノ(←アヲ オビッタノ)
全く皆
全部
- 1246 isam kane.
イサム カネ
無い 状態である
無くなっていました。
- 1247 A-kotani un
アコタニ ウン
我が・その村 に
わたしの村の方に
- 1248 orhetobo
オロヘトボ
全く 頭を回す
向かってひた走りに
- 1249 shikiru-an.
シキル アン
自分 を回す・我は
わたしは引き返しました。
- 1250 A-shikehe
アシケヘ
我は・その荷物
わたしの荷物
- 1251 ne yakka neino
ネ ヤカカ ネイノ
で あっても 同様に
もそっくりそのまま
- 1252 a-ehobiru wa
アエホビル ワ
我は・そこに 置き去りにし て
置き去りにして
- 1253 bashno karip
バシノ カリブ
走るよく 輪回し
よく回る投げ輪
- 1254 a-shikobayar,
アシコバヤヲ
我は・自分を 間違え させる
さながらに、
- 1255 hoyubu-an humi
ホユブ アン フミ
尻 を締める・我が その音
わたしが疾走するその音

- 1256 a-ekisarsutu
アエキサヲストウ
我は・それでもって耳元
でわたしの耳元に
- 1257 maukururu.
マウクルル
気 がかすめる
風がうずまき起こる。

- 1258 Kira-an awa,
キラアン アワ
逃げ・我が たところが
わたしが逃げだすと、
- 1259 wen chironnup
ウェン チロンヌブ
悪い 我らが 殺すもの
悪ギツネ
- 1260 toi chironnup
トイ チロンヌブ
土の墓の 狐
くされキツネめは
- 1261 i-etushmak※1
イエトウシマク
我に・先をあらそう
わたしと先を争い、
- 1262 i-erusaikari
イエルサイカリ
われを・そこに 路をたぐって巻く
わたしに先回りして
- 1263 i-kotchaoshma,
イコッチャオシマ
我の・前に突っ込む
わたしの行き先に突進し、
- 1264 orhetobo
オロヘトボ
全く 頭を回す
すぐ折りかえし
- 1265 i-kohoshihi
イコホシビ
我を・そこへ 戻す
わたしを押し戻し、
- 1266 nitne bause
ニツネ バウセ バウセ
凶暴な パウと言う+(重複)
凶暴なパウパウという
- 1267 bause nitkan-
バウセ ニツカン
鳴き声 枝上
長く伸ばしたうなり声の末尾
- 1268 kayekaye※2
カイエ カイエ
折りに折り
を高く低くあげ、
- 1269 i-erikikuru-
イエリキクル
我を・そこから 上の方へ+(助辞)
わたしを上目使いに
- 1270 nukar nukar,
ヌカラ ヌカラ
眺める 見る
見上げ見上げ、
- 1271 i-koniteiteye
イコニテイテイエ
我・に向かって いい顔いい顔(?)
ニヤニヤしながら(?)
- 1272 i-konimakmaka.
イコニマク マカ
我・に向かって 歯を開ける
歯をむきだして笑いました(?)。
- 1273 Neikorachi※3
ネイコラチ
その所と同様に
と同時に

※1 etushmak「先をあらそう、競う」(金Ⅱ-201)「e-tusmak【他動詞】<〜と・競争する>〜より先回りする」(田138)

※2 pause nitkan「唸りの上聲(研837)、うなりごえの末(金Ⅳ-168)」「bause nitkan/kayekaye《萱野茂訳》「高い声で/低い声で/声を出しつつ(この 強い 狐の声/狐が 啼く 上 折る・折る>)(教26-108)、高く/低く/吠えまくって(教26-109)」

※3 原綴 niikorachi

- 1274 seennekasui
セエンネカスイ
まさかまた～しない
まさかまたそのように
- 1275 yainu-an kuni
ヤイヌ アン クニ
考える・我は はずとは
わたしが考えようとは
- 1276 a-ramu rok i,
アラム ロキ(←ロク イ)
我は・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 1277 a-konramkonna-
アコンラム(←ア コロ ラム) コンナ
我が・持つ 心 内+(調律)
ふっとわたしの心が
- 1278 koshkosamba.
コシ コサムバ
軽くなる 急に～する(koshkosanu複)
軽くなりました。
- 1279 Pirika mina
ピリカ ミナ
よい 笑み
ニコニコ笑いながら
- 1280 a-kotekutomkur-
アコテウトムクル
我は・～に対し 手 互い 中+(助辞)
わたしは手を
- 1281 eshitaiki koro
エシタイキ コロ
そこに打ち ながら
うち叩きながら、
- 1282 nea chironnup
ネア チロンヌブ
例の キツネ
そのキツネに
- 1283 a-henkotba kane,
アヘンコツバ カネ
我に 顔 結びつける 状態だ
うなづき、
- 1284 orhetobo
オロヘトボ
全く 頭を回す
すぐさま
- 1285 ekim un
エキム ウン
頭山にある
山奥の
- 1286 nitai tum un
ニタイ トウム ウン
林 中 へ
森の中へ
- 1287 terke-an
テレケアン
跳ぶ・我が
わたしは跳んで
- 1288 bash-an chiki,
バン アン チキ
走る・我は なら
駆けこんだら、
- 1289 taban chironnup
タバ ン チロンヌブ
この 狐
このキツネは
- 1290 nubetne kasui shiri
ヌベツネ カスイ シリ
喜ぶ 過ぎる その様
喜びすぎたの
- 1291 ne nankor'a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
かしら？
- 1292 Ubakitara
ウバキタラ(←ウ パク イタラ)
互い 程度の 状態が続く
あいかわらず
- 1293 kisat teyeteve※1
キサツ(←キサラ) テイエテイエ
耳 押し潰す(?)+(重複)
耳を寝かせ寝かせ(?)
- 1294 nimakmaka
p.28 ニマク マカ
歯 を開ける
歯をむきだして笑い(?)
- 1295 niteiteye kane
ニテイテイエ カネ
いい顔いい顔(?) 状態で
ニヤニヤしながら(?)
- 1296 i-samebash. ※2
イサム エバン
我の・そばで 走る
わたしと並んで走りました。
- 1297 Makan ne ko
マカン ネ コ
どうか なる と
時には
- 1298 i-ekobash
イエコバン
我に それ に対して 走る
へいそう
併走(?)
- 1299 ash ash kane
アシ アシ カネ
立ちに立つ 状態で
しながら(?)
- 1300 ta rui bause
タルイ バウセ
この 強い パウと言う狐の鳴き声
強いパウという鳴き声
- 1301 haukke bause
ハウケ バウセ
弱い パウと言う狐の鳴き声
よわいパウという鳴き声を
- 1302 rikna kekke
リクナ ケッケ
高い所の方 を折る
こぶし
高い小節
- 1303 rana kekke kane
ラナ ケッケ カネ
低い所の方 を折る 状態で
低い小節のようにうならせながら
- 1304 koshne terke,
コシネ テレケ
軽く 跳び
軽々と跳び上がり、
- 1305 kobanikkewe
コバン イッケウエ
そこへ向かって 下方の 脊柱
腰骨を
- 1306 matunitara,
マトウ ニタラ
挙げる ～し続ける
ぐっと高くもちあげ、
- 1307 mina tura
ミナ トウラ
笑う を伴う
笑いながら
- 1308 sama-a-ebash
サマア エバシ
そのそば 我らは・で 走る
わたしと並んで走り、
- 1309 uweterke※3-an.
ウエテレケ アン
互い と一緒に 跳ぶ・我らは
跳び比べ(徒競走?)しました。
- 1310 Hontomo ta sui
ホントモ タ スイ
その半ば に また
そのとたんにまた
- 1311 a-kurkakonna
アクルカ コンナ
我が・体+(調律)
もうろう
わたしの朦朧とした意識が
- 1312 charkosanu
チャラ コサヌ
まき散らす 急に～する
パツとはじけ散り、
- 1313 yaishikarun-an.
ヤイシカルン アン
自身に われと気がつく・我は
わたしは正気にかえりました。
- 1314 "Ayabo! Oyoyo!" ari
アヤポ オヨヨ アリ
あ痛 おいおい と
「キヤー！いやあ！」と
- 1315 ari itak-an kane
イタカン(←イタク アン) カネ
言う・我が 状態で
わたしは叫んで
- 1316 chep shikiru
チェブ シキル
魚 自分 を回す
魚がつと向きを変える
- 1317 a-shikobayar
アシコバヤラ
我は・自分を 間違え させる
さながらに
- 1318 ebisunwa※4
エビスンワ(←エ ビン ウンワ)
頭が 浜の方 へ
浜手の方に
- 1319 kira-an.
キラ アン
逃げる・我が
わたしは逃げだしました。
- 1320 "I-resu yubi ohai!"
イレス ユビ オハイ
我を・育てる その兄 よー
「育ての兄さまよ～！」と
- 1321 a-raikotenke,
アライコテンケ
我は・烈しく 共に 呼ぶ
わたしは絶叫し、

※1 teye「壓す」(研W522)「押し潰す。複数形 teypa」(語法)

※2 ebash「【他動詞】e-pas<で・走る>[雅語](そこ)を走る。Sam(a) epas～と並んで走る」(田107)

※3 uweterke「相奔っている(金V-209)、ene uweterke wa こうさそわれて(金III-257)」

※4 参考:「e-bis-un<頭が・浜の方・に向かっている>①【完動詞】浜の方へ行く(来る)②【副詞】浜の方へ」(地26)「【連体詞】<その頭・浜・にある>浜へ向かって行く～、浜への」(田110)

3-6 狐と踊る

- 1322 a-chishhau konna※1
ア チシ ハウ コンナ
我が・泣く 声+(調律)
わたしの泣く声が
- 1323 tununitara kane.
トウヌニタラ(←トウトウン イタラ) カネ
澄んだ高い音 鳴り続く 状態だ
高く響きわたっています。
- 1324 Hoyubu-an ko,
ホ ユブ アン コ
尻を締める・我が と
わたしが走り出すと、
- 1325 sui i-oshi
スイ イ オシ
再び 我の・後ろに
またわたしの後ろに
- 1326 wen chironnup
ウエン チ ロンヌ プ
悪い 我ら 殺すもの
悪ギツネは
- 1327 bausebause kor
バウセ バウセ コロ
パウと言う+(重複) ながら
パウパウと鳴きながら
- 1328 i-toikonoshba,
イトイコノシバ
我を・ひどく 追う
わたしを猛然と追いかけて来て、
- 1329 a-mi kosonte
ア ミ コソント
我が・着る 小袖
わたしの着物の
- 1330 chinkihi ekuba wa
チンキヒ エクバ ワ
の裾 そこを 噛んで
裾をくわえて
- 1331 ehoturituri.
エ ホトウリトウリ
そこで 尻を伸ばす+(重複)
引っぱりました。
- 1332 Neikorachi sui
ネイ コラチ スイ
その所と同様に 再び
それと同時にまた
- 1333 a-konramkonna-
アコンラム(←ア コロ ラム) コンナ
我が・持つ 心 内+(調律)
わたしの心がさつと
- 1334 koshkosamba,
コシ コサムバ
軽くなる 急に~する(koshkosanu複)
軽くなり、
- 1335 mina tura
ミナ トウラ
笑う を伴う
笑いながら
- 1336 uweterke-an.
ウウエ テレケ アン
互いに跳ぶ・我らは
跳び比べ(?)し合いました。
- 1337 Tu noiwan sui
トウ ノイワン スイ
二の よく六 回
何十回も
- 1338 re noiwan sui
レ ノイワン スイ
三つの 十分な六 回
何百回も
- 1339 nei ikichi
ネイ(←ネ) イ キチ
それ 物事 をする(ki複)
そのように跳ね上がる
- 1340 a-ukotushtek,
ア ウコトウシテク
我らは・互いに 競う
競争をしているうちに、
- 1341 a-konramkonna
アコンラム(←ア コロ ラム) コンナ
我が・持つ 心+(調律)
わたしの意識は
- 1342 turushitara,
p.29 トウルシタラ(←トウル ウシ イタラ)
垢がつく~し続ける
朦朧としてきて、
- 1343 koshitnatara.
コ シツ ナタラ
共に 糸のもつれた塊 になり続ける
わけがわからなくなっていました。
- 1344 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 1345 nekona shino
ネコナ シノ
どう 本当に
何をどう本当に
- 1346 iki-an koro
イキ アン コロ
物事をし・我が ながら
わたしがして
- 1347 an-an humi
アナン(←アン アン) フミ
いる・我は 感じ
いたの
- 1348 ne nankor' a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
のでしょうか。
- 1349 Takar korachi
タカラ コラチ
夢 のように
夢のように
- 1350 tarap※2 korachi
タラプ コラチ
夢 のように
夢まぼろしのよう
- 1351 a-uweomante※3 kane.
ア ウウエ オマン テ カネ
我は・互いを~へ 行かせる 状態だ
思いながら気が遠くなっていました。
- 1352 Ari an ko
アリ アン コ
と ある と
とあって
- 1353 oyak ta terke.
オヤク タ テレケ
よそ に 跳ぶ
語り手が変わる。

※1 原綴 konno

※2 「【動詞】夢見る。【名詞】夢」(語法)「夢」(萱297)「【一項動詞】~が夢見する」(切398)

※3 uweomante「u-e-oman-te<互が・へ・行か・しめる=行く>気が遠くになってしまう」(金 I-136)、a-uweomante「<我・心にそれとうつゝでわかつてゐる、わかる、判別する、識別する、判じる>われと心にわかりてゐながら」(研W466)

第4章 姉に育てられる

4-1 メナシサムの厚司と兜

- 1354 I-resu sapo
イレス サポ
我を・育てる その姉
わが育ての姉上は
- 1355 shisak chiresu
シサク チレス
真にない こと育てる
ほかにはないような育て方
- 1356 kamui chiresu
カムイ チレス
神の こと育てる
りっぱな養育
- 1357 i-yekarkar wa
イェカラカラ(←イ エカラカラ) ワ
我に・~を施し て
をして下さって、
- 1358 ramma kane
ラムマ カネ
いつもの 状態で
いつも平穩に
- 1359 katkoro kane
カッコロ カネ
常態を持つ 状態で
変わりなく
- 1360 okai-an aine,
オカイ アン アイネ(←ア ヒケ)
い・我らは たして
暮らしていて、
- 1361 tane ponno
タネ ポンノ
今は 少し
今われが少し
- 1362 boro-an wa
ボロ アン ワ
大きくなっ・我は た
大きくなって
- 1363 inkar-an ko
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
眺めると、
- 1364 ineapkusu
イネ アックス
どうしたものゆえに
なんとまあ
- 1365 a-un chise
アウン チセ
我が・~にいる その家
わが家
- 1366 upsoroho
ウソロホ
その懐
の中は
- 1367 pirika wa
ピリカ ワ
美しくて
美しかった
- 1368 shiran nankor'a.
シラン(←シリアン) ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
様子ある だろう か
だろうか。
- 1369 Kamui korobe
カムイ コロベ
神の 持ちもの
神々しい家宝が

- 1370 chise shikno
チセ シクノ
家 いっぱいに
家いっぱいに
- 1371 a-etomte,
アエトムテ
人々がそれでもって光らせる
美しく飾りつけられ、
- 1372 lkit tukari※1
イクツ(←イキリ) トウカリ
列 近く
宝壇のすぐ近くの
- 1373 chituye amset
チトウイェ アムセツ
られた切りと 高床
一段高くつくられた台座
- 1374 amset kurka
アムセツ クルカ
広やかな 台 の上面
その台座の上
- 1375 a-i-y-eresu.
アイエレス(←ア イエレス)
誰かが・我を・そこで 育てる
でわれは育てられた。
- 1376 Taban imoma
タバ(←タッアン) イモマ
この 宝列
奥いっばいに飾られた宝壇
- 1377 boro ikiri
ボロ イキリ
大きな その列
うずたかく重なっているその列が
- 1378 chise kankotor※2
チセ カンコト
家 上の面、側面
家の内壁側面に
- 1379 chieushi kane.
チエウシ カネ
自身の 頭をつけ 状態である
頭の高さでずらり連なっている。
- 1380 Imoma ka ta
イモマ カタ
宝壇 上に
宝列のうちで
- 1381 iyotta
イヨッタ(←イ オタ)
物の所で
いちばん
- 1382 a-ekiroroan
アエキロロアン
我が・それを 面白いと思う
われが心おどらせ
- 1383 a-eramasu kunip
アエラマス クニッ
我が・好きだと思ふ はずのもの
気に入ったのは
- 1384 a-eshibopke kunip
アエシボッケ クニッ
我が・それで 自身暖くなる はずのもの
わが衣装
- 1385 nei kotomno
ネイ(←ネ) コトムノ
である ごとく+(副詞語尾)
であるらしい

- 1386 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 1387 un attush
ウン アットウシ
にある 厚司
の厚司
- 1388 kani attush
カニ アットウシ
金の 厚司
豪華な厚司—
- 1389 kotbar ka ta
コツバラ カタ
胸元 上に
えりや
- 1390 chinki ka ta
チンキ カタ
裾 上に
すそに
- 1391 sep birankani
セブ ビラン カニ
幅広い 平金
はばひろの平金が
- 1392 chiekarbarep,
チエカラバレブ
自身をそこへ 回らせるもの
ぐるっとまわりにさがったもの—で
- 1393 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上面一帯に
- 1394 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュッキ
二つの 神 陽光線
たくさんの霊なる光
- 1395 re kamui chupki
レ カムイ チュッキ
三つの 神 陽光線
いくつもの神彩が
- 1396 eshimaka. ※3
p30 エシマカ
そこで 自身を開く
ひらめいている。
- 1397 Neino sui
ネイノ(←ネノ) スイ
そのように また
同じようにまた
- 1398 Menashsam un
メナシサムン(←メナシサム ウン)
東方 そば にある
メナシサムの
- 1399 konchi newa※4
コンチ ネワ
帽子 とも
兜とともに
- 1400 kamuiranketam
カムイランケタム
神が降ろした 刀
神からさずかつた太刀が
- 1401 shirika tanne
シリカ タンネ
刀の鞘 長い
鞘長に

※1 原綴 ikitukari

※2 「家の中なげしの間…へやの中、長押があるのではないが、座席のすぐ上ではなしに、頭の高さの四壁の間をいふ」(研W488)

※3 原綴 eshma

※4 newa「①とも tun newa oman 二人とも行った。②と urki newa tayki 蚤と虱」(語法)

4-1 メナシサムの厚司と兜

- 1402 teshpa kane,
テシバ カネ
反る 状態で
そりを打っていて、
- 1403 tururun kuwa
トゥルルン(←トゥルル ウン) クワ
(不詳) トゥルル の(?) 杖
トゥルルの杖(?)
- 1404 kani kuwa tura
カニ クワ トウラ
金の 杖 と一緒に
こがねのつえと
- 1405 ukotamke wa
ウコタムケ ワ
相 共に 一緒にして
一緒にまとめて
- 1406 a-are kane,
アアレ カネ
人が・~を座らせる 状態で
置かれていて、
- 1407 kunne hene
クンネ ヘネ
夜 でも
夜も
- 1408 tokap hene
トカッ ヘネ
昼 でも
昼も
- 1409 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 の光り
霊光が
- 1410 chise upsoroho
チセ ウソロホ
家 その懐
家の中いっぱい
- 1411 eemaknatara kane.
エエ マクナタラ カネ
そこが それでもって 輝く 状態だ
に照りかがやいている。
- 1412 Anramasu
アンラマス(←アッ ラマス)
全く 好感が持てる
まったく面白く
- 1413 a-uwesuye.
ア ウウエ スイェ
我は・互いに 気持ちを揺らす
気持ちがいい。
- 1414 Hetaktaunsui
ヘタク タウン スイ
そら! +(感嘆)+(強め辞) また
ああ早く
- 1415 okkayo bakno
オクカヨ バクノ
成人男子 ほどに
一人前の男に
- 1416 shikup-an yakne,
シクブ アン ヤクネ
成長する・我が するとである
なって、
- 1417 a-eshibopkep
アエシ ポッケッ
我が・それで 自身を 暖くするもの
わが衣装を

- 1418 a-mi wa
アミ ワ
我は・~を着て
着て
- 1419 inkar-an okai!
インカラン(←インカラ アン) オカイ
眺める・我が なあ
みたいなあ!
- 1420 ari yainu-an,
アリ ヤイヌ アン
と 考える・我は
と考え、
- 1421 a-eyaisembir-
アエ ヤイ セムビリ
我は・それを 自身の 陰
われは心の中でひそかに
- 1422 omina kane.
オミナ カネ
そこで 笑う 状態である
期待の笑みをうかべていた。
- 1423 Kani so kurka
カニ ソ クルカ
黄金の 床 の上
美しい床は
- 1424 koteshnatara,
コテシナタラ
に対して 反らし続けている
広やかにずらっと見渡せて、
- 1425 kani inumbe
カニ イヌムベ
黄金の 炉ぶち
こがね色の炉ぶちが
- 1426 baye ruwe※2 konna
バイエ ルウエ コンナ
行く その様 (調律)
長々と
- 1427 rubaetomne※3.
ルバエトムネ
道口 見当をつける
出口をめざしている。
- 1428 An-ewak ushike
アネワッ(←アン エワッ) ウシケ
我が・住まう 場所
わが館
- 1429 upsoroho
ウソロホ
その懐
の中の
- 1430 huihuinawano
フイフイ ナワノ
どこどこの方から
隅々まで
- 1431 a-tomte ruwe
アトム テ ルウエ
人が・光らせる その様
飾られている様子
- 1432 pirika ruwe
ピリカ ルウエ
いい その事実
美しいその様に
- 1433 keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある と
毎日毎日を

- 1434 a-eyaikiror-
アエ ヤイ キロロ-
我は・それで 自身を 喜ば
われは楽しく
- 1435 ante kane.
アンテ カネ
せる 状態である
暮らしていた。

※2 原綴 bayerwe

※3 baye-ruwe konna/rubayetomne「<行く・様 こそ/道・口 見當に>長くのびて行くさまに/出口をめざし(脚注:この二句は、家の中を形容する時、爐縁につきていふ常套語(研629)、向こうへ延びゆくさま/こんじきの色をして、)(金Ⅱ-65)、行くさま/ルバエ(不明)の光をなして(金Ⅲ-102)」「萱野茂訳」「長々と/淡い光を放っている(教Ⅰ-85)、行く様子/ぎらりと光り(教Ⅱ-2)、行くようすは/青白く輝き(教24-139)、アワビの貝殻の/内側の光り(教26-9)」

4-2 姉との暮らし

- 1436 Piriak-an kotomne
ピリカ アン コトム ネ
立派な・我は のよう である
われは身分が高いようで、
- 1437 okutchi urar
オ クッチ ウララ
そこ 暗くなる もや
薄くかげるもや
- 1438 urar tumu
ウララ トウム
かすみ の中
そのもやに
- 1439 a-yayomare.
アヤヨマレ(←ア ヤイ オマレ)
我は・自身 を入れる
つまれていた。
- 1440 Keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある と
毎日毎日
- 1441 usa nikeure-an,
ウサ ニケウレ アン
~や 木 を削る・我は
われは木を削るだの
- 1442 usa ponku
p.31 ウサ ポンク
~や 小さい 弓
おもちゃの弓や
- 1443 usa ponai
ウサ ポン アイ
~や 小さい 矢
おもちゃの矢
- 1444 a-kar wa
ア カラ ワ
我は・~を造っ て
を作るだのして
- 1445 a-eyai-
ア エ ヤイ
それで 自身
ひとり遊び
- 1446 neusarka※1 kane.
ネウサカ カネ
楽しむ+(他動化語尾) 状態だ
して過ごしていた。
- 1447 Pon a-kor sapo hene
ポン アコ サポ ヘネ
小 我・が持つ 姉 ても
姉上も
- 1448 ineapkusu
イネ アックス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ
- 1449 shiretokkor wa
シレトッコ(←シリ エトッコ) ワ
様子 の先端 を持っ て
器量がよくて
- 1450 okai nankor'a !?
オカイ ナンコラ(←ナンコ ヤ)
ある だろう か
いらしただろうか。
- 1451 Urar kusu
ウララ クス
もや のため
もやにつつまれた
- 1452 imeru kusu,
イメル クス
物の 燦めき のため
後光のきらめきのせいで、
- 1453 pirikano
ピリカノ
よく
じっくりと
- 1454 a-nukar boka
アヌカラ ボカ
我は・~を見る さえも
見ることも
- 1455 ewen kane.
エウエン カネ
しがたい 状態だ
できないほどだ。
- 1456 Keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある と
毎日毎日
- 1457 kunnewano
クンネ ワノ(←クンネ イワノ)
暗い時 から
姉上は早朝から
- 1458 hobuni,
ホブニ
尻 を持ち上げる
起き出し、
- 1459 burairapte
ブライ ラプテ
窓簾 を下げる(←ranke複)
窓のすだれを巻き上げて窓を開け
- 1460 orowano
オロワノ
それから
てから
- 1461 shitchashnure.
シツチャシヌレ(←シリ チャシヌレ)
辺り をさっぱりさせる
掃除をした。
- 1462 Okere ko,
オケレ コ
~を終えら と
掃除が終わると、
- 1463 otu betchirbe※2
オトウ ベッチリベ
数多重なる 二つの 滴り 落ちる 水
水をくんで
- 1464 ore betchirbe
オレ ベッチリベ
数多重なる 三つの 滴り 落ちる 水
ザアと
- 1465 yaikarbare.
ヤイカラバレ
自身に させる
指先を洗い清めた。
- 1466 Yaikatkar aine
ヤイカツカラ アイネ(←アヒケ)
自身を 形 作る たして
身じたくして
- 1467 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神のお姿のように
- 1468 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
美しい その事実
きちんと
- 1469 okai kane,
オカイ カネ
ある 状態で
ととのえてから、
- 1470 pirika shuke
ピリカ シュケ(←スケ)
よい 炊事
心をこめた煮炊き
- 1471 koyairikta-
コヤイリクタ
に対して 自身を 高所に
にかいがいしく
- 1472 ante kane,
アンテ カネ
置く 状態で
立ち働き、
- 1473 rai sonabi
ライ ソナビ
特大の 高盛椀
椀に高く盛り上げた飯を
- 1474 shikankitai
シカンキタイ
自分の 頭の頂
自分の頭のとっぺんまで
- 1475 eimekani,
エイメクアニ
そこに 分配の食物 を持つ
持ち上げ、
- 1476 oribak tura
オリバク トウラ
慎み と共に
うやうやしく
- 1477 i-koibuni ranke.
イコイブニ ランケ
我に・対し 物を持ち上げる 何度もする
いつもわれに捧げてくれた。
- 1478 Usa ashkaibe
ウサ アシカイベ
色々 できる 者
姉上はなんでも上手にできるお方
- 1479 ne kusu,
ネ クス
だ から
なので、
- 1480 keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある と
毎日毎日
- 1481 karkar kunip
カカカクニ
作る+(他動詞化語尾) べきもの
針仕事に
- 1482 attomsama
アットムサマ(←アラム サマ)
全くその真ん中に
ひたすら
- 1483 yayomare,
ヤヨマレ(←ヤイ オマレ)
自身 を入れる
没頭し、

※1「e-neusar は、<(談話など)をたのしむ、をたのしみとする>ここは男子のたしなみの彫刻を…われみずから事とし」(金Ⅱ-351)「【他動詞】<(人)と一緒に・話をして楽しむ>~と一緒に話をして楽しむ」(田99)「【他動詞】<(人)と一緒に・話をして楽しむ>~と一緒に話をして楽しむ」(田99)

※2「《知里ナミ》つつしんで炊事する意をいつもこういうのは貴人のために顔を洗って炊事にかゝるといふのだと」(金Ⅲ-140)

- 1484 karkar kunip
カ_ラカ_ラ クニ_ツ
作る+(他動詞化語尾) べきもの
その刺繍は
- 1485 tu kamui nish ne
トゥ カムイ ニシ_シ ネ
二つの 神 雲 をなす
いくつもの神々しい雲
- 1486 re kamui nish ne
レ カムイ ニシ_シ ネ
三つの 神 雲 になる
たくさんの神々しい雲となって
- 1487 yayebumba.
ヤイエブ_ムバ(←ヤイエブンバ)
自身で頭をあげる(puni複)
立ち昇る。
- 1488 Kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その表面を
- 1489 a-uwambare
アウワ_ムバレ
我は・~を観察する
われはじっくりながめては
- 1490 a-erayap kane
アエラヤ_ツ カネ
我は・~を感じする 状態で
つくづく感心しながら
- 1491 okai-an.
p.32 オカイアン
いる・我は
暮らしていた。
- 1492 Tane ne kusu
タネ ネ クス
今である 故
今はもう
- 1493 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
われも
- 1494 okkai shirika
オ_クカイ シリカ
男 の姿
一人前の男子のすがたに
- 1495 a-uwoshmare,
アウウオシマレ(←アウオシマレ)
人が・互いに入らせる
すっかり成り、
- 1496 ikorka nuye
イコ_ロカ ヌイエ
宝刀の上 に彫刻する
刀の鞘や
- 1497 tomika nuye
トミカ ヌイエ
富の上 に彫刻する
宝器表の彫り物
- 1498 a-kokipshiriechui.
アコキ_ツシレチウ(←アコキ_ツシリエチウ)
に向かってひたい大地へ~を刺す
に熱中した。
- 1499 Tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神の 像
たくさんの美しい形
- 1500 re kamui noka
レ カムイ ノカ
三つの 神の 絵
いくつもの模様を

- 1501 a-uwatore,
アウワトレ(←アウアツオレ)
我は・互いに紐入らせる
われは連ならせ、
- 1502 ineapkusu
イネア_ツクス
どうしたものゆえに
なんとまあ
- 1503 ashkai-an wa
ア_シカイアン ワ
上手であつ・我はて
われはうまくなった
- 1504 shiran nankor' a.
シラン ナンコ_ラ(←ナンコ_ロヤ)
その様にある だろうか
ことか。
- 1505 Yaikota
ヤイコタ
自分で
自分で
- 1506 a-tekekar kunip
アテケカ_ラ(←アテケエカ_ラ) クニ_ツ
我が手で~を作る はずの物
造つたもの
- 1507 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であつたのであつても
であつたにしても
- 1508 shino a-erayap
シノ アエラヤ_ツ
本当に 我は・~を感じする
われながら感心し
- 1509 a-eramasu kane,
アエラマス カネ
我が・好きだと思ふ 状態で
気に入りながら、
- 1510 ramma kane
ラムマ カネ
いつもの 状態で
いつもいつも
- 1511 katkoro kane
カツコロ カネ
常態を持って
変わり無く
- 1512 okai-an awa...
オカイアン アワ
い・我は たところが
暮らしていたが…。

4-3 夢見

- 1513 Shineanto ta
シネアント タ
一つある日に
とある日のこと、
- 1514 tu onumanibe
トゥ オヌマンイベ
二つの 夕食
たくさんの夕食※1
- 1515 re onumanibe
レ オヌマンイベ
三つの 夕食
いっぱい夕食の
- 1516 ibe ruwoka
イベ ルウオカ(←ルオカ)
食事 跡の後
食事のあとを
- 1517 chiobashbare,
チオバ_シバレ
自身をそこに走らせる
手早く片づけ、
- 1518 mokor-an
モコ_ロアン
静けさを持つ・我らは
われらは寝ようとして
- 1519 hotke-an.
ホツケアン
寝る・我らは
横になった。
- 1520 Pon a-kor sapo
ポン アコ_ロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 1521 hotke i moire
ホツケ イモイレ
寝る こと遅く
横になるやいなや、
- 1522 pirika mokor
ピリカ モコ_ロ
よき 眠り
ぐっすり
- 1523 annoyekar
アンノイエカ_ラ(←アラノイエカ_ラ)
全くからみつ+(他動詞語尾)
正体もなく眠り込んで
- 1524 ki kotomne,
キコト_ムネ
する のである
しまったらしく、
- 1525 mokorhesere hawe
モコ_ロヘセレ ハウエ
眠る息をさせる その声
姉上の深い寝息を
- 1526 a-nu koro an-an.
アヌコロ アナン(←アンアン)
我は・聞きながら いる・我は
われは聞きながら横になっていた。
- 1527 Aokai anakne
アオカイ アナ_クネ(←アンヤ_クネ)
我 ある ~するならば
われ自身は
- 1528 orhemkusu※2
オ_ロヘ_ムクス
全く何の故か
いったいどうして
- 1529 yainu-an nankor' a,
ヤイヌアン ナンコ_ラ(←ナンコ_ロヤ)
考える・我は のだろうか
そう思うのか、

※1 既訳:「二つの夕食/三つの夕食/食事のあとを/はやく片づけて/座台の上/にわれが寝た。」(金Ⅲ-272)

※2 原綴 horhem kusu

- 1530 oar ponno boka
オア^ラ ポンノ ボカ
全く 少し さえも
ぜんぜん少しも
- 1531 mokorkishkish※1
モコロ キンキン
眠り細片
トトロロした眠気
- 1532 ka a-sak,
カ ア サク
も 我は・～を欠く
すら訪れず、
- 1533 taani unwa※2
タアニ(←タアン イ) ウンワ
その所 に行つて
こちへごろり
- 1534 tooni unwa※3
トオニ(←トオン イ) ウンワ
あその所 へ
あちへごろり
- 1535 anebittano
アネビッタノ(←アン エピッタ ノ)
夜 全部+(副詞語尾)
一晚じゅう
- 1536 shikirmamba-an.
シキルマムバアン
自ら 寝返りする(sikirmama複)・我は
何度も寝返りを打っていた。
- 1537 Aine aine,
p.33 アイネ アイネ
そして そして
そうやってやっています、
- 1538 tane anakne
タネ アナ^クネ(←アン ヤ^クネ)
今 ある ~すれば
とうとう
- 1539 nisat ek kuni
ニサツ エク クニ
夜明け前の空の白み 来る ように
夜が明けそうだと
- 1540 a-ramu raboki ta,
アラム ラボキ タ
我が・思っている間 に
思っているうちに、
- 1541 seennekasui
セエンネカスイ
まさかまた～しない
まさかまた
- 1542 mokor-an kuni
モコロ アン クニ
眠る・我は はずと
眠るとは
- 1543 a-ramu rok awa,
アラム ロク アワ
我は・思つた ところが
思わなかったのに、
- 1544 annisapno
アンニサ^ラノ(←ア^ラ ニサ^ラノ)
全く 不意に
ふいに
- 1545 pirika mokor
ピリカ モコロ
よい 眠り
ぐっすり

- 1546 torse mokor
ト^ラセ モコロ
いびきをかき 眠り
いびきをかきながら
- 1547 i-annoyekar.
イアンノイエカラ(←イ ア^ラ ノイエ カ^ラ)
我に・全く からみつ+(他動詞語尾)
正体もなく眠り込んでしまった。
- 1548 Senne bentor
センネ ベント^ラ
決して～しない (不詳)
(不詳)
- 1549 senne bantor
センネ バント^ラ
決して～しない (不詳)
(不詳)
- 1550 a-ikurure.※4
ア イクルレ
人が、誰かが かすめて来 させる
何かが目をかすめた(?)。
- 1551 A-einkarshiki
ア エ インカラ シキ
我が・それで 物を見る その目
われは眼
- 1552 chinomaka,
チノマカ
自身が 充分に ~を開ける
をこらし、
- 1553 rorunburai
ロルンブライ(←ロ^ラ ウン ブライ)
横座 にある 窓
上座の窓の
- 1554 sepkautur
セプカ ウトウル
編み目 間
すだれの隙間を
- 1555 a-shikbosore,
ア シク ボソレ
我は・目 通させる
とおして、
- 1556 chiashi nusa※5
チアシ ヌサ
自身を立てる 祭壇
戸外に立てられている
- 1557 nusa tapkashi
ヌサ タ^ラカシ
祭壇 の上
ぬさ壇の上
- 1558 a-shikkotesu.
ア シク コテス
我は・目 そこに すべらせる
をさつと見た。
- 1559 Nusaba wano
ヌサ バ^ラワノ
ぬさ 頭 から
祭壇の東のはずれから
- 1560 urar ruika
ウラ^ラ ルイカ
かすみ 道を越えて近道する
かすみの橋が
- 1561 chishiturire.
チ シトゥリ レ
自身が 自分を伸ば させる
延びていた。

- 1562 Urar ruika
ウラ^ラ ルイカ
かすみ 橋
そのかすみの橋
- 1563 a-shikkotesu.
ア シク コテス
我は・目 そこに すべらせる
にわれはスウーッと目をやる。
- 1564 Taban ruika
タバ^ン(←タ^ラ アン) ルイカ
今ここに ある 橋
この橋は
- 1565 a-kor betpo
ア コ^ラ ベツ ポ
我らの 川+(指小辞)
わが里川
- 1566 bet turashi
ベツ トウラシ
川 に沿ってかみてへ行く
沿いにかみてへ
- 1567 shituri ruwe
シトゥリ ルウエ
自分を伸ばす その様
のびており、
- 1568 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
橋全体が
- 1569 komaknatara.
コ マ^ラナタラ
に対して 輝く
キラキラ明るく輝いていた。
- 1570 Orowano
オロワノ
それから
そこからさらに
- 1571 a-shikturashte
ア シク トウラシ テ
我が・目をかみてに辿らせる
川上に目をかわせて行く
- 1572 aine, kimun iwor
アイネ キムン(←キム ウン) イウオ^ラ
したあげく 山 にある 狩場
うちに、山の狩り場である
- 1573 kenashso tapka
ケナシ ソ タ^ラカ
木原 平らで広がりのある所 肩 上
川端の低木林野の上
- 1574 chieomare.
チエオマレ
自身を そこに 入ら せる
で目がとまった。
- 1575 Kenashsoba wa
ケナシソバ ワ
低木林 原 頭 から
林野のかみての端から
- 1576 inenep hawe
イネネ^ラ ハウエ
どうである 者 その声
何者かの叫び声が
- 1577 kenashso utur
ケナシソ ウトウル
木原 間
林の中

※1 mokorkishkish「<眠り・微片、細片>《幌別》仮睡」(人290)

※2,3 taanun wa/toonun wa「こちらへ/そちらへ(脚注: taan-i<そこ>、toon-i<あそこ>に un<へ>のついた形で、早く言う toan-un、toon-un とひゞく)」(金Ⅱ-80)
参考: taani wa tooni wa(研668)、taanun toonun(研865)

※4 参考:「ikuru かすって来る、掠めて来る」(金Ⅵ-54)「蠢メクノタクル. v.i. To wriggle.」(B188)

※5 chiashi nusa《萱野茂記》「外の祭壇」(教ⅩⅦ-48)

※2 原綴 toani un wa

4-3 夢見

- 1578 eebeunitara
エエベニタラ(←エエベニ イタラ)
がでペブンという音 続いている
にさわがしく
- 1579 kor sap aine,
コロ サ アイネ
ながら出たそして
わき起こり、やがて
- 1580 hemanta okaibe
ヘマンタ オカイベ
何 あるもの
何者かが
- 1581 kenashsokesh ta
ケナシソケシタ
低木林 原 末端に
林野のしも端に
- 1582 esoikosamba.
エソイコサムバ
頭外に出る パツと~する(kosanu複)
パツと飛び出してきた。
- 1583 Inkar-an awa,
p.34 インカラン(←インカ アン) アワ
見・我が たところが
見れば、
- 1584 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い娘—
- 1585 tamba newa
タムバ(←タンバ) ネワ
今年 になって
この年では
- 1586 I-resu sapo
イレ ス サポ
我を・育てる その姉
育ての姉上
- 1587 oar tuimashitta
オアヲトウイマシッタ(←トウイマ シリタ)
まったく 遠い 空間で
よりはずっと
- 1588 turbokashno※1
トゥルボカシノ
垢 足りない
年下
- 1589 chishikupkap,
チシクブカブ
自身を 成長させる 者
らしくみえる者が、
- 1590 kani kosonte hene
カニ コソントヘネ
黄金の 小袖 でも
金糸銀糸の豪華な衣装だの
- 1591 kani chikirbe hene
カニ チキリベ(←チイキリベ) ヘネ
黄金の 我ら 刺繍した物 でも
金欄豪華な着物だの
- 1592 utomechuiu rok
ウトムエチウロク
互いに 中に差した
重ね着して
- 1593 okaibe ne ka,
オカイベネカ
いる物 であるも
いた着物も、

- 1594 nekon ne ruwe
ネコンネ ルウェ
どう である その事実
どうしたの
- 1595 ne nankor' a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
であろうか。
- 1596 Bishkanike
ビシカニケ(←ビシカン イケ)
周囲の所
身のまわりに
- 1597 otu sashbechi
オトゥ サシベチ
幾つもの 昆布 ~の切れ端
昆布の切れ端のさがるように
- 1598 ore sashbechi,
オレ サシベチ
幾つもの 昆布 ~の裂け端
ズタズタに裂かれ、
- 1599 tu tubep sai ne
トゥ トゥベプサイネ
二つの ひも 巻き束 のように
たくさんの縄束をさげたように
- 1600 re tubep sai ne
レ トゥベプサイネ
三つの ひも 巻き束 のように
いくつもの投げ縄をさげたように
- 1601 bishkanike
ビシカニケ(←ビシカン イケ)
周囲の所
身体のまわり
- 1602 chieshisuiba,
チエシスイバ
自身そこに自分を 何度も揺する
にブラブラぶら下がっており、
- 1603 sarambe kuchi
サラムベクチ
絹の帯
絹の帯は
- 1604 chioattuiba,
チオアツトウイバ(←チオアヲトウイバ)
られる 全く 斬る(tuye 複)
さんざん斬られ、
- 1605 eobarakur-
エオバラクル
その端 広く開き+(助辞)
着物の裾前が
- 1606 hamne※2 kane.
ハムネ カネ
木の葉になる 状態だ
ヒラヒラはだかっている。
- 1607 Shinki ruibap
シンキルイバブ
疲労 が激しい+(複数形語尾)もの
非常に疲れているもの
- 1608 konep ne kusu
コネッ ネ クス
(調律)であるもの である 故に
だから、
- 1609 chikappo tashmak
チカブポ タシマク
小鳥の 息をする
小鳥のあえぎ

- 1610 chikappo hese
チカブポヘセ
小鳥の 息
小鳥の吐息
- 1611 shikobayar.
シコバヤラ
自分を間違えさせる
そっくりにかぼそい虫の息。
- 1612 Rayiboroma
ラユイボロマ(←ライイボロマ)
死 顔色 入る
今にも死にそうな
- 1613 iboro anakne
イボロ アナクネ
その顔色 は
顔色は
- 1614 kunne toitoi ne,
クンネ トイトイネ
黒い 土+(重複) になる
つちけいろ
土気色になっており、
- 1615 seshke kuni
セシケクニ
ふさぐ べき
隠すべき所
- 1616 koetukukke kane.
コエトウクケカネ
ともに 頭 突き出す 状態だ
も露わになっていている。
- 1617 Teksamake
テクサマケ
手の横の所
そのすぐそばには
- 1618 ine hemanta
イネヘマンタ
どう 何
何者かが
- 1619 chiebashte.
チエバシテ
自身を そこで 走らせる
一緒に走っていた。
- 1620 Seennenaksui
セエンネナクスイ
(否定強調) こう また
まさかまあ
- 1621 inkar-an kuni
インカラン(←インカ アン) クニ
眺める・我が はずと
そんなものを見るときは
- 1622 a-ramu rok i,
アラムロキ(←ロクイ)
我は・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 1623 boro keptontone※3
ボロケプトントネ
大きな 毛を抜いたなめし皮 である
大きな毛のぬけた(?)
- 1624 chironnup
チロンヌブ
我ら 殺すもの
キツネ—
- 1625 tumam kashike
トゥマムカシケ
胴体 その上に
胴体は

※1 「tur-pokasno<垢・とどかぬ、足らぬ、つかない>」(金V-184)

※2 参考:「operatne オペラツネ【自動詞】着物を着ているが帯も紐もしめないでだらしないかっこをしている」(田474)「オペラハムネハムネ opera-hamne-hamne ひらひらさせる: 着物を着て帯を締めずにひらひらさせている」(萱180)

※3 「kep-tonto<剥ぐ、毛を抜く・無毛の皮(老海馬のような)>(金III-58)、毛の落ちたる裸皮になりて(研836)」【自動詞】kep-tonto-ne<毛をぬいた・毛のないなめし皮・である>(獣の)からだに毛がない」(田295)

- 1626 kechaine numa
ケチャイネ ヌマ
(不詳) 毛
ケチャイのような毛が
- 1627 eechayaike※ kane.
エエチャヤイケ カネ
それがそこに出ている 状態で
突っ立っていた(?)。
- 1628 Nirushitarara
ニルシ タララ
歯茎・を上の方へ持ち上げ続けている
歯ぐきをむきだし
- 1629 niteiteye,
p.35 ニテイテイエ
いい顔する(?)
ニヤニヤして(?),
- 1630 tan rui bause
タン ルイ バウセ
この強いパウと言うキツネの鳴き声
パウパウという強い鳴き声
- 1631 bause nitkan
バウセ ニツカン
キツネのなき声 枝(?)上
その声の末尾を
- 1632 kayekaye,
カイエ カイエ
折り曲げ 折り曲げ
高く低くうならせ、
- 1633 shiktum konna
シクトウム コンナ
目色 (調律)
目の色は
- 1634 kunaibe tom ne.
クナイベ トム ネ
福寿草の花 色 になる
狂人のようなまっ黄色だ。
- 1635 Koshne terke,
コシネ テレケ
軽く 跳び
軽々と跳びはね、
- 1636 kobanikkewe
コバン イッケウエ
そこへ向かって 下方の 脊柱
腰骨を
- 1637 matunitara,
マトウ ニタラ
拳げる ~し続ける
ぐっと高くもちあげながら、
- 1638 hushkotoiwano
フシコ トイ ワノ
古く (強意) から
ずいぶん前から
- 1639 kenashsoba unwa
ケナシ ソバ ウンワ
低木林 原 頭 に行っ てから
林野のかみでの端から
- 1640 kenashsokesh unwa
ケナシ ソケシ ウンワ
低木林 原 末端 に行っ てから
林野のしも端へと
- 1641 hetobotobo
ヘトボトボ
頭を回す+(重複)
行きつ戻りつ
- 1642 uweterkep
ウウエ テレケ
互いと一緒に 跳ぶ 者
跳び比べ(?)していたの
- 1643 ne rok okai !
ネ ロク オカイ
であつ た のである
であつ た !
- 1644 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い娘は
- 1645 tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今ようやく
- 1646 yaishikarumbe
ヤイシカルムベ(←ヤイシカルン ベ)
自身に われと気がつく もの
正気にもどつたもの
- 1647 korachi,
コラチ
のように
らしく、
- 1648 chishhau konna
チシハウ コンナ
泣く 声 が
彼女の泣き声が
- 1649 tununitara.
トウヌニタラ(←トウントウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
高く響いた。
- 1650 Ebisun wa
エビスン(←エビシウン) ワ
頭が 涙の方 へ から
浜手から
- 1651 tekochiuchiwe※1
テコチウチウエ(←テク オチウチウエ)
手 を上下に動かす
手を振り
- 1652 tekobarbaru.※2
テコバラバル(←テク オ バラバル)
手 下へ あおぐ
手まねきして、
- 1653 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上で
- 1654 itakomare hawe
イタコマレ(←イタク オマレ) ハウエ
言葉 を入れる その声
言葉を差し入れるその声
- 1655 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには、
- 1656 "Koninkar kusu !
コニンカクス(←コン インカクス)
早く! 見る+(感嘆の助詞)
「もうしもし!
- 1657 Nekona shikop
ネコナ シコッ(←シク オッ)
どんな 目 が付く 者
どのような目つきの
- 1658 nekona barop
ネコナ バロッ(←バロ オッ)
どんな 口 が付く 者
どんな顔つきのお方が
- 1659 tapne lyochi
タップネ イヨチ
これ のように イヨチ
このイヨチ
- 1660 un kuru newa
ウン クル ネワ
に住む お方 であつて
ウンクルなのか、
- 1661 tapne tapne
タップネ タップネ
こう こう
こうこうしかじかと
- 1662 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 1663 i-bakashnu aine
イバカシヌ アイネ(←アヒケ)
我に・~教え諭し たして
わたくしに言い聞かせて
- 1664 i-ette ko,
イエツテ(←イエクテ) コ
我を・来 させる と
わたくしを嫁に寄こして、
- 1665 ebosokusu※3
エボソクス
それを通して 故にまあ
まことに
- 1666 a-ekatubase yakka
アエカトゥバセ ヤッカ
我は・その体 重く ても
わたくしは気が進まないけれど、
- 1667 oribak-an
オリバクアン
おそれ敬う・我は
つつしみ深く
- 1668 itaknu-an kusu,
イタクヌアン クス
言うことを聞く・我は 故に
言いつけを守って、
- 1669 lyochi un
イヨチ ウン
イヨチ へ
イヨチに
- 1670 ek-an awa,
エクアン アワ
来・我が たどころが
やって来たところ、
- 1671 tapne tapne
タップネ タップネ
こう こう
こうこうしかじかの
- 1672 shibopke kuru
シポッケ クル
自身を 暖くする お方
衣装を着たお方が
- 1673 lyochi un kuru ne'
イヨチ ウンクル ネ
イヨチに住む 人 である
『イヨチびとだ』

※1 参考:「手を振るなどには tek-oraprap, tek-ochiwechiwe …(研793) tekochiuchiwe/tekobarbaru《萱野茂訳》「何回も手招きをして/戻ってくれと言いながら」(教23-99)

※2 参考:「nusuy 手招き(する)。(日常会話ではテクバラバル(萱351)、inusuye 呼ぶ、手招きする:手のひらを上へ向けて手招きする。ヤヤンイタク=普通の言葉ではテクバラバル(萱66)」

※3「Eposo-gusu,エボソグス,誠二,成程. Verily. Just so. Just as. Indeed. Syn: Ebosu gusu」(B124)「なるほど(脚注:eposo<真実、まこと>)」(金II-174)

4-3 夢見

- 1674 ari itak koro
アリ イタ^ク コロ
と 言い ながら
と言って、
- 1675 ru hontom ta
ル ホント^ム タ
道 途中 で
道の途中で
- 1676 a-etunankar.
p.36 ア エトウナンカラ
我らが・それに出会う
わたくしたちは出会いました。
- 1677 Tapne kane
タ^ネ カネ
このような 状態で
このような
- 1678 shibopke ruwe
シ ポ^ッケ ルウエ
自身を 暖くする その事実
衣装を着て
- 1679 okaibe ne kusu,
オカイ ベ ネ クス
ある 者 である 故に
いるのだから、
- 1680 aokai anakne
アオカイ アナ^クネ(←アン ヤ^クネ)
我 ある ~するならば
わたくしは
- 1681 sonno Iyochi
ソノノ イヨチ
本当に イヨチ
まことのイヨチ
- 1682 un kuru ne
ウン クル ネ
に住む お方 である
びとだ
- 1683 kuni batek
クニ バテ^ク
はずと ばかり
とばかり
- 1684 a-ramu kusu,
アラム クス
我は・~を思う 故に
思ったので、
- 1685 ene haweokai i
エネ ハウエオカイ イ
こう 言う こと
その人がおっしゃる
- 1686 neino iki-an awa,
ネイノ イキ アン アワ
そのように それをし・我が たところ
とおりにわたしがしたら、
- 1687 oroyachiki
オロヤチキ(←オ^ロ オヤ チキ)
そこ 他の ~すれば
気づいてみれば、意外にも
- 1688 arwen kamiashi
アラ ウエン カミアシ
全く 悪い 化け物
極悪の化け物
- 1689 nitne kamui
ニツネ カムイ
こちこちに堅い 神
凶暴な魔神が
- 1690 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチウクルー

- 1691 pon a-kor yubi
ポン アコ^ロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わが夫になる人
- 1692 shinere wa,
シネレ ワ
自分であるさせ て
に化けて、
- 1693 tane anakne
タネ アナ^クネ(←アン ヤ^クネ)
今 ある ~すれば
とうとう
- 1694 shikurone-i-kar,
シクロ ネイカラ
物に憑かれた状態に 我・を作る
わたくしをボウツと何も解らなくさせ、
- 1695 rai ne yakka
ライ ネ ヤ^クカ
死 であっても
わたくしは死といっても
- 1696 semkatune
セ^ムカトウネ
(否定) 常態 である
当たり前でない死に方
- 1697 a-ki etokush.
アキ エトク^シ(←エトク^ウシ)
我は・をする ~の先につく
をしようとしています。
- 1698 Konepkeukata
コネ^ッケウカタ
(調律) 何 体上 (感動)
おおあわれ、
- 1699 konepkashita !
コネ^ッカシタ
(調律) 何 上 (感動)
ああかなしい !
- 1700 Ponram orowano
ポン ラ^ム オロワノ
小さい 心 から
幼いころから
- 1701 konep wem buri
コネ^ッ ウエ^ム(←ウエン) ブリ
(調律) 何 悪い 行い
何か悪い行いや
- 1702 konep wen keutum
コネ^ッ ウエン ケウトウ^ム
(調律) 何 悪い 精神
何か悪い精神などを
- 1703 ponno ka
ポンノ カ
少し も
少しも
- 1704 somo a-kor awa,
ソモ アコ^ロ アワ
(否定) 我が・~を持つ たところが
持ったことはなかったのに、
- 1705 hemanta tapne
ヘマンタ タ^ネ
何か これのように
何でもまあこのように
- 1706 a-ebarkoat ?
ア エ バ^ラコアツ
我は・それで ばちがあたる
わたくしにばちが当たるのか。
- 1707 A-emaokowen kusu
ア エ マウ コウエン クス
我は・~で 気 ~に 悪くある 故に
わたくしは運が悪くて、

- 1708 katkemat rakbe
カツケマツ ラ^クベ
あり方 ある 女性 末者
身分高い淑女の家系の
- 1709 shukup matkachi
シュク^ブ マツカチ(←マツ ヘカチ)
若い 女 童
としはもいかぬ少女
- 1710 a-ne awa,
アネ アワ
我・であつ たところが
であるわたくしだったのに、
- 1711 katuchiwente
カトウチ ウエン テ
その様 ~こと 悪くなら せる
侮辱される
- 1712 newa ne yakka
ネワ ネ ヤ^クカ
であった に しても
にしても
- 1713 semkatune
セ^ムカトウネ
(否定) 常態 である
ただならぬ
- 1714 a-i-y-ekarkar shiri
アイエカラ^{カラ}(←アイエカラ^{カラ}) シリ
人が・我に ~を施す その様
辱めを受けるの
- 1715 okaibe ne ya?
オカイ ベ ネ ヤ
ある こと である か
でございましょうか。
- 1716 Tap i-kar-an i
タ^ブ イカランニ(←イカラ アン イ)
このこと 我に・する・人が こと
このようにわたくしがされたことを
- 1717 i-resu yubi
p.37 イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 1718 koannotaine※ wa
コアンノタイネ ワ
共に 全く 知らない で
まったく気づかずに
- 1719 an nanikor.
アン ナンコ^ロ
いる だろう
いるでしょう。
- 1720 Tambe kusu
タ^ムベ(←タン ペ) クス
この こと 故に
それゆえ
- 1721 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチウクル、
- 1722 pon a-kor yubi !!
ポン アコ^ロ ユビ
小 我・が持つ その兄
わが夫になる人よ!!
- 1723 i-eramboken wa
イエラムボケン(←イエラム ポキウエン) ワ
我を・~で 心 その下 悪く て
わたくしをかわいそうに思って、
- 1724 tap i-kar katu
タ^ブ イカラ カトウ
今 我に・した その容子
今わたくしが化かされたことを

4-4 目が覚めたら

- 1725 PonTeseu un
ポン テセウ ウン
小 テセウ に住む
ポンテセウの
- 1726 i-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さま
- 1727 koasurbashte
コアスル バシテ
に噂 走らせる
に知らせ
- 1728 nure wa
ヌレ ワ
聞かせて
聞かせて
- 1729 i-kore kunak
イコレ クナク(←クン ヤク)
我に・与える べきであるということ
ください
- 1730 ramu yan!
ラム ヤン
思い なさい
まし!
- 1731 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今にも
- 1732 sonno rai-an
ソノ ライ アン
本当に 死ぬ・我は
本当にわたくしは死んで
- 1733 wa isam-an
ワ イサム アン
して しまう・我は
しまいそうな
- 1734 ruwe taban !!
ルウェ タバン(←タッ アン)
事実 これこのとおり ある
のでございます!!」
- 1735 ari itak
アリ イタク
と 言う
と彼女が言った
- 1736 yak a-ramu.
ヤク アラム
と 我が・~を思う
とわれは思った。
- 1737 Mina hawe
ミナ ハウエ
笑う その声
笑い声や
- 1738 itak hawe
イタク ハウエ
言う その声
物言う声が
- 1739 tununitara.
トゥヌニタラ(←トゥントウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
高く響いた。
- 1740 Bause tura
バウセ トウラ
キツネのなき声 とともに
パウパウという声といっしょに
- 1741 uwobun※1 kane,
ウウォブン カネ
(不詳) 状態である
わき起こって(?)
- 1742 toop sui
トオプ スイ
ずうっと遠く また
はるか遠く、再び
- 1743 kenashba unwa
ケナシバ ウンワ
川ばたの木原 頭 に行つて
灌木林のかみて端で
- 1744 uweterke bokor※2
ウウェ テレケ ボコロ
互いに 跳ぶ かのよう
跳び比べ(?)するかのよう
- 1745 yainu-an
ヤイヌ アン
考える・我は
われが思った
- 1746 tap koeramno
タプ コエラムノ
それ といっしょに
と同時に
- 1747 a-shiketoko
アシケトコ(←ア シク エトコ)
我が・目 の先
わが目の先が
- 1748 chupkosanu.
チュプ コサヌ
すぼまるの語幹+パツと~する
サツとふさがった。
- 1749 Inkar-an awa,
インカラン(←インカラ アン) アワ
見・我が たところが
気づいたら、
- 1750 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう
- 1751 toiko shiri-
トイコ シリ
ひどく 辺りの様子
すっかり夜が
- 1752 beker kane.
ベケレ カネ
明るい 状態だ
明けていた。
- 1753 Shiran ko,
シラン コ
その様にある と
そのようなのに
- 1754 pon a-kor sapo
ポン アコロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 1755 naa etoro
ナア エトロ
まだ いびき
まだいびきを
- 1756 tuimasuiba kane.
トゥイマ スイバ カネ
遠くゆらす(←suye複) 状態だ
かいて熟睡している。
- 1757 Homatu ruibe
ホマトウ ルイベ
驚き 激しいもの
われは非常に驚いた
- 1758 a-nep ne kusu,
アネッ ネ クス
我であるもの である 故に
ものだから、
- 1759 kimumbe ottom
キムウンベ オットム
山にいるもの たくさんある カ
山熊のようにカいっぱい
- 1760 a-shikaikire
アシカイキレ
我は・自分に 背負わ せる
伸びをして
- 1761 sotki ka ta
ソッキ カ タ
寝床 の上 に
寝台の上に
- 1762 a-hobuniterke,
アホブニテレケ
我は・起きあがる 跳ぶ
飛び起き、
- 1763 shiraraye-an.
シラライエ アン
着がえる・我は
着がえをした。
- 1764 Imoma ka wa
p.38 イモマ カ ワ
宝列 の上 から
宝壇の上にある
- 1765 a-eshibopkep
アエシポッケッ
我が・それで 自身を 暖くするもの
わが衣装を

※1 uwobuk の誤記か? uwopuk hum「相和して起るその音の(脚注:u-o-puk<相・~から・おこる>。w は連聲にてはいつたもの)」(研W340)

※2 bokor「【接続助詞】《胆振方言》かの如く」(語法)「pekor の変異形」(切363)

4-4 目が覚めたら

- 1766 a-uina,
ア ウイナ
我は・を取る
取りあげ、
- 1767 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 1768 un attush
ウン アットウシ
にある 厚司
の厚司を
- 1769 a-imikanere,
ア イミカネレ
我は・着物の上になら せる
上に着て、
- 1770 uwokkanikut
ウ ウオク カニ クツ
互いに引っかける 金属 帯
かなぐさりのベルト
- 1771 tumamkosaiba,
トウマム コ サイバ
胸にぐるぐる巻き付ける
をぐるり胸に巻き、
- 1772 kamuiranketam
カムイランケタム
神が降ろした 刀
神からさずかった太刀を
- 1773 a-kutbokechIU.
ア クツ ボク エチウ
我は・帯 下に差す
腰に下げた。
- 1774 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 1775 un konchi
ウン コンチ
にある 帽子
の兜を
- 1776 a-kimuirarire,
ア キムイ ラリレ
我は・頭頂を押さえつけ させる
頭にかぶり、
- 1777 tururun kuwa
トゥルルン(←トゥルル ウン?) クワ
(不詳) 杖
トゥルルの杖(?)
- 1778 a-teksaikari.
ア テク サイカリ
我は・指を回して掴む
をむずとつかんだ。
- 1779 Pon a-kor sapo
ポン アコ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 1780 humi ash kunip
フミ アシ クニブ
その音 立つ はずのこと
物音がするのを

- 1781 oyamokte,
オヤモクテ
不審に思う
あやしみ、
- 1782 sotki ka ta
ソッキ カ タ
寝床 の上 に
寝台の上に
- 1783 hobuniterke,
ホブニ テレケ
起きあがる 跳ぶ
飛び起き、
- 1784 I-koshikraiba.
イコシクライバ
我に・向かって 目をやる(sikraye 複)
われを見やった。
- 1785 Imi-an shiri
イミアン シリ
物を着る・我が その様
われが身支度している様子に
- 1786 katu ne kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 1787 enushikari
エヌシカリ
でもって 目 丸くなる
目を丸くして
- 1788 ehomatu kunip
エホマトウ クニブ
でもって 驚く はずのもの
驚くだけ
- 1789 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 1790 kotomkorkaiki,
コトム コロカ イキ
似つかわしい けれども+物事 をする
いいのに、
- 1791 omanso※1 ka ta
オマンソ(←オマイソ) カ タ
宝置く座 上 に
座敷の上に
- 1792 teshkosamba※2
テシコサムバ
反らす サツと~する(kosanu複)
サツと起ち上がり、
- 1793 shik noyanoya※3 kane.
シク ノヤノヤ(←ノイエアノイエア) カネ
目 揉みに 揉む 状態だ
目を何度もこすっている。
- 1794 Kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上で
- 1795 itakomare hawe
イタコマレ(←イタッ オマレ) ハウエ
言葉を入れる その声
言葉を差し入れるその声が

- 1796 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには、
- 1797 "Hemanta
ヘマンタ
何か
「何でまあ
- 1798 ene mokori ※4
エネ モコリ(←モコロ イ)
あのように 眠る こと
死んだように
- 1799 a-ki kusu?
ア キ クス
我が・をする ために
わたしは眠ってしまったのかしら?
- 1800 Ukuran
ウクラン
昨晚
ゆうべは
- 1801 onramkasu
オンラムカス
(不詳)
(不詳)
- 1802 eashka sonno
エアシカ ソンノ
とても ほんとうに
それこそ本当に
- 1803 mokonno-an awa,
モコンノ(←モコロ ノ) アン アワ
眠るよく・我は たところが
わたしはぐっすり眠れたのに、
- 1804 a-aktonoke
アアクトノケ
我が・弟 殿
わたしの弟ぎみは
- 1805 nekonne kusu
ネコンネ クス
どうした 故に
どうしたわけで
- 1806 hoshkino
ホシキノ
最初に
わたしより先に
- 1807 e-hobuni
エホブニ
汝が・尻を持ち上げる
起き出した
- 1808 ruwe ta an?
ルウェ タ アン
その事実 (強調) ある
のかしら?
- 1809 Sone ramka
ソネ ラムカ
本当である 心の上
ほんとうに (不詳)
- 1810 he e-iki
ヘ エイキ
か 汝は・物 をする
(不詳)

※1 omanso「omai-so<宝をおく・上座>のこと。n音が、s音の前にiとなることから、逆に語源俗解からの誤記。Omanso-ka ta 座敷の上に(金IV-351)、たゝみの上にて(研W252)」

※2 参考:roruiso-ka ta/teshkosanu「横座の上に/さつと立ち上がり(脚注:tesh-kosanu すうと滑るやうに行く、音もなく軽く迅き運動。-kosanu は、さつと、ぱつと)」(研680)

※3 「noya-noya<揉む・(反復)>」(研665)、「←noye a noye a 揉みに揉む、揉みつける、幾度も擦る」(語法) shik noyanoya《萱野茂記》「目をこすりながら」(教28-85)

※4 mokori 「寝所。n. A sleeping place. Syn: Hotke ushik.Mokoro ushi.」(B301)、参考:《萱野茂記》nep mokori/a-ki kusu「私は死んだように/眠ってしまい」(教XIII-56)

- 1811 Nepka
ネッカ
何か
何かにか
- 1812 e-ehomatu
エエホマトウ
汝が・それでもって驚く
そなたが驚いた
- 1813 apkoro kane
アッコロ カネ
あたかも～するかのような 状態で
みたいにか、
- 1814 neunka
p.39 ネウンカ
どこへか
どこかに
- 1815 e-oman
エオマン
汝は・行く
そなたは行く
- 1816 apkor kane
アッコロ カネ
まるで～するかのような 状態で
みたいにか
- 1817 e-iki ya?"
エイキ ヤ
汝は・物をする か
しているの?」
- 1818 Hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
姉上がそうおっしゃるから、
- 1819 itak-an hawe
イタカン(←イタッアン) ハウエ
言う・我が その話
われが言ったことが
- 1820 ene okai i ;
エネ オカイ イ
こう ある ことに
こうあるには、
- 1821 " Koninkar kusu !
コニンカ^ククス(←コン インカ^ククス)
早く! 見る(感嘆の助詞)
「これこれ!
- 1822 i-resu sapo
イレス サポ
我を・育てる その姉
育ての姉上よ。
- 1823 Hokure tunashno
ホクレ トウナシノ
早く 早く+(副詞形成語尾)
さあ、早く
- 1824 abeare wa
アベアレ ワ
火を座らせて
火をたいて
- 1825 i-tere kane
イテレ カネ
我を待つ 状態で
われを待って
- 1826 okai yan !
オカイ ヤン
い なさい
いってください!
- 1827 Tarap hetapne
タラ^ハヘタ^ハネ
夢 かこれはまあ
夢か
- 1828 mokor hetapne,
モコロ ヘタ^ハネ
眠る かこれはまあ
うつつか、
- 1829 koneptapteta !
コネ^ハタ^ハテタ
(調律)何これここに
何ともまあ
- 1830 iramkittarara
イラム キツタララ
人の心 気持ちがわるくなる
気味が悪い
- 1831 a-ki humi
アキ フミ
我は・～をする 感じ
気が
- 1832 orsaureko okai !
オ^コサウレコ オカイ
全く緩い+(否定) ある
とんでもなくするなあ!
- 1833 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 1834 irukai
イルカイ
少しの間
ちよつと
- 1835 a-kor iwor
アコロ イウオロ
我が・持つ 狩場
わが狩り場にある
- 1836 kenashso kashi
ケナシ ソ カシ
木原 平らで広がりのある所 の上
木原(川端の灌木林)
- 1837 a-koshiruwante wa
アコシルワンテ(←アコシリ ウワンテ) ワ
我は・に対し 辺りを調べて
を調べて
- 1838 ene shirani
エネ シラニ(←シラン イ)
こう 様ある事
周辺を
- 1839 a-nukar orowa
アヌカラ オロワ
我は・見る それから
よく見まわってから
- 1840 san-an kusu
サナン(←サン アン) クス
出てくる・我は つもり
戻ってくる
- 1841 ne na."ari
ネ ナアリ
だ よと
よと
- 1842 itak-an chiki,
イタカン(←イタッアン) チキ
言う・我が なら
われが言ったら、
- 1843 pon a-kor sapo
ポン アコロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 1844 shino homatu,
シノ ホマトウ
まことに尻を挙げる
たいへん驚き、
- 1845 "Usainetapsui
ウサイネ タ^ハスイ
色々これはまた
「なんとまあ
- 1846 hawash hawe
ハワシ ハウエ
言う その声
おっしゃることは
- 1847 iyoserkere
イヨセ^レケレ(←イオシセ^レケレ)
人をおそれさせる
大変なこと
- 1848 okaibe ne ya !
オカイベ ネ ヤ
ある ことである か
じゃないかしら!
- 1849 Kamui tura
カムイ トウラ
神 と共に
神々と
- 1850 shine kunnep
シネ クンネ(←クルネ) プ
一族のような
一族のような
- 1851 e-ne kusu,
エネ クス
汝である 故に
そなたゆえ、
- 1852 sermaka yupkep
セ^レマカ ユ^ブケ^ブ
その守護神 強い者
えらい憑き神に守られている
- 1853 e-ne kusu,
エネ クス
汝である 故に
そなただから、
- 1854 konep ashtoma kunip
コネ^ハ アシ^マクニ^ハ
(調律)何 恐ろしい はずのもの
何か恐ろしいこと
- 1855 base kunip
バセ クニ^ハ
重い はずのもの
重要なことの
- 1856 etokoho
エトコホ
その前
前兆を
- 1857 e-takar hawe
エタカラ ハウエ
汝が・夢を見た と言うこと
そなたが夢に見たの
- 1858 ne nankor.
ネ ナンコロ
だろう
でしょう。
- 1859 Okkayo anakne
オ^ッカヨ アナ^ハネ(←アンヤ^ハネ)
成人男子 ある～すれば
男は
- 1860 apkash tuika ta hene
p.40 ア^ッカシ トウイカ タヘネ
歩く 最中 にでも
歩きながらでも
- 1861 terke tuika ta
テ^レケ トウイカ タ
跳ぶ 最中 に
跳び走る最中

- 1862 iki a yakka,
イキ ア ヤカ
それをしたとしても
であつても、
- 1863 tu base kamui
トゥ バセ カムイ
二つの 重い 神
たくさんの尊い神々
- 1864 re base kamui
レ バセ カムイ
三つの 重い 神
あまたの位高き神々に
- 1865 shikoinkare
シコ インカレ
自分の方へ 見られる
見守られ
- 1866 shikohosarbarep
シコ ホサラバレプ
自分の方へ 振り返られるもの
振り向かれるもの
- 1867 tapokai na.
タオカイ ナ
今ここに(←tapan 複)よ
ですよ。
- 1868 Pirikano
ピリカノ
よく
よくよく
- 1869 yayitubareno
ヤイトウバレノ
気をつける+(副詞形成語尾)
気をつけて
- 1870 apkash kunak
アッカシ クナク(←クン ヤク)
歩く べきであるということ
お行き
- 1871 ramu yan!
ラム ヤン
思い なさい
なさい!
- 1872 Aokai anakne
アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ)
我 ある ~するならば
わたしは
- 1873 kamui tomo-
カムイ トモ
神 まん中
神の意に
- 1874 a-kokanu wa
アコカヌ ワ
我は・を傾聴して
おまかせして
- 1875 an-an kusu ne na."
アナン(←アン アン) クス ネ ナ
いる・我は つもり だよ
おりますよ」
- 1876 ari itak hawe
アリ イタク ハウエ
と 言う その声
と姉上が言う声を
- 1877 a-nu kor,
アヌ コロ
我は・聞き ながら
われは聞きながら、
- 1878 niwen chinikan
ニウエン チニカン
猛々しい その股の上
荒々しく

4-5 館の外観

- 1879 a-tuimaturi,
アトウイマトウリ
我は・遠く~を伸ばす
われは大股で歩いて行き、
- 1880 ratki aba
ラッキ アバ
垂れる 戸
母屋入り口のすだれを
- 1881 shikantap kurka
シカン タブ クルカ
自分の上 肩の上
肩ごし
- 1882 a-eterkere,
アエ テレケレ
我は・そこに 跳ばす
に跳ねあげ、
- 1883 mosem tuyor
モセム トウヨロ(←トウイ オロ)
玄関納屋 腹中
入り口の土間
- 1884 an-eshikuru
アエ シキル
我は・そこに 自分を回す
を通して
- 1885 soiwasamne
ソイワ サムネ
外の側になる
家の外へ
- 1886 an-oshiraye.
アノシライエ(←アン オ シライエ)
我は・そこへ 自分をやる
われは出た。
- 1887 Tanebo tapne
タネ ポ タブネ
今+(指小辞) これのように
今初めて
- 1888 a-ewak ushike
アエワク ウシケ
我が・住む いつも~する 所
わが館の
- 1889 soike sama
ソイケ サマ
外 の側
外観を
- 1890 a-yaiamkire.
アヤイアムキレ
我は・自身に 知らせる
見知った。
- 1891 ramno hetapne
ラムノ ヘ タブネ
低く かこうである
低地でも
- 1892 i-reshba-an
イレシパアン
我を・育てる・人が
われは育てられていた
- 1893 ruwe ne kuni
ルウェ ネ クニ
こと である はずだと
のであろうとばかり
- 1894 a-ramu rokwa,
アラム ロクワ
我は・思っ たところが
思っていたのに、
- 1895 chibuni tapkop
チブニ タブコブ
自身を 起こす 孤立した山
ぽこんと独立した山が
- 1896 chiekantoor-
チエカントオロ
自身を そこから 天 その所
天空に
- 1897 suiiba kane,
スイバ カネ
揺らす 状態で
そびえ立っていて、
- 1898 tapkop ka ta
タブコブ カ タ
孤立した山 接した上 に
その山頂に
- 1899 tam boro chise
タム(←タン) ボロ チセ
この 大きな 家
この大きな館と
- 1900 tam boro chashi
p.41 タム(←タン) ボロ チャシ
この 大きな 砦
この山城が
- 1901 uworeroshki.
ウウオロロシキ(←ウ オロ エロシキ)
互いの中 そこにたくさん立てる
重なり立っている。
- 1902 Nei※1 upsoro
ネイ ウブソロ
その ふところ
その中で
- 1903 a-i-oresu
アイオレス
人が・我を・そこで 育てる
われは育てられた

※1 nei 「nei は B 師匠流で、ne' それだけで十分」(金 I-405)、一音節語は多少長目に発音されるのを英語流に重母音化して nei と筆録されたのは B 師流。(金 II-229)、一音節語は多少長目に発音されるのを英語流に重母音化して nei と筆録されたのは B 師流。(金 II-229)」

- 1904 ruwe ne rok okai!
ルウェ ネ ロ^ッオカイ
の事実 であつ たのである
のであつた!
- 1905 Chise soinake
チセ ソイナケ
家 の外側
館の外観
- 1906 chashi soinake
チャシ ソイナケ
砦 の外側
山城の外側の
- 1907 eashka
エア^シカ
ほんとうに
それこそ
- 1908 atomte ruwe
アトム テ ルウェ
人が・光ら せる その事実
飾られているようすや
- 1909 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
美しい その事実
美しいその様を
- 1910 terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ぶ 最中 に
跳び走りながら眺めたら、
- 1911 usa huihuinake
ウサ フイフイナケ
色々 どこかここかの方の 所
何から何まで
- 1912 a-eramasu
ア エラマス
我が・好きだと思ふ
好ましく
- 1913 a-koerayap kane.
ア コエラヤ^ッ カネ
我は・〜に 感嘆する 状態だ
すばらしい。
- 1914 Taban inausan
タバ^ン(←タブ^ン アン) イナウ サン
今ここに ある 幣 棚
館の後ろにある幣所は^{ぬさどころ}
- 1915 moshin ru kunne^{※2}
モシン(←モシリ) ル(←ルウェ) クンネ
島 の様 のように
島のように見えるほど
- 1916 meunatarata.
メウ ナタラ
壮大で美しい 状態が続いている
立派で堂々としている。
- 1917 Soonno boka^{※3}
ソオンノ ボカ
本当に(強調形) さえも
はたして思った通り
- 1918 nusaba wano
ヌサ バ ワノ
ぬさ 頭 から
祭壇の東のはずれから
- 1919 urar ruika
ウラ^ラ ル イカ
かすみ 道 を越えて近道する
霞の橋が
- 1920 chishiturire,
チ シトゥリ レ
自身が 自分 を伸ばさせる
かかっている、
- 1921 oman aine,
オマン アイネ
行く してから
その先が
- 1922 a-kor betpo
ア コ^ロ ベツポ
我ら・の 川+(指小辞)
わが里川の
- 1923 betturashi
ベツトゥラシ
川 に沿ってかみてへ行く
川上に
- 1924 shituri ruwe
シトゥリ ルウェ
自分 を伸ばす その様
伸びていて
- 1925 maknatara.
マ^ッナタラ
輝く
キラキラ明るく輝いていた。
- 1926 Ruika kurka
ルイカ クルカ
橋 の上
その橋の上
- 1927 a-ehobuni
ア エホブニ
我は・〜に 尻 を持ち上げる
にわれは立ち上がった。
- 1928 Konep kamuye
コネ^ブ カムイェ
(語勢) 何 の神
何神か
- 1929 konep bito
コネ^ブ ビト
(語勢) 何 の貴人
何びとかが
- 1930 i-turen rokwa
イトウレン ロクワ
我に・憑い たところ
われに憑いている
- 1931 humash nankor'a
フマシ(←フム アシ) ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
氣 がする だろう か
のだろうか。
- 1932 I-enkashike
イ エンカシケ
我の・離れた上方
わが頭上に
- 1933 bushkosanu,
ブシ コサヌ
破裂音 急に作る
バーンと音がし、
- 1934 tu base kamui
トゥ バセ カムイ
二つの 重い 神
たくさんの尊い神々
- 1935 re base kamui
レ バセ カムイ
三つの 重い 神
あまたの位高き神々たちが
- 1936 i-enkashike
イ エンカシケ
我の・離れた上方
わが頭上
- 1937 ohumbushba.
オフメブ^シバ(←オ フム エ ブ^シバ)
そこから 音が 頭 噴火する
で爆発した。
- 1938 Bash kamuimau
バ^シ カムイ マウ
走る 神 いぶき
走る神風
- 1939 kamuimau etok
カムイ マウ エト^ク
神 氣 先
その神風の先
- 1940 a-i-y-ekoshne-
アイエコシネ(←ア イ エ コシネ)
人が・我を そこに 軽く
にわれは軽々と
- 1941 buni kane,
ブニ カネ
持ち上げる 状態で
吹き上げられて、
- 1942 bet turashi
ベツ トウラシ
川 に沿ってかみてへ行く
上流めざして
- 1943 kamuimau
^{p.42}カムイ マウ
神 氣
われは神風を
- 1944 bashte-an.
バ^シ テ アン
走ら せる・我は
走らせた。
- 1945 Oman-an aine
オマナン(←オマン アン) アイネ
行く・我が あげく
われが行くうちに、
- 1946 tuima kenash
トゥイマ ケナ^シ
遠い 川端の灌木
遠くのエ
- 1947 kenashbake
ケナ^シ バケ
低木林 かみての所
川端林野のかみて
- 1948 a-koshireba.
ア コシレバ
我は・〜に 到着する
に到着した。

※2 moshin ru kunne「単に<島のような>ということで、幣が遠くぼやけて見える時などによく言われることだと伝承者はいう」(金Ⅱ-79)

※3 sonno poka「まことに」(研649)、「本当に、やっぱり、はたして、思ったとおり、聞いていたとおり」(田536)

4-6 化け狐退治

- 1949 Raboki ta
ラボキ タ
~している間 に
そのうちに
- 1950 mokor hetapne
モコ[□] ヘ タ[△]ネ
眠る か これはまあ
眠っていたのか
- 1951 tarap hetapne
タラ[△] ヘ タ[△]ネ
夢 か これはまあ
夢を見たのか
- 1952 a-ki kuni
ア キ クニ
我は・~をする ように
したように
- 1953 a-ramu awa,
アラム アワ
我は・思っ たところが
思っていたところ、
- 1954 toop kenash
トオ[△] ケナシ
ずうっと遠い 川端の木原
はるか遠くの灌木林の
- 1955 kesh wano
ケシ ワノ
末端 から
しもての端から
- 1956 ainu mina hau
アイヌ ミナ ハウ
男 が笑う 声
男の笑い声と
- 1957 chironnup
チ ロンヌ[△]
我ら 殺す もの
キツネの
- 1958 bause hau
バウセ ハウ
パウと言う 声
パウという鳴き声
- 1959 chiuwobukka※1
チ ウウオブ[△] カ
自身 互いに そこから 起こさせる
唱和して
- 1960 kenash raboki
ケナシ ラボキ
谷地原 の間
木々のあいだに
- 1961 bebunitar kor
ベブニタラ(←ベブン イタラ) コ[□]
ベブンという音 続き ながら
わき起こって
- 1962 arki hawe
アラキ ハウエ
来る(ek複) その声
きたその声
- 1963 kururati※2
クルラツキ(←クルル アツキ)
当たる 何度もする
こだまになって響いてきた
- 1964 yak a-ramu,
ヤ[△] アラム
と 我が・~を思う
と思ったとたん、

- 1965 menoko kutor
メノコ クト[□](←クツ オ[□])
娘 のど内
娘の声つき
- 1966 beure kutor
ベウレ クト[□](←クツ オ[□])
若い のど内
若い声つきの
- 1967 chishhaukonna
チシ ハウ コンナ
泣く 声 (調律)
泣き声
- 1968 tununitara.
トゥヌニタラ(←トゥントウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
高く響いてきた。
- 1969 Hawe a-nu chiki,
ハウエ アヌ チキ
その声 我が・を聞く なら
その声を聞いたから、
- 1970 rametok rakbe
ラメト[△] ラ[△]ベ
勇者 香りする 者
勇士の血を引く
- 1971 utarpa rakbe
ウタ[△]パ ラ[△]ベ
族長 末裔である 者
族長家系末裔の
- 1972 a-ne a korka,
アネ ア コ[□]カ
我・であつ た けれど
われであつたが、
- 1973 sonno
ソンノ
本当に
ほんとうに
- 1974 a-konramkonna
アコンラムコンナ(←ア コ[□]ラム コンナ)
我が・持つ 心 +(調律)
わが心に
- 1975 ororke※3
オロ[□]ケ
かわいそうになる
ふびん
不憫を覚える。
- 1976 Nekona shikop
ネコナ シコ[△](←シ[△] オ[△])
どんな 目 が付く 者
どのような生まれの
- 1977 nekona barop
ネコナ バロ[△](←バ[△] オ[△])
どんな 口 が付く 者
どんな育ちの者なのか
- 1978 irammayaise※4
イラムマヤイセ(←イ ラム アイアイ セ)
我に 心 アイアイ と発する
気のどくになあ、
- 1979 chish hawe eashka
チシ ハウエ エアシカ
泣く その声 それこそ
その泣き声は本当に
- 1980 a-tubeshnu kane,
アトウベ[△]ヌ カネ
我は・同情する 状態で
可愛そうだと想いながら、

- 1981 ruyeni sembir
p.43 ルイエニ セムビ[△]リ
太い木 陰
われは大木の陰に
- 1982 a-yaikotukka kane
アヤイコトウ[△]カ カネ
我は・自分をにくっつけさせる 状態で
ピタッと身を寄せて
- 1983 an-an awa,
アナン(←アン アン) アワ
あつ・我が たところが
いたところ、
- 1984 kanak okaibe
カナ[△] オカイ ベ
どんな ある 者
何者かが
- 1985 tap i-tuisam ta
タ[△] イトウイ サム タ
たつた今 我の・すぐそば に
今わがすぐそばに
- 1986 uterkere.
ウ テ[△]ケレ
互いに 跳ねらせる
跳ねて来た。
- 1987 Inkar-an chiki,
インカラン(←インカラ アン) チキ
眺める・我が なら
見れば、
- 1988 soonno boka
ソオンノ ボカ
本当に(強調形) さえも
はたして思った通り
- 1989 tarap otta
タラ[△] オツ タ(←オ[□] タ)
夢 の所に
夢の中で
- 1990 ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
こうこうこのように
- 1991 inkar-an a i
インカラン(←インカラ アン) アイ
眺め・我が た 所の
見た
- 1992 korachi.
コラチ
のように
とおりに(?)。
- 1993 Chikap korachi
チカ[△] コラチ
鳥 みたいに
飛鳥のごとく
- 1994 arekushkonna
アレクシコンナ(←アラ エクシ コンナ)
全くだしぬけに+(調律)
突然
- 1995 tururun kuwa
トゥルルン(←トゥルル ウン?) クワ
(不詳) 杖
トゥルルの(?)杖を
- 1996 tan rik beka
タン リ[△] ベカ
この 高所 から
高い所から

※1 uwobuk 《萱野茂訳》「入り交じり」(教 I-152)

※2 kururati 「鳴りひびく(脚注:轟々と鳴りわたる。-ratki は激しくたくさん鳴る意)。(金 I-139)

※3 ororke 「かわいそうになる、《平賀サタモ》=ihoma(金IV-340)、心細い、かなしい(金VII-36)」

※4 参考: irammayaisere 「気のどくに」(金VII-287) 「e-ram-ayaysere <それについて・心臓を・泣かせる>《幌別》ほろりとする」(人615)

- 1997 a-eshisuye humi
ア エ シ ス イ エ フミ
我が・～に自らを揺らす その音
われが振りおろす音
- 1998 shiukosanu.
シウ コサヌ
サッ! と一つ音がする
シュウとなる。
- 1999 Arwen kamui
ア ラ ウ エ ン カ ム イ
全く悪い 神
極悪の神が
- 2000 i-koshikraiba
イ コ シ ク ラ イ バ
我に・向かって 目をやる (sikraye 複)
われを目撃して
- 2001 shikirutomta,
シキルト ム タ
身をかかず 中で
こちらに向きを変えた瞬間に、
- 2002 ikkeu noshki
イ ッ ケ ウ ノ シ キ
腰骨 真ん中
そいつの腰骨なかばを
- 2003 a-toikokik humi
ア ト イ コ キ ッ フミ
我が・ひどく殴る その音
われが殴りつけた音が
- 2004 a-emonetoko
ア エ モ ン エ ト コ
我が・その手の動きの先
わが手先に
- 2005 rimkosanu.
リ ム コ サ ヌ
ドスンと一つ音がする
ドスンとひびく。
- 2006 Ikkeu noshki
イ ッ ケ ウ ノ シ キ
腰骨 真ん中
そやつの腰骨が
- 2007 kai humkonna
カ イ フ ム コ ン ナ
折れる 音+(調律)
折れる音
- 2008 kitkosamba, ※1
キ ッ コ サ ム バ
ギョウと急に～となる
ボギッと鳴り、
- 2009 tata otta
タ タ オ ッ タ (←オ_口 タ)
この 所で
ここで
- 2010 chieshirotke ※2
チ エ シ ロ ッ ケ (←チ エ シ_リ オ ッ ケ)
自身 頭 大地 を突く
大地に突き刺さった。
- 2011 Wen kinra ne
ウ エ ン キ ン ラ ネ
激しい 狂気 となって
凶暴な怒りが
- 2012 i-kohetari,
イ コ ヘ タ リ
我に・向かって 頭 をもたげる
われにわき起こり、
- 2013 orowano
オ ロ ワ ノ
それから
それから
- 2014 ikkeu kiror
イ ッ ケ ウ キ ロ 口
腰や背骨 力
こんしん
渾身の力、
- 2015 montum kiror
モ ン ト ウ ム キ ロ 口
手や腕 力
腕いっぱい力を
- 2016 a-yaikosanke,
ア ヤ イ コ サ ン ケ
我は・自分に向かって出す
しぼり出し、
- 2017 a-kik a a-kik a.
ア キ ッ ア ア キ ッ ア
我は・叩き に 我は・殴り 続ける
われは殴りになぐりつけた。
- 2018 Kurkashike
ク ル カ シ ケ
その上面一帯
その上で
- 2019 tu wemba kamui
ト ウ ウ エ ム バ (←ウエン パ) カ ム イ
二つの 悪口 神
数々の
- 2020 re wenba kamui
レ ウ エ ム バ (←ウエン パ) カ ム イ
三つの 悪口 神
悪口雑言を
- 2021 a-kosuyekar.
ア コ ス イ エ カ ラ
我は・～に・振る+(自動詞語尾)
そいつに浴びせてやった。
- 2022 " Atnitnekamui ※3
ア ッ ニ ッ ネ カ ム イ (←ア_ラ ニ ッ ネ カ ム イ)
全く凶暴な 神
「極悪の神が
- 2023 konep ikkewe
コ ネ ッ イ ッ ケ ウ エ
(語勢)何 その理由
いかなる理由
- 2024 eonebare
エ オ ネ バ レ
それを理由にして
にもとづいて
- 2025 e-i-shinere wa
p.44 エ イ シ ネ レ ワ
汝が・我を・自分にならせ て
お前がわれに化けて、
- 2026 inunukashki
イ ヌ ヌ カ シ キ !
可哀想になあ
かわいそうになあ!
- 2027 PonTeseu um mat
ポ ン テ セ ウ ウ ム (←ウン) マ ッ
小 テ セ ウ に 住 む 女性
ポンテセウ姫を
- 2028 orsetakko
オ ロ セ タ ク コ
全く短い間+(反意)
ずいぶん長い間
- 2029 chiramkoiki,
チ ラ ム コ イ キ (←チ イ ラ ム コ イ キ)
～こと人の心をいじめる
からかい、
- 2030 chiramshitnere
チ ラ ム シ ッ ネ レ
こと心を縫れさせる
じらし、
- 2031 e-ekar shiri
エ エ カ ラ シ リ
汝は・それを作った その様
化かして
- 2032 ene okai i
エ ネ オ カ イ イ
こう ある こと
こうだった
- 2033 tambe ne ya
タ ム ペ (←タン ペ) ネ ヤ
このことであるか
のか。
- 2034 Atanan ainu
ア タ ナ ン アイヌ
普通の 人間
われはありきたりの男
- 2035 a-ne kusu
ア ネ ク ス
我・である 故に
であるから、
- 2036 e-irara wa
エ イ ラ ラ ワ
汝が・わるさをして
お前がひとをばかして
- 2037 tap korachi
タ ッ コ ラ チ
この 如く
このように
- 2038 e-iki a yakka,
エ イ キ ア ヤ ッ カ
汝がそれをした としても
悪戯したとしても、
- 2039 hokure inkar !!
ホ ク レ インカ_ラ
早く 眺める
さあ、見ておれ!!
- 2040 E-ki rusui kusu
エ キ ル ス イ ク ス
汝が・する を欲した 故に
お前がやりたくて
- 2041 e-ikip ne kusu
エ イ キ ッ ネ ク ス
汝が・物をする こと である 故に
したのだから、
- 2042 iramasureno ※4
イ ラ マ ス レ ノ
人に 好ましく思わ せる+(副詞語尾)
気分よく
- 2043 e-kar an
エ カ ラ ア ン
お前が・作る いる
悪戯していた(?)
- 2044 shiri an. Shino
シ リ ア ン シ ノ
その様 ある ほんとうに
ようだな。ほんとうに

※1 「kik-kosampa<きゆうとか、ぎゆうとかの音・kosanuたゞ一度の意を添へる語尾>、詞曲語は飾つて屢々複数形 -kosampa を用ゐるのみ」(研W370)

※2 《萱野茂訳》「chi-e-shir-otke<それ・大地・突く>どすんと着いた。」(教Ⅲ-89)、eshirotke「突き刺し」(金Ⅲ-300) shirotke「刺す、貫く。V.t. To stick. To pierce. To sit down upon any thing with a thud.」(B469)

※3 annitnekamuiの誤記か(?) 既出例: arkamiashi/arnitnekamui/arikonup《萱野茂訳》「全くの化け物が/全くのお化けが/鬼のような/その姿が」(教ⅩⅡ-115)

※4 「ころよく」(研879)

- 2045 e-eyaikamuinere
エエ ヤイカムイネレ
汝は・〜で自身神にならせる
お前は神とあがめられ(?)
- 2045 e-epirika nankor.
エエピリカ ナンコロ
汝は・それでよくなるだろう
えらくなれるだろうよ。(?)
- 2047 Pon chikoyayattasa
ポン チコヤヤッタサ
小 ことに対して自身を全く返す
ささやかなお返しを
- 2048 e-ekarkar-an
エエカラカ アン
汝に・〜をする・我が
俺がしてやるのが
- 2049 shiri tapan na."
シリ タパン ナ
その様 これ ある よ
これなのだぞ」
- 2050 ari itak-an kane
アリ イタカン(←イタカ アン) カネ
と 言う・我が 状態で
われは言いながら、
- 2051 a-esankesup-
アエ サン ケスブ
我は・それでもって出ているかかと
やつを地べたにかかとで
- 2052 ashiashi
アシアシ
立てる立てる
何度も蹴りつけ
- 2053 a-toikootterke.
アトイコ オツテレケ
我は・ひどく踏むに踏む
さんざん踏みつけた。
- 2054 Munin samauni
ムニン サマウニ
腐れた 横になっている 木
腐った倒木みたいになった奴を
- 2055 a-ekikkik aine
アエ キクキク アイネ
我は・それを何度も打つ そのあげく
ボカボカ殴っているうちに、とうとう
- 2056 bone shichi
ボネ シチ
骨 の屑
骨くずまで
- 2057 a-konere,
アコネレ
我は・粉々になるさせる
粉碎し、
- 2058 wen hurkabuhu
ウェン フルカブフ
悪い 骨皮ばかりの死骸
皮だけになった死骸を
- 2059 tuima iwa
トゥイマ イワ
遠い 岩山
はるかかなたの山
- 2060 iwa oshmake
イワ オシマケ
岩山 の後ろ
その山かげ

- 2061 a-koeyapkir.
アコエヤブキリ
我は・に向かって〜を投げる
にわれは投げ捨てた。

4-7 ポンテセウ姫の死

- 2062 Rabokita
ラボキ タ
〜している間 に
そうしているあいだ
- 2063 PonTeseu um mat
ポン テセウ ウム(←ウン) マツ
小 テセウ に住む 女性
ポンテセウ姫は
- 2064 neino
ネイノ(←ネノ)
そのような
そのまま(?)
- 2065 shirush tuntu ne
シルシ(←シリ ウシ) トウトウ ネ
地に着く 柱 のように
大地に根をおろしている柱のように
- 2066 chiashtushtekka
p.45 チ アシトウシテクカ
自身に 立つことを競わせる
棒立ちに立ち
- 2067 chiashrubushka
チ アシルブシカ
自身を 立ちながら 凍りつかせる
凍ったように立ちすくん
- 2068 wa okai.
ワ オカイ
で いた
でいた。
- 2069 A-kotetterke.
アコ テツレケ
我は・に向かって 跳びかかる
われは彼女のほうに跳んでいった。
- 2070 I-kohosari,
イコ ホサリ
我・に向かって 振り向く
姫はわれの方へ向き、
- 2071 a-annanorke
アアンナノロケ(←ア アラ ナン オロケ)
わが・半顔の所
われの顔を半分まで
- 2072 koshikraiba awa,
コ シク ライバ アワ
に 目をやつ(sikraye複) たところが
目撃したところで、
- 2073 "Ayabo!" ari
アヤポ アリ
あ痛 と
「キヤー！」
- 2074 "Oyoyo!" ari
オヨヨ アリ
おいおい と
いやあ！」と
- 2075 itak, nani
イタカ ナニ
言う すぐに
言うやいなや
- 2076 nittekkewe※1
ニツテケ ケウエ
硬直した 死骸
硬直した死体が
- 2077 chishiturire.
チ シトゥリレ
自ら 自分を伸ばさせる
長々と伸びた。
- 2078 Kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神の 刺繍衣
美しい着物は

※1 nittekkewe「<ぐにやりとなる keu' 屍、骸骨' の人形形>彼の屍(金Ⅲ-180)、こちこちのからだ(金Ⅰ-262)、nittekkewepo木の枝のように固くなった骸(金Ⅳ-314)」ニツテケウエ nittekkewe【名詞】硬直した死体(中298)

- 2079 arobittano
アロビッタノ(←アヲ オビッタノ)
全く皆
すべて
- 2080 a-kobetpabetpa,
アコベツパベツパ
人がに細く裂く+(重複)
ビリビリに裂かれ、
- 2081 mimi※1 unno
ミミ ウンノ
その肉へ+(副詞語尾)
肌身も
- 2082 oyakoyake※2 sara
オヤコヤケ(←オヤク オヤケ) サラ
他の所+その外の所 現れる
あちらこちら
- 2083 sara chirabirirsere.
サラ チラビリリセレ
あらわになる (不詳)
あらわになっている(?)
- 2084 Inunukashki!
イヌヌカシキ!
可哀想になあ
かわいそうに!
- 2085 Shukup matkachi
シュクプ マツカチ(←マツ ヘカチ)
若い 女童
うら若いむすめが
- 2086 yepnu upsor
イエプヌ ウブソロ
言うこと聞く ふところ
清らかな肌身
- 2087 huchi upsorka
フチ ウブソロカ
祖母 懐上
代々大事にして来た肌をば
- 2088 a-kochari kane,
アコチャリ カネ
人がに対し 散らす 状態で
あらわにされて、
- 2089 rai ne yakka
ライネ ヤッカ
死 であっても
死といっても
- 2090 semkatune
セムカトゥネ
(否定) 常態 である
当たり前でない死に方
- 2091 a-ekarkar ruwe
アエカラカラ ルウェ
人が・~を施す その事実
にされたの
- 2092 okai chiki,
オカイ チキ
ある なら
だから、
- 2093 sonno ramoshiwano
ソンノ ラモシワノ(←ラム オシワノ)
誠に 心の奥底 から
本当に心の底から
- 2094 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い娘を
- 2095 chituyashkarap
チトウヤシカラフ
~のこと 可哀想に思う
かわいそうに
- 2096 a-ekarkar,
アエカラカラ
我は・~をする
思い、
- 2097 rametok rak be
ラメトク ラク ベ
勇者 香りする 者
勇士の血を引く
- 2098 a-ne a korka,
アネ アコロカ
我・であつた けれど
われであつたが、
- 2099 tu nubur nube
トゥヌブルヌベ
二つの 濃い 涙
はらはらと
- 2100 re nubur nube
レヌブルヌベ
三つの 濃い 涙
熱い涙を
- 2101 a-yaikoranke kane.
アヤイコランケ カネ
我は・自分に 落とす 状態だ
はらはら流した。
- 2102 A-yaikokutkor-※3
アヤイコクツコロ(←アヤイコクツクル)
我は・自分で 帯(助辞)
われは自分の帯
- 2103 bitabita,
ビタバタ
を解く+(重複)
をくるくるほども、
- 2104 kam tutanu
カム トウタヌ
肉 の次に
肌へじかに
- 2105 a-mi kosonte
アミ コソント
我が・着る 小袖
着ていた肌着を
- 2106 a-yaikoante.
アヤイコアント
我は・自分で 置く
われは脱いだ。
- 2107 Pom menoko mibi
ポム(←ポン) メノコ ミビ(←ミブイ)
若い 女 の着物+(所属形語尾)
娘が着ているものを
- 2108 arobittano
アロビッタノ(←アヲ オビッタノ)
全く皆
全部
- 2109 a-koare,
アコアレ
我は・に 座らせる
脱がせ、
- 2110 kam nubeki
カムヌベキ
肉 の光
露出して
- 2111 komaknatara,
コマクナタラ
に対して 輝く
白く輝いている肌を
- 2112 a-mibihi
アミビヒ
我が・その着物
わが着物
- 2113 a-kokari,
p.46 アコカリ
我は・~と一緒に ~を回る
でくるみ、
- 2114 a-eshiyarbok-
アエシヤロボク
我は・それを 自分の脇の下
われは自分の小脇に
- 2115 ani kane,
アニ カネ
手に持つ 状態で
抱えて、
- 2116 kamuinishka
カムイニシカ
神(美称) 雲上
天空上
- 2117 a-korikoshma.
アコリコシマ(←アコリクオシマ)
我は・~に 高くパッと飛び込む
に高く飛び上がった。
- 2118 Betesoro
ベテソロ(←ベツ エソロ)
川 に沿って
川に沿って
- 2119 betbesh rera
ベツベシレラ
川 に添って下る 風
川づたいに吹き下りる風に
- 2120 a-yaiturare.
アヤイトウラレ
我は・自身を 伴わせる
われは身をまかす。
- 2121 San-an humkonna
サナン(←サン アン) フム コンナ
出る・我が 音+(調律)
わが空行く音が
- 2122 keurototke.
ケウロトツケ
轟々と鳴る
ゴロゴロと鳴りひびく。

※1 mim「…一般に魚肉をさす。…しかし、合成語及び古謡の中でわ、人間の肉についても mim と云っている例がある。…」(人282)

※2 「oya 外、他。oyak 外の處、よそ。この k は ke 處 の約まつた形か。oyakoyakta(あちら、こちらに)などといふ語もある。」(研W469)「oyak-oyak【位置名詞】<他の所・(重複)>」(田499)

※3「kor は副詞法語尾 kur の訛り。次行の pita-pita<ほどもどく>の人称は、yaiko- の前の a-<われ>である。a-yaiko-kutkur-pitapita<われ帯をほどもどく>で長大な一動詞(金Ⅱ-110)、われみづから帯をほどもどく(研943)」

第5章 魂呼びの呪術

5-1 イヨチに帰還

- 2123 A-ewak ushike
ア エワ^ク ウシケ
我が・住む いつも～する 所
わが館
- 2124 a-koshireba,
ア コシレバ
我は・～に 到着する
に到着し、
- 2125 soyun yakura
ソユン(←ソイ ウン) ヤクラ
外にある 櫓
物見やぐら
- 2126 yakura ka ta
ヤクラ カタ
櫓 上に
そのやぐらの上に
- 2127 chikap reu shiri
チカ^ク レウ シリ
鳥 木の枝に止まる その様
鳥が木の枝に止まる
- 2128 a-shikobayar.
ア シコバヤ^ラ
我は・自分を 間違え させる
そっくりに舞い降りた。
- 2129 Kimatek ruibe
キマテ^ク ルイベ
慌てて焦る気持ち 強いもの
われが急い
- 2130 a-nep ne kusu,
ア ネ^ク ネ クス
我・であるもの である 故に
で、
- 2131 chise samka ta
チセ サムカ タ
家 側上 に
館のそばに
- 2132 terke-an humi
テレケ アン フミ
跳ぶ・我が その音
飛び下りる音が
- 2133 rimnatara.
リム ナタラ
ドシンと 鳴り続く
ドシンと響く。
- 2134 Mosem tuyor
モセム トウヨ^ク(←トウイ オ^ク)
玄関納屋 腹中
われは入り口土間
- 2135 an-eshikuru,
ア エシキル
我は・そこに 自分を回す
を通過して、
- 2136 ratki aba
ラッキ アバ
垂れる 戸
母屋入り口のすだれを
- 2137 a-omausuyere,
ア オ マウ スイエレ
我は・そこから 気を揺すら せる
フワリとゆらして、
- 2138 mintar ka ta
ミンタ^ラ カ タ
内土間 上に
内土間に
- 2139 a-teshkosanu.
ア テシコサヌ
我は・反らす・サツと～する
サツと滑るように入っていった。
- 2140 Pon a-kor sapo
ポン アコ^ク サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 2141 nisomap ruibe
ニソマ^ク ルイベ
心配する 強いもの
非常に心配していた
- 2142 konep ne kusu
コネ^ク ネ クス
(調律)であること である 故に
ものだから、
- 2143 tu okne ibor
トゥ オ^クネ イボ^ク
二つの 悲しみの 顔色
濃い憂いの顔色
- 2144 re okne ibor
レ オ^クネ イボ^ク
三つの 悲しみの 顔色
深い心配の色を
- 2145 enuratkire kane.
エヌラッキレ カネ
そこに十分に 漂わ せる 状態だ
顔面に浮かべていた。
- 2146 Mintar ka un
ミンタ^ラ カ ウン
内土間 上 にいる
内土間に入って来た
- 2147 i-kohosari,
イコホサリ
我・に向かって 振り向く
われの方へふり向き、
- 2148 homatu kashbap
ホマトウ カシバ^ク
驚く 過ぎるもの
あまりにもびっくりした
- 2149 konep ne kusu,
コネ^ク ネ クス
(調律)であるもの である 故に
ものだから、
- 2150 inkan ruwe konna
インカン(←インカラ) ルウエ コンナ
眺める その様 が
目を
- 2151 chainatara.
チャイナタラ
大きく見開く
見張っている。
- 2152 Temkor kashi
テムコ^ク カシ
両腕間 の上
姉の両膝の上に
- 2153 anrai menoko
アンライ(←ア^ラ ライ) メノコ
全く死んでいる 娘
娘のむくろを
- 2154 a-eantekar.
ア エ アンテカラ
我は・そこに 置く+(他動詞語尾)
われは置いた。
- 2155 Pon a-kor sapo
ポン アコ^ク サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 2156 eashka^{※1}
エアシカ
それこそ
本当に
- 2157 homatu ruibe
ホマトウ ルイベ
喫驚 激しいもの
驚いて
- 2158 arbutanke^{※2}
アラベウタンケ
全く救いを求めて叫ぶ声
ホーイという危急の声
- 2159 ekususuye,
p.47 エクススイエ
で通す 揺する
をあげてから、
- 2160 "Usainetapsui
ウサイネ タ^クスイ
色々これはまた
「これはこれは！
- 2161 shiran ruwe
シラン ルウエ
このような 事実
このようなことを
- 2162 inkar-an humi
インカラン(←インカラ アン) フミ
眺める・我が 感じ
見ることが
- 2163 okaibe ne ya?
オカイベ ネ ヤ
あるもの である か
あるものかしら？
- 2164 Konewa tapne!
コネワ(←コ ネイワ) タ^クネ
(調律)どこから こう
どこからまあ
- 2165 iramhayaisere^{※3}
イラム ハヤイセレ
人の心を泣か せる
かわいそうに
- 2166 ene okaibe
エネ オカイベ
このように ある者
このような人を
- 2167 a-aktonoke
アア^ク トノケ
我が・弟 殿
わが弟どのは
- 2168 koro wa
コロ ワ
持って
抱えて
- 2169 arki shiri
アラキ シリ
来た その様子
いらしたのか、
- 2170 iyoserkere
イヨセ^レケレ(←イ オシセ^レケレ)
人をおそれ させる
困った、どうしたら

※1 原綴eashko

※2 peutanke「《幌別》異変の際に女のする儀礼的な叫び。細いかん高い声でホーイと叫ぶ」(人608)

※3 iramhayaisere「【感嘆詞】 i-ramhayayse-re<吾人の心を泣かしむ>かあいそうに！」(語法)

- 2171 okaibe ne ya? ”
オカイベ ネ ヤ
あることであるか
いいのかしら？」
- 2172 ari itak kane
アリ イタ^ク カネ
と 言う 状態で
と言って
- 2173 chikimattekka.※1
チキマツテ^クカ(←チ キマテ^クカ)
自身を 急がせる
あわてふためいた。
- 2174 ”Hokure hokure !
ホクレ ホクレ
早く 早く
「さあ早く、
- 2175 pon a-koro sapo !
ポン アコロ サポ
小 我・が持つ その姉
姉上よ！
- 2176 Tunashno
トウナ^シノ
早く+(副詞形成語尾)
急いで
- 2177 i-kasui wa
イカスイ ワ
我を・手伝って
われに手を貸して
- 2178 i-kore yan !
イコレ ヤン
我に・与え なさい
くだされ！
- 2179 Kamui nishuk-an wa
カムイ ニシュ^ク アン ワ
神 に呼びかけ・我は て
神に頼んで
- 2180 nekom boka ne wa
ネコム(←ネコン) ポカ ネ ワ)
どのように でも であって
何とか
- 2181 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図(挿入音)として
神のおぼしめしによって、
- 2182 kamui i-eram-
カムイ イエラム(←イエラム
神 我らを・~で心
神がわれらを哀れに思って
- 2183 boken wa, taban
ボケン(←ポキ ウエン) ワ タバン
その下 悪く て この
くださって、この
- 2184 pom matainu
ポム マタイヌ(←マツ アイヌ)
若い 女人
若い娘ごが
- 2185 shiknu yakne,
シ^ク ヌ ヤ^クネ
目を持つ ならば
生き返ったならば、
- 2186 orowa tapne
オロワ タ^クネ
それから こう
それからしかじかと

- 2187 ainu orushbe
アイヌ オルシベ(←オロ ウシ ベ)
人間 の所についているもの
人に関する事柄を
- 2188 a-ye hememki
アイエ ヘメム キ
我は・言う もする
われは語りもし、
- 2189 a-nu rusuibe
アヌ ルスイベ
我が・~を聞く を欲すること
われが聞きたいこと
- 2190 hemem an. Shino
ヘメム アン シノ
も ある 本当に
もある。まことに
- 2191 iyoyamokte-an※2 kusu ! ”
オヤモ^クテ アン クス
を不思議に思う ある 故に(感嘆)
ふしぎでならないのだから！」
- 2192 ari itak-an※3 kane
アリ イタカン(←イタク アン) カネ
と 言う・我は 状態で
と言って
- 2193 rot ta terke-an,
ロツ タ(←ロロ タ) テレケ アン
横座 に 跳ぶ・我は
われは横座に跳んで行き、
- 2194 kamui imoma
カムイ イモマ
神の 宝列
宝壇
- 2195 imoma noshke※4 wa
イモマ ノシケ ワ
宝壇 中央 から
の真ん中の所から
- 2196 kani karauto
カニ カラウト
金の 唐櫃
金属製(?)のつづらを
- 2197 a-shikoetaye,
アシコエタイエ
我は・自分の方に引っぱる
ひっぱり出し、
- 2198 iwan ikinne
イワン イキンネ(←イキリ ネ)
六 列になる
幾重にも
- 2199 uworush suyop
ウウォル^シ(←ウ オロ ウ^シ) シュヨ^フ
互いに中につく 箱
重なっているつづらの
- 2200 chishina atu
チシナ アトゥ
ている 結ぶ 紐+(所属形語尾)
縛ってあるひもを
- 2201 a-ukaebita,
アウカエビタ
我は・互いに上それを解く
われは次々とほどき、
- 2202 kankamubi
カンカムビ(←カン カム ッ イ)
上を覆う物+(所属形語尾)
うわぶたを

- 2203 a-koetursere.
アコエトウルセレ
我は・共に そこから パツと落とさせる
パツとはらい落とした。

※1 chikimattekka「chi-kimatek-ka<自分を・急が・せる>、chikimatekka-an われ気がせく」(金 I-405)

※2 原綴 iyamokte An

※3 原綴 itak のみ。

※4 noshke「<中央>は正しくは noshki、<中央の所>は noshkike。本文 noshke はこれの混交形」(金 V-168)、「《幌別》←no-oske 中央」(語法)

5-2 魂を迎えに行く刀

- 2204 Oshke wa
オ^シケ ワ
中 から
つづらの中から
- 2205 ramattakikor※1
ラマ^タク イコ^ロ
魂を迎えに行く刀
魂を呼び戻す呪術刀
- 2206 umurek ikor,
p.48 ウムレ^ク イコ^ロ
夫婦 宝刀
一対が、
- 2207 sonno kani tum wa
ソノ カニ トム^ム ワ
本当に 金の中 から
こがねの中から
- 2208 a-busup korachino
ア^ブス^ブ コラチノ
人が押し出すもの のように
掘り出されたみたい
- 2209 konru tomne
コンル トム^ム ネ
氷 光 になる
氷がキラキラ輝くように
- 2210 chitomte ikor
チトム^テ イコ^ロ
自身を光らせる 刀
飾り立てられた宝刀の
- 2211 kamui nubekihi
カムイ ヌベキヒ
神 の光り+(所屬形語尾)
霊なる光が
- 2212 chise upsoroho
チセ ウ^ソロホ
家 その懐
家の中いっぱい
- 2213 eemakkemakke
エエ マ^クケマ^クケ
それが そこで 明るくある+(重複)
にピカーピカーッと
- 2214 shikaye kane
シ カイエ カネ
自分を折る 状態で
稲妻のように屈折して
- 2215 mike kane.
ミケ カネ
光り輝く 状態である
明るく照り輝いた。
- 2216 Anramasu
アンラマス(←ア^ラ ラマス)
全く 好感が持てる
まったく心地よく
- 2217 a-uwesuye kane
アウエスイエ カネ
我は・互いに 気持ちを揺らす 状態で
いい気分
- 2218 a-sanasapte.
アサナサ^テ
我は・前の方へ 出す
われは宝刀を取り出した。
- 2219 Pon a-kor sapo
ポン アコ^ロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 2220 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘を
- 2221 shiso sam ne
シソ サム^ム ネ
本座 側 に
右座のわきに
- 2222 eturikar,
エトウリ カラ
そこにのばす+(他動詞形成語尾)
寝かせ、
- 2223 uwekari
ウ ウエカリ
互いの方に向かって
われと姉は両方から
- 2224 benram kurka
ベンラム クルカ
上胸 姿の上
娘の胸の上に
- 2225 umurek ikor
ウムレ^ク イコ^ロ
夫婦 刀
一対の刀を一本ずつ
- 2226 a-eomare kane.
アエオマレ カネ
我らはそこに入らせる 状態で
置いた。
- 2227 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘
- 2228 sabaha
サバハ
その頭
の頭を
- 2229 a-shikirkeuka-
アシキ^リケウカ
我は・自身の 膝上
われは自分のあぐらを組んでいる
- 2230 eomare※2 kane.
エオマレ カネ
そこにおく 状態で
足の上に枕させて、
- 2231 tanebo konna
タネポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今こそ
- 2232 kamuikoitak-an
カムイコイ^タクアン
神に話す・我は
われは神に祈った。
- 2233 Tu kamui shinrit
トゥ カムイ シンリツ
二つの 神の 根元
数々の神の起源
- 2234 re kamui shinrit
レ カムイ シンリツ
三つの 神の 祖先
たくさんの神々の根源を
- 2235 a-obentari.※3
アオベンタリ
我は・下端を 上にあげる
解き明かして神助を乞い願う。
- 2236 A-ki charanke
アキ チャランケ
我が・する 口をおろす
わが弁論は
- 2237 kakkok hau ne
カクコク ハウ ネ
郭公鳥 声 のように
カッコウの鳴き声のように
- 2238 ouseturse※4
オウセトルセ
下へ 切れ切れに 落ちる
明瞭に響いてこぼれ落ちた。
- 2239 Ineapkus
イネア^クス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ
- 2240 wayashnu-an
ワヤシヌアン
口達者である・我は
われは弁舌爽やかだった
- 2241 nankor'a.
ナンコラ(←ナンコ^ロ ヤ)
だろう か
ろうか。
- 2242 A-ye kunip
アイエ クニ^ブ
我が・~を言う はずのもの
わが発した言葉は
- 2243 a-benram kashi
アベンラム カシ
我が・上胸 の上
胸
- 2244 koemukukke※5 kane
コエムク^クケ カネ
に向かってそこに 没する 状態で
にのまれて行って(?)
- 2245 a-esambarkashi
アエサム^バラカシ(←アエサン^バラカシ)
我が・そこから 出る 口の上
わがくちびるから
- 2246 chibitabita.
チビタビタ
自身 ~を解きに解く
淀みなく出てくる。
- 2247 Pon a-kor sapo
ポン アコ^ロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 2248 ineapkus
イネア^クス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ

※1 「ramat-tak-ikor<魂・招待する・宝刀>全長20cmほどの刀を形どった呪術用具。病人の枕下に入れての治癒祈願、妊婦の枕下に入れての男児誕生祈願する(民具298)、魂を呼ぶ宝刀(萱461)」

※2 「shi-kirkeu-ka-e-omare<自身の・膝・上・そこ(膝の上)に・やる、おく、入れる>尚 kir は、chikir 脚のこと、keu は骸のことであるが、kirkeu でひざがしら、ひざのさらの義となる。」(研W400)、「a-si-kirkeu-ka-e-oma-re<我わ・自分の・足・上・に・居ら・せた>我わ自分のあぐらを組んでいる足の上に枕させた。」(人14)

※3 「神を祈るに数多の神々の起源を明かし、その根元を言ひあらはして神助を乞ふ。」(研W567)

※4 「o-use-turse<下へ・切れ・落ちこぼれる>きれぎれに落ちる、したたり落ちる。(金 I-344)、ouse-turse<聲高く、明瞭に、はきはきと・落ちる>(研W310)」

※5 参考:koomukukkel「行って見えなくなった(脚注:のまれて行った)」(金 II-342)、ずぶりと入る(金 II-354)ずぶりと没し(研868)、

5-3 生き返った姫

- 2249 kuchiasukai※1 wa
クチ アシカイ ワ
その喉が有能であつて
美しい声で
- 2250 hawash
ハワシ(←ハウ アシ)
声する
謡う
- 2251 nankor'a.
ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
だろう か
のだろうか。
- 2252 Ki shinotcha
キ シノツチャ(←シノツ サ)
する 遊ぶ 節
謡う歌は
- 2253 eraunkuchi
p.49 エラウン クチ
それで奥のその喉
のどの奥で
- 2254 kamui noye
カムイ ノイエ
美しく 縋る
絶妙なふしとなり、
- 2255 esambarkashi
エサムバラカシ(←エ サン バラ カシ)
そこから出る口の上
くちびるから
- 2256 kamui riwak ne
カムイ リワク ネ
神 還る ように
祭られた神が天に還る時のように
- 2257 uwetunuisse kane,
ウエトウヌイセ カネ
互いに金属音を鳴らす 状態で
美しく響かせていて、
- 2258 uturu an ko
ウトウル アン コ
その間 あると
その合間合間に
- 2259 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘の
- 2260 benram kurka
ベンラム クルカ
上胸 姿の上
胸の上に
- 2261 tu binu hushsa
トゥ ビヌ フシサ
二つの密やかな息吹
フッフツという蘇生いぶきの息吹
- 2262 re binu hushsa
レ ビヌ フシサ
三つの密やかな息吹
数々のひそやかな息吹を
- 2263 ekarbare.
エカバレ
で造る+(複数形語尾) させる
吹きかける。
- 2264 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 2265 a-koarikiki
アコアリキキ
我らが・に 精を出す
われらが一生懸命
- 2266 aine aine,
アイネ アイネ
そして そして
そうやってやっているうちに、
- 2267 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図(挿入音)として
神のおぼしめしによって
- 2268 hunakbakita
フナクバキタ(←フナク バク イタ)
どこに 及んだ時に
いつしか
- 2269 pom menoko iboro
ポム(←ポン) メノコ イボロ
若い 女 の顔色
娘の顔色に
- 2270 uweebakita
ウエエバキタ(←ウ エエバキ タ)
互いの次に
だんだん
- 2271 kemot koro okai.
ケモツ(←ケム オツ) コロ オカイ
血がたくさんある ながら いる
血の気がもどってきた。
- 2272 Urebet ka ta
ウレベツ カ タ
足指 上 に
足指の
- 2273 koeteseshke,
コエテセシケ
に頭 反る+(自動詞形成語尾)
先がかすかに反り、
- 2274 shikrap ka ta
シクラブ カ タ
目羽 上 に
まつげの
- 2275 koeteseshke
コエテセシケ
に頭 反る+(自動詞形成語尾)
先もヒクヒク動い
- 2276 koro okai.
コロ オカイ
ながら いる
ていた。
- 2277 Shino tun a-ne wa
シノ トウン アネ ワ
真に 二人 我ら・であつて
本当にわれら二人は
- 2278 nubetne tura
ヌベツネ トウラ
喜び と共に
喜びながら
- 2279 a-koarikiki aine
アコアリキキ アイネ
我らが・に 精を出し ているうちに
懸命に続けているうち、
- 2280 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘は
- 2281 a-annanorke
アアンナノロケ(←ア アラ ナン オロケ)
わが・半 顔の所
われの顔を半分まで
- 2282 oshikmaka,
オシクマカ
に目を開く
目をあけて、
- 2283 i-koshikraiba
イコシクライバ
我に・向かって目をやる(sikraye 複)
われを目撃
- 2284 aike sui
アイケ(←ア ヒケ) スイ
たすると また
すると、また
- 2285 makan inkarbe
マカン インカラベ
どう 見た もの
どのように見えたのか、
- 2286 "Ayabo!" ari
アヤポ アリ
あ痛! と
「キヤー!
- 2287 "Oyoyo!" ari
オヨヨ アリ
おいおいと
いやあ!」と
- 2288 itak kane
イタク カネ
言う 状態で
言つて
- 2289 nittek.※2
ニツテク
固くなる ちよつと
こちこちの骸に戻つた。
- 2290 Kannaruino sui
カンナルイノ スイ
再び+(強意) また
再びまた
- 2291 a-koarikiki
アコアリキキ
我らが・に 精を出す
われらが懸命に
- 2292 aine aine,
アイネ アイネ
そして そして
魂を呼び戻しているうちに、
- 2293 tambota anakne
タムボタ(←タン ポタ) アナクネ
今+(指小辞)には
今度は
- 2294 sonno shiknu tusa
ソンノ シクヌ トウサ
本当に 生き返る 蘇生
ほんとうに命を取り戻し
- 2295 urenkare i
ウレンカレ イ
互いに 配慮させる こと
蘇生させたことが

※1 「kuchi-ashkai【形容詞】<喉が・有能>声がよい」(語法)「何とて/その喉のいみじくも/ありけるかな(研809)、何とてまた/その喉の調べの妙/かくもありけるにや(研824)」、《萱野茂訳》「なんとまあ/声がきれいで/あるのだろうか。」(教22-113)

※2 参考:「nit-tek-an<ちよつと固くなる・わたしが>わたしがこちこちのからだになつていた」(金1-262)

5-3 生き返った姫

- 2296 a-eraman.
ア エラマン
我らは・わかる
わかった。
- 2297 Moiretara
モイレタラ
ゆっくりと
娘はゆっくりと
- 2298 oribak tura
オリバク トウラ
慎み と共に
遠慮深く
- 2299 hebuni wa,
ヘブニ ワ
顔を上げて
顔をあげて、
- 2300 chish turanno
チシ トウランノ
泣く を伴って
泣きながら
- 2301 eusar unwa
エ ウサラ ウンワ
頭下座 にして
下座から
- 2302 shinushinu
シヌシヌ
膝行する+(重複)
ひざをついて
- 2303 reyereye.
レイエレイエ
這い進む+(重複)
にじり進んできた。
- 2304 Eashka
p.50 エアシカ
本当に
それこそ
- 2305 'Sonep hean ?
ソネ プ ヘ アン
本当の事 か ある
『まことだろうか？』
- 2306 Ambe hean ?
アムベ(←アン ベ) ヘ アン
ある事 か ある
真実だろうか？
- 2307 Ene hetap !
エネ ヘ タッ
このように か これ
なんとかこれで
- 2308 sone makan
ソネ マカン
本当に どのように
ほんとうに
- 2309 shiknu kunip
シクヌ クニッ
生きる はずの者
命をとりとめ
- 2310 tusa kunip
トウサ クニッ
なおる はずの者
生き返る
- 2311 hean !' ari
ヘ アン アリ
か ある と
のだろうか！』と
- 2312 keutum otta
ケウトウム オッタ(←オ ロ タ)
心 の所で
内心で
- 2313 yaikouyebeker-an
ヤイコ ウイエベケレ アン
自分に 物語る・我は
われは心配していた
- 2314 humi okairok awa,
フミ オカイ ロク アワ
その感情 あった ところが
のであったのだが、
- 2315 kamuinubur kusu,
カムイヌブル クス
神の呪力 ゆえに
神の偉大な霊力でもって、
- 2316 tane anakne
タネ アナクネ(←アン ヤクネ)
今 ある ~すれば
とうとう
- 2317 sonno shiknu i
ソンノ シクヌ イ
本当に 生き返る こと
ほんとうに命を取り戻したことが
- 2318 a-noeraman chiki,
アノエラマン チキ
我は・よくわかる から
はっきりわかったから、
- 2319 keutum oshiwano
ケウトウム オシワノ
心 の中 から
心から
- 2320 ramoshiwano
ラムシワノ(←ラム オシワノ)
心 の奥底 から
心の底から
- 2321 kamuikoyairaike-an.
カムイコヤイライケ アン
神に 感謝する・我は
われは神に感謝した。
- 2322 Hokaetok ta
ホカエトク タ
炉先 に
いちばん上席である横座の
- 2323 abe teksam
アベ テクサム
火 手傍
炉端
- 2324 a-ehorari wa,
アエホラリ ワ
我は・に 尻 を押さえて
にわれはどっかと座って、
- 2325 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘
- 2326 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
のからだに
- 2327 a-shikomare.
アシコマレ(←ア シク オマレ)
我は 目を~に入れる
目をやった。
- 2328 Huihuinawano
フイフイナワノ
どこどこの方 から
すみずみまで
- 2329 a-uwambare wa
アウワムバレ ワ
我は・~を観察して
よく注意して
- 2330 inkar-an ko,
インカラン(←インカ ラ アン) コ
眺める・我が と
眺めると、
- 2331 inerokbekusu !
イネ ロク ベクス
何とあった こと ゆえ
何とまあ！
- 2332 pirika wa
ピリカ ワ
美しく て
美しくて
- 2333 shiretokkoro wa
シレトクコロ(←シリ エトクコロ) ワ
様子の先端 を持つ て
よい器量で
- 2334 okai nankor'a !?
オカイ ナンコロ(←ナンコロ ヤ)
ある だろう か
あったらどうか。
- 2335 Kamui otobi
カムイ オトビ
神 の髪 の毛
美しい髪 の毛は
- 2336 sarambeka ne
サラムベカ ネ
絹糸 のように
絹糸のように
- 2337 ekimui kashi
エキムイ カシ
その頭 の上に
その頭上に
- 2338 chiesurure.※1
チエスルレ
自身で 広がら せる
広がっておおいかぶさり、
- 2339 reuboki ta
レウ ボキ タ
内側の湾曲 の下 に
髪 の毛 の下 には
- 2340 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が
- 2341 rikoma chup ne
リコマ(←リク オマ) チュブ ネ
高く昇った 太陽 のように
真昼の太陽のように
- 2342 i-nantasare,
イナンタサレ
我に・顔面から 光を反射させる
まばゆく照り輝き、
- 2343 basatur.※2 konna
バストウル(←パシ ウトウル) コンナ
入れ墨 間 (調律)
いれずみで青く染まった口の周辺が

※1「沙流方言 chiesarare<ひろがる>という所」(金Ⅶ-53)

※2 pa sutur「《知里ナミ説》巫術(nupur)することだと。pash 入墨。口のまわりを入墨で青く染めているさまをほめていう」(金Ⅲ-232)

- 2344 komaknatara.
コ マ^ツナタラ
に対して 輝く
明るくさえざえと輝いている。
- 2345 Eashka sonno
エア^シカ ソンノ
それこそ 本当に
彼女はすっかり
- 2346 shinki ruibe
シンキ ルイ ベ
疲労 が激しいもの
疲れきり、
- 2347 usa iberusuibe
ウサ イベルスイベ
色々 物を食べるしたいもの
空腹でもあるもの
- 2348 konep ne kusu
p.51 コネ^ツ ネ クス
(調律)であるもの である 故に
だから、
- 2349 ibottum konna
イボツウム(←イボ^ロトウム) コンナ
顔色の中(調律)
顔色も
- 2350 koshumnatarata
コ シュム ナタラ
に対して 萎れる ~し続ける
生気を失い
- 2351 korennatarata.
コレン ナタラ
共に 沈む 状態が続いている
沈んだ冴えない色をしている。
- 2352 Kip ne koroka
キ^ツ ネ コロカ
~をするもの だけれど
しかし、
- 2353 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様 をなす
神の姿のようになった
- 2354 yaitumamka-
ヤイ トウマム カ
自身 胴体の上
自分のからだを
- 2355 uwambare,
ウワムバレ
を観察する
眺め、
- 2356 katu ne kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 2357 yaituyashkarap
ヤイ トウヤシカラ^ツ
自身 を憐れむ
情けなく
- 2358 yainikorooshmap
ヤイ ニコロ オシマ^ツ
自身 のすきまに突進するもの
恥ずかしく思うの
- 2359 newa ne yakne
ネワ ネ ヤ^ツネ
であって である ならば
であるなら
- 2360 kotomkorokaiki,
コトム コロカ イキ
似つかわしい けれども+物事 をする
いいのにそうではなく、
- 2361 otuchishwembe
オトウ チ^シウエムベ(←ウエン ペ)
幾つもの 二つ 泣く 悪水
たくさんの涙
- 2362 orechishwembe
オレ チ^シウエムベ(←ウエン ペ)
幾つもの 三つ 泣く 悪水
数々の涙
- 2363 yayekote.
ヤイエコテ(←ヤイ エ コテ)
自身のそこに 結びつける
にかきくれた。
- 2364 Pon a-kor sapo
ポン アコ^ロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 2365 chirikibuni
チリキ ブニ
自身を 高く上げる
起ち上がり、
- 2366 kani chikirbe
カニ チキリベ
金の 刺繍衣
黄金色の刺繍着
- 2367 kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神の 刺繍衣
神々しい刺繍着を
- 2368 uworuiruke※1
ウウォルイルケ(←ウ ウォ^ロ ウイルケ)
互いの中に置く
重ねたのを
- 2369 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い娘
- 2370 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
のからだ
- 2371 ebirasa,
エビラサ
そこに 広げる
にさっと広げ、
- 2372 tu pirika kunip
トゥ ピリカ クニ^ツ
二つの 良い はずのこと
たくさんのいいこと
- 2373 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ^ツ
三つの 良かる べき こと
いくつものいい言葉
- 2374 ebakashnu
エバカシヌ
で教え諭す
をかけて
- 2375 omaoma chiki,
オマオマ チキ
なぐさめる なら
なぐさめると、
- 2376 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘は
- 2377 ineapkusu
イネ ア^ツクス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ
- 2378 itak nu wa
イタ^ツヌ ワ
言葉 を聞いて
聞きわけの
- 2379 ikichi nankor'a !?
イキチ ナンコラ(←ナンコ^ロ ヤ)
物事 をする だろう か
いいことだろうか。
- 2380 Eharkiso un
エハラキソ ウン
その頭 左側の 座 にある
左座の
- 2381 shikkeu※2 orun
シクケウ オルン
隅 へ
すみへ
- 2382 shinu kane
シヌ カネ
膝行する 状態で
ひざ立ちで
- 2383 reye kane
レイエ カネ
這う 状態で
にじり進んで
- 2384 baye wa imi.
バイエ ワ イミ
行っ て 着る
その着物を着た。
- 2385 Pon a-kor sapo
ポン アコ^ロ サポ
小 我・が持つ 姉
姉上は
- 2386 abesamunwa
アベサムンワ(←アベ サム ウンワ)
火のそば に行つて
炉端を通つて行つて
- 2387 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘
- 2388 santekebo amba
サン テケボ アムバ
出る その手+(指小辞) 手に持つ
の手をとり、
- 2389 abetuisam ne
アベトウイサム ネ
火 すぐそば に
炉端に
- 2390 eare kane.
エアレ カネ
そこに 座らせる 状態だ
座らせた。
- 2391 Kusuri o pon shu
クスリ オ ポン シュ
薬 を入れる 小 鍋
薬草を煎じる小鍋を

※1 原綴 uworuiruke 参考:「相重ねて」(金Ⅷ-33[金田一筆録、日高・沙流、鍋沢ワカルバ所伝])

※2 harkiso un shikkeu「左座の隅(脚注:自分の寝所)」(金Ⅵ-336)

5-3 生き返った姫

- 2392 hoka tuika
ホカ トウイカ
炉火 の上端
炉かぎ
- 2393 eterkere,
エ テレケレ
そこに 跳ばす
にかけ、煎じた薬を
- 2394 itanki oro o wa
イタンキ オロ オ ワ
椀 の中に 入れて
お椀に入れて
- 2395 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
娘
- 2396 koturiri
p.52 コトウリリ(←コトウリトウリ)
に向かって 伸ばし伸ばしする
に差しのばして
- 2397 koorsutke chiki,
コオロスツケ チキ
に向かって 励ます なら
すすめたところ、
- 2398 oribak tura
オリバク トウラ
つつしみ と共に
娘はつつしみ深く
- 2399 uina wa
ウイナ ワ
受け取っ て
受け取って
- 2400 rikunruke
リクンルケ(←リク ウンルケ)
高く 置く
椀を高くささげ
- 2401 raunruke
ラウンルケ
低く 置く
低くささげて
- 2402 koonkami orowa
コオンカミ オロワ
~に 拝礼する それから
拝礼してから、
- 2403 pirika kusuri
ピリカ クスリ
よい 薬
効き目ある薬の
- 2404 tu kunnu※1 mawe
トウ クンヌ マウエ
二つの (不詳) 気
たくさんの薬の気
- 2405 re kunnu mawe
レ クンヌ マウエ
三つの (不詳) 気
あまたの薬効の気を
- 2406 onnarukba.
オンナ ルクバ
内部に 飲み込む
飲み込んだ。
- 2407 Eashka
エアシカ
本当に
それこそたちまち

- 2408 tumashnu ruwe
トウマシヌ(←トウム アシヌ) ルウエ
力が 充分ある その事実
元気になったことが
- 2409 a-koeraman.
アコエラマン
我は・に対して わかる
わかった。
- 2410 Tane anakne sonno
タネ アナクネ ソンノ
今 は 本当に
もうすっかり
- 2411 ramushinne-an.
ラムシンネ アン
安心する・我らは
われらは安心した。
- 2412 Ari an ko
アリ アン コ
と ある と
とあつて
- 2413 oyak ta terke.
オヤク タ テレケ
よそ に 跳ぶ
語り手が変わる。

※1 ←kur-nu<影・多い>効き目ある(?), 呪力ある(?) 参考:「黒イ、暗黒ナル kunnu itak=pon itak=wen itak」(久147)「危険ナル.adj. Dangerous. Syn.Kunru.Kuntu.」(B281)「クンネイタク(←kunne-itak) 呪いの言葉」(萱220)

第6章 イヨチの館で

6-1 気がついたら

2414 Nekona shino
ネコナ シノ
どう 本当に
本当にどう

2415 iki-an humi
イキ アン フミ
物事 をする・我が その気配
したこと

2416 ne nankor' a !?
ネ ナンコラ(←ナンコ□ ヤ)
である だろう か
なのでしょうか。

2417 A-konramkonna
アコンラムコンナ(←ア コ□ ラム コンナ)
我が・持つ 心 +(調律)
わたしの気持ちは

2418 koshitnatara.
コシツ ナタラ
共に 糸のもつれた塊 になり続ける
わが ^{わか}解らなくなりました。

2419 Inenep hawe
イネ ネ プ ハウエ
どうである 者 の声
誰やらの声

2420 ine nep humi
イネネ プ フミ
どうである 者 の音
何やらの音の

2421 tu utursama
トゥ ウトウル サマ
二 間の側
合間

2422 re utursama
レ ウトウル サマ
三 間の側
合間に幾度も幾度も

2423 koyaimososo※1
コヤイ モソソ
そこに 自身 目をさます+(反復)
目がさめ

2424 a-ki kush ne ko,
アキ クス ネ コ
我は・し ようとすると
ようとしては覚めきれないで、

2425 tu takar sone※2
トゥ タカラ ソネ
二 夢 本当である
うつらうつらと

2426 re takar sone※
レ タカラ ソネ
三 夢 本当である
夢ごちになつて

2427 a-uweomante.
アウウェオマンテ(←ア ウ エ オマンテ)
我は・互いが ~へ 行か せる
気が遠くなつてしまう。

2428 Aine, hunakbaketa※3
アイネ フナクバケタ(←フナク バク イタ)
したあげく どこに 及んだ 時に
そうやっていて、どれほどたつてか

2429 tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今ようやく

2430 ainu keutum
アイヌ ケウトウム
人間の 精神
正気に

2431 a-kor awan kusu,
ア コ□ アワン クス
我は・を 持つ たところ ゆえに
戻つたので、

2432 kisarbo ne kusu※4
キサラ ボ ネ クス
耳+(指小辞) である から
耳だけはちょっと聞こえるから

2433 inu-an awa,
イヌ アン アワ
ものを聞く・我は たところが
聞いていたところ、

2434 nekon ne hawe
ネコン ネ ハウエ
どう である その声
何の声

2435 ne nankor' a !?
ネ ナンコラ(←ナンコ□ ヤ)
である だろう か
なのでしょうか?

2436 Ainu hawe
アイヌ ハウエ
人間 の声
人の声

2437 ne nankor' a !?
ネ ナンコラ(←ナンコ□ ヤ)
である だろう か
なのでしょうか。

2438 Beure okkaipo kutor
ベウレ オクカイ ポ クト□(←クツ オ□)
若い 男+(指小辞) 喉内
若い青年の声が

2439 ki charanke
キ チャランケ
する 口をおろす(弁論)
している談判が

2440 kakkok hau ne
カクコク ハウ ネ
郭公鳥 声 のように
カッコウの鳴き声のように

2441 ouseturse
p.53 オウセトウルセ
下へ 切れ切りに 落ちる
明瞭に下にひびき落ちてきます。

2442 Ineapkus
イネ ア ックス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ

2443 kuchi pirika wa
クチ ピリカ ワ
その喉 よく て
お上手に

2444 hawash nankor'a !
ハワシ ナンコラ(←ナンコ□ ヤ)
声する だろう か
おっしゃっていることでしょうか。

2445 Eraun kuchi※5
エラウン クチ
それで 奥の その喉
のど奥から出す

2446 kamui noye
カムイ ノイエ
美しく 縋る
小節(こぶし)を

2447 esambar kashi
エサムバラ(←エ サン バラ) カシ
そこで 出る 口 その上
その口元から

2448 kamui riwak ne
カムイ リワッ ネ
神 還る ように
祭られた神が天に戻るように

2449 uwetunuisse kane,
ウエトウヌイセ カネ
互いに 金属音を鳴らす 状態で
美しく響かせながら、

2450 tu kamui shinrit
トゥ カムイ シンリツ
二つの 神の 根元
数々の神の起源

2451 re kamui shinrit
レ カムイ シンリツ
三つの 神の 祖先
いくつもの神々の根源を

2452 obentari
オベンタリ
下端 上に をあげる
解き明かして

2453 kamui nishuk hawe
カムイ ニシュク ハウエ
神 に呼びかける その声
神の助けを乞い願うその声

2454 ne i a-eraman.
ネ イ アエラマン
である こと 我は・それを知る
であることがわかりました。

2455 Koeturenno
コエトウレンノ
(不詳)
それと同時に(?)

2456 sui menoko kutor
スイ メノコ クト□(←クツ オ□)
また 女 喉内
また女性の声つき

2457 beure kutor
ベウレ クト□(←クツ オ□)
若い 喉内
若い声が

2458 chish turanno
チシ トウランノ
泣く を伴って
泣きながら唱える

※1 原綴koyaimososa「ko-yai-mososo(原綴mososa) <そこに・自身を・目をさます>。mososo は moso<目をさます>の反復形=moso-moso」(金 I-136 「yaimoshosho」(研W599))

※2 「so-ne<本当・である>=kunne のよう」(金 I-136)

※3 「hunak-pak-ita<どこに及んだ・時に>どれほどたつた時にか、ふっと(金 I-132)、<どこか・ほど・時に(-i は名詞法語尾、ta はに)>どこほどあつてか、どれぐらいあつた時か(金 I-245)」

※4 《萱野茂訳》「耳だけは聞こえるので/聞いていると(教Ⅲ-103)」

※5 《萱野茂訳》「…喉の奥を/神がねじり/私の出る口の上に/響いて/神が鎮座する声として/連なり出る。」(教26-199~200)

6-1 気がついたら

- 2459 tushu shinotcha
トウシュ(←トウス) シノッチャ
巫術 歌
巫術の歌
- 2460 ehautumkonna
エ ハウトウム コンナ
で声カ+(調律)
声が
- 2461 tununitara,
トウヌニタラ(←トウトウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
高く響きわたっていて、
- 2462 uwobuk hawe
ウウオブク(←ウ オ プク) ハウエ
互いに そこから 起こる その声
しょうわ
唱和している声
- 2463 bebunitara hawe
ベブニタラ(←ベブン イタラ) ハウエ
ベブンという音 続いている その声
その騒がしい声
- 2464 a-koyaishikarun.
ア コ ヤイ シカルン
我は・～に対して 自身で 我と気がつく
にわたしは気がつきました。
- 2465 I-ebotara※1
イ エボタラ
我に・加持祈祷
わたしに祈祷して
- 2466 chikeutusare kunip
チ ケウトウサレ クニ プ
ている 骸を蘇生させ はずの 者
助けようとしている方々が
- 2467 ene haweokai i
エネ ハウエオカイ イ
こう 言う こと
そのように唱えていらっしやるの
- 2468 ne i katu
ネ イ カトウ
である こと の有様
であることが
- 2469 a-noeraman,
ア ノ エラマン
我は・よくわかる
はっきりわかり、
- 2470 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
心の底からの 気持ち
心底驚い
- 2471 a-yaikore.
ア ヤイ コレ
我は・自分に ~を与える
てしまいました。
- 2472 Kankan kunip
カナカン(←カナク アン) クニ プ
どうある はずのもの
どなたかの
- 2473 kirkeu kashi
キリケウ カシ
膝 の上
膝のうえに
- 2474 a-eoma kane
ア エ オマ カネ
我は・その頭 に位置する 状態で
わたしは頭をのせて
- 2475 an-an kotomno
アナン(←アン アン) コトムノ
いる・我は らしく
いるように
- 2476 iramu-an.
イラム アン
ものを思う・我は
思われました。
- 2477 Tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今度こそ
- 2478 shikmakaka-an.※2
シク マカカ アン
目 パチパチ開ける・我は
わたしは目を見開きました。
- 2479 Seenekasui
セエンネカスイ
まさかまた～しない
まさかまた
- 2480 inkar-an kuni
インカラン(←インカラ アン) クニ
眺める・我が はずと
そんなものを見るとは
- 2481 a-ramu rok i,
アラム ロキ(←ロク イ)
我は・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 2482 nea Menashsam
ネア メナシ サム
例の 東方 そば
あのメナシサム
- 2483 un attush
ウン アットウシ
にある 厚司
の厚司や
- 2484 Menashsam
メナシ サム
東方 そば
メナシサム
- 2485 un konchi,
ウン コンチ
にある 帽子
の兜と
- 2486 tururun
トゥルルン(←トゥルル ウン?)
(不詳)
トゥルルの(?)
- 2487 kuwa korbe
p.54 クワ コロベ
杖 持つ者
杖を持っていた者、
- 2488 Iyochi un kuru ne
イヨチ ウン クル ネ
イヨチ に住む 人 である
『イヨチびとだ』
- 2489 ari itak koro
アリ イタク コロ
と 言い ながら
と言って
- 2490 i-shikomuite ap
イシコムイテ ア プ
我に・自分の シラミとりをさせ た 者
わたしにシラミとりをさせた者の
- 2491 annanorke
アンナノロケ(←アラ ナン オロケ)
半 顔 の所
顔を半分まで
- 2492 a-oshikmaka
ア オ シク マカ
我はそこに 目 を開く
目を開けて
- 2493 inkan ne wa
インカン(←インカラ) ネ ワ
ものを見る であつて
見ただけ
- 2494 a-kip ne koroka,
ア キ ッ ネ コロカ
我は・をするもの である けれど
で、
- 2495 homatu ruibe
ホマトウ ルイ ベ
喫驚 激しいもの
わたしは非常に驚いた
- 2496 a-nep ne kusu,
ア ネ ッ ネ クス
我であるもの である 故に
ものだから、
- 2497 "Ayabo!" ari
アヤポ アリ
あ痛 と
「キヤー！」
- 2498 "Oyoyo!" ari
オヨヨ アリ
おいおい と
いやあ！」と
- 2499 itak-an,
イタカン(←イタク アン)
言う・我が
言い、
- 2500 tambe batek
タムベ バテク
これ だけ
それっきり
- 2501 pirika takar ne
ピリカ タカラ ネ
よい 夢 のように
よい夢のように心でわかりつつ
- 2502 a-uweomante,
アウウェオマンテ(←ア ウ エ オマン テ)
我は・互に へ 行か せる
気が遠くなり、
- 2503 nekon ne ya
ネコン ネ ヤ
どう である か
どうなったのか
- 2504 anattaraye
アナッタライエ(←アン アラ タライエ)
我は・全くそこに 殺す
わたしは意識を失って
- 2505 aine hunakbakita
アイネ フナクバキタ(←フナク バク イタ)
したあげく どこに 及んだ 時に
しまい、どれほどたつた時にかやっと
- 2506 sui a-yaishikarun.
スイ ア ヤイ シカルン
また 我は・自身に われと気がつく
目が覚め、わたしは正気に返りました。

※1 「e-potara<それによって・病魔を追う>《幌別、沙流》ni epotara '木の神に頼んで病魔を追う'」(人261)

※2 「shik-makaka-an<目・ぱちぱち明ける・われ>。mak パツと開く、maka は<明ける>で maka maka→makaka はその反復形…」(金 I-137)

6-2 思い惑う姫

- 2507 Ubakitara※1
ウバキタラ(←ウ パク イタラ)
互い 程度の 状態が続く
あいかわらず
- 2508 i-einonnoitak-
イ エ イノンノ イタク
我・について 神様にたのむ 詞
わたしへ加持祈祷する
- 2509 an hawe
アン ハウエ
人々が の声
声が
- 2510 bebunitara.
ベブニタラ(←ベブン イタラ)
ベブンという音 続いている
声高に続いています。
- 2511 Hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
そのようだから、
- 2512 hembara bakno
ヘムバラ バクノ
いつ まで
いつまでも
- 2513 tap korachi
タッ コラチ
この 如く
このように
- 2514 shieramushitnere-
シエラム シツネレ
自身 について 心を・もつれさ せる
自分のために骨を折らせて
- 2515 ambe an ? Ari
アム(←アン) ベ アン アリ
・人々が こと ある と
いいのかしら？と
- 2516 yainu-an.
ヤイヌ アン
考える・我は
わたしは思いました。
- 2517 Yupke rambo
ユッケ ラムボ
強い 気持ち+(指小辞)
思い切って勇気を
- 2518 a-yaikore,
ア ヤイ コレ
我は・自身に ~を与える
出し、
- 2519 hebuni-an wa
ヘ ブニ・アン ワ
頭を持ち上げ・我は て
頭をあげて
- 2520 inkar-an ko
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
眺めてみると、
- 2521 iyainumare!
イ ヤイ ヌマレ
我に 自ら 起き上がら せる
まあ驚いた!
- 2522 tam boro chise
タム(←タン) ボロ チセ
この 大きな 家
こんな大きな家
- 2523 upsoroho
ウッソロ
その懐
の中
- 2524 a-koshikmaka.
ア コ シク マカ
我は・に向かって 目 を開く
でわたしは目を開いたのでした。
- 2525 A-un chise
ア ウン チセ
我が・~にいる その家
ポンテセウのわが家の
- 2526 iyoma ruwe
イヨマ(←イ オマ) ルウエ
物 入る その事実
調度品と
- 2527 turbak kunip
トゥルバク クニッ
匹敵する はずの 物
同じくらいか
- 2528 ekasu kunip
エ カス クニッ
それに 過ぎる べき こと
いやそれにも優る
- 2529 ne nankor' a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
でしょうか。
- 2530 Chise upsoro
チセ ウッソロホ
家 その懐
家の中いっぱいの
- 2531 iyoma ruwe
イヨマ(←イ オマ) ルウエ
物 入る その事実
調度品が
- 2532 atomte ruwe
アトム テ ルウエ
人が・光ら せる その事実
美しく飾られているようすは
- 2533 usahuihuike※2
ウサ フィフイ ケ
色々 どこかここか の所
どこもかしこも
- 2534 a-koerayap.
ア コ エラヤッ
我は・~に 感嘆する
すばらしい。
- 2535 Eutur unwa
p.55 エウトウルンワ(←エ ウトウル ウンワ)
その頭 木尻座 に行つて
下座へ
- 2536 shinushinu-an.
シヌシヌ アン
膝行する+(重複)・我は
わたしは膝立ちで進みました。
- 2537 A-yaitumamka※3-
ア ヤイ トウマム カ
我は・自身 胴体 上
自分のからだ
- 2538 kouwante wa
コ ウワンテ ワ
に向かって 見調べ て
を調べて
- 2539 inkar-an ko,
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 2540 okayomip
オクカヨミッ
成人男子 が着る 物
男が着る
- 2541 kani kosonte
カニ コソソテ
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装
- 2542 ouse ear be ne
オウセ エアラ ベ ネ
ただ~だけ 一つ もの になる
たった一枚に
- 2543 a-yaikokari
ア ヤイ コ カリ
人が・自分 と一緒に を回る
くるまれ
- 2544 kane an-an.
カネ アナン(←アン アン)
状態で いる・我は
てわたしはいたのでした。
- 2545 Konepkeukata
コネッ ケウ カタ
(調律) 何 体 上 (感動)
おおあわれ、
- 2546 konepkashita !
コネッ カシ タ
(調律) 何 上 (感動)
ああかなしい。
- 2547 Shukup matkachi
シュクッ マツカチ(←マツ ヘカチ)
若い 女童
とは
年端もいかぬ少女
- 2548 a-ne awa,
ア ネ アワ
我・であつ たところが
であるわたしののに、

※1 原綴 Ukitara

※2 参考:「huihuina(脚注:neike-huike<どこか彼處か>の hui<彼處を>重ねた形。na は方)」(研822)

※3 原綴 Ayaitumamko

6-2 思い惑う姫

- 2549 annitnekamui
アンニツネ (←ア^ラ ニツネ) カムイ
全く堅い 神
凶悪な魔神が
- 2550 i-katkar wa
イカツカ^ラ ワ
我に・様子を作っ て
わたしをたぶらかして
- 2551 i-eterkere, ※1
イエテ^レケ
わたしをそこで跳ばす
わたしに踊り跳ねさせた(?)
- 2552 aine nekona shino
アイネ ネコナ シノ
そのあげく どう 本当に
あげく、あんなにも(?)
- 2553 i-kar a ruwe
イカ^ラ ア ルウエ
我に・作った 事実
わたしを化かしたの
- 2554 ne ko neap, ※2
ネ コネア^プ
であるとであったもの
であったのに(?)、
- 2555 neepkoroambe ※3
ネエ^プコロアム^ベ(←アン ペ)
のように(nepkor強調形) ある者
そのような方が(?)
- 2556 menoko tura
メノコ トウラ
娘 と一緒に
女性と一緒に
- 2557 chikeutusare
チケウトウサレ
~のこと 骸を蘇生させる
わたしの命を取り戻す
- 2558 i-y-ekarkar,
イエカ^ラカラ
我に・~をし
ために、
- 2559 kamui nishuk
カムイ ニシユク
神 に呼びかける
神助を乞い願う
- 2560 hawe a-nu ko,
ハウエ アヌ コ
その声 我が・を聞く と
声を聞いて、
- 2561 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチ に住む お方
イヨチびと
- 2562 usakoro kane
ウサコロ カネ
互い 姉を持つ 状態
姉弟
- 2563 ne i katu
ネ イ カトウ
である こと の有様
であること
- 2564 a-eraman.
アエラマン
我は・わかる
がわかりました。

- 2565 Tapne kane
タ^プネ カネ
このような 状態で
あのように
- 2566 nitnekamui
ニツネ カムイ
こちこちに堅い 神
魔神が
- 2567 i-eshinot
イエシノツ
我を・それで おもちゃにする
わたしをもて遊び
- 2568 i-raike katu
イライケ カトウ
我を殺す 有様
わたしを殺そうとしていることを
- 2569 nekona ne wa
ネコナ ネ ワ
どう であって
どうして
- 2570 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチウンクルが
- 2571 eraman?
エラマン
わかる
お分かりになったのか?
- 2572 kimun iworso
キムン(←キム ウン) イウオ^ロソ
山にある 狩場
山奥の狩り場
- 2573 iworso ka ta
イウオ^ロソ カタ
谷間 平らな広がり の所 上 で
その山奥で
- 2574 makananita
マカナニタ(←マカン アンイタ)
どのようにある 時に
時々は(?)
- 2575 semash ※4
セマシ
ざっと
うっすらとところどころ
- 2576 yaishikarun-an
ヤイシカルン アン
自身にわれと気がつく・我は
気がつき
- 2577 ranke roki
ランケ ロキ(←ロク イ)
ときどきし たこと
ながらいたことを
- 2578 tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
たった今
- 2579 takar korachi
タカラ コラチ
夢 のように
夢のように
- 2580 a-eshikarun.
アエシカルン
我は・~を覚えている
わたしは思い出しました。

- 2581 Shukup upsorka
シュク^プ ウ^プソ^ロカ
若い ふところ 上
乙女の胸も
- 2582 totto upsorka ※5
トット ウ^プソ^ロカ
祖母の ふところ 上
先祖代々大事にしてきた肌も
- 2583 a-i-kochari kane,
アイコチャリ カネ
人が・我に・ 散らす 状態で
露わにされて、
- 2584 rai ne yakka
p.56 ライネ ヤ^クカ
死 であつても
死といつても
- 2585 semkatune
セムカトウネ
(否定) 常態 である
当たり前でない
- 2586 katuchiwente
カトウチウエンテ
その様 ~こと 悪くなら せる
はずかしめを
- 2587 a-i-y-ekarkar ruwe
アイエカ^ラカラ ルウエ
人が・我に・ ~を施す その事実
受けたことが
- 2588 usetara
ウセタラ
ちゃんとはっきり
はっきり
- 2589 a-noeraman.
アノエラマン
我は・よくわかる
わかりました。
- 2590 Ukorachino
ウコラチノ
互いに そのように
と同時に
- 2591 a-eyashtomap
アエヤシトマ^プ(←アエヤイシトマ^プ)
我は・それについて 自身を 怖れる 者
わたしは恥ずかしいこと
- 2592 newa ne yakka
ネワ ネ ヤ^クカ
であつて であつても
ではあるけれども、
- 2593 uneno matainu
ウネノ マタイヌ(←マツ アイヌ)
同じ 女人
同性の
- 2594 shineupsorkorbe
シネウ^プソ^ロコ^ロベ
一つの 懐を持つ 者
同じ一族の者
- 2595 ne i-ba-an i
ネイバアン イ
に 我を・発見する・人が こと
にわたしが見られたの
- 2596 ne a yakne
ネアヤ^クネ
であつた ならば
であつたならば

※1 原綴 ieterke

※2 neap「だもの」(金 I-106)

※3 nepkorambe「nepkor-an-pe<~のよう・なる・もの>」(金 II-166)

※4 semash「=chanan ざつとしたる、薄き。謙辭(研737)、ただの、くだらない、にせの(金 III-175)」

※5「祖母の肌、母の肌、すなわち、女系の代々大事にして来た肌をば…。」(金 I-144)

- 2597 ponnoka
ポンノカ
少しも
少しは(?)
- 2598 pirikap ne koroka,
ピリカ^フ ネ コロカ
いいものであるけれど
いいのだけれど、
- 2599 Iyochi un kuru nesun
イヨチ ウン クル ネスン(←ネシ ウン)
イヨチに住む お方 きっと~なんだ
きっとイヨチびとが
- 2600 i-koekari wa
イコエカリ ワ
我・にそこで回って
わたしに出会って
- 2601 okkayomip
オクカヨミ^フ
成人男子が着る物
男の着物
- 2602 a-i-mire
アイミレ
人が・我に・着せる
をわたしに着せた
- 2603 ruwe okai ne ari
ルウエ オカイ ネ アリ
事実 ある であると
のだと
- 2604 yainu-an chiki,
ヤイヌ アン チキ
考える・我は なら
思うから、
- 2605 eashka
エアシカ
それこそ
ほんとうに
- 2606 yayikush keutum
ヤユイクシ ケウトウム
悔いる 気持ち
恥ずかしく
- 2607 yainikoroshma
ヤイニコロシマ(←ヤイニコロオシマ)
自分の隙間に突っ込む
恥じる
- 2608 keutum
ケウトウム
感情
気持ちが
- 2609 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に ~を与える
わいてきました。
- 2610 'A-neike shiko※1
アネイケシコ(←アネイケ シク オ)
我は・そこで目 付く
『わたしが生まれ
- 2611 A-neike baro wa
アネイケバロ(←アネイケ パラ オ)ワ
我は・そこで口 付く して
育って
- 2612 shiknu-am be an?
シクヌアム(←シクヌ アン) ベ アン
生きる・我は 所 か
生きてきた所に引き返すか、
- 2613 orkikita※2
オロキキタ
全く仕方がない
いっそのこと
- 2614 itekki nen ka
イテクキ ネン カ
決して~しない 誰 も
絶対誰にも
- 2615 i-bano somo
イバノ ソモ
我を・発見する+(副詞語尾) (否定辞)
見つからず、
- 2616 i-nukar-an-no
イヌカランノ(←イヌカラ アン ノ)
我を・見る・人々が+(副詞語尾)
人に見られずに
- 2617 rai-an wa
ライアン ワ
死ぬ・我は して
わたしが死んで
- 2618 isam-an a yakne
イサム アン ア ヤクネ
無くなつ・我は た ならば
しまったほうが
- 2619 pirika noine ambe? '
ピリカ ノイネ アム ベ(←アン ベ)
いい らしく ある もの
いいのかしら?』
- 2620 ari yainu-an chiki,
アリ ヤイヌ アン チキ
と 考える・我は なら
と思ったなら、
- 2621 enewaboka
エネワボカ
どうともこうとも
もうどうして
- 2622 iki-an i ka
イキアニカ(イキ アン イカ)
物事をする・我が ことも
いいか
- 2623 isam kane.
イサム カネ
無い 状態だ
わからない。
- 2624 Otuchishwembe
オトゥチシウエム(←ウエン) ベ
幾つも重なる 二つの 泣く 悪水
たくさんの涙
- 2625 orechishwembe
オレチシウエム ベ
幾つも重なる 三つの 泣く 悪水
泣きの涙
- 2626 a-yayekote kane.
アヤイエコテ カネ
我は・自身に ~を結ぶ 状態だ
にわたしはかきくれました。
- 2627 Nekona shikop
ネコナ シコ^フ(←シク オ^フ)
どんな 目 が付く者
どのような目つきの
- 2628 nekona barop
ネコナ バロ^フ(←バラ オ^フ)
どんな 口 が付く者
どんな口つきのお方なのか、
- 2629 a-ye rokokai
アイエ ロク オカイ
人々が・言っ たある
話に聞いていた
- 2630 i-resu sapo
イレス サポ
人を・育てる その姉
わたしの許婚者の姉上が
- 2631 naa somo nanuhu
ナア ソモ ナヌフ
まだ (否定) その顔
まだそのお顔を
- 2632 a-nukar koroka,
アヌカラ コロカ
我は・を見る けれど
わたしは拝見していないけれど、
- 2633 chish turanno
チシ トウランノ
泣く を伴って
泣きながら
- 2634 tu pirika kunip
トゥ ピリカ クニ^フ
二つの 良い はずのこと
たくさんのよき言葉
- 2635 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ^フ
三つの 良かる べき こと
いくつものやさしい言葉
- 2636 i-ebakashnu kane
イエバカシヌ カネ
我に・~を教え諭す 状態で
をわたしにかけながら、
- 2637 a-kimui kashi
アキムイ カシ
我が・頭 の上
わたしの頭
- 2638 i-koruiruye,
イコルイルイェ
我に・撫でさする
を何度も撫でさすり、
- 2639 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 2640 i-tuyashkarap kunip
イトウヤシカラ^フ クニ^フ
我を憐れむ はずのこと
わたしに同情し
- 2641 i-eramboken kunip
イエラムボケン クニ^フ
我を・~で憐れむ べき もの
可哀想に思ってくださいの
- 2642 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 2643 kotom korokaiki,
コトム コロカイキ
ふさわしい けれど+(物事をする)
いいけれど、
- 2644 usa chikirbe
ウサ チキリベ
種々の 刺繍衣
刺繍着だの
- 2645 sarambe kut
サラムベ クツ
上等の布 帯
絹の帯やら
- 2646 kamui chibanup
カムイ チバナ^フ
神々しい 我らが 頭に巻く物
神々しい鉢巻きを
- 2647 koeun kane
コエウン カネ
共に ~に付く 状態で
みな揃えて

※1 訳例: aneike shiko wa/aewak-shiror/akohekomop ta-an./orkikita「われが生れてそして/住んでいる所へ/我帰るものだ、/あゝそれよりも」(金IV-335)

※2 orkikita「《平賀サダモ》しかたないから、めんどくさいから、《知里ナミ》むしろかえって」(金IV-335)

- 2648 i-korbare.
イコロバレ
我に持つ+(複数形語尾) させる
わたしに差し出しました。
- 2649 Shiriki chiki,
シリキ チキ
その様をした なら
そうするから、
- 2650 itaknu-an wa
イタヌ アン ワ
言うことを聞いて・我は て
わたしは言われるままに
- 2651 imi-an.
イミアン
物を着る・我は
その衣装を身に着けました。
- 2652 Eashka sonno
エアシカ ソンノ
それこそ 本当に
わたしはすっかり
- 2653 shinki-an tumsak
シンキ アン トウム サク
疲労する・我は 力を欠く
疲れきって
- 2654 tane shinkiekot-an
タネ シンキ エコツ
今は 疲れ で死ぬ・我は
今にも疲れ死にしていまい
- 2655 kotomno
コトムノ
らしく
そうに
- 2656 yainu-an kane.
ヤイヌ アン カネ
考える・我は 状態である
思っていました。
- 2657 Abetuisam ne
アベトウイサム ネ
火 すぐそば に
彼女は炉端
- 2658 i-earekar,
イエアレ カラ
我を・そこに 座ら せる+(他動詞語尾)
にわたしを座らせ、
- 2659 pirika kusuri
ピリカ クスリ
よい 薬
効き目ある薬草
- 2660 kar wa i-kure.
カラ ワ イクレ
を作っ て 我に・飲ま せる
を煎じてわたしに飲ませました。
- 2661 Boronno a-ku wa,
ボロンノ アク ワ
たくさん 我は・飲む した
わたしはごくごく飲んで、
- 2662 tane eashiri
タネ エ アシリ
今 で 新しい
今度こそ
- 2663 pirika kusuri
ピリカ クスリ
よい 薬
効き目ある薬草は
- 2664 a-sambeba wa
アサムベバ ワ
我が・心臓 上端 から
わたしの心臓の

- 2665 a-sambekesh wa
アサムベケシ ワ
我が・心臓 末 から
すみずみまで
- 2666 koshituriri,
コシトウリリ
~に 自分 を伸ばす+(重複)
いきわたり、
- 2667 irukaitom ta
イルカイトム タ
しばらく 中 に
たちまち
- 2668 eashka shino
エアシカ シノ
それこそ 真に
すっかり
- 2669 tumashnu-an.
トウマシヌ(←トウム アシヌ) アン
力が 充分ある・我は
わたしは元気になりました。

6-3 イヨチ姉弟

- 2670 Tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今こそ初めて
- 2671 oshiso un
オシソ ウン
その尻 右座 へ
右座の
- 2672 abeteksam
p.58 アベ テクサム
火 すぐ傍
炉端
- 2673 ehorarbap
エホララバブ
に尻を押さえる(horari複) 者
に座っているお方を
- 2674 a-nukar kusu,
アヌカラ クス
我が・~を見る 故に
わたしが見ると、
- 2675 iyainumare!
イヤイヌマレ
我に 自ら 起き上がら せる
まあ驚いた!
- 2676 i-resu sapo
イレス サポ
人を・育てる その姉
許婚者の姉上
- 2677 ari hawash kusu
アリ ハワシ クス
と 言う 故に
と言うからには、
- 2678 naa boro shikup
ナア ボロ シクフ
まだ 大きく 育つ
もっと年上
- 2679 kunip hetapne
クニフ ヘタフネ
はずの 者 かこれ
の者かを
- 2680 a-borse kuni
アボロセ クニ
人が ~と言う はず
言っているのかと
- 2681 a-ramu rokwa,
アラム ロクワ
我は・~を思っ たところが
思っていたのに、
- 2682 tamba ne wa
タムバ(←タンバ) ネ ワ
今年 になっ て
一歳ほど
- 2683 i-turkasuno
イトウルカスノ
我に・過ぎる+(副詞語尾)
わたしより
- 2684 chishikupka
チシクフカ
自身を 成長 させる
年上らしい
- 2685 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い女性が、
- 2686 chitomtereshbap
チトム テレシバブ
自身を 光ら せ 育った(resu複) 者
大切に育てられ

- 2687 chiarareshbap
チ アラ レシバ^プ
自身を 飾り 育った(resu複) 者
美しく育てられた者
- 2688 sone kusu,
ソネ クス
真である 故に
にちがいなく、
- 2689 imi ruwe hene
イミ ルウエ ヘネ
物を着る その様 でも
着物も
- 2690 pirikap batek
ピリカ^プ バテ^ク
美しい物 ばかり
上等なものばかり
- 2691 arutomechiu^{※1}
アルトメチウ(←アラ ウトム エチウ)
全く互いに 中に差す
を重ね着し、
- 2692 kisar kashike
キサ^ラ カシケ
耳 の上
耳には
- 2693 kamui ninkari,
カムイ ニンカリ
神の 耳輪
神々しい耳輪、
- 2694 rekut kashike
レクツ カシケ
のど の上
胸元には
- 2695 kani tamasai
カニ タマサイ
黄金の 玉連
美しい首飾り
- 2696 koikatara^{※2}
コイカ タラ
共にあふれる 状態だ
をぞっくりとつけ、
- 2697 kamui sannanu
カムイ サン ナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が
- 2698 machikor nubek
マチコ^ロ(←マツ イコ^ロ) ヌベ^ク
女宝 光
首飾りや耳輪などの光
- 2699 eemaknatara,
エエ マクナタラ
でもって ところが 輝く
で照りかがやき、
- 2700 boo hene
ボオ ヘネ
もつと でも
なおさら
- 2701 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神のお姿のように
- 2702 koshiretokkor
コシレト^クコ^ロ(←コ シリ エト^クコ^ロ)
共に(?)様子 の先端 を持つ
美しいお方が、
- 2703 eashka
エア^シカ
それこそ
ほんとうに
- 2704 i-eramboken,
イエラムボケン(←イ エラム ポキウエン)
我を・〜で 心 その下 悪い
わたしをかわいそうに思い、
- 2705 i-tubeshnup
イトウベ^シヌ^ッ
我に・同情するもの
あわれに感じるもの
- 2706 konep ne kusu
コネ^プ ネ クス
(調律)である こと である 故に
だから、
- 2707 nubekushi-
ヌベクシ(←ヌベ クシイ
涙 通る 所
涙が流れ落ちた
- 2708 kousamtuiba ^{※3}
コウサムトウイバ
共に 両側 切れる(tuye複)
両方のほっぺたがただれ
- 2709 kane okai.
カネ オカイ
状態に ある
ています。
- 2710 Hokaetok ta
ホカ エト^ク タ
炉先 に
横座には
- 2711 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 2712 un attush
ウン アットウシ
にある 厚司
の厚司と
- 2713 Menashsam
メナシサム
東方 そば
メナシサム
- 2714 un konchi,
ウン コンチ
にある 帽子
の兜が
- 2715 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神々しく
- 2716 ehorarba kane,
エホラ^ラバ カネ
に 尻 を押さえる(horari複) 状態で
安置されていて、
- 2717 nep hawe ka
ネ^プ ハウエ カ
何 の声 も
何の声も
- 2718 konep humi ka
コネ^プ フミ カ
(調律)何 の音 も
何の音も
- 2719 isam. Aine
イサム アイネ
ない そのうち
しません。そのうち
- 2720 kamui ne am be
カムイ ネ アムベ(←アン ベ)
神 のように ある 者
神のようなお方が
- 2721 kutsam konna
クツサム コンナ
のど そば (調律)
声を
- 2722 tununitara,
トウヌニタラ(←トウニトウニ イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
鈴の音のようにひびかせ
- 2723 itak hawe
イタク ハウエ
言う その声
物言う声が
- 2724 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには、
- 2725 "Koninkar kusu!
コニンカ^ラクス(←コン インカ^ラクス)
早く! 見る(感嘆の助詞)
「これこれ、
- 2726 i-resu sapo!
イレス サポ
我を・育てる その姉
育ての姉上よ!
- 2727 Itak-an chiki
イタカン(←イタ^クアン) チキ
言っ・我が なら
われの言うことを
- 2728 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
よく 聞いて
よく聞いて
- 2729 i-kore kunak
イコレ クナ^ク(←クン ヤ^ク)
我に・与える べきであるということ
くだ
- 2730 ramu yan!
ラム ヤン
思い なさい
され。
- 2731 Hoshki tukbe
ホシキ トウクベ
先に 生える 者
そなたは先に生まれた者
- 2732 e-ne kusu,
エネ クス
汝・である 故に
であるから、
- 2733 chihoppa itak
チホ^ッパ イタ^ク
られた 置き去 言葉
先祖の遺言
- 2734 shinrit itak
シンリッ イタ^ク
祖先の 言葉
先祖の言葉は

※1 原綴 arutom echi

※2 「ko-ika-tara<に・溢れる・状態である>(金 I-95)、<共に・超える・そういう様子をしている(持続態)>(金 I-271)、越えあふれる(金 VI-93)」

※3 「…i-tuipa(また u-tuipa)は爛れる意。…(研739)、u-sam<両側>双頬の意(金 V-80)」「《幌別》《雅語》涙で目のふちがただれている。u-tuyppa<お互が・側・切れる+複数語尾>切れ切れになっている、ぼろぼろにきれている」(人240)《萱野茂訳》「涙のために/目の周りが赤くただれ」(教X V-108・111)

- 2735 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうこうであると
- 2736 obittano
オビッタノ
皆
全部
- 2737 e-eraman
エ エラマン
汝は・解る
ご存知であり
- 2738 nankoro.
ナンコロ
だろう
ましょう。
- 2739 Naa somo
ナア ソモ
まだ (否定)
まだそなたは
- 2740 e-i-bashkuma.
エ イバシクマ
汝が・我に・先祖起源や素性を教える
われに先祖の話の話を聞かせておらぬ。
- 2741 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 2742 aokai anakne
アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ)
我 ある ~するならば
われは
- 2743 nekona shino
ネコナ シノ
どう 本当に
本当にどんな
- 2744 shinrit kor kunip
シンリツ コロ クニヲ
先祖 を持つ はずの者
祖先を持っている者
- 2745 utar kor kunip
ウタラ コロ クニヲ
同族 を持つ はずの者
どんな同族がいる者が
- 2746 a-ne nankor'a
ア ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
我・である だろう か
自分なのか、
- 2747 ponno boka
ポンノ ボカ
少し さえも
少しも
- 2748 a-erambetek
ア エラムベテク
我は・~をわからない
知らなかった
- 2749 ruwe ne awa,
ルウェ ネ アワ
事実 であつ たところが
のだが、
- 2750 ukuran ne
ウクラン ネ
昨晚 に
ゆうべの
- 2751 tarap otta
タラヲ オツタ(←オロ タ)
夢 の所に
夢で
- 2752 tapne tapne
タツネ タツネ
こう こう
こうこうしかじかのことを
- 2753 inkar-an hememki
インカラン(←インカラ アン) ヘメム キ
眺める・我が もする
見もし、
- 2754 tapne tapne
タツネ タツネ
こう こう
かくかくしかじかのことを
- 2755 inu-an ruwe ne.
イヌ アン ルウェ ネ
ものを聞く・我は 事実 である
聞きもしたのだ。
- 2756 Ouse mokor
オウセ モコロ
ただ~だけ 眠り
ただの眠り
- 2757 ouse tarap
オウセ タラヲ
ただ~だけ 夢
ただの夢
- 2758 hene a-ki
ヘネ アキ
でも 我は・を
でも見た
- 2759 humi ne kuni
フミ ネ クニ
感じ である はずと
ようだとは
- 2760 a-ramu koroka,
アラム コロカ
我は・を思う けれども
思ったが、
- 2761 oman-an wa
オマンアン(←オマン アン) ワ
行つ・我が て
われがそこへ行って
- 2762 inkar-an awa,
インカラン(←インカラ アン) アワ
見・我が たところが
見たところ、
- 2763 soonno boka
ソオンノ ボカ
本当に(強調形) さえも
はたして思った通り
- 2764 tapne ne.
p.60 タツネ ネ
こう である
このようであった。
- 2765 Sonno homatu-an
ソンノ ホマトウアン
本当に 尻を挙げる・我は
本当にわれは驚き
- 2766 sonno iyokunure-an
ソンノ イヨクヌレ(←イ オクヌレ) アン
本当に 物事にあきれる・我は
あきれた。
- 2767 Kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図(挿入音)として
神の思召しによって幸いにも
- 2768 pon katkemat
ポン カツケマツ
若い 淑女
若い姫を
- 2769 tun a-ne wa
トゥン アネ ワ
二人の 我ら・であつ て
われら二人で
- 2770 kewe-a-tusare.
ケウエ アトウサレ
その体を・我らが・生かす
生き返らせた。
- 2771 Shino nubetne-an,
シノ ヌベツネ アン
本当に 喜ぶ・我は
まこと嬉しく、
- 2772 base kamui otta
バセ カムイ オツタ(←オロ タ)
重い 神 の所に
尊い神に
- 2773 boronno yayiraike-an
ボロンノ ヤユイライケ アン
たくさん 感謝する・我は
われは大いに感謝いたし
- 2774 ruwe ne. Sonno
ルウェ ネ ソンノ
その事実 である 本当に
まする。すっかり
- 2775 ramushinne-an.
ラムシンネ アン
安心する・我は
われは安心いたしました。
- 2776 Nani tanebo konna
ナニ タネボ コンナ
すぐに 今+(指小辞) こそ
すぐにも今こそ
- 2777 nep ubashkuma
ネ ヲウバシクマ
何 互いに物事を教え伝える
何でも先祖からの教えは
- 2778 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうなのだと
- 2779 an korachino
アン コラチノ
ある ごとくに
ありのままに
- 2780 kamui teksam ta
カムイ テクサム タ
神 手側 で
神のすぐおそばで
- 2781 ar-obittano
アロビッタノ(←アラ オビッタノ)
全く皆
全部
- 2782 ye wa i-nure
イエ ワ イヌレ
言つて 我に・聞かせる
言つてお聞かせ
- 2783 kunak ramu yan !"
クナク(←クン ヤク) ラム ヤン
べきであると思ひ なさい
「くだされ」
- 2784 ari hawash awa,
アリ ハワシ アワ
と 言つ たところが
おっしゃったところ…。

6-4 イヨチ姫のウパシクマ

- 2785 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い婦人は
- 2786 inurokbe
イヌロッベ
ものを聞いたことに
聞くやいなや
- 2787 katu ne kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 2788 enushikarip
エヌシカリッ
でもって目丸くなるもの
目を丸くするの
- 2789 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 2790 kotomkorkaiki,
コトム コロカ イキ
似つかわしい けれども+物事をする
いいのに、
- 2791 hetarkosamba
ヘタラ コサムバ
顔をあげる サツと~する(kosanu複)
パツと頭をあげ
- 2792 hesei etok
ヘセイ エトク
息先
吐く息が
- 2793 koeshikarba kane,
コエシカラバ カネ
につかみとる(esikari複) 状態で
止まるくらい驚いて、
- 2794 semohonruino
セモホンルイノ(←セム オホン ルイノ)
(否定)+長い間 甚しく
ややしばらくの間
- 2795 okai rokine,
オカイ ロキネ(←ロッヒネ)
い たそして
そのまま固まっていて、やがて
- 2796 ene itak i ;
エネ イタキ(←イタッイ)
こう 話す こと
話し出したことには、
- 2797 "Usainetapsui
ウサイネ タッスイ
色々 これは また
「これはこれは！
- 2798 inu-an humi
イヌ アン フミ
ものを聞く・我は その音
わたくしが聞いた感じでは
- 2799 a-oyamokte na.
ア オヤモクテ ナ
我は・不審に思う ぞ
何だか変だワ。
- 2800 Nekona※1 ne hawe
ネコナ ネ ハウエ
どう である その声
何でその話が
- 2801 tapne iyoshserkere
タプネ イヨシセレケレ(←イヨシセレケレ)
これのように 人をおそれさせる
こんなにおそろしく感じる

※1原文 nekona nekona

- 2802 okai be ne ya?
p.61 オカイ ベ ネ ヤ
ある こと である か
のかしら？
- 2803 Ponram orowano
ポンラム オロワノ
小さい心 から
幼いころから
- 2804 heru asuruhu batek
ヘル アスルフ バテッ
ただ~だけ その噂 ばかり
ただ噂にだけ
- 2805 a-nup, tapne
アヌッ タッネ
我は・を聞く者 これのように
聞いていたのが、この
- 2806 PonTeseu un
ポンテセウ ウン
ポンテセウ に住む
ポンテセウ村の
- 2807 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々
- 2808 ne rok awa,
ネ ロッアワ
であつ たところが
でありましたが、
- 2809 ebosokusu !
エボソクス
まこと故にまあ
なるほど
- 2810 neita tu kotan ta
ネイタ トウ コタン タ
どこだか 二つの 村 に
どこか遠く離れた村
- 2811 neita re kotan ta
ネイタ レ コタン タ
どこだか 三つの 村 に
どこかはるか離れた村に
- 2812 ene okaibe
エネ オカイベ
そのように ある者
そのような方々が
- 2813 okai i ne wa kusu,
オカイ イ ネ ワ クス
ある こと であつ て 故に
いらっしやるとしても、
- 2814 keutum otta
ケウトウム オッタ(←オクタ)
心 所で
心の中で
- 2815 rawn kane
ラウン(←ラウン) カネ
下にある 状態で
内心
- 2816 eashka iyoyamokte-
エアシカ イヨヤモクテ(←イ オヤモクテ)
本当に 物事を 不思議に思う
本当にわたくしは臍に落ちなく
- 2817 an kane,
アン カネ
我は 状態で
て、
- 2818 hetaktausa
ヘタッタウサ
早く+(感嘆)+色々
いつときも早く

※2原綴 anrke

- 2819 ainu orushbe
アイヌ オルシベ(←オロウシベ)
人間 の所についているもの
その方々(?)に関する事柄を
- 2820 a-nu okai !
アヌ オカイ
我は・~を聞き たいなあ
聞きたいなあ
- 2821 ari batek
アリ バテッ
と ばかり
とばかり
- 2822 yainu-an awa,
ヤイヌ アン アワ
考え・我は たところが
わたくしが思っていたところ、
- 2823 taptap hawashbe
タッタ ハワシベ
これ+(重複) 話す こと
これこのとおりに話されるの
- 2824 ne ya ?
ネ ヤ
である のか
のですか？
- 2825 Hoshki tukbe
ホシキ トウクベ
先に 生える者
わたくしは先に生まれた者
- 2826 a-ne kusu,
アネ クス
我・である 故に
ですから、
- 2827 ponram orowano
ポンラム オロワノ
小さい心 から
幼いころから
- 2828 inu-an ko,
イヌ アン コ
それを聞く・我が と
わたくしが聞いたところによれば、
- 2829 teeta kane
テエタ カネ
昔 ~して
その昔、
- 2830 PonTeseu un
ポンテセウ ウン
小テセウ に住む
ポンテセウの
- 2831 kotankoronishpa newa
コタンコロニシパ ネワ
村を持つ長者 と
村おさと
- 2832 Otasamunkuru—
オタサム ウンクル
砂浜 側に住む お方
オタサムびと—
- 2833 arke※2 kamui nep
アラケ カムイ ネッ
半分 神 である者
半分神で
- 2834 arke ainu nep
アラケ アイヌ ネッ
半分 人 である者
半分人間である者—が
- 2835 kotankoronishpa tura
コタンコロニシパ トウラ
村を持つ長者 と共に
ポンテセウの村おさと一緒に

6-4 イヨチ姫のウパシクマ

- 2836 uchebe irkar,
ウチェベ イリ カラ
(不詳) 姻戚にする
食べ合う(?)親戚となり、
- 2837 shino shino
シノ シノ
誠に 誠に
ほんとにほんとに
- 2838 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
かわるがわる
- 2839 uwekatarotke
ウ ウェカタロツケ
互いと仲よくする
仲よく
- 2840 ukobayekai
ウコ バイエカイ
お互いに 歩き回る
行き来し
- 2841 rokine,
ロキネ(←ロクヒネ)
た そして
ているうちに、
- 2842 utashba kane
ウ タシバ カネ
互いと交換する(tasa複) 状態で
お互いの
- 2843 tureshi ukorbare,
p.62 トウレシ ウ コロバレ
妹 互いに 持た せる
妹同士と結婚し、
- 2844 umurek ne wa
ウムレク ネ ワ
夫婦 になっ て
夫婦となって
- 2845 eashka uwepirika
エアシカ ウ ウェピリカ
それこそ 互いと一緒によくなる
本当に幸せに暮らしているという
- 2846 shiasuruashte
シアスル アシテ
自分の 評判 を立た せる
評判がたてられ
- 2847 rokine,
ロキネ(←ロクヒネ)
た そして
ているうちに、
- 2848 uwesamanno
ウウエサマンノ(←ウ エ サム アン ノ)
互いに そばに 在る+(副詞語尾)
両方そろって
- 2849 yayirwakikor
ヤイ イリワキ コロ
自分を その兄弟 に持つ
男の子一人と
- 2850 shine turesh ne ranke
シネ トウレシ ネ ランケ
一 妹 である ずつ
女の子一人ずつ
- 2851 pokor wa, sui
ポコロ ワ スイ
子を持って 再び
産まれて、さらに

- 2852 nei okai poho utar
ネイ オカイ ポホ ウタラ
そこにある 子供 たち
その子たちを
- 2853 sui utashba
スイ ウ タシバ
再び 互いと交換する(tasa複)
またお互いに
- 2854 shintakawano
シンタ カワノ
揺り板 上 から
シンタ(揺り板)に乗って
- 2855 yarbekawano
ヤラベ カワノ
おむつ 上 から
おむつをしている頃から
- 2856 a-ukoresha kuni
ア ウコレシバ クニ
人が一緒に 育つ(resu複) ように
いいなづけ
許婚者同士として育てようと
- 2857 euweramokai.※1
エウウエラモカイ(←エ ウ エ ラム オカイ)
~に関して 互いに それに 心 ある
約束しました(?)。
- 2858 Eramushinneba
エ ラムシンネバ
それで 安心する+(複数形語尾)
それで安心し
- 2859 orowa hekattar utar
オロワ ヘカッタラ ウタラ
それから 子どもたち ら
てから、子どもたちが
- 2860 naa nokan rabokita
ナア ノカン ラボキタ
まだ 小さい その間に
まだ幼いうちに、
- 2861 umurek nishpa
ウムレク ニシパ
夫婦 長者
ポンテセウの村おさ夫妻は
- 2862 uwesamanno
ウウエサマンノ(←ウ エ サム アン ノ)
互いに そばに 在る+(副詞語尾)
お二人そろって
- 2863 kamui orun
カムイ オルン
神 の所へ
お亡くなり
- 2864 baye wa isam,
バイエ ワ イサム
行っ て 無くなる
なってしまう、
- 2865 okake ta
オカケ タ
後 で
その後で
- 2866 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々は
- 2867 uwesamanno
ウウエサマンノ(←ウ エ サム アン ノ)
互いに そばに 在る+(副詞語尾)
そろって

- 2868 turesh reshba
トウレシ レシバ
妹 を育て(resu複)
妹さんを育て
- 2869 wa okai ari
ワ オカイ アリ
て いる と
ていらっしやると、
- 2870 tapne inu-an
タフネ イヌ アン
このように ものを聞く・我は
このようにわたくしは聞い
- 2871 koro shikup-an.
コロ シクフ アン
ながら 成長する・我が
て育ちました。
- 2872 Aokai utar
アオカイ ウタラ
我 たち
わたくしたち
- 2873 anakne sonno
アネクネ ソンノ
は 本当に
はまことの
- 2874 Iyochi unrup※2 a-ne.
イヨチ ウンルプ(←ウイル プ) アネ
イヨチ に住む者 我ら・だ
イヨチの住民です。
- 2875 A-eshikop
アエシコブ(←ア エ シク オ プ)
我らが・それで 目が ついた 者
わたくしたちの両親
- 2876 utar hene
ウタラ ヘネ
たち でも
たちも
- 2877 PonTeseu un
ポンテセウ ウン
ポンテセウ に住む
ポンテセウ村の
- 2878 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のごとき方々
- 2879 utar tura
ウタラ トウラ
たち と共に
たちとは
- 2880 ponnoka
ポンノカ
少し も
少しも
- 2881 ushiramkore ※3
ウ シラム コレ
互いに 自分の 心 を 与える
血がつながって
- 2882 ka somoki.
カ ソモキ
も (否定) する
もいません。
- 2883 Otasam un
p.63 オタサム ウン
砂浜 隣 に住む
オタサムの

※1 原綴 euweramokai

※2 「unrup=uiru-p<住む・人>」(金Ⅲ-91)

※3 「si-ram-kore<自分の・心を・与える>《幌別》①親類、血縁の者②親類づきあいをする者(他人であつても)」(人484)「【他動詞】「si-ram-kor-e<自分・体の中身・を持つ・させる>~と血がつながっている」(田646)

- 2884 kamui ne okaibe utar
カムイ ネ オカイ ベ ウタ^ラ
神 のように ある 者 たち
神のごとき方々
- 2885 newa ne yakka
ネワ ネ ヤ^カカ
であった に しても
にしても
- 2886 arukorachi
アルコラチ(←ア^ラ ウ コラチ)
全く 同じように
同じように
- 2887 a-shiramkore
ア シラ^ム コレ
我らは・自分の 心を 与える
わたくしたちとは親戚
- 2888 somoki
ソモ キ
(否定) する
ではない
- 2889 ruwe ne awa,
ルウェ ネ アワ
こと であっ たところが
のですが、
- 2890 oar oar
オア^ラ オア^ラ
全く+(重複)
まったくもって
- 2891 PonTeseu un kuru
ポンテセウ ウンクル
小テセウに住む お方
ポンテセウびと—
- 2892 kamui ne ambe
カムイ ネ ア^ム ベ(←アン ベ)
神 のように ある 者
神のごとき方が
- 2893 ki ubashkuma
キ ウ バ^シクマ
する 互いに物事を教え伝える
話したウバシクマ(言い伝え)や
- 2894 ki ibakashnu
キ イ バカ^シヌ
する 人を戒める
話した教訓は
- 2895 echutkonno ne
エ チュツコンノ ネ
それに関して まちがう である
まちがっている
- 2896 hawe ne. Yakka,
ハウエ ネ ヤ^カカ
話 である けれど
話です。でも
- 2897 nekonna^{※1} ne wa
ネコンナ ネ ワ
どう であっ て
どのようにか(?)
- 2898 a-aktonoke
ア ア^ツ トノケ
我が・弟 殿、君
わが弟どのの
- 2899 shipopke^{※2} tura
シポ^ツケ トウラ
自分 を暖かくする とともに
装束とともに
- 2901 nu heki wa
ヌ ヘキ ワ
聞く か? して
聞かして
- 2900 asuruhu
アスルフ
その噂
その評判を
- 2902 ene haweokai
エネ ハウエオカイ
こう 言う
そうおっしゃった
- 2903 i ta okai?
イ タ オカイ
こと (強調) ある
のかしら?
- 2904 Rabokita sui
ラボキタ スイ
その間に 再び
ちょうどその時また
- 2905 wen chironnup
ウェン チ ロンヌ^プ
悪い 我ら 殺すもの
悪ギツネ
- 2906 toi chironnup
トイ チ ロンヌ^プ
土の墓の 狐
くされキツネめ
- 2907 newa ne yakka,
ネワ ネ ヤ^カカ
であった に しても
にしても、
- 2908 konewanosui
コネ ワノスイ
(調律?)どこからまた
どこにまあ、
- 2909 a-aktonoke
ア ア^ツ トノケ
我が・弟 殿、君
わが弟どののを
- 2910 noamkirbe
ノ ア^ム キリ ベ
よく見知っている者
よく知っているもの
- 2911 korachi shinere,
コラチ シネレ
如く 自分 であら せる
みたいに化け、
- 2912 baroitako^{※3} kane,
バロイタコ(←パロ オ イタ^ツ オ) カネ
その口 そこに 言葉 を入れる 状態だ
弟殿のことばつきで話しかけて、
- 2913 naaniphonko^{※4}
ナアニ ホンコ
危うく (?)
もう少しで
- 2914 pon katkemat
ポン カツケマツ
若い 淑女
若い姫は
- 2915 chitoikokeshke
チトイコ ケシケ
のことひどく 妬む、呪う、邪魔する
すっかりだまされる
- 2916 ekarkar a yakka,
エカ^ラカラ ア ヤ^カカ
~を施し た ても
ところでしたが、
- 2917 hunabakunsui
フナバクンスイ(←フナパ^ク ウン スイ)
幸いに+(肯定の強調)+また
いいあんばいにまあ!
- 2918 a-aktonoke
ア ア^ツ トノケ
我が・弟 殿、君
わが弟どのの
- 2919 kashkamui
カシ(←カシ) カムイ
その上 神
強い守り神(憑き神)が
- 2920 korbe ne
コロ ベ ネ
を持つ 者 である
ついている
- 2921 kushkeraibo,
クシケライ ポ
おかげ+(指小辞)
おかげで、
- 2922 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図(挿入音)として
幸いにも
- 2923 arwen kamui
アラ ウェン カムイ
全く悪い 神
極悪の神
- 2924 koyayeimontasa
コヤイエイモンタサ
に自身で復讐する
に仕返しをした
- 2925 haweokai "
^{p.64} ハウエ オカイ
声ある
そうです」
- 2926 ari hawash chiki,
アリ ハワ^シ チキ
と 言う から
とおっしゃいました。

※1 nekonna【副詞】如何に(語法)、訳例: nekonna hene「いかなる事どもを」(研891) 参考:「nekona【副詞】[雅]どのように」(田408)

※2 原綴shibokke「shipopke 身じたくのもの、立ち向かうための持ち物から、鎧・かぶとの類までを含む。服装」(金Ⅱ-179)

※3 参考: paro aotako「paro a-o-itak-o<の口 われ・そこ ことばを・入れる(物を言う、はなす)>~のことばつきをわたしがした」(金Ⅲ-250)

※4 原綴 naani honka「na-ani-honko 危うく、危険だった」(萱339)《萱野茂分解訳》「<危なくも>」(教Ⅴ-92)

6-5 兄さまは愚かな大馬鹿者？

- 2927 Inu newa
イヌ ネウ
ものを聞くと
ただ聞くだけを
- 2928 a-kip ne koroka
アキ ヌ ネ コロカ
我は・～をするもの だ けれど
わたしはしただけですが、
- 2929 ashirikinne
アシリキンネ(←アシリイキリネ)
新しいひとまとまりとして
なおさら
- 2930 sui shiyoro keutum
スイ シヨロ ケウトウム
また 心の底からの 気持ち
再びおどろい
- 2931 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に ~を与える
てしまいました。
- 2932 Sonno hetapne
ソンノ ヘタッネ
本当 か これはまあ
本当にまあ
- 2933 I-resu yubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 2934 pon hene ki apkusu
ポン ヘネ キ アックス
小さいでも し たとしても
まだ幼かったにしても
- 2935 ene iyoirai
エネ イヨイラ(←イオイラ) イ
こう 物を忘れる こと
こうも忘れることが
- 2936 ne wakusu※1
ネ ワクス
であつての故に
できるものではないのに、
- 2937 shinrit ubashkuma
シンリツ ウバシクマ
祖先 互いに物事を教え伝える
先祖の起原や言い伝えの話を
- 2938 boro echutkonno
ボロ エチュツコンノ
大きく それに関して まちがう
大まちがいする
- 2939 newa ne yakka
ネウ ネ ヤッカ
であつた に しても
にしても
- 2940 orsaureko
オサウレコ
全く 緩い+(否定)
とんでもないまちがい
- 2941 kiba hawe!
キバ ハウエ
する+(複数形語尾) その話
をして話したとは!
- 2942 Tuimashitta
トウイマシッタ(←トウイマシリタ)
遠い 空間で
兄さまより遙かに
- 2943 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い婦人
- 2944 ka tap ne
カタッネ
もこうである
でさえも
- 2945 ene taa
エネ タア
こう ここに
こんなにも
- 2946 iramasure
イラマシレ
人を面白く思わ せる
みごとに
- 2947 pirikano
ピリカノ
美しい
しっかりと
- 2948 ubashkuma
ウバシクマ
互いに物事を教え伝える
ウバシクマ(言い伝え)を
- 2949 eashkai hawe!
エアシカイ ハウエ
上手な その声
上手に語られたというのに。
- 2950 Anuno※2 haweokai ko
アヌノ ハウエオカイ コ
解りやすく 話す と
解るように話されて
- 2951 rabokita,
ラボキタ
その間に
いるうちに、
- 2952 ebosokusu
エボソクス
それを通して 故にまあ
なるほど道理で、
- 2953 shinennebo
シンネネボ
一人である+(指小辞)
たったひとりで
- 2954 Iyochi un
イヨチ ウン
イヨチ ヘ
イヨチヘ
- 2955 i-ette ko,
イエッテ(←イエクテ) コ
我を・来させる と
兄さまがわたしを寄こして、
- 2956 a-ekatubase
アエカトウバセ
我は・その体 重い
気が進まな
- 2957 humi okai rokwa,
フミ オカイ ロクワ
その感情 あつ たところが
かった
- 2958 oman ikiri,
オマン イキリ
行く 一続き
いきさつだの、
- 2959 katuchiwente
カトウチ ウエンテ
その様 ~こと 悪くなら せる
はずかしめを受ける
- 2960 newa ne yakka
ネウ ネ ヤッカ
であつた に しても
にしても、
- 2961 senne saure
センネ サウレ
(否定) ゆるい
とんでもない辱め
- 2962 a-i-ekarkar,
アイエカラカラ
人が・我に・~を施す
を受け、
- 2963 ohaine kane
オハイン カネ
おそるべき 状態だ
なるほどああそうか、
- 2964 hunabakunsui!
フナバクンスイ(←フナパッウン スイ)
幸いに+(肯定の強調)+また
いいあんばいにまあ!
- 2965 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチウクルー
- 2966 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アンベ)
神 のように ある者
神のごときお方が
- 2967 okai kushkeraibo,
p.65 オカイ クシケライ ポ
ある おかけ+(指小辞)
いらしたおかげで、
- 2968 chikeutusare
チケウトウサレ
~のこと 骸を蘇生させる
わたしは命を助け
- 2969 a-i-y-ekarkar.
アイエカラカラ(←アイエカラカラ)
人が・我に ~を施す
られた。
- 2970 Oroyachiki※3
オロヤチキ(←オロヤチキ)
そこ 他の ~すれば
今気づいてみれば、
- 2971 anun rametok
アヌン ラメトク
よその 勇者
よそ村の勇者
- 2972 ne rok okaibe,
ネ ロク オカイベ
であつた ある者
であつた方に、
- 2973 konewanosui※4
コネワノスイ
に対してどこからか また
どこの
- 2974 i-yairakbarep
イヤイラクバレッ
我に・自分の 匂いをさせる者
馬の骨だかわからない

※1 ne wakusu「<である て・の故に>…できるものではないのに」(金 I-142)、newa kusu「<であつた から>」(久169)

※2 anuno「解ル様ニ。adv.Intelligibly. Understandingly.」(B41)

※3 原綴 oroyachi

※4 ne wano sui/yairakbarep「どこからかまた/ゆかりも無いものなる(金 I-123)、どこやらに/胤を引くもの(脚注:どこの馬の骨だか)(金 VI-284)」

6-6 イヨチびとの判断

- 2975 korachi※1
コラチ
のごとく
みたいな、
- 2976 wen an shiri
ウエン アン シリ
悪く ある その様
みるかげもない
- 2977 otui an shiri
オトウイ アン シリ
尻 切れて いる その様
みじめな様子の
- 2978 shukup upsorka
シュクブ ウブソロカ
若い ふところ上
うら若い娘の胸を
- 2979 chiyainukare kane,
チ ヤイヌカレ カネ
~のこと自身を見せる 状態で
お見せしてしまって、
- 2980 eashka
エアシカ
それこそ
ほんとうに恥ずかしくて
- 2981 yayeinukuri※2-an kasui.
ヤイエイヌクリ アン カスイ
自身で 大儀である・我は 過ぎる
動こうにも動けません。
- 2982 Seenne nebeka
セエンネ ネベカ(←ネブヘカ)
(否定強調)~しない 何かこれ
ひよつとして
- 2983 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまは
- 2984 haita kuru
ハイタ クル
足りない 人
お馬鹿な
- 2985 wen wayasapbe
ウエン ワヤサッベ
悪い おろかな者
ひどい愚か者
- 2986 he an ? ari
ヘ アン アリ
か あると
なのかしら？と
- 2987 yainu-an chiki,
ヤイヌ アン チキ
考える・我は なら
思ったら、
- 2988 irushka keutum
イルシカ ケウトウム
怒る 気持ち
猛烈に腹が
- 2989 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に~を与える
立ってきました。
- 2990 Kamui ne ambe
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある者
神のようなお方は
- 2991 inurokbe
イヌロッベ
ものを聞いたもの
姉上が言うのを聞いて、
- 2992 semohonruino
セモホンルイノ(←セム オホン ルイノ)
(否定)+長い間 甚しく
ややしばらくの間
- 2993 tash kush kuni
タシ クシ クニ
息 通る べき所
つく息も
- 2994 mau kush kuni
マウ クシ クニ
気 通る べき所
吐く息も
- 2995 yaikoseshke wa
ヤイコセシケ ワ
自身と共に 塞ぐ して
じっと止めて
- 2996 okai rokine
オカイ ロキネ(←ロクヒネ)
い たそして
いらしてから、やがて
- 2997 ene itak i ;
エネ イタキ(←イタッイ)
こう 言う こと
話し出したことには、
- 2998 Tapne kane
タッネ カネ
このような 状態で
「そのような
- 2999 ne hawe ne yakne,
ネ ハウエ ネ ヤクネ
である 言う である ならば
ことならば、
- 3000 arwen kamui
アラウエン カムイ
全く悪い 神
極悪の神が
- 3001 hushkotoiwano
フシコ トイ ワノ
古く (強意) から
ずいぶん前から
- 3002 PonTeseu um mat
ポンテセウ ウム(←ウン) マツ
小テセウ に住む 女性
ポンテセウ姫に
- 3003 etokoush※3 wa an
エトコウシ ワ アン
その前について ている
憑いて待ちかまえていた
- 3004 ruwe ne nankor.
p.66 ルウエ ネ ナンコロ
事実 である だろう
のであろう。
- 3005 PonTeseu un kuru
ポンテセウ ウン クル
小テセウ に住む お方
ポンテセウびとである
- 3006 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アンベ)
神 のように ある者
神のようなお方
- 3007 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
にしても
- 3008 nitne kamui
ニツネ カムイ
こちこちに堅い 神
凶暴な魔神の
- 3009 renkaine
レンカイネ
意図 (挿入音) として
術で
- 3010 ene a-haweante i
エネ アハウエアン テ イ
こう 人が・言わせる こと
そう言わせられたの
- 3011 ne nankoro.
ネ ナンコロ
である だろう
であろう。
- 3012 Tap korachi
タッ コラチ
この 如く
そのよう
- 3013 ne hawe ne yakun,
ネ ハウエ ネ ヤクネ
である 言う である ならば
であるとのことならば、
- 3014 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は
- 3015 taban orushbe
タバノ オルッベ(←オロウッペ)
ここにある 所 についてのもの
これに関することは
- 3016 ouse kamui
オウセ カムイ
ただ~だけ 神
すっかり神
- 3017 tomo-a-ekokanu※4 wa
トモ アエコカヌ ワ
真ん中・我らは・~を 傾聴して
にお任せして
- 3018 inkar-an kusu ne.
インカラ アン クス ネ
眺める・我らは つもり である
見ましようぞ。
- 3019 Bahau anakne
バハウ アナクネ
噂 は
噂というものは
- 3020 tunashbe ne kusu,
トゥナシベ ネ クス
速いもの だから
速く伝わるものだから、
- 3021 teta pon katkemat
テタ ポン カツケマツ
ここで 若い 淑女
ここに姫が

※1 原綴 kirachi

※2 既訳例: yayeinukuri/ikore yan.《萱野茂訳》「遠慮などする必要は(分解訳:yaye-inukuri<自分自身・大儀になる>)/全く無い。」「(教区-48),yayeinukuri/sakno hene《萱野茂訳》「気まずい思い(分解訳:yay-e-inukuri<自分・それ・気まずい思い>)/無いわけではない」(教XVI-150)

※3 参考: etokoash 「etoko-ush<準備する、仕度をする>etoko-a-ush<まさに~せんとわれ(ら)がしていた>」(金III-63)

※4 「tomo-kokanu【連他動詞】<まん中、正面・をよく傾聴する>~に忠実に従う」(田720)

6-6 イヨチびとの判断

- 3022 tutko hene
トウツコ ヘネ
二日 でも
二、
- 3023 rerko hene
レ_レコ ヘネ
三日 でも
三日
- 3024 an rabokita
アン ラボキタ
いる その間に
いるうちに、
- 3025 PonTeseu wano hene
ポンテセウ ワノ ヘネ
小テセウ から でも
ポンテセウや
- 3026 Otasam wano hene
オタサム ワノ ヘネ
砂浜隣 から でも
オタサムからでも
- 3027 nekona ka
ネコナ カ
どのようにも
何か
- 3028 sonko ek
ソ_ソコ エ_ク
便り が来る
知らせがくる
- 3029 nankoro.
ナンコロ
だろう
にちがいない。
- 3030 Tambe※1 kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 3031 nei bakno
ネイ(←ネ) バ_ノ
それ まで
それまで
- 3032 mono okai-an
モノ オカイアン
静かに いる・我らは
静かにしており
- 3033 kusu ne
クス ネ
つもり である
ましよう
- 3034 ruwe taban na.
ルウェ タバン(←タ_ッ アン) ナ
事実 これこのとおり ある よ
ぞ。
- 3035 Ikkewe ambe kusu,
イクケウエ アム(←アン) ベ クス
原因 あること 故に
わけがあるから、
- 3036 pon katkemat
ポン カツケマツ
若い 淑女
姫を
- 3037 a-shikoante
アシコアンテ
我は・自分 の方に いさせる
われは大切に置く

- 3038 ruwe ne.
ルウェ ネ
その事実 である
のです。
- 3039 Tambe kusu
p.67 タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 3040 ashtomap※2 anakne
アシトマ_プ アナクネ
恐ろしいこと は
怖いことは
- 3041 ponnoka
ポンノカ
少しも
少しも
- 3042 isam ruwe ne."
イサム ルウェ ネ
無い 事実 である
ないのです。」
- 3043 ari hawash chiki,
アリ ハワシ チキ
と 言う なら
とおっしゃれば、
- 3044 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 娘
若い婦人も
- 3045 "ohaine kane
オハイン カネ
おそるべき 状態だ
「そうですとも。
- 3046 a-aktonoke
アア_ットノケ
我が・弟 殿
わが弟どのには
- 3047 ponnoka
ポンノカ
少しも
少しも
- 3048 wen somoki.
ウエン ソモキ
悪い (否定) する
罪はありません。
- 3049 Arwen nitne kamui
ア_ッウエン ニツネ カムイ
全く悪い 堅い 神
ごくあくの凶暴な魔神が
- 3050 sonno i-keshke
ソ_ソノ イケシケ
本当に 我らに・嫉妬する
われらをのろい
- 3051 i-wente
イウエンテ
我らを・悪くなら せる
仲を裂こうとした(?)
- 3052 ruwe ne." ari
ルウェ ネ アリ
その事実 である と
のです。」と
- 3053 itak kane,
イタ_ッ カネ
言う 状態で
言って、

- 3054 tanebo konna
タネ ポ コンナ
今+(指小辞) こそ
今こそ
- 3055 sonno a-shinrit kashi
ソ_ソノ ア シンリッ カシ
本当に 我らが・祖先 の上
本当にわたしたちの祖先の素性が
- 3056 noeramambe
ノエラマン ベ
よくわかるもの
はつきりわかったもの
- 3057 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 3058 shietuuina※3
シエトウ ウイナ
自分の 鼻をつかむ
彼女は自分の鼻をつかみ
- 3059 shibaruina kane,
シバ_ラ ウイナ カネ、
自分の 口をつかむ 状態で
口をおさえて驚く仕草をしながら、
- 3060 ashirikinne
アシリキンネ(←アシ_リ イキ_リ ネ)
新しいひとまとまりとして
あらためて
- 3061 i-shikoruiruye
イシコルイルイェ
我を・自分 の方に 撫でさする
わたしを何度も撫でさすり、
- 3062 i-keuhumsu
イケウフムス
我に・体 危なかったことを見舞う
わたしの無事をよろこび
- 3063 i-katachish※4 kane.
イカタチ_シ カネ
我が・上 で 泣く 状態だ
泣いて喜びました。
- 3064 Tap orowa
タ_ッ オロワ
それ から
それから
- 3065 chirikibuni
チリキブニ
自身を 高く上げる
イヨチ姫は起ち上がり、
- 3066 pirika shuke
ピリカ シュケ(←スケ)
よい 炊事
心をこめた煮炊き
- 3067 koyairikta-
コヤイリ_ッ タ
に対して 自身を 高所に
にかいがいしく
- 3068 ante kane,
アンテ カネ
置く 状態で
立ち働き、
- 3069 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アン ベ)
神 のように ある 者
神のようなお方イヨチびとに

※1 原綴 tam-[行末改行]kusu

※2 原綴 ashtomap

※3 「《沙流、幌別》鼻をつかむ(驚いた時の身振り)、注: 驚いたときわ hot! と云って握った手で鼻と口を蔽う。それを詞曲の中でわ"si-etu-uyna si-par-uyna" <自分の・鼻を・つかみ、自分の・口をつかむ>とゆう慣用句で表す。驚いた拍子に魂が鼻や口から飛び出すのをふせぐための身振である。」(入320)

※4 訳例: i-katachish/a-kimui ka ta/a-santek ka ta/i-koruiruiba《萱野茂訳》「泣いて喜び/私の手を/撫で」(教XVIII-43)

6-7 食事しながら

- 3070 hoshki ruino
ホシキ ルイノ
最初に 強く
一番先
- 3071 koibuni.
コイブニ
に対し 物を持ち上げる
に食膳を捧げました。
- 3072 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしにも
- 3073 pirika aep
ピリカ アエッ
よい 我らが食べる物
よき食べ物
- 3074 boro sonabi
ボロ ソナビ
大きな 高盛椀
大盛りの高盛飯を
- 3075 i-kobunikar,
イコブニ カ
我に・対して 持ち上げさせる
よそわれ、
- 3076 boro sonabi
ボロ ソナビ
大きい 高盛椀
その高盛飯が
- 3077 yaikobuni.
ヤイコブニ
自分に ~を持ち上げる
捧げられました。
- 3078 Eashka
エアシカ
それこそ
ほんとうに
- 3079 iberusui-ambe
イベルスuiaムベ(←イペ ルスuiアン ベ)
物を食べる したい・我はもの
わたしは空腹だったもの
- 3080 konep ne kusu,
コネッ ネ クス
(調律)であること である 故に
だから、
- 3081 taban sonabi
タバ(←タッアン) ソナビ
今ここにある 高盛椀
この高盛椀
- 3082 a-koonkami wa,
アコオンカミ ワ
我は・~に 拝礼して
に拝礼して、
- 3083 moire ibe
モイレ イベ
動作がのろい 食事

ゆったりした上品な動作
- 3084 a-koyaikurka-
アコヤイクルカ
我は・一緒に 自身の体
で高盛飯を
- 3085 oma kane.
オマ カネ
を入れる 状態である
いただきました。
- 3086 lbe-an shiri
イベアン シリ
食べる・我が その様子
わたしが食べるようすを
- 3087 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々が
- 3088 nukarba chiki,
ヌカラバ チキ
眺める+(複数語尾) なら
見て、
- 3089 shino nubetne
p.68 シノ ヌベツネ
本当に 喜ぶ
本当に喜び、
- 3090 ramushinne ruwe
ラムシンネ ルウエ
安心する その事実
安心したことが
- 3091 a-koeramokai
アコエラモカイ(←ア コエラム オカイ)
我は 共に ~に関して 心 ある
わたしにも解
- 3092 kane, okai utar
カネ オカイ ウタラ
状態で いる 人々
り、一同
- 3093 ne yakka ibeba.
ネ ヤッカ イベバ
であつても 食べる+(複数語尾)
も食べました。
- 3094 lbe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する の上 で
食べながら
- 3095 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も
- 3096 yayoram-
ヤヨラム(←ヤイ オラム)
自身 そこに 心
わたしはつくづく
- 3097 beshbare-an※1 chiki,
ベシ バレアン チキ
に沿って下る+複+させる・我が なら
思い出せば、
- 3098 eashka
エアシカ
それこそ
ほんとうに
- 3099 wen yayashish
ウェン ヤヤシシ(←ヤイ アシシ)
悪い 自身を 罵る
情けなく
- 3100 toi yayashish
トイ ヤヤシシ(←ヤイ アシシ)
土の 自身を 罵る
口惜しく
- 3101 a-ki kane.
アキ カネ
我は・~をする 状態である
思いました。
- 3102 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが
- 3103 sonno a-ashishkar.
ソンノ アアシシカラ
本当に 我は 罵る+(他動詞語尾)
ほんとにわたしは恨めしい。
- 3104 Nen ka i-rurare yakne
ネン カイルラレ ヤクネ
誰 か 我を・運ばせる ならば
誰かにわたしを送らせたなら
- 3105 chironnup nitne
チロンヌッ ニツネ
我らが 殺すもの 化け物
悪ぎつねの悪神が
- 3106 mashkino ene
マシキノ エネ
あまりに こう
あれほどまで(?)
- 3107 somo i-eshinot
ソモ イエシノッ
(否定) 我を・で おもちゃにする
わたしを^{もてあそ}玩ばなかった
- 3108 nankor i ari
ナンコロ イアリ
だろう ことと
だろうにと
- 3109 yainu-an chiki,
ヤイヌアン チキ
考える・我は なら
思ったら、

※1 参考: aoramampeshpare chiki「我思い出して(脚注: oramampeshpare は oram-peshpa-re のこと)」「(金VII-165)、yayorampeshparean wa「あぶない所をわれ逃れて(脚注:yayorampeshpare はyai-o-ram-peshishte<自身・そこ・心・危うくした>の複数形)」「(金V-94)

6-7 食事しながら

- 3110 sonno tu wenburi nak
ソノ トウ ウェンブリ ナク
誠に 二つの 悪い 振る舞い も
猛烈な怒り
- 3111 re wenburi nak
レ ウェンブリ ナク
三つの 激しい 怒り も
激しい怒りの感情が
- 3112 i-kosankosan.
イコ サンコサン
我・へ向かって 出る+(重複)
噴出してきました。
- 3113 Nekona shikop
ネコナ シコ^フ(←シ^ク オ^フ)
どんな 目 が付く者
どのような顔つきの
- 3114 nekona barop
ネコナ バロ^フ←バ^ラ オ^フ
どんな 口 が付く者
どんな育ちのお方が
- 3115 tapne Otasam un
タ^フネ オタ サム ウン
これのように 砂浜 隣 に住む
このオタサムの
- 3116 sonno a-utari newa
ソノ アウタリ ネワ
本当の 我が・同族 であって
わたしの親戚であるのか(?),
- 3117 oroyachiki
オロヤチキ(←オ^ロ オヤ チキ)
そこ 他の ~すれば
意外にも、
- 3118 shine utat ta
シネ ウタツ(←ウタ^ラ) タ
— 仲間 で
身内同士で
- 3119 i-ukoresbha-an katu
イウコレシバ アン カトウ
我らを・一緒に 育てる・人が 様子
いいなづけ
許婚者として育てたことを、
- 3120 anun mataba
アヌン マタバ(←マ^ツ ア^バ)
よその 女 身内
他族の女性
- 3121 katapne
カ^タネ
も こうである
でさえも
- 3122 pirikano eraman
ピリカノ エラマン
よく わかる
よくご存知で
- 3123 haweokai ko,
ハウエオカイ コ
話す と
お話になるのに、
- 3124 a-wenyubi
ア ウェン ユビ
我が・悪い 兄
わたしのくされ兄は
- 3125 hemanta ye hawe ?
ヘマンタ イエ ハウエ
何を 言う その声
何を言ったのかしら(?)
- 3126 Kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々は

- 3127 esaratara-※1
エサラタラ
それで・開く(?)・(自動詞形成接尾辞?)
声高に(?)
- 3128 somoyeno
p.69 ソモ イエノ
(否定) 言う+(副詞語尾)
言わずに(?),
- 3129 tap korachi
タ^フ コラチ
この 如く
あのように
- 3130 tu pirika kunip
トウ ピリカ クニ^フ
二つの 良い はずのこと
たくさんのよき言葉
- 3131 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ^フ
三つの 良かる べき こと
いくつものやさしい言葉で
- 3132 yeba apkusu,
イエバ ア^クス
言う+(複数語尾) たとしても
言ったとしても、
- 3133 nekona tapne
ネコナ タ^フネ
どのように こう
どんなにかまあ
- 3134 keutum otta
ケウトウム オツ^タ(←オ^ロ タ)
心 の所で
心の中の
- 3135 raun kane
ラウン カネ
下にある 状態で
本心では
- 3136 shiyante keutum
シヤンテ ケウトウム
腹立つ 気持ち
きっと激怒し
- 3137 irushka keutum
イルシカ ケウトウム
怒る 気持ち
いまいまく
- 3138 korba kane nesun
コロバ カネ ネスン
持つ+(複数語尾) 状態で きっと~だ
思っ
- 3139 okai ne ari
オカイ ネ アリ
ある のであると
いらっしやるのだと
- 3140 yainu-an chiki,
ヤイヌ アン チキ
考える・我が から
思えば、
- 3141 eashka
エア^シカ
それこそ
ほんとうに
- 3142 keutum otta
ケウトウム オツ^タ(←オ^ロ タ)
心 の所で
わたしは心の中で
- 3143 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々は

- 3144 a-koyayababu.
アコヤヤバブ(←ア コ ヤイ ア^バブ)
我は・~に 自身 悔いる
にすまなく思いました。
- 3145 Eashka taban
エア^シカ タバン
それこそ ここにある
ほんとうにこれに
- 3146 orushbe anakne
オル^シベ(←オ^ロ ウ^シ ベ) アナ^クネ
所 についているもの は
関する話は
- 3147 tantewano
タン テ^ワノ
今ここから
これから
- 3148 shukup tuika ta
シュク^フ トウイカ タ
成長する 最中 に
の生涯
- 3149 neita bakno
ネイタ バ^クノ
どこ までも
いつまで
- 3150 an-an a yakka
アナン(←ア^ン ア^ン) ア ヤ^クカ
あつ・我が た ても
たつても、
- 3151 ponnoka
ポンノカ
少しも
絶対
- 3152 a-oira eaikap
ア オイラ エ アイカ^フ
我は・~を忘れる それを できない
わたしは忘れない
- 3153 kuni a-ramu.
クニ アラム
するべきと 我は・を思う
とします。
- 3154 Ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
こうこうしかじかと
- 3155 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々
- 3156 a-koyayattasa
アコヤヤッタサ(←ア コ ヤイ ア^ラ タサ)
我は・に対し 自身 全く 返す
にお返し
- 3157 kuni tantewano
クニ タン テ^ワノ
べく 今ここから
しようと、今から
- 3158 a-eyaiko-
アエヤイコシラムセ(←ア エ ヤイ コ
我は・それを 自身に
思いめぐらせ
- 3159 shiramse kane
シラムセ(←シ^{ラム} スイ^エ) カネ
自分の 思い 巡らす 状態で
じっくり考えながら
- 3160 ibe-an. Orowa
イベ アン オロワ
食べる・我が それから
わたしは食べました。それから

※1 参考:「sara[一項動詞]~(人の声)がする」(切379)、e-sara-kamuy-nomi (高い声で)祈る」(萱135)

6-8 つかの間の平穩

- 3161 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アンベ)
神のように ある者
神のようなお方イヨチびとは、
- 3162 ikit tukari
イキツ(←イキリ) トウカリ
列 近く
宝壇のそばの
- 3163 chituye amset
チトウイエ アムセツ
られた切りと 高床
一段高くつくられた
- 3164 kani amset
カニ アムセツ
黄金の 台座
立派な台座が
- 3165 chishiturire,
チシトウリ レ
自身に 自分を伸ばさせる
伸びている
- 3166 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上
- 3167 chiorikinka
チオリキンカ
自身を そこへあげさせる
に上がって
- 3168 shini kotomno
シニ コトムノ
休む らしく
休むように
- 3169 iramu-an.
イラム アン
ものを思う・我は
思われました。
- 3170 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
- 3171 shino shinki-an.
シノ シンキアン
真に 疲れる・我は
すっかりくたびれました。
- 3172 Pon katkemat
ポン カツケマツ
若い 淑女
若い婦人は
- 3173 hotke kosonte
ホツケ コソソテ
寝る 小袖
夜具の小袖を
- 3174 ukaerura,
p.70 ウカエルラ
互い上 そこへ 運ぶ
積みあげて運んで来て、
- 3175 oharkiso unwa
オハラキソ ウンワ
その尻が 左の 座 に行くして
左座に
- 3176 pirika sotki
ピリカ ソッキ
よい 寝床
心地よい寝床を
- 3177 tomtেকarkar,
トムテカラカラ
光るようにする つくる+(重複)
を美しくととのえ、

- 3178 orota i-hotkere.
オロタ イホツケレ
その所に 我を・横にならせる
そこにわたしを休ませました。

- 3179 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 3180 tutko kane
トゥツコ カネ
二日 その状態
二日
- 3181 rerko kane
レレコ カネ
三日 するほど
三日ほど
- 3182 ikoanan.
イコアナン(←イコアン アン)
物事 そこへ 在る・我が
そのように過ごしました。
- 3183 Nekona iki-an chiki
ネコナ イキアン チキ
どう 物事 をする・我が なら
どうしたら
- 3184 pirika nankor'a !?
ピリカ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
いい だろう か
いいのかしら。
- 3185 A-renkaine
アレнкаイネ
我が・意志 として
わたしが勝手に
- 3186 a-koro kotan
アコロ コタン
我が・持つ 村
わたしの村
- 3187 a-kohekomo kane※1
アコヘコモ カネ
我は・へ 頭 折り曲げる 状態で
にもどつても
- 3188 pirika ya
ピリカ ヤ
いい のか
いいのか
- 3189 uyebekennu-an
ウエベケンヌ(←ウエペケレヌ) アン
互いに明らかにする を聞く・我が
尋ねること
- 3190 boka eoribak.
ボカ エオリバツ
すらも それについて 恐れ入る
さえ、わたしは遠慮しました。
- 3191 Kamui ne ambe
カムイ ネ アム(←アン)ベ
神のように ある者
イヨチびとは、
- 3192 okutchi urar
オクッチ ウララ
そこ 暗くなる もや
薄くかげるもや
- 3193 urar tumu
ウララ トウム
かすみ の中
その霧に
- 3194 yayomare,
ヤヨマレ(←ヤイオマレ)
自身を入れる
つつまれ、
- 3195 kebushbe nuye
ケブシベ(←ケブウシベ) ヌイエ
先に付いている物 彫刻
刀のさやを彫る

※1 原綴 Akohekomokohe

6-8 つかの間の平穩

- 3196 humi ash koro okai.
フミ アシ コロ オカイ
その音が立つながらいる
音を立てていらっしやいます。
- 3197 Abetuisam ne
アベトウイサム ネ
火すぐそばに
炉端に
- 3198 an-ehorari,
アネホラリ(←アン エ ホラリ)
我は・そこに尻を押さえる
わたしは座り、
- 3199 otop chinki
オトフ チンキ
髪の毛の裾
頭を深く
- 3200 an-eshitchiure
アネシッチウレ(←アン エ シリ チウレ)
我は・~を大地に刺させる
垂れ
- 3201 oribak-an
オリバク アン
かしこまる・我は
つつしみ深くかしこまっ
- 3202 kane an-an.
カネ アナン(←アン アン)
状態で いる・我は
ておりました。
- 3203 Oshiso un
オシソ ウン
その尻 右座 へ

右座に座る
- 3204 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
イヨ子姫
- 3205 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 3206 i-orun nepka
イ オルン ネフカ
我・の方へ 何か
わたしに何か
- 3207 ye rusui noine
イエ ルスイ ノイネ
言う を欲す らしく
もの言いたげにして
- 3208 okai koroka,
オカイ コロカ
いる けれども
いらしたけれど、
- 3209 a-keutum kashi
ア ケウトウム カシ
我が・気持ち の上
わたしの心を
- 3210 sonno
ソンノ
真に
まるで
- 3211 chikushnanukarbe
チクシナ ヌカラ ベ
~こと通して見る者
見透している
- 3212 semkorachi
セムコラチ
するように
かのように
- 3213 shino oribak kane
シノ オリバク カネ
本当に へりくだる 状態で
慎み深く
- 3214 hebokiki
ヘ ボキ キ
頭を下げる する
頭をさげ
- 3215 kane okai.
カネ オカイ
状態で いる
ていらっしやいました。

第7章 入り江の向こうから

7-1 あやしい喚声

- 3216 Shineanto ta
シネ アント タ
一つ ある 日 に
とある日のこと、
- 3217 shiarmoisam
シア^ラモイ サム
真に 反対 入り江 がわ
一方の入り江がわ
- 3218 un wano
ウン ワノ
にある から
から
- 3219 nekon ne hawe
p.71 ネコン ネ ハウエ
どう である その声
何の声
- 3220 ne nankor' a !?
ネ ナンコ^ラ(←ナンコ^ロ ヤ)
である だろう か
なのでしょか？
- 3221 Nep ka ainu
ネ^ブカ アイヌ
何 か 人
何か人々が
- 3222 yupkehau※1
ユ^ブケ ハウ
きつい 声
激しく責め
- 3223 roise apkor kane
ロイセ ア^ブコ^ロ カネ
騒がしい かのよう な 状態 で
騒ぐような声
- 3224 inu-an.※2
イヌ アン
ものを聞く・我は
聞こえました。
- 3225 Oribak tura
オリバ^ク トウラ
慎み と共に
おそるおそる
- 3226 kamui ne ambe
カムイ ネ アム^ベ(←アン ベ)
神 のように ある 者
神のようなイヨチびと
- 3227 a-kohebuni ko,
アコヘ^ブニ コ
我は・～向かって 顔を上げると
に向かってわたしが顔を上げると、
- 3228 tapan hawash
タパン(←タ^ブアン) ハワシ
今ここに ある 声がする
これらの声が
- 3229 nu ruwe ne ya
ヌ ルウエ ネ ヤ
聞く その事実 である か
聞こえたのか
- 3230 somo ruwe ne ya,
ソモ ルウエ ネ ヤ
(否定) その事実 である か
聞こえなかったのか、
- 3231 rorumburai
ロルム^ブライ(←ロ^ロ ウン プライ)
横座 にある 窓
かみまど
神窓のすだれ
- 3232 hekotano
ヘコタノ
その方+(副詞語尾)
の方へ
- 3233 shikirba kane
シキリバ カネ
自分を回す(sikiru複) 状態で
何度も振り向きながら
- 3234 inuye koran
イヌイエ コラン(←コ^ロ アン)
物に彫刻する ながら いる
彫り物をしている
- 3235 shiriki.
シリキ(←シリ イキ)
様子 物 をする
ようすです。
- 3236 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い婦人イヨチ姫
- 3237 ne yakka
ネ ヤ^クカ
にしても
にも
- 3238 inu kotomno
イヌ コトムノ
ものを聞くらしく
聞こえたらしく、
- 3239 kisar uheubare※3
キサ^ラ ウヘウバ^レ
耳 両方 を傾か(hewe複) せる
耳を傾け
- 3240 ranke ikokanu
ランケ イコカヌ
くりかえしする 物 を聞き入っ
ながらじいっと聞き入っ
- 3241 wa okai,
ワ オカイ
て いる
ており、
- 3242 otusui konna
オトウスイ コンナ
幾つも重なる 二 回 (調律)
何度も
- 3243 oresui konna
オレスイ コンナ
幾つも重なる 二 回 (調律)
何度も
- 3244 ikit tukari un
イキツ(←イキリ) トウカリ ウン
列 近く にいる
宝壇のそばにいる
- 3245 kamui ne ambe
カムイ ネ アム^ベ(←アン ベ)
神 のように ある 者
神のようなイヨチびとに
- 3246 ramnukare※4
ラムヌカ^レ
心 に見せる
術でもって見せ
- 3247 ranke yakka,
ランケ ヤ^クカ
繰り返して も
ても、
- 3248 kamui ne ambe
カムイ ネ アム^ベ(←アン ベ)
神 のように ある 者
イヨチびとは、
- 3249 ponnoka
ポンノカ
少しも
少しも
- 3250 hosari ruwe
ホサリ ルウエ
振り向く その様子
振り向いたり
- 3251 hekiru ruwe ka
ヘキル ルウエ カ
頭 を向ける その事実 も
顔を向けたりすることが
- 3252 oarar isam.
オアラ^ラ イサム
まったく 無い
まったくありません。
- 3253 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
イヨチ姫は
- 3254 nep ka ye rusui
ネ^ブカ イエ ルスイ
何 か 言う を欲す
何かもの言いたげ
- 3255 kotomno
コトムノ
らしく
にして
- 3256 okai koroka,
オカイ コロカ
いた けれども
いらしたけれど、
- 3257 oribak kunip
オリバ^ク クニ^ブ
へりくだる べき 者
遠慮して
- 3258 euchike kunip
エウチケ クニ^ッ
に関して 臆病な はずの 者
勇気がない
- 3259 konep ne kusu
コネ^ッ ネ クス
(調律)であるもの である 故に
ものだから、
- 3260 otu kainoni
オトウ カイノニ
幾多の 二 砕けた その唾
幾度も幾度も口中にたまった
- 3261 ore kainoni
オレ カイノニ
幾多の 三 なまつば
なまつば
生唾をくり返し
- 3262 ukaeruki shiri
ウカエルキ シリ
互いの 上 にを飲み込む その様
の
呑み込んでいる様子を
- 3263 a-nukar chiki,
アヌカ^ラ チキ
我は・～を見る なら
わたしは見たから、

※1 参考:「yupkehawe【名詞】yupke-hawe<きつい・～の声>～の厳しい批判」(田875)

※2 「inu(それを聞く、物を聞く、すなわち nu の目的格を取った形)の第一人稱語尾 -an を採ったもの、我聞く、であるが、聞こえると自動詞に譯すことが出来る」(研W452)

※3 「kisar u-heupa-re<両方を・傾く、かしげる'の複数形・させる>hewe'傾く、かしげる'が複数語尾 -pa を取るため e が落ちて heupa」(金 I-79)

※4 原綴 ramnonkare 「ramnukare<心・見さす>心で見抜いている(金 I-83)、<心に・見さす>(金 I-286)、巫術でもって見る(研774)」

7-1 あやしい喚声

- 3264 eashka
エア^シカ
それこそ
ほんとうに
- 3265 a-eramboken.
アエラム^ムボケン(←ア エラム^ム ポキウエン)
我は・~で心 その下 悪い
お気の毒に思いました。
- 3266 Aokai ne yakka
p.72 アオカイ ネ ヤ^カカ
我 であつても
わたしも
- 3267 hemanta hawe
ヘマンタ ハウエ
何か の声
何かの音が
- 3268 bebunitara
ベブニタラ(←ベブン イタラ)
ベブンという音 続いている
騒がしく起こり、
- 3269 nep ka somo un※1
ネ^ブカ ソモ ウン
何 か (打消)(強め辞)
何か
- 3270 ashtoma
ア^シトマ
恐ろしい
恐ろしい
- 3271 orushbe hene
オル^シベ(←オ^ロウ^シペ) ヘネ
所 についているもの でも
ことでも
- 3272 okai wa he hawash?
オカイ ワ ヘ ハウ^シ
あつてかの 音がする
あつての声じゃないかしら?と
- 3273 chikibonewa
チキボネワ
我ら する+(指小辞)であつて
もう少しで
- 3274 soine-an wa
ソイネ アン ワ
外に出・我は て
外に出て
- 3275 inkar-an anke
インカラ^ン(←インカラ^ン アン) アンケ
眺める・我が しそうに
見たくなりそうに
- 3276 yainu-an korka,
ヤイヌ アン コ^ロカ
考えた・我は けれど
なったけれど、
- 3277 chisekor
チセ コ^ロ
家を持つ
主人側である
- 3278 pon katkemat
ポン カツケマツ
若い 淑女
イヨチ姫
- 3279 katapne
カタ^ツネ
もこうである
でさえも
- 3280 akihi eoribak
アキヒ エオリバ^ク
その弟 にかしこまる
弟ぎみに遠慮して
- 3281 chitomkokanu
チト^ムコカヌ
自身 まん中を傾聴する
彼の判断に任せて
- 3282 ruwe okai ko,
ルウエ オカイ コ
その事実 ある と
いらっしやるのに、
- 3283 a-renkaine
アレンカイネ
我が・意志として
わたしが勝手に
- 3284 soine-an ka
ソイネ アン カ
外に出る・我は も
外に出て行くことも
- 3285 eaikap.
エイカ^ツ
それを 出来ない
できません。
- 3286 Neino
ネイノ(←ネノ)
そのような
そのことにも
- 3287 iyoyamokte-an
イヨヤモ^クテ(←イ オヤモ^クテ) アン
物事をいぶかる・我は
何か変だなと思ひ
- 3288 kane ikokanu-an.
カネ イコカヌ アン
状態で 物事に聞き入る・我は
ながらジツと聞いていました。
- 3289 Uweebakeun
ウウエ エバケ ウン
互いの次へ
次第に
- 3290 ehankeno
エハンケノ
そこに 近い+(副詞語尾)
近づいて来る
- 3291 inne utar
インネ ウタラ
大勢の人々
大勢のひとたちの
- 3292 hokokse hawe
ホコ^クセ(←ホ^クホ^クセ) ハウエ
ホ^クホ^クという音を出す その声
フオホホーイとか
- 3293 humse hawe
フムセ ハウエ
フムという その声
フムツという雄叫びの音が
- 3294 bebunitara
ベブニタラ(←ベブン イタラ)
ベブンという音 続いている
騒々しく
- 3295 sonno anuno yakka,
ソンノ アヌノ ヤ^カカ
本当に 人々が聞くよくても
はっきり聞こえても、
- 3296 konep oyamoktep
コネ^ブ オヤモ^クテ^ブ
(調律)何 不審に思うもの
何か怪しむのが
- 3297 tap ainu newa
タ^ブ アイヌ ネワ
この人間 であつて
この人間というものなのに(?)
- 3298 kamui ne ambe
カムイ ネ ア^ムベ(←アン ベ)
神 のように ある者
イヨチびとは
- 3299 ponnoka rikke(rokke?)
ポンノカ リ^クケ
少しも (不詳)
少しも動じる(?)
- 3300 ruwe ka isam.
ルウエ カ イサム
その事実 も ない
様子もありません。
- 3301 Nea hawash
ネア ハウ^シ
件の 話し声
騒々しい音が
- 3302 arekushkonna
アレク^シコンナ(←アラ エク^シ コンナ)
全くだしめけに+(調律)
突然急に
- 3303 chietuitekka.
チエ トウイ テ^クカ
自身がそこで切れる ちよつとさせる
ぱったり止みました。
- 3304 Shittoyakan
シットヤカン(←シリトイ ヤカン)
地土陸上
あたり一帯の
- 3305 chikishnatara
チキシナタラ
自身 無音であり続ける
音が消え、
- 3306 kokishnatara,
コキシナタラ
対して 無音であり続ける
シーンとして
- 3307 konep humi ka
コネ^ブ フミ カ
(調律)何 の音も
何の音も
- 3308 konep hawe ka
コネ^ブ ハウエ カ
(調律)何 の声も
何の声も
- 3309 oarar isam.
オアラ^ラ イサム
まったく 無い
しなくなりました。
- 3310 Hontomo ta
ホントモ タ
その半ばに
そのとたんに
- 3311 hemanta okaibe
ヘマンタ オカイベ
何 あるもの
何者かが
- 3312 chise samka ta
p.73 チセ サム カ タ
家側上 に
館のそばで
- 3313 aruterkere※2 humi
アルテレケレ(←アラ ウ テレケレ) フミ
全く相互に跳ねらせる その音
跳ね合う音が
- 3314 oroneambe
オロネア^ムベ(←オロ ネアンベ)
全く+(強め辞)
おびただしく

※1 「somo un=som'un じゃない?」(金Ⅱ-90、-130)(金Ⅵ-350)

※2 「互いが互いを跳ねらせる、相跳り合う。」(金Ⅱ-171)

7-2 陸から来襲した軍勢

- 3315 rimnatara
リム ナタラ
ドシンと 鳴り続く
ドストス響いてきた
- 3316 yak a-ramu…
ヤ ヌ アラム
と 我が・～を思う
と思ったとたん…。

- 3317 ahun ushiu※1 utar
アフン(←アウ ウン) ウシウ ウタラ
家の中 にいる 召使い たち
内仕事をする召使いたちが
- 3318 chisoyokuta,
チソヨクタ(←チ ソイ オ クタ)
自身を 外へ へこぼす
外へこぼれたように飛び出し、
- 3319 soyun ushiu utar
ソユン(←ソイ ウン) ウシウ ウタラ
外 にいる 召使い たち
外仕事をする召使いたちが
- 3320 chiawokuta,
チアウオクタ(←チ アウ オ クタ)
自身を 内へ あける
家の中へかけこみ、
- 3321 shiknum noshki
シクヌム ノシキ
目玉 の中央
目の玉を
- 3322 aship aship,
アship アship
出る(asin複)+(重複)
ギョロギョロむき出し、
- 3323 kanna kanna
カンナ カンナ
上の方へ 上の方へ
何度も何度も
- 3324 ukoasurbashte kane,
ウコアスルバシテ カネ
互いに 噂 走らせる 状態で
言い合いながら、
- 3325 shine itak
シネ イタク
一つの 言葉
異口
- 3326 eubaemko-
エウバエムコ
について 互いに 口 半分
同音
- 3327 uina hawe
ウイナ ハウエ
取る その声
に
- 3328 ene okai i ;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには、
- 3329 " Koninkar kusu !
コンインカラクス(←コン インカラ クス)
早く！ 見る+(感嘆の助詞)
「いざいざ、
- 3330 a-hekote
アヘコテ
我らが・頭を結びつける
われらが仕える
- 3331 kamui utar !
カムイ ウタラ
神 たち
神たちよ。
- 3332 Itak-an chiki
イタカン(←イタク アン) チキ
言っ・我らが から
われらの言うことを

- 3333 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
よく 聞いて
よく聞いて
- 3334 i-kore kunak
イコレ クナク(←クン ヤク)
我に・与える べきであると
くだ
- 3335 ramu yan !
ラム ヤン
思い なさい
され。
- 3336 Taban to otta
タバント オッタ(←オ タ)
この 日 の所に
今日は
- 3337 ormashkino
オ マシキノ
全くあまりにも
あまりにも
- 3338 shiripirika
シリピリカ
辺りの様子 よい
上天気
- 3339 kasui wa kusu,
カスイ ワ クス
過ぎる た 故に
だったから、
- 3340 a-tobaha
アトバハ
我ら・の群れ
われら召使い一同
- 3341 uweutanne-
ウエウタンネ(←ウ エ ウタラ ネ)
互いに それで 仲間 になる
連れ立つ
- 3342 an wa
アン ワ
我ら て
て
- 3343 yainuchattek-
ヤインチャツテクカ(←ヤイ ヌ チャク テク)
自身の 顔 晴れる ちよつと～する
ほがらかな気分
- 3344 ka-an kor,
カアン コロ
させる・我らが ながら
で、
- 3345 kaikuma uk-an
カイクマ ウクアン
薪 を取る・我らは
たきぎ拾いや
- 3346 yapni※2 uk-an
ヤプニ ウクアン
寄り木 を取る・我らは
流木拾いに
- 3347 a-uwetushmak kor
アウエトウシマク コロ
我らは・互いに それで 競争する ながら
競い合い、
- 3348 a-euminare koro
アエウミナレ コロ
我らは・で 笑わせ合い ながら
笑い転げたりしながら

※1 aun usshiu/soyun ushiu「<内の召使(家の内の事をして仕へる奴婢)/外の召使(家の外の事をして仕へる奴婢)>(研W338)、召使いのうち、家のまわりを掃除するものと、屋内の拭き掃除するものを分けて言う。aun(原綴 ahun)<内の>(金 I-61)」

※2 「yap-ni<寄りあがる・木>run-ni<流木>のこと」(金 V-110)

7-2 陸から来襲した軍勢

- 3349 okai-an awa,
オカイ アン アワ
い・我らは たどころが
いたところ、
- 3350 shiarmoisan wa
シア^ラモイサム ワ
真に 反対 入り江 がわ から
正反対側の入り江がわから
- 3351 nekon ne shiri
ネコン ネ シリ
どう である その様子
どうしたこと
- 3352 ne nankor' a !?
ネ ナンコ^ラ(←ナンコ^ロ ヤ)
である だろう か
でありましょうや!
- 3353 Tanneno※1
タンネノ
長い+(副詞語尾)
長く連なった
- 3354 ainu toba
アイヌ トバ
人 の群れ
隊列(?)が
- 3355 tu moitek kama
トゥ モイテ^ク カマ
二つの 湾手 を越える
たくさんの入り江を囲む出崎
- 3356 re moitek kama
レ モイテ^ク カマ
三つの 湾手 を越える
幾つもの湾を越えて
- 3357 tanneno teshne
タンネノ テ^シネ
長い+(副詞語尾) (不詳)
長く連なって(?)
- 3358 kane arki.※2
p.74 カネ ア^ラキ
状態で 来る
やって来ました。
- 3359 Nei enka shike
ネイ エンカシケ
その 離れた上方
その上空には
- 3360 retar urar
レタ^ラ ウラ^ラ
白い 霧
白い霧が
- 3361 buyatek nish ne
ブヤテ^ク ニシ ネ
もやもやした 雲 になる
もうもうとした雲になって
- 3362 shienkaotte,
シエンカ オツテ
自分 の上 たくさん居 させる
群がり、
- 3363 nei tumukehe
ネイ トウムケヘ
そこ の中に
その中に
- 3364 shikaye kane
シカイエ カネ
自分 を折る 状態で
稲妻のような光が

- 3365 mike kane
ミケ カネ
光り輝く 状態で
ピカッピカッと光っている
- 3366 shiriki.
シリキ(←シリ イ キ)
様子 物 をする
ようです。
- 3367 Sonno homatba-
ソンノ ホマツバ
本当に 尻 を挙げる(←homatu複)
まことにわれらは驚い
- 3368 an wa, mono
アン ワ モノ
・我らは て 静かに
て、声もなく
- 3369 roshki-an kane.
ロシキ アン カネ
立つ・我らは 状態である
突っ立っていました。
- 3370 Nei arkip tane
ネイ ア^ラキ プ タネ
その 来た者 今は
その来襲者らはもう
- 3371 a-kor kotan
アコ^ロ コタン
我らが・持つ 村
われらの村
- 3372 rakehe koshireba.
ラケヘ コシレバ
低い所 に到着する
のしもてに到着しました。
- 3373 Inkar-an ko
インカラン(←インカ^ラ アン) コ
眺める・我らが と
見れば、
- 3374 taninne kunip
タニンネ(←タン インネ) クニ プ
この 大勢の はずの者
この大勢の
- 3375 hayok numikir
ハヨク ヌミキ^リ(←ヌム イキ^リ)
鎧う 粒列
鎧を着た隊列は
- 3376 neita bakno
ネイタ バ^クノ
どこ まで
どこまでも
- 3377 utaberari kane,
ウタベ^ラリ(←ウ タ^ラ エ^ラリ) カネ
互い 肩 そこに 押さえつける 状態で
肩を連ねあって、
- 3378 arobbitano
アロビ^タタノ(←ア^ラ オビ^タタノ)
全く皆
全員が
- 3379 sonno konru tomne
ソンノ コンル トム ネ
本当に 氷 光 のように
まさに氷のような光を放つ
- 3380 emush oruibeneno
エムシ オルイベネノ
刀 抜き身の+(副詞語尾)
抜き身の刀

- 3381 amba kane,
アムバ カネ
を持つ(ani複) 状態で
を手に持って、
- 3382 uwohumseechiu
ウオフムセ エチウ
互いにそこからフムという声 を刺す
互いにフムフムと力声や
- 3383 hokokse koro
ホコ^クセ(←ホ^クホ^クセ) コロ
ホクホクという音を出す と
フォホホーイという声を挙げながら
- 3384 emush shienka un
エムシ シエンカ ウン
刀 自分の上 へ
刀を頭上に
- 3385 turba turba
トゥルバ トウルバ
を伸ばす(turi複)+(重複)
伸ばし伸ばし
- 3386 kane ikichi,
カネ イキチ
状態で 物 をする
して氣勢をあげ、
- 3387 hayokbe nubek
ハヨクベ ヌベ^ク
武装する物 光
鎧兜や
- 3388 eembe nubek※3
エエムベ(←エエン ペ) ヌベ^ク
鋭い物 光
鋭い刃の光を
- 3389 ene ramurar※4 kunne
エネ ラムラ^ラ(←ラム ウラ^ラ) クンネ
こう 低い霧 のように
狭霧のように
- 3390 buyatek nish ne
ブヤテ^ク ニシ ネ
もやもやした 雲 のように
もうもうとした雲のように
- 3391 shienkaotte kane
シエンカ オツテ カネ
自分 上 たくさん居 させる 状態で
群がらせて
- 3392 arki※5 shiri
ア^ラキ シリ
来る その様
来たの
- 3393 ne rok okai !
ネ ロ^ク オカイ
であった のである
であります!
- 3394 Urar kotchaotno
ウタ^ラ コツチャ オツノ
人々 前 たくさん付く+(副詞語尾)
軍勢の先頭に
- 3395 shiyutarkorkuru※6
シユタ^ラコ^ククル(←シ ウタ^ラコ^ククル)
真に 一族 を支配する お方
総大将
- 3396 nei kotomno
ネイ(←ネ) コトムノ
である ごとく+(副詞語尾)
であるらしい

※1 参考:「tanneno-po 長々しく」(語法)「tannenopo 長々しく」(久266)

※3 常套句ではeembe(eenbe)の次はnotak<刃>が多い。

※4 「ram-urar<常(rama また ramma の語根)・霧>いつもかゝつてみて晴れない霧、また雲」(研W472)

※5 原綴 ariki

※6 《萱野茂訳》「<本当・仲間・持つ・人>」(教XVII-105)

※2 原綴 ariki

7-3 海から来た若者

- 3397 ponainuponkuru
ポナイヌポンクル(←ポンアイヌポンクル)
若い男 若いお方
若いお方が、
- 3398 eashka
エアシカ
本当に
それこそ
- 3399 rametok sone
ラメトク ソネ
勇敢な人 本当に
勇者にちがいない
- 3400 rametok ibor
ラメトク イボロ
大胆な 顔色
勇者らしいおもざし
- 3401 eibottumu
エイボツ(←エ イボロ) トウム
それで 顔色 の中
で顔つきが
- 3402 koniunatarā,
p.75 コニウナタラ(←コ ニウエン イタラ)
に対し 強そうな形相を し続ける
きりりとしており、
- 3403 urar kusu
ウララ クス
もや のため
もやのせいで
- 3404 imeru kusu
イメル クス
物の きらめき のため
後光のせいで
- 3405 a-nukar boka
アヌカラ ボカ
我らは・を見る さえも
見ることさえ
- 3406 a-ewen kane.
アエウエン カネ
我らは・で 悪い 状態だ
できないほどです。
- 3407 Tumieshiyuk
トウミ エ シユク
戦さにおいて 装束する
武装を整え
- 3408 kamuiranketam
カムイ ランケ タム
神 が降ろした 刀
神から授かった太刀を
- 3409 kutbokechū,
クツ ボク エチウ
帯 下に差す
腰に下げ、
- 3410 nichī takne op
ニチ タクネ オブ
その柄 短い 槍
柄の短かい槍を
- 3411 ram kuwa ne※1
ラム クワ ネ
低い 杖 として
低い杖のように
- 3412 eyaitete※2 kane,
エヤイ テテ カネ
それで 自身 杖つく 状態で
突っかって、

- 3413 tanebo taban
タネ ボ タバン(←タブ アン)
今+(指小辞) 今ここに ある
たった今この
- 3414 bish ta shireba.
ビシ タ シレバ(←シリ エバ)
浜 に 土地 に着く
浜に到着いたしました。

- 3415 Koeramno sui
コエラムノ スイ
といっしょに また
それと同時にまた
- 3416 arhorebashi
アラホレバシ(←アラ ホレバ アシイ)
全く 尻が 沖 に立つ 所
はるか沖合に
- 3417 kani pon rokunte※3
カニ ポン ロクンテ
金の 小さな 帆掛かけ船
金色の小さな帆掛かけ船が
- 3418 sarambe kaya
サラムベ カヤ
上等な布 帆
布製の帆
- 3419 kaya honkese
カヤ ホン ケセ
帆 腹 の末
その帆の下腹を
- 3420 tokse kane,
トクセ カネ
ふくらむ 状態で
風でふくらませながら、
- 3421 sekke
セッケ
(不詳)
(不詳)
- 3422 kotbok riri
コツボク リリ
直前 の波
舳先に当たる波を
- 3423 tosoatki,
トソサッキ(←トソシトソシ アッキ)
ザザッ、ドサドサ ~し続ける
ザアザア蹴立てて
- 3424 yan shiri konna
ヤン シリ コンナ
陸に向かう その様 (調律)
やって来る様子は
- 3425 ramamatki.
ラママッキ
ひたすらに
まっしぐら。
- 3426 A-kot tomari
アコツ(←ア コロ) トマリ
我ら・が持つ 港
わが里の入江
- 3427 tomari kambar
トマリ カムバラ(←カン パラ)
湾 上の口
その入り口
- 3428 chiebekare,
チエベカレ
自身を そこに 向かわせる
に向かつて来て、
- 3429 kaibok※4 ka ta
カイボクカ タ
砕け波 下の上 に
波うちぎわに
- 3430 chip atte.
チブ アッテ
船 を掛ける
停泊しました。

※1 「アイヌの山杖 kimun kuwa は一丈もあるから」(金 I-251)

※2 「etete<つかえる、杖につく>」(金 III-300)

※3 rokunte「rokundeu とも。大船、軍艦(研W301)、大船、弁財船(語法)、帆掛かけ船(萱479)、rokuntew【名詞】《平賀サタモ》客船(田583)」「kani pon rokunte《萱野茂訳》「小さな帆掛かけ船」(教24-96)、

※4 kaibok「kay-pok<砕け波(の)・下>波うちぎわ」(地45)

7-3 海から来た若者

- 3431 Nei※1 utar
ネイ ウタラ
その 人々
先に来襲した軍勢が
- 3432 nei chip
ネイ チブ
その 船
その船を
- 3433 oyamokte noine
オヤモクテ ノイネ
不審に思う らしく
怪しみながら
- 3434 roshki awa,
ロシキ アワ
立っ たところが
立ち止まっていたところ、
- 3435 chipshikekka※2 wa
チブシケカ ワ
船 荷上 から
停泊した船の甲板から
- 3436 ponurar tapkop
ポヌラ(←ポン ウラ) タブコブ
小さい 霞 孤峰
霞の丸い小山が
- 3437 ai tune※3 shiri
アイ トウネ シリ
矢 線条のような その様
まるで矢が飛んでいく
- 3438 ekannayukar
エ カンナ ユカラ
それについて 再び まねる
そっくりにスウツと飛んで、
- 3439 shiyutarkorbe
シユタラコロベ(←シ ウタラ コロ ベ)
真に 同族 支配する 者
先にやってきた族長の
- 3440 atteksama※4 ta
アツ(←アラ?) テクサマ タ
全く(?) すぐわき に
すぐそばに
- 3441 chikap reu shiri
チカレウ シリ
鳥 木の枝に止まる その様
鳥が木の枝に止まる
- 3442 shikobayar.
シコバヤラ
自分を 間違え させる
そっくりに舞い降りました。
- 3443 Urar tum un
ウララ トウムン(←トウム ウン)
もや 中 にある
もやの中にいる
- 3444 semor borono
セモロ ボロノ
(否定+強勢) 大きく
さほど年長ではない
- 3445 okkayo kutor
オクカヨ クトロ(←クツ オロ)
男性 喉 内
青年の声つき

- 3446 beure itak hau
ベウレ イタク ハウ
若い 言葉 声
若者が話す声
- 3447 kani mau ne
カニ マウ ネ
金の 気 のように
鈴をふるわせるような
- 3448 uwetunuisse hawe
ウ ウェトウヌイセ ハウエ
互いに 金属音を鳴らす その声
美しく響く声で
- 3449 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには、
- 3450 Nekonne
ネコン ネ
どうである
『どうした』
- 3451 shiri ta an?
シリ タ アン
のこと これ あるか
ことなのか?
- 3452 Ainu kotan
アイヌ コタン
人間 村
アイヌの村では
- 3453 tuima an kotan hene
トウイマ アン コタン ヘネ
遠くに ある 村 でも
遠くにある村でも
- 3454 hankeno okai
p.76 ハンケノ オカイ
近くに ある
近くにある
- 3455 kotan hene
コタン ヘネ
村 でも
村でも
- 3456 uneno
ウネノ
互いに似て
同じように
- 3457 yaun kotan
ヤウン コタン
陸の 村
大陸(内陸? 北海道?)の村
- 3458 anakne
アナクネ(←アン ヤクネ)
ある ~すれば
では、
- 3459 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
お互いに
- 3460 kashi-a-ramu,※5
カシ アラム
その上を 我らが・思う(?)
助け合い(?)、

- 3461 anun ne yakka
アヌン ネ ヤッカ
よその であつても
見ず知らずの他人でも
- 3462 a-chishko
アチシ コ
我らは・泣く 共に(?)
泣きながら(?)
- 3463 a-koiki,
ア コイキ
我らは・撃つ
戦い(?)、
- 3464 kamui turanno
カムイ トウランノ
神 と共に
神々共々
- 3465 a-eramboken
アエラムボケン(←ア エラム ポキウエン)
我らは・~で 心 その下 悪い
あわれに思う
- 3466 ruwe ne.
ルウェ ネ
その事実 である
のだ。
- 3467 Ratchi apkash
ラッチ アブカシ
静かな 歩み
穏やかなそぞろ歩き
- 3468 nubetne apkash
ヌベツネ アブカシ
嬉しい 歩み
楽しい散歩
- 3469 a-ki awa,
アキ アワ
人々が・をし たところが
を村人(?)がしていたところに、
- 3470 rabokita toop
ラボキタ トオブ
その間に 遠い
そこへ、遠い
- 3471 horebashi wano
ホレバシ(←ホ レバ アシイ) ワノ
尻が 沖 に立つ 所 から
沖の方から
- 3472 yan-an kor,
ヤナン(←ヤン アン) コロ
上陸する・我らが と
われらがやって来て、
- 3473 shietokun※6wa
シエトクン(←シ エトク ウン) ワ
自分の 前方に、の から
自分の前方を
- 3474 inkar-an ko,
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
われが眺めると、
- 3475 kamuikuror
カムイクロロ(←カムイ クル オロ)
神 影 内
たくさんのむら雲が

※1 nei「その。一音節語は多少長目に発音されるのを英語流に重母音化して nei と筆録されたのは B 師流。」(金 II-229)

※2 cip-sike「<舟・数>割舟の底、大船には甲板をも」(研W301)「<舟(の)・底>舟底」(語法)「<舟・荷物>舟の積み荷」(田58)《萱野茂訳》chipshikeka wa「船荷の上から」(教Ⅷ-67)

※3 原綴 tunne。tu-ne「<すつと行く 状態>(研639)、<糸、筋、線条 である、になる、~のように>(金Ⅶ-193)」「【自動詞】<一本の糸のようである>(?)ピンと張っている」(田736)

※4 attomsama の誤記?「ar-tomsam-a<全く・わき、身側、身邊・(所屬形語尾)>その方へ、まつすぐに、~様へ」(研811)

※5 「kashiramu 助手スル。v.t.To take one's part. Syn:kashikewe」(B236)「kashikewe 守ル。v.t.To defend. To5 take care of. Syn:kakewe」(B235)《萱野茂訳》「kashi echi-kewe<上・お前達・追う>庇うことにするなら(教Ⅵ-117)、kashi chi-kewe i-ekarkar<上・それ・追った私・それ・作り作り>私を庇って」(教Ⅷ-139)」

※6 shietok-un/inkar-an ko「ゆくてはるかに/わが見渡せば(研853)、わが前方を/打ち見れば(研854)」「シエトク siyetok【位置名詞】si-y-etok<自分・(挿入音)の先>(次の文脈で)自分の進んでいる前方。siyetok un①自分の(進んでいる)前方に②自分の(進んでいる)前方の…参考 un の前でのみ使われている」(田670)

- 3476 yaikar ruwe
ヤイカラ ルウェ
自身を為す その様子
わき起こっているのを
- 3477 oar a-oyamokte.
オアラ ア オヤモクテ
全く 我は・不審に思う
われはとても怪しいと思った。
- 3478 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それで
- 3479 nisomap keutum
ニソマツ ケウトウム
心配する 気持ち
われは非常に心配
- 3480 a-yaikore,
ア ヤイ コレ
我は・自身に ~を与える
になり、
- 3481 ikaobash-an awa
イカオバシアン アワ
人の上に走っ・我が たところ
かけつけたところ、
- 3482 soonno boka
ソオンノ ボカ
本当に(sonno強調形)(指小辞)+も
はたして思ったとおり
- 3483 tumi san kotomno
トウミ サン コトムノ
戦さ が出る らしく
戦さが勃発したように
- 3484 iramu.
イラム
ものを思う
思われた。
- 3485 Iramsarakka!※1
イラム サラクカ
人に・心 苦しませる
心配だなあ!
- 3486 Neitakaiki
ネイタカ イキ
どこにも+(添え辞)
どこかに
- 3487 nep hokambap
ネプ ホカムバプ
何か 難しいこと
何かややこしいこと(難事)が
- 3488 okai wa he
オカイ ワ ヘ
あつ て か
あったか
- 3489 shiriki.
シリキ(←シリ イキ)
様子 物をする
のようす。
- 3490 Hemanta tapne
ヘマンタ タツネ
何か これのように
何かがまあ
- 3491 otumioshma wa,
オトウミ オシマ ワ
それが原因で 戦いが突発して
戦いの元となって、
- 3492 orsaureko
オサウレコ
全く 緩い+(否定)
とんでもない
- 3493 tumi shikarkar
トウミ シカラカラ
戦さ 自身をしまつする
戦さの準備をしている
- 3494 ruwe okai?
ルウェ オカイ
事実 ある
のか?
- 3495 Konep kotani
コネプ コタニ
(語勢) 何 の村
何村かが
- 3496 otumioshma
オトウミ オシマ
それが原因で 戦いが突発した
戦いの元となって
- 3497 shiri ta okai?
シリ タ オカイ
のこと これ あるか
のことなのか?
- 3498 Oribak tura
オリバク トウラ
慎み と共に
おそれながら
- 3499 ikikorkaiki
イキ コロカ イキ
物 する けれども+(添えの助辞)
ではあるけれども
- 3500 a-nu rusui.
アヌ ルスイ
我は 聞く を欲する
われは聞きたし。
- 3501 Shiyutarkorkuru※2
シユタラコロク(←シウタラコロク)
真に 同族 支配する方
族長どのが
- 3502 sone makan※3
p.77 ソネ マカン
本当に どのように
ほんとうにどうして
- 3503 anun hetapne
アヌン ヘタツネ
他人 かこれはまあ
よその村に対して(?)
- 3504 ene ruwe okai a
エネ ルウェ オカイ ア
こう その様 ある た
そのような様子をしているのか(?)
- 3505 inkar-an humi
インカラン(←インカラ アン) フミ
眺める・我が 感じ
われが見たことを
- 3506 ponno a-oyamokte.
ポンノ ア オヤモクテ
少し 我は・不審に思う
すこし不審を覚える。
- 3507 Hoshkino
ホシキノ
最初に
先に
- 3508 a-kor kotani
アコロ コタニ
我らが・持つ その村
自分の村名を
- 3509 a-reko hene,
アレコ ヘネ
我らが・の名を言う でも
名乗るのも、
- 3510 iyoshno※4
イヨシノ
そのあとから
あとから
- 3511 a-reko hene
アレコ ヘネ
我らが・の名を言う でも
名乗るのも
- 3512 mashkin※5 wen ka
マシキン ウェン カ
あまりに 悪く も
たいして差も
- 3513 somoki nankoro.
ソモキ ナンコロ
(否定)する だろう
ないだろう。
- 3514 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このもの 故に
それゆえに
- 3515 e-kor kotani
エコロ コタニ
汝が・持つ その村
そなたの村の
- 3516 reko wa
レコ ワ
名乗って
お名前を
- 3517 i-nure kunak
イヌレ クナク(←クンヤク)
我に・聞かせる べきであると
お聞かせ
- 3518 ramu yan!' ari
ラム ヤン アリ
思いなさいと
『くだされ』と
- 3519 hawash awa...
ハワシ アワ
言っ たところが
おっしゃったところ…。

※1 iramsarakka「【感嘆詞】せつなさよ！やるせなや！」(語法) 参考: eramusarak「e-ramu-sarak<それについて・心・苦しむ>」(金Ⅲ-81)「【他動詞】<で・心・?>〜が気がかりである」(田116)

※2 原綴 Shiyutar kor [改頁]koro kuru

※3 《萱野茂訳》「真実だろうか」(教23-121)

※4 原綴 iyoshino

※5 原綴 mashki

7-4 ポンテセウびとの言い訳

- 3520 Shiyutarkorokuru
シユタ^ラコロク^ル(←シ ウタ^ラコロク^ル)
真に同族支配する方
総大将は
- 3521 shino homatu
シノ ホマトウ
まことに尻を挙げる
たいそう驚いた
- 3522 noine a-ramu.
ノイネ アラム
らしく我らは・～を考える
ように思われました。
- 3523 Itak hawe
イタク ハウエ
言う その声
その隊長が
- 3524 ene okai i;
エネ オカイ イ
こうあること
こうおっしゃるには、
- 3525 A-kor kotani
アコロ コタニ
我が・持つ その村
『わが村の
- 3526 reikoro katu
レイコロ(←レコロ) カトウ
名前を持つ その有様
名は
- 3527 PonTeseu newa,
ポンテセウ ネウ
小テセウであって
ポンテセウでありまして、
- 3528 a-irwaki
アイワキ
我・の兄弟姉妹
わが義きょうだい
- 3529 Otasamunkuru
オタサムウンクル
砂浜側に住むお方
オタサムびと—
- 3530 a-aktonoke
アア^ツトノケ
我が・弟殿
わが義弟どのと
- 3531 shine utat ta
シネ ウタツ(←ウタ^ラ) タ
— 仲間で
一族内で
- 3532 utashba
ウタシバ
互いと交換する
それぞれお互いの
- 3533 a-turesh utari
アトウレシ ウタリ
我らの・妹たち
妹たち同士を
- 3534 a-ukoresu※1
アウコレス
我らが・一緒に育てる
婚約者として育てよという
- 3535 chihopba itak
チホ^ッパ イタク
られた置き去言葉
遺言、
- 3536 shinrit itak※2
シンリツ イタク
祖先の言葉
先祖の言葉が
- 3537 ene okai i ne.
エネ オカイ イネ
こうあることである
こうなのであります。
- 3538 Tambe kusu
タムベ(←タンペ) クス
このもの故に
それゆえに
- 3539 tane a-tureshipo
タネ アトウレシポ
今我が・妹+(指小辞)
もうわが妹は
- 3540 hokukor
ホクコロ
夫を持つ
結婚
- 3541 eashkai bakno
エアシカイ バクノ
それができるまでに
できるほどに
- 3542 shikup wa kusu,
シク^ッワ クス
育ったから
大きくなったから、
- 3543 tap nahun
タ^ッナフン
この たった今
ちょうど今
- 3544 kobak ta
コバ^ッタ
の方で
こちらで
- 3545 hoshkino
ホシキノ
最初に
まず先に
- 3546 Otasam un
オタサムウン
砂浜隣に
オタサム(への行き方を)
- 3547 tapne tapne
タ^ッネ タ^ッネ
こう こう
こうこうしかじかと
- 3548 a-bakashnu koro
アバカ^シヌ コロ
我は・～を教えながら
われは教えて、
- 3549 shinennebo
シネンネボ
一人である+(指小辞)
たったひとりで
- 3550 a-omante
アオマンテ
p.78 我は・行かせる
行かせた
- 3551 ruwe ne.
ルウェネ
その事実である
のであります。
- 3552 Hushkotoiwano
フシコトイワノ
古く(強意)から
どうの昔
- 3553 Otasam ta
オタサムタ
砂浜隣に
オタサムに
- 3554 shireba wa okai
シレバ(←シリエバ) ワ オカイ
土地に着いている
到着している
- 3555 ruwe ne kuni batek
ルウェネ クニ バテ^ク
ことであるはずだとばかり
のであろうとばかり
- 3556 a-ramu awa…
アラム アワ
我は・思っ たところが
思っていたのに…。
- 3557 Bahau ne kusu
バハウネ クス
噂であるから
噂に
- 3558 inu-an aike
イヌアン アイケ
ものを聞き・我は たのだが
聞こえてきたのは、
- 3559 seennekasui
セエンネカスイ
まさかまた～しない
まさかまた
- 3560 hawash kuni
ハワシ クニ
言うはずとは
そんなことが聞こえるとは
- 3561 a-ramu rok i,
アラム ロキ(←ロク^イ)
我は・思っ たところ
思わなかったのに、
- 3562 Iyochi un kuru
イヨチウン クル
イヨチに住むお方
イヨチびとは
- 3563 Menashsam
メナシサム
東方そば
メナシサム
- 3564 un attush
ウンアットウシ
にある厚司
の厚司や
- 3565 Menashsam
メナシサム
東方そば
メナシサム
- 3566 un konchi,
ウンコンチ
にある帽子
の兜と
- 3567 tururun kuwa
トゥルルン(←トゥルル ウン?) クワ
(不詳) トウルルの(?) 杖
トゥルルの杖(?)を

※1 ukoresu「相共に育てる」親と親とが約束して育てていた意(金 I-69)、<相共に育て合う>は婚約の意である(金 I-122)』

※2 原綴に itak 欠。

- 3568 ewak ushike ta
エワ^ク ウシケ タ
住む いつも～する 所 に
その館に
- 3569 ikoan※1 wa okai
イコアン ワ オカイ
物と共にあっている
備えている(?)
- 3570 yakaye.
ヤカイエ(←ヤ^ク アイエ)
と人々が言う
という。
- 3571 Eashka homatu-an wa,
エア^シカ ホマトウアン ワ
それこそ 驚い・我は て
われは非常に驚いて、
- 3572 kannaruino
カンナ ルイノ
再び+(強意)
さらにまた
- 3573 pirikano
ピリカノ
充分に
つくづく
- 3574 a-yaikotuima-
ア ヤイコトウイマ
我は・自身で 遠く
われが遠く
- 3575 shiramsuiba
シラム スイバ
自分の心を揺り動かす(suye 複)
思いめぐらせ
- 3576 inu-an aike,
イヌ アン アイケ
ものを聞き・我は たのだが
よく考えてみれば、
- 3577 oroyachiki
オロヤチキ(←オ^ロ オヤ チキ)
そこ他の～すれば
意外にも、
- 3578 Otasam ari hene
オタサム アリ ヘネ
砂浜隣とでも
オタサムと
- 3579 i-bakashnu-an
イバカ^シヌアン
人に・教える・われが
われが妹に教えた
- 3580 humi ne kuni
フミ ネ クニ
感じであるように
のだと
- 3581 a-ramu awa,
アラム アワ
我は・思っ たところが
思っていたのに、
- 3582 Iyochi un kuru ari
イヨチ ウン クル アリ
イヨチに住む お方と
イヨチびとに関して(?)
- 3583 usa bishkani※2
ウサ ビシカニ(←ビシカン イ)
色々の 周囲の所
様々のことについて(?)
- 3584 koinne kane
コインネ カネ
に対し て
詳細に(?)
- 3585 shibopke※3 orunno※4
シボ^クケ オルunno(←オ^ロウンノ)
自身を暖かくする 所へ(副詞語尾)
服装までも(?)
- 3586 a-koomommomo※5
アコオモムモモ
我は・～についてくわしい
くわしく語つ
- 3587 kane, eashka
カネ エア^シカ
状態で 本当に
ていて、まことに
- 3588 iyokunure-an.
イヨクヌレ(←イ オクヌレ) アン
物事にあきれる・我は
われは驚いた。
- 3589 Nekona aokai
ネコナ アオカイ
どのように 我は
どんなにわれが
- 3590 echutkonno
エ チュツコンノ
それに関して まちがう
まちがって
- 3591 i-bakashnu-an wa
イバカ^シヌアン ワ
人に・教え・我が て
教えたとしても(?),
- 3592 Iyochi un kuru otta
イヨチ ウン クル オッタ(←オ^ロ タ)
イヨチに住む お方 所に
イヨチびとの所に
- 3593 a-tureshipo
p.79 アトウレシポ
我が・妹+(指小辞)
わが妹が
- 3594 shireba yakun
シレバ(←シ^リ エバ) ヤクン
土地に着く ならば
到着したならば、
- 3595 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびとは
- 3596 usakoro kane
ウサコロ カネ
互い 姉を持つ 状態で
姉弟ともども(?)
- 3597 taban ubashkuma
タバ^ン(←タ^バアン) ウバ^シクマ
今ここに ある 物事を教え伝え合う
このウバシクマを
- 3598 eramishkare
エラミシカレ
知らない
知らない
- 3599 anun ne i
アヌン ネ イ
他人 である こと
他族であることが
- 3600 eramokai ita
エラモカイ(←エラム オカイ) イタ
～に関して心ある 時に
解った時点で、
- 3601 nani a-tureshi
ナニ アトウレシ
すぐに 我が・妹
すぐわが妹を
- 3602 i-kohoshibire yakne,
イコホシビレ ヤクネ
我の・方へ 戻させる ならば
わが方に帰らせたのなら
- 3603 somo a-rushkap
ソモ アルシカ^フ
(否定) 我は・怒るもの
われは憤慨しないの
- 3604 ne korka,
ネ コ^ロカ
である けれども
だが、
- 3605 neita bakno
ネイタ バ^ッノ
どこ までも
いつまでも
- 3606 shikoante wa
シコアンテ ワ
自分の方にいさせる て
自分の所に置いて
- 3607 ene kosomo-
エネ コソモ
こうに対して(否定)
そのことについて何も
- 3608 tashnu ruwe,
タシヌ ルウエ
語る その様
話さないことや、
- 3609 a-wentureshi
アウエントウレシ
我が・悪い妹
わが愚かな妹
- 3610 newa ne yakka
ネワ ネ ヤ^ッカ
であった にしても
も
- 3611 echutkonno
エチュツコンノ
それに関して まちがう
まちがい
- 3612 ne ari ambe
ネ アリ アム^ベ(←アン ペ)
であると ある事
であることが

※1 ikoan「i-ko-an①<われ・といっしょに・居る>いっしょに住む(金 I-353)」

※2 usa bishkani/koinne kane「いろいろとまわりに/向って(金 I-347)、諸般にわたり/条理を尽して(金 I-380)」

※3 shibopke「身じたく(脚注: shibopke 身じたくのもの、立ち向かうための持ち物から、鎧・かぶとの類までを含む。服装)」(金 II-179)

※4 orunno「まで」(久192)、《萱野茂訳》「そこまで」(教23-93)、「kamui orunno神にも増して」(金 VIII-94)、《切替訳》「imi orunno衣服までも(orunno<不明>)」(教34-216)

※5 omommomo「…詞曲では前述したことを再び絮説することを省く時に a-omommomo<我・絮説す>と云つてのけて省略す。…」(研W292)

7-4 ポンテセウびとの言い訳

- 3613 eraman yakun,
エラマン ヤクン
わかる ならば
解ったならば、
- 3614 orotunashno
オロトウナシノ
全く早く
一刻も早く
- 3615 hoshihi ka
ホシビ カ
戻り も
戻りも
- 3616 somoki ruwe
ソモキ ルウェ
(否定)する その事実
しなかつたことが
- 3617 sonno a-rushka.
ソンノ アルシカ
本当に 我は・怒る
まことにわれは腹立たしい。
- 3618 Taban orushbe
タバノ オルシベ(←オロウシペ)
ここにある 所についているもの
このことが
- 3619 bahau ne kusu,
バハウ ネ クス
噂 になる から
噂になって、
- 3620 Otasamunkuru
オタサムウンクル
砂浜 隣、側に住む お方
オタサムびと—
- 3621 a-aktonoke
アアクトノケ
我が・弟 殿
わが義弟どのに
- 3622 i-kobashte※1 ko,
イコバシテ コ
人に向かって 走らせる と
気づかれたら、
- 3623 konep shiknu
コネプ シクヌ
(調律)何が 生きる
なんで生きて、
- 3624 konep tusa
コネプ トウサ
(調律)何が 助かる
どうして助かる
- 3625 a-kip ta an ? ari
アキプ タ アン アリ
我らは・するもの であると
ものか?—と
- 3626 yainu-an chiki,
ヤイヌ アン チキ
考える・我は なら
思って、
- 3627 shino yaikouyebeker-an.
シノ ヤイコウエイベケレ アン
真に 自分に 物語を語る・我は
本当にひとりで心配していた。
- 3628 Tambe kusu
タムベ(←タンペ) クス
このこと 故に
それゆえに

- 3629 ramma tashi
ラムマ タシ
いつも (強調)
思い切って(?)
- 3630 a-ekot kusu
アエコツ クス
我が・~で死ぬ つもり
われが死ぬつもり
- 3631 ne yakun,
ネ ヤクン
である ならば
で(?)、
- 3632 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 3633 a-kotametaye kusu
アコタメタイエ(←アコタムエタイエ) クス
我が・~に 刀 を引き抜く ために
を攻撃しようとする、
- 3634 a-utari utara
アウタリ ウタラ
わが・同族 たち
わが親戚身内たちの
- 3635 nimara※2 shino
ニマラ シノ
半数 まことに
大半はとでも
- 3636 tumunchi niukeshba
トゥムンチ ニウケシバ
戦さ しきれない
戦さは出来ない
- 3637 rorumbe niukeshba
p.80 ロルムベ ニウケシバ
戦い できない
戦いは出来ない
- 3638 i-monkokishma
イモンコキシマ
我を・手 と共に をつかむ
わが腕をつかんで引き留め
- 3639 chitomoitak
チトモイタク(←チトムオイタク)
~ことを 中で物言う
なだめ
- 3640 i-y-ekarkarba.
イイエカラカラバ(←イエカラカラバ)
我に・~をする+(複数形語尾)
た。
- 3641 Kip ne koroka
キプ ネ コロカ
~をするもの だけれど
しかし、
- 3642 eashka
エアシカ
それこそ
ほんとうに
- 3643 irushka ruibe
イルシカ ルイベ
怒る 激しい者
われは猛烈に腹が立っていた
- 3644 a-nep ne kusu
アネッ ネ クス
我であるもの である 故に
ものだから、

- 3645 shiramikiyar※3-an
シラミキヤラン(←シラムイキヤラン)
自分の 心に 物事をさせる・我は
われは強引に言い張り、
- 3646 attumunchi
アットウムンチ(←アラトゥムンチ)
一つの いくさ
ひどい戦さ
- 3647 anrorumbe
アンロルムベ(←アラロルムベ)
全くの 戦争
ひどい戦争を
- 3648 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 3649 a-oette
アオエッテ(←アオエクテ)
我は・~に 来させる
に仕掛け来襲し
- 3650 shiri ne awa,
シリ ネ アワ
様子 であつ たところ
ようとしたところ(?)、
- 3651 rabokita
ラボキタ
その間に
そのうち
- 3652 nei※4utarpa kamui
ネイ ウタラパ カムイ
その 族長 神
族長イヨチどのは
- 3653 iyairaikere
イヤイライケレ
ありがたし
ありがたいことに(?)
- 3654 pirika irenkakoro※5
ピリカ イレンカコロ
立派な 了見を持つ
立派な行いを
- 3655 haweokai. 'ari
ハウエ オカイ アリ
声 ある と
なさったそうだ』と
- 3656 hawash awa… ※6
ハワシ (←ハウアシ) アワ
声 立つ たところが
総大将が言ったところ…。

※1 既訳例: ikobashte chiki~ta an?《萱野茂訳》「気づいたら(分解訳:iko-paste<それ・気づく>)/…/生かされては/おかれんだろう。」(教VII-78)

※2 原綴 mimara

※3 shiramkiyar「si-ram-ki-yar<自分の・心を・行わ・せる>《幌別》子供がだだをこねる」(人633)

※4 原綴 neyi

※5 「irenka-kor<了見、所業・持つ>所業をする、行いをする」(金II-167)

※6 「hau-ash<聲・立つ>=hawash 誰かが云ふ」(研W533)hawash awa「云ふよしありければ」(研679)

7-5 怒るオタサムびと

- 3657 Kanakan kunip
カナカン(←カナク アン) クニ プ
どうある はずの者
海からやって来た何者かは
- 3658 inurokbe
イヌロクベ
ものを聞いた ことに
それを聞くやいなや
- 3659 semohonruino
セモホンルイノ(←セム オホン ルイノ)
(否定)+長い間 甚しく
ややしばらくの間
- 3660 hese-etok-
ヘセ エトク
息先
息も
- 3661 koeshikari kane
コエシカリ カネ
に向かって つかみとる 状態で
止まるくらい驚いて
- 3662 okai rokine,
オカイ ロキネ(←ロク ヒネ)
い たそして
いましたが、
- 3663 seennekasui
セエンネカスイ
まさか～しない
まさかまた
- 3664 hawash kuni
ハワシ クニ
言う はずと
そう言うとは
- 3665 a-ramu rok i,
アラム ロキ(←ロク イ)
我らは・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 3666 tane eashiri
タネ エアシリ
今 で新しい
今こそ
- 3667 itak ne manup
イタク ネ マヌ プ
言葉 である というもの
その言葉なるもの、
- 3668 ouse itak
オウセ イタク
ただ～だけ 言葉
ただ言葉だけ
- 3669 ikikorkaiki,
イキ コロカ イキ
物 する けれども+(添えの助辞)
ではあっても、
- 3670 iotke shinne
イオツケ シンネ
人をつき刺す ように
つき刺す如くにつよく
- 3671 ituye shinne
イトウイエ シンネ
人を切りつける ように
斬りつける如くに激しい
- 3672 irushka itak
イルシカ イタク
怒る 言葉
憤怒のことば

- 3673 tan arka itak,
タナヲカ(←タン アヲカ) イタク
この 痛い 言葉
怒号のことばを、
- 3674 nekona shikop
ネコナ シコプ(←シク オ プ)
どんな 目が付く者
どのような顔つきの
- 3675 nekona barop
ネコナ バロプ(←バヲ オ プ)
どんな 口が付く者
どんな育ちの者なのか、
- 3676 urar tumun
ウララ トウムン(←トウム ウン)
もや 中 にある
もやの中から
- 3677 ebarsere hawe
エバラセレ ハウエ
そこから飛ばす その声
飛ばして言う言葉が
- 3678 ene okai i;
エネ オカイ イ
こうある こと
こうあるには、
- 3679 'Honebeta!
ホネベタ(←ホ ネ プ ヘ タ プ)
まあ 何か これ
『何をぬかすか！
- 3680 Koneptapteta!
コネッ タッ テ タ
(調律) 何 これ ここに
何ともまあ
- 3681 PonTeseu un kuru
p.81 ポンテセウ ウンクル
小テセウに住む 人
ポンテセウびとである
- 3682 a-wenyubi
アウエン ユビ
我が・悪い 兄
わがくされ義兄は
- 3683 somoyashtomano※1
ソモ ヤシトマノ
(否定) 恥じ入る+(副詞語尾)
恥ずかしげもなく(?)
- 3684 chiyatarara
チヤタララ
自身を 岸(?)上の方へ持ち上げ続ける
よくもそんなこと
- 3685 haweokaibe ne ya?
ハウエ オカイベ ネ ヤ
言うもの である か
言えるもんだな(?)
- 3686 Neita e-oman wa
ネイタ エオマン ワ
どこに 汝が・行っ て
そなたがどこに行っ て
- 3687 taban hawean
タババン(←タッ アン) ハウエ アン
今ここにある 声ある
このように言
- 3688 e-ki koro
エキ コロ
汝が・し ながら
いながら

- 3689 tumunchi sanke
トゥムンチ サンケ
戦さ を出す
戦さと呼びかけ
- 3690 rorumbe sanke
ロルムベ サンケ
戦争 を出す
戦いを繰り出そうと
- 3691 e-ki apkusu,
エキ アプクス
汝が・～をし たとしても
したとて、
- 3692 konentapora※2
コネンタッオラ(←コ ネン タッ オロワ)
それに対して 誰が これ から
誰がこれから
- 3693 nu nankor'a?
ヌ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
聞く だろう か
聞く耳を持つだろうか。
- 3694 Ouse e-esapse-an
オウセ エエサッセアン
ただ 汝を・それで 嘲ける・人々が
ただ嘲られ、
- 3695 e-emina-an
エエミナ アン
汝を・それに関して 笑う・人々が
笑われ
- 3696 e-echakke-an
エエチャクケ アン
汝を・～について 汚がる・人々が
おぞましがられるだけ
- 3697 nankorbe,
ナンコロベ
だろうもの
だろうに、
- 3698 Iyochi un
イヨチ ウン
イヨチに住む
イヨチの
- 3699 kamui rametok※3
カムイ ラメトク
神の 勇者
族長である神の勇者に
- 3700 hemanta
ヘマンタ
何か
何か
- 3701 e-korushka kusu,
エコルシカ クス
汝・に対して 怒る 故に
そなたが腹を立てたために、
- 3702 ratchi kotan
ラッチ コタン
静穏な 村
平穏な村
- 3703 mono kotan
モノ コタン
静かな 村
平和な村に対して
- 3704 orsaureko
オサウレコ
全く 緩い+(否定)
全く度を越えた

※1 somo yashtoma「なまいきだぞ(脚注: yashtoma, 恥ヂル《B》。畏れ入る。somo —〈失礼千万〉)」(金Ⅶ-132)

※2 konentapora「誰がこれから(脚注: ko-nen tapora <すると・誰が・これから>)」(金Ⅱ-131)

※3 kamui rametok「<神 勇者> 神なる勇者。神にまします勇者。村の長に對する敬稱。我等のかしらと云ふことを飾つて云つたことば」(研790)

7-5 怒るオタサムびと

- 3705 ouse itak
オウセ イタク
ただ~だけ 言葉
ただの言葉だけ
- 3706 newa ne yakka,
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
であったにしても、
- 3707 kamui kosomo-
カムイ コソモ
神 に対して(否定)
神をも
- 3708 yaikatanu※1
ヤイカタヌ
遠慮する
恐れはばからずに言う
- 3709 e-ki hawe
エキ ハウエ
汝が・する その声
そなたのことが
- 3710 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
こういうこと
- 3711 tambe ne ya !?
タムベ(←タンペ) ネ ヤ
このこと である か
なのか。
- 3712 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチびとが
- 3713 eashtapne※2
エアシタブネ(←ヘ アシ タブネ)
顔を立てる こう(?)
(不詳)最初に(?)
- 3714 PonTeseu kotan
ポン テセウ コタン
小テセウ 村
ポンテセウ村
- 3715 kotumisanke※3
コトウミ サンケ
に戦さを出す
への戦さを出し
- 3716 yakka pirika ne
ヤッカ ピリカ ネ
ても いい のである
てもかまわないのだと
- 3717 sunke ubashkuma
スンケ ウバシクマ
偽りの 言い伝え
でたらめなウバシクマを
- 3718 e-ki koro,
エキ コロ
汝が・し ながら
そなたが教えて、
- 3719 e-tureshi
エトウレシ
汝の・妹
そなたの妹を
- 3720 ouse shinen ne
オウセ シネン ネ
ただ~だけ 一人 になる
たった一人で

- 3721 anun kotan
アヌン コタン
よその 村
他族の村
- 3722 nishpa kotan※4
ニシパ コタン
偉い方の 村
大将の郷イヨチ
- 3723 kamui upsoro
カムイ ウブソロ
神 の懐
の神のふところ
- 3724 eomante,
エ オマン テ
そこへ 行か せる
へ嫁に行かせ、
- 3725 kashikobakta
カシ コバクタ
その上 その方 に
その上で
- 3726 e-kotumisanke rusui.
エコトウミ サンケ ルスイ
汝は・に 戦さを出す を欲する
そなたは戦さをしたがった。
- 3727 Sonno hetapne
ソノ ヘ タブネ
本当 か これはまあ
本当にまあ
- 3728 pon a-wenyubi
p.82 ポン アウエン ユビ
小さい 我が・悪い 兄
わがくされ義兄は
- 3729 wayasap kashba
ワヤサプ カシバ
おろかだ すぎる
あまりにも愚かだ
- 3730 haita kashba.
ハイタ カシバ
足りない すぎる
考えが浅はかだ。
- 3731 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
とうとうイヨチ殿を
- 3732 katu-chi-wente※5
カトウチ ウエン テ
その様 ~こと 悪くなら せる
はずかしめる
- 3733 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
にしても
- 3734 orsaureko
オサウレコ
全く 緩い+(否定)
とんでもない
- 3735 i-y-ekarkar hawe
イイエカラカラ(←イ エカラカラ) ハウエ
人に ~を施す その声
恥辱を与えた
- 3736 okaibe ne ya?
オカイベ ネ ヤ
あること である か
ものだな。

- 3737 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチ殿は
- 3738 bawetok ne kusu
バウエトク(←パエトク) ネ クス
口先 だ から
雄弁な方なのに(?)
- 3739 mono an-i
モノ アニ(←アン イ)
静かに 彼が居ること
静観していることに(?)
- 3740 i anakne
イ アナクネ(←アン ヤクネ)
こと ある ならば
乗じて(?),
- 3741 eani sunke
エアニ スンケ
お前が 嘘の
お前がでたらめな
- 3742 ubashkuma e-ki.
ウバシクマ エキ
言い伝え 汝が・する
ウバシクマを語った。
- 3743 Tambe kusu
タムベ(←タンペ) クス
このこと 故に
それで、
- 3744 arokamkino
アロカムキノ(←アラ オカ アムキリノ)
全くあと知っているよく
故意に
- 3745 kannasui
カンナ スイ
さらにまた
さらにまた
- 3746 inani wa ka
イナニ(←イナン イ) ワ カ
どの方の所 から も
どこからか
- 3747 nep sonko an
ネプ ソンコ アン
何か 便り ある
何か知らせがある
- 3748 kuni ramu wa
クニ ラム ワ
べく 思って
はずだと思っていた
- 3749 ne nankor.
ネ ナンコロ
だ ろう
のであろう。
- 3750 Nishpa anakne
ニシパ アナクネ(←アン ヤクネ)
紳士 ある ~すれば
族長というものは
- 3751 pirikap hene
ピリカプ ヘネ
いいこと ても
善いことも
- 3752 wembe hene
ウエムベ(←ウエンペ) ヘネ
悪いこと ても
悪いことも

※1 somo yaikatanu「おそれはばからず」(金 I -131)

※3 原綴 kotumu sanke

※2 《藤村久和説》「he-as<顔・を立てる=開始する・こうである」echiokai utar/eashtapne/chitoikotata[おん身らを/片っ端からこう(?)/叩き斬り](教46-74)

※4 「nisha kotan<えらいものゝ村>ポイヤウンペの Shinutapka の郷を指す。たいしやうの郷」(研W480)

※5 「ざまわるくされた、浅ましのありさま(研922)、はちをかゝせ(研792)、大恥辱(金 II -92)」

- 3753 nep orushbe
ネブ オルシベ
何 に関する事柄
何ごと
- 3754 ne yakka,
ネ ヤカカ
であつても
によらず、
- 3755 sonno pirikano
ソノノ ピリカノ
本当に よくよく
しっかり正しく
- 3756 ikkewehe
イクケウエヘ
根源+(所属形語尾)
その根源を
- 3757 nu orowa,
ヌ オロワ
聞く それから
確かめてから、
- 3758 eashkai bakno
エ アシカイ バクノ
に関してできる まで
できるだけ
- 3759 ratchi irenka
ラッチ イレンカ
平穏な 掟
穏やかな配慮を
- 3760 kor yakne,
コロ ヤクネ
を持つ ならば
したならば、
- 3761 kamui hene
カムイ ヘネ
神 でも
神でも
- 3762 ainu hene
アイヌ ヘネ
人間 でも
人間でも
- 3763 enubetne wa,
エヌベツネ ワ
について 嬉しく思つて
喜んで、
- 3764 tu moshiri kama
トゥ モシリ カマ
二つの 島 を越える
たくさんの国々をこえ
- 3765 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 をまたぐ
たくさんの村々
- 3766 eshiasurashtep
エシ アスル アシテプ
~に 自分の 噂 を立てさせるもの
に評判を立てられるもの
- 3767 ne wa,
ネ ワ
であつて
なのに、
- 3768 a-wenyubi
ア ウェン ユビ
我が・悪い 兄
わがくされ義兄の
- 3769 wennokashba
ウェンノ カシバ
悪い+(副詞語尾) 過ぎる
あまりにも愚かな
- 3770 wenirenka
ウェニレンカ(←ウェン イレンカ)
悪い 所業
了見は
- 3771 ene okai i
p.83 エネ オカイ イ
こう ある こと
こういうことだった
- 3772 tambe ne ya?
タムベ(←タン ペ) ネ ヤ
この こと である か
のか?
- 3773 Chikibo ka tapne※1
チキボ カ タプネ
われら する+(指小辞) も こう
いっそのこと
- 3774 tu hum re hum ne
トゥフム レ フム ネ
二 断片 三 断片 になる
二切れ三切れに
- 3775 e-kar-an anke
エカラ アン アンケ
汝・を作る・我は 今にも~しそうだ
すぐにもして
- 3776 yainu-an na. 'ari
ヤイヌ アン ナ アリ
考える・我は ぞ と
やろうぞ』と
- 3777 itak kese ta
イタク ケセ タ
言葉 の端 に
言うやいなや、
- 3778 shiyutarkorbe
シユタラコロベ(←シ ウタラ コロ ベ)
真に 同族 支配する 者
総大将は
- 3779 kasa reubokun
カサ レウボクン(←レウボク ウン)
笠 下側 にある
兜の内側の
- 3780 shikutur bakno
シクトウル(←シク ウトウル) バクノ
目 間、隙 まで
眉間まで
- 3781 a-koeyasa,
ア コエ ヤサ
人が・共に そこを 裂く
切り裂かれ、
- 3782 kotchake wa
コッチャケ ワ
前の 所 から
前から
- 3783 oshmake wa
オシマケ ワ
後ろの 所 から
後ろまで
- 3784 arka kemi
アラカ ケミ
痛い その血
痛々しい血が
- 3785 tunnai so ne.
トゥンナイ ソ ネ
谷川 滝 になる
滝のように吹き出しました。
- 3786 Inne kunip
インネ クニ プ
大勢の はずの 者
大勢の者たちは、
- 3787 inurokbe
イヌ ロク ベ
ものを聞いた こと
聞くやいなや
- 3788 inkanrokbe
インカンロクベ(←インカラ ロク ベ)
見た こと
見るやいなや、
- 3789 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 3790 ishitoma kunip
イシトマ クニ プ
物をこわがる はずの 者
恐ろしがるの
- 3791 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であつて である ならば
であるなら
- 3792 kotom korokaiki,
コトム コロカ イキ
ふさわしい けれど+(物事 をする)
いいけれど、
- 3793 toop uoshioishi
トオプ ウオシオシ(←ウオシウオシ)
遠く 互いの 後から+(重複)
遠くまで次々と後ずさりし
- 3794 binuno ukirare.
ビヌノ ウキラレ
嘸+(副詞語尾) 互い 逃げる させる
こっそり皆で逃げ出しました。
- 3795 Nea shiyutarkorbe
ネア シユタラコロベ(←シ ウタラ コロ ベ)
件の 真に 同族 支配する 者
あの総大将
- 3796 newa ne yakka
ネワ ネ ヤカカ
であつた に しても
も
- 3797 eashka homatu kunip,
エアシカ ホマトウ クニ プ
それこそ 驚く はずのもの
ほんとうに驚き、
- 3798 oitaksak※2 kunip
オイタクサク クニ プ
そこに 言葉を欠く べきもの
言い返す言葉もない
- 3799 konep ne kusu,
コネッ ネ クス
(調律)+である ものである 故に
ものだから、
- 3800 ohumsaknobo
オフム サクノ ボ
尻に 音が無い+(副詞語尾)+(指小辞)
音も無く
- 3801 kamuinishka
カムイ ニシカ
神(美称) 雲上
天空上
- 3802 korikoshma,
コリコシマ(←コリク オシマ)
に 高く パツと 飛び込む
に高く飛び上がり、
- 3803 tu urar ainu
トゥ ウララ アイヌ
二 霧 人間
何人ものもやで造った人

※1 「Chikipo ka tap 出来ることなら(脚注:ほんに出来るなら自分で手を下して殺したい。…)(研926)

※2 oitaksak「詫びる、あやまる←理屈にまける。~an」(久184)、a-kooitaksak yakka《萱野茂訳》「申し訳がないけれども」(教24-51)

7-6 姫の判断

- 3804 re urar ainu
レ ウラ^ラ アイヌ
三 霧 男
幾人ものもやで造った男を
- 3805 shitasare※1aine
シタサレ アイネ
自分を交叉させる そのうち
自分の身代わりに立てて、
- 3806 ene omani
エネ オマニ(←オマン イ)
こう 行く 所
どこに行ったか
- 3807 a-koerambetek.
アコエラムベテ^ク
我らは・に がわからない
わからなくなりました。
- 3808 Ekoobi
エコオビ(←エコホビ)
~に対してを残して去る
そこから別れて(?)
- 3809 kanakan kunip
カナカン(←カナクアン) クニ^ク
どうある はずのもの
海からやって来た方は
- 3810 chipshikeka un
チ^クシケカ ウン
船 荷の上 へ
甲板からこちらへ(?)
- 3811 ai tune
アイ トウネ
矢 線条 のような
まるで一本の矢
- 3812 shikobayar
シコバヤ^ラ
自分を間違えさせる
そっくりに飛び立った
- 3813 ruwe taban! "ari
ルウェ タバン(←タ^クアン) アリ
事実 これこのとおりある と
のであります」と
- 3814 inerokbekusu
p.84 イネ ロ^クベクス
何とあったことゆえ
何とまあ!
- 3815 ushiu utar
ウシウ ウタ^ラ
召使い たち
召使いたちは
- 3816 itak eashkai wa
イタク エアシカイ ワ
言葉 上手になっ て
雄弁に
- 3817 hawokai nankor'al?
ハウオカイ ナンコロ(←ナンコロ ヤ)
話す だろう か
報告したことでしょうか。
- 3818 Baronnawano
バロンナワノ(←パ^ラオンナワノ)
口の中より
口の中が
- 3819 chibitabita.
チビタバタ
~ている(状態) ほどく+(重複)
ほどけたようにまくし立てました。
- 3820 Inu newe
イヌ ネワ
ものを聞く であって
ただ聞いた
- 3821 a-kip ne koroka
アキ^ク ネ コロカ
我・~をする もの だ けれど
だけでしたが、
- 3822 oyoyobo ta
オヨヨボ タ!
あれまあ+(語勢)
ああいまいましい
- 3823 sonno hetapne
ソンノ ヘタ^クネ
本当 かこれはまあ
本当だろうか、
- 3824 nea I-resu yubi
ネア イレス ユビ
件の 我を・育てる その兄
あの育ての兄上が
- 3825 hetapne
ヘタ^クネ
かこれはまあ
まあ
- 3826 sonemakan
ソネ マカン
本当に どのように
ほんとうに
- 3827 yairamma※2
ヤイラムマ(←ヤイラム ワ)
自分の心 から
自分の意志からの行動なの(?)
- 3828 hetapne naa
ヘタ^クネ ナア
かこれはまあ まだ
かまあ、もっと
- 3829 naa a-rushka
ナア アルシカ
まだ 我が・怒る
もっとわたしが怒る
- 3830 kunine batek
クニネ バテ^ク
べきであるように ばかり
ようにとばかり
- 3831 katkoro
カツコロ
あり方を持つ
振る舞い
- 3832 haweokaibe ne ya?
ハウエ オカイベ ネ ヤ
言う こと である か
ああ言ったのかしら?
- 3833 Ohaine kane
オハイネ カネ
おそるべき 状態だ
なるほど、
- 3834 wen sunke ubashkuma
ウェン スンケ ウバシクマ
悪い 偽りの 言い伝え
でたらめなウバシクマを
- 3835 ki oman ikiri
キ オマン イキリ
する 行く 一続き
語ったいきさつが
- 3836 tapne tapne ne wa,
タ^クネ タ^クネ ネ ワ
こう こう であって
かくかくしかじかであって、
- 3837 chikeutusare-an
チケウトウサレ アン
~のこと 骸を蘇生させる・我が
わたしが命を救われた
- 3838 katu hene
カトウ ヘネ
その様 でも
ことも
- 3839 koannotainep
コアンノタイネ^ク
共に 全く知らないもの
まったく知らないもの
- 3840 ne kusu, orunboo
ネ クス オルンボオ
である 故に そこへ なお
だから、なおさら
- 3841 katkoro hawe,
カツコロ ハウエ
あり方を持つ その声
あのような振る舞いをし、
- 3842 ene hetapne
エネ ヘタ^クネ
こう かこれはまあ
あんなにもまあ
- 3843 a-koyairaike
アコヤイライケ
我は・~に 感謝する
わたしが感謝し
- 3844 humi okai
フミ オカイ
その感情 ある
ている
- 3845 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
イヨチの神のような方々
- 3846 chikosomokur-
チコソモクル
~ことに対して+(否定)
に向かって無礼
- 3847 yaikatanu.
ヤイカタヌ
遠慮する
千万なことを、
- 3848 sonno ouse itak
ソンノ オウセ イタク
真に ただ~だけ 言葉
本当にただの言葉だけ
- 3849 ne a yakka
ネ アヤッカ
であつ た にしても
であつたにしても
- 3850 hawash chiki,
ハウシ チキ
言う から
あのように言ったのだから、
- 3851 enewaboka
エネ ワボカ
いかにしてさえも
どうにも

※1 《萱野茂訳》「霧で作った/身代わりの者/あちらこちらに立っていて」(教XIV-14)

※2 参考: yairamma/iki-an i ka/somo ne rok okai《萱野茂訳》「自分の意志での/行動では/ない…」(教23-151)

- 3852 iki-an i ka
イキアニカ(イキ アン イカ)
物事をする・我が ことも
こうにも言いよう
- 3853 oararisam
オアラリサム(←オアラ アイサム)
全く全く無い
がありません。
- 3854 Kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイ ベ
神 のように ある 者
神のようなイヨチ姉弟を
- 3855 eashka
エアシカ
それこそ
本当に
- 3856 kannaruino
カンナ ルイノ
再び+(強意) また
いっそう
- 3857 a-koyaikataikap ※1
ア コ ヤイカタイカブ
我は・に対して 恐縮する
わたしはお気の毒に思いました。
- 3858 Kamuirenkaine
p.85 カムイ レンカ イ ネ
神の 意図+(挿入音) である
神のお蔭で
- 3859 tapne kane
タツネ カネ
このような 状態で
あのよう
- 3860 haweokai koro,
ハウエオカイ コロ
言う と
おっしゃって、
- 3861 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄上を
- 3862 oitaksakkap
オイタクサクカブ
そこに 言葉を無くさせる 者
言い負かした者は
- 3863 a-ye manu
アイエ マヌ
人が・言う という
噂に高い
- 3864 Otasamunkuru
オタサム ウン クル
砂浜 隣に住む お方
オタサムびと
- 3865 ne kuni
ネ クニ
である ように
だと
- 3866 keutum otta
ケウトウム オツ タ(←オ タ)
心 の所 で
心の中で
- 3867 a-ramu.
アラム
我は・~を思う
わたしは思いました。
- 3868 I-resu yubi
イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄ポンテセウびと—
- 3869 ene ana kamui
エネ アナ(←アン ア) カムイ
このように あつた 神
あれほどの神
- 3870 ene okairok utarpa
エネ オカイ ロク ウタラ パ
このように あつた 仲間 頭
あれほどの族長が
- 3871 sonno hetapne
ソンノ ヘタツネ
本当 か これはまあ
本当にまあ
- 3872 haita kashba
ハイタ カシバ
足りない すぎる
あまりにも愚か
- 3873 raka isam ※2
ラカ イサム
益 ない
無礼なこと
- 3874 haweokai chiki,
ハウエオカイ チキ
言う から
をおっしゃったから、
- 3875 eashka
エアシカ
それこそ
ほんとうに
- 3876 yashtoma ※3-an.
ヤシトマ(←ヤイ シトマ) アン
自身を 恐れる・我は
わたしは恥ずかしい。
- 3877 Toi yayikush
トイ ヤユイクシ
ひどく 恥じ入り
ひやひやするやら
- 3878 wen yayikush
ウエン ヤユイクシ
悪い 恥じ入り
情けないやら
- 3879 a-ki kane.
アキ カネ
我は・~をする 状態である
思っていました。
- 3880 Kamui ne ambe
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
イヨチのおえらいお方は
- 3881 ramma ashba kisar
ラムマ アシバ キサラ
いつも 聾者 耳
相変わらず何も聞こえない
- 3882 itutanure
イトウタヌレ
我に さし向ける
ふりをして
- 3883 seenne ponno
セエンネ ポンノ
~しない 少しも
知らん顔
- 3884 ekottanu.
エコッタヌ
その方に注意を向ける
をしています。
- 3885 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い婦人イヨチ姫は
- 3886 katune kane ※4
カトウネ カネ
常の状態 である 状態で
いつものように
- 3887 i-koyaikataikapbe
イコ ヤイカタイカブ ベ
我・に対して 恐縮するもの
わたしに遠慮しているの
- 3888 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 3889 kotom korokaiki,
コトム コロカ イキ
ふさわしい けれど+(物事 をする)
いいのですが、
- 3890 kurka konna ※5
クルカ コンナ
その上 (語調)
からだを
- 3891 uyanitara ※6
ウヤニタラ(←ウヤン イタラ)
躰をまげる し続ける
まげ
- 3892 kane ikichi.
カネ イキチ
状態で 物 をする
てもじもじしています。

※1 yaikataikap「yay-kat-aykap<自身・形・拙い>恐縮する(金 I-86)、痛ましい思い、傷心(金 I-346)」「萱野茂訳」「言い訳する」(教24-120)

※2 raka isam「無駄だ。」(金 VII-201)、《萱野茂訳》「無礼な言い方」(教22-76)《萱野茂訳》若しものこと/少しも/馬鹿なこと/馬鹿な思い/僅かに遊びの言葉を/真に受けるなど/しないように」(教 X VIII-187~8)

※3 原綴 yashtomo

※4 原綴 kane 欠

※5 kurka-konna/uyanitara「その上に(脚注:さうしながらの意。=kurkashike)/身を揉みてもぢもぢしたり。(研849)、おもての上/ぶるぶるふるえる(金 V-159)、その上に/憂慮の色がある、沈みがちにみえる(金 VI-289)」

※6 uyan「真っ直ぐにすわらずに躰をまげる」(研849)

7-7 オタサムびと来訪

- 3893 Hontomo ta
ホントモ タ
その半ば に
そのとたんに
- 3894 chise samka ta
チセ サムカ タ
家 側上 に
館のそばに
- 3895 ainu apkash humi
アイヌ アプカシ フミ
人 が歩く その音
人の足音が
- 3896 tunashtunash.
トゥナシトゥナシ
速かな+(重複)
忙しげに聞こえてきました。
- 3897 Menoko ne yak
メノコ ネ ヤク
女性 である ならば
女性であるなら
- 3898 kotom korokaiki,
コトム コロカイキ
ふさわしい けれど+(物事をする)
いいのですが、
- 3899 okkayo sone
オクカヨ ソネ
男 本 当 に
男性にちががなく、
- 3900 tumba maikan
トゥムバ マイカン
刀の鏢 金が触れ合う音 末
武具が触れ合う音の余韻が
- 3901 tununitara
トゥヌニタラ(←トゥントウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
美しくチャリンチャリン
- 3902 mayunitara,
マユニタラ(←マユン イタラ)
金属の音がする し続ける
カチャカチャとして、
- 3903 mosem tuyor
p.86 モセム トウヨ(←トウイ オ)
玄関納屋 腹中
入り口の土間
- 3904 eshikiru.
エシキル
そこに 自分 を回す
に回ってきました。
- 3905 Mosem tuyor un
モセム トウヨ ウン
玄関納屋 腹中 に
入口の土間内に
- 3906 seppa※1 rarkan
セツパ ラカ ン
つば 縁上
鏢のふちを
- 3907 a-kik hum konna
アキク フム コンナ
人が・打つ 音+(調律)
打つ音が
- 3908 oroneambe
オロネアムベ(←オロ ネアンペ)
全く+そのもの(強め辞)
とても
- 3909 naikosamba.
ナイコサムバ
ひびく 何度もする
美しく鳴りわたりました。
- 3910 Kanakan kunip
カナカン(←カナク アン) クニッ
どうある はずのもの
その何者か—
- 3911 ratki aba
ラッキ アバ
垂れる 戸
母屋入り口のすだれを
- 3912 omausuyere,
オマウスイエレ
そこから 気を揺すらせる
フワリと揺らして、
- 3913 mintar ka ta
ミンタカ タ
内土間 上 に
内土間に
- 3914 imeru tura
イメル トウラ
稲光 とともに
光とともに
- 3915 urar tura
ウララ トウラ
もや とともに
もやとともに
- 3916 rutkosambap
ルツコサムバプ
圧す+ぱっとする 者
サッと入って来た者を
- 3917 a-nukar kusu,
アヌカラ クス
我が・~を見る 故に
見て、
- 3918 okutchi urar
オクッチ ウララ
そこが 暗くなる もや
濃いもや
- 3919 ponurartapkop
ポヌララ(←ポン ウララ) タブコブ
小さい霞 孤峰
小さいもやのかたまり、
- 3920 urar tumu
ウララ トウム
かすみ の中
そのもやを
- 3921 a-shikechari※2wa
アシケチャリ(←ア シク エ チャリ) ワ
我が・目 でもって 散らして
眼力でもってうち払って
- 3922 inkar-an awa,
インカラン(←インカラ アン) アワ
見・我が たところが
わたしが見ると、
- 3923 iyainumare !
イヤイヌマレ
我に・自ら 起き上がら せる
まあ驚いた!
- 3924 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチ に住む お方
イヨチびとほど
- 3925 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
美しい その事実
立派な人は
- 3926 a-i-y-etuima-
アイエトウイマ
我は・彼・について 遠く
遠近を探してもいるまいと
- 3927 hunara rokwa※3
フナラ ロクワ
探し たところが
思ってきたのに、
- 3928 eturbak kunip
エトルバク クニッ
それに 匹敵する はずの 者
それに匹敵する人
- 3929 ne nankor'a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
でしょうか。
- 3930 Ekasu kunip
エカス クニッ
それを 越える べき者
それにも優る人
- 3931 ne nankor'a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
でしょうか。
- 3932 Tamba ne wa
タムバ(←タンバ) ネ ワ
今年 になって
今年になって
- 3933 sonno Iyochi un kuru
ソノ イヨチ ウンクル
本当に イヨチ に住む お方
まことイヨチびと
- 3934 turbakno
トル バクノ
匹敵する+(副詞語尾)
ほどに
- 3935 shikup kotomno
シクブ コトムノ
成長する ように見える+(副詞語尾)
大きくなった(=同年)らしく
- 3936 a-ramup,
アラムブ
我が・思う 者
思われる者が、
- 3937 kani kosonte
カニ コソント
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装の
- 3938 kotbar ka ta
コツバラ カ タ
胸元 上 に
襟元にも
- 3939 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 に
裾周りにも
- 3940 sep birankani
セブ ビランカニ
幅広い 平金
はばひろの平金

※1 「seppa は邦語切羽(鏢)から来て、アイヌでは tumpa(鏢)と同意語に用いられる」(研W368)

※2 「沙流方言 a-ashke-e-chari<我・手・にて・散らす>とよくいふ所。霧の中をわが手もでかきわけ、霧を散じてすかし見ればの意。」(研882)

※3 pirika ruwe/ayetuima-/hunara rok-wa「立派なことを/わたしは遠く/求め探して」(金 I-155)、「またなきものと/思ってきたのに」(金 I-280)、遠近を探しても美しく美しい人はあるまいと思つて居たのに」(金VII-299) rokwa「a-wa ~たところ、~たればの意。rok は a の複数、詞曲語の atomte itak(美しいいふ詞)」(研W290)

- 3941 chiekarbarep
チエカラバレプ
自身をそこへ回らせるもの
をぐるりと取り回したものを
- 3942 arutomechiu
アルトメチウ(←アラウトムエチウ)
全く互いに中に差す
を襲ね着し、
- 3943 uwokkanikut
ウウオクカニクツ
互いに引っかける金属帯
かなぐさりのベルト
- 3944 tumamkosaiba,
トゥマムコサイバ
胴にぐるぐる巻き付ける
をぐるりと胴に巻き、
- 3945 kani pon kasa
p.87 カニポンカサ
金の小さな笠
金色の兜の
- 3946 kasa rantubep
カサラントウベプ
笠垂れている紐
その垂れひもを
- 3947 yaikoyuppa,
ヤイコユヅパ
自身に～をきつく締める(yupu複)
ギュッと締め、
- 3948 kasa reuboki ta
カサレウボキ タ
笠内側の湾曲の下に
兜の下に
- 3949 kamui sannanu
カムイサンナヌ
神出るその顔
神々しい顔が
- 3950 komaknatara.
コマツナタラ
に対して輝く
明るく輝いています。
- 3951 Imi shirika ta
イミシリカ タ
物を着る物の外面表面に
着物の上に
- 3952 kani tombuku※1
カニトムブク
金の道服
錦織の陣羽織(?)
- 3953 ikakushte※2
イカクシテ
ものの上を通させる
をはおり、
- 3954 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その上面一帯に
- 3955 kunne urar
クンネウララ
黒いもや
黒いもやが
- 3956 chikonoiba.
チコノイバ
自身を共に～を何度もねじる(noye複)
立ちなびいていました。
- 3957 Kamuiranketam
カムイランケタム
神が降ろした刀
神から授かった刀は
- 3958 shirika tanne
シリカタンネ
刀の鞘長い
鞘長に
- 3959 teshpa kane,
テシバカネ
反る状態で
ぐっと反っていて、
- 3960 shirikashi
シリカシ
その表面
鞘の表面に
- 3961 tu kamui noka
トゥカムイノカ
二つの神の像
たくさんの美しい形
- 3962 re kamui noka
レカムイノカ
三つの神の絵
いくつもの模様が
- 3963 chietomtep
チエトムテプ
自身をそこに光らせるもの
飾りつけられた神刀を
- 3964 kutbokechiu
クツボクエチウ
帯下に差す
腰に下げ、
- 3965 etembok konna
エテムボクコンナ
それでもって手下+(調律)
脇の下あたりが
- 3966 chashnatara.
チャシナタラ
りっぱで勇ましい
きらびやかです。
- 3967 Nei enkashi beka sui
ネイエンカシベカスイ
その離れた上方からまた
その上の方にまた
- 3968 Tono pon ibetam※3
トノポンイベタム
倭の小さなものを食う刀
和人の小刀が
- 3969 sonno kani tum wa
ソンノカニトウムワ
真に金の中から
こがねの中から
- 3970 a-busu apkor
アブスアブコロ
人が押し出す
掘り出されたように
- 3971 konru tomne
コンルトムネ
氷光る状態になる
氷のような光を放ち、
- 3972 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その表面一帯が
- 3973 herkai baye※4
ヘレカイバイエ
(不詳)行く
(不詳)
- 3974 mike mike,
ミケミケ
光る輝く
ピカピカ輝いており、
- 3975 anramasu
アンラマス(←アララマス)
全く好感が持てる
まったく面白く
- 3976 a-uwesuye.
アウウエスイエ(←アウエスイエ)
我は・互いに気持ちを揺らす
心地よい気分です。
- 3977 Kutbokechiu
クツボクエチウ
帯下に差す
帯下
- 3978 harkisam ta
ハラキサムタ
左側に
左がわに
- 3979 Tono pon kasa
トノポンカサ
倭の小さい笠
和人の小兜
- 3980 kani pon kasa
カニポンカサ
金の小さな笠
金色の兜
- 3981 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その表面が
- 3982 shikaye kane
シカイエカネ
自分を折る状態で
稲妻のようにピカッと光っているの
- 3983 amba kane.
アムバカネ
手に持つ状態で
を手に持っていました。
- 3984 Rametok sone
ラメトクソネ
勇敢な人本当に
勇者にちがいない
- 3985 rametok ibor
ラメトクイボロ
大胆な顔色
勇者の顔が
- 3986 eibottumu
エイボツ(←イボロ)トウム
それで顔色の中
その顔色の中に
- 3987 shinnai kane.
シンナイカネ
別な状態だ
きわだっています。
- 3988 Mintar kurka
ミンタラクルカ
内土間の上面一帯
内土間

※1「トンプク tonpuku 道服: 道士の着る着物。これはウエベケレなどで神様が着ている着物として出てくる。フレトンプク イカクシテ カムイ アン ワ(赤い道服を上から着た神が)と描写されている。…」(萱333)「どうふく【道服】今の羽織・上っぱりに似たゆったりした作りの、男性用の外出着…」(新明解国語辞典)

※2参考:「ikakustep 上着」(田220)

※3ibetam「ipe-tam<食う・刀>人を食う刀と恐れられる刀」(金I-285)、「名刀(人を食ひたがる故にこの名あり)kamui ipetam 宝刀 持主へ崇るといふ ひとりでに抜出て人を害すといふ、霊刀 妖刀」(久105)、「ユーカラに出て来る、空中を飛んで来て人を切る恐ろしい刀」(田693)

※4参考: konru-tum wa/…/abusu apkor kane/kurkashike/hermam kane/mike kane,「氷の中から/…/出たように/そのおもて/きらきら/びかびか、」(金II-63)、heremam「光る。沙流の方には解しがたき語」(研825)

7-7 オタサムびと来訪

- 3989 chieashi
 p.88 チエ アシ
 自身を そこに 立てる
 に立ち、
- 3990 katu ne kane
 カトウ ネ カネ
 常態 である 状態で
 ただふつに
- 3991 chise upsoroho
 チセ ウソロホ
 家 その懐
 家の中を
- 3992 erayap kunip
 エラヤッ クニッ
 ~で感心する はずのもの
 感心するの
- 3993 newa ne yakne
 ネワ ネ ヤクネ
 であって である ならば
 であるなら
- 3994 kotomkorkaiki,
 コトム コカ イキ
 似つかわしい けれども+物事 をする
 いいのにそうではなく、
- 3995 shikboki ka
 シク ボキ カ
 目の下(?) も
 (不詳)
- 3996 rayaike kane
 ラヤイケ カネ
 穏やかな 状態で
 穏やかに
- 3997 eharkiso unwa
 エハラキソ ウンワ
 その頭 左座 に行つて
 左座に向かつて
- 3998 ahunimoire,
 アフニモイレ(←アフン イモイレ)
 入ること 遅い
 入ってくるやいなや、
- 3999 a-urari
 アウラリ
 我が・そのもや
 わたしの身を包んでいるもやを
- 4000 shikeshitaiki,
 シケシタイキ(←シク エシタイキ)
 目でもって 撃つ
 めざとく見てとり、
- 4001 kaniborkashi※1
 カニボロカシ(←カン イボロカシ)
 上辺の 顔色 の上
 顔色が
- 4002 koraiikosamba.※2
 コライコムバ
 共に死ぬ さつとする(raikosanu複)
 さつと青ざめました。
- 4003 ' Soonno boka ne '
 ソオンノ ボカ ネ
 本当に(強調形) (指小辞)+も として
 <やっぱり思っていたとおりにだ>
- 4004 ari yainu ruwe
 アリ ヤイヌ ルウェ
 と 考える その事実
 とその方が考えたことが
- 4005 ear shirkush ne
 エアラ シルクス ネ
 全く 通りすぎる である
 (不詳)
- 4006 a-eraman.
 アエラマン
 我は・わかる
 わたしにはわかりました。
- 4007 Kutsam konna
 クツサム コンナ
 のど そば (調律)
 その方が声を
- 4008 tununitara,
 トウンニタラ(←トウトウン イタラ)
 澄んだ高い音 鳴り続く
 高くひびかせ
- 4009 itak hawe
 イタク ハウエ
 言う その声
 物言う声が
- 4010 ene okai i;
 エネ オカイ イ
 こう ある こと
 こうあるには、
- 4011 ' Koninkar kusu !
 コニンカラス(←コン インカラス)
 早く! 見る (感嘆の助詞)
 『申し上げます。』
- 4012 Ouse heru
 オウセ ヘル
 ただ~するばかり たった
 ただ
- 4013 asuru batek
 アスルフ バテク
 その噂 ばかり
 評判だけを
- 4014 a-nup, tapne
 アヌッ タッネ
 我は・を聞く者 これのように
 われが聞いていた人が、この
- 4015 Iyochi un kuru
 イヨチ ウン クル
 イヨチ に住む お方
 イヨチびと
- 4016 kamui rametok
 カムイ ラメトク
 神の 勇者
 神の勇者
- 4017 ne awa,
 ネ アワ
 であつ たところが
 でありましたが、
- 4018 a-wenutari
 アウエン ウタリ
 我が・悪い 同族
 わがくされ縁者が
- 4019 haita kashbap
 ハイタ カシバブ
 足りない すぎる 者
 あまりにも愚かすぎる
- 4020 konep ne kusu
 コネッ ネ クス
 (調律)+であるもの である 故に
 ものだから、
- 4021 usaine
 ウサイネ(←ウサ ネ)
 めいめい別々の である
 いろいろ
- 4022 ukokat shiri※3
 ウコカッ シリ
 互いの あり方(?) の様
 (不詳)
- 4023 nekona tapne
 ネコナ タッネ
 どのように こう
 どんなにかまあ
- 4024 e-rushka humi
 エルシカ フミ
 汝が・を怒る その気配
 御身が立腹し
- 4025 e-shiyante humi
 エシヤンテ フミ
 汝が・腹立つ その感じ
 激怒して
- 4026 okaibe an ?
 オカイベ アン
 いる こと がある
 おられるであろうや。
- 4027 Aokai anakne
 アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ)
 我 ある ~するならば
 われは
- 4028 Otasamunbe※4
 オタサムンベ(←オタサム ウンベ)
 砂浜 隣に住む 者
 オタサムの者
- 4029 a-ne wa,
 アネ ワ
 我は・であつ て
 であつて、
- 4030 tane bakno
 タネ バクノ
 今 まで
 今まで
- 4031 aokai ne yakka
 アオカイ ネ ヤッカ
 我 であつても
 われも
- 4032 naa pon-an kane,
 ナア ポン・アン カネ
 まだ 小さい・我は 状態で
 まだ幼少でありまして、
- 4033 a-wentureshi
 p.89 アウエン トウレシ
 我が・悪い 妹
 わが至らぬ妹は
- 4034 wen rokbe kushta!
 ウエン ロクベ クスタ
 悪く あつた 者 故+(感動強調)
 ろくでもなくて
- 4035 shukup boka
 シュクブ ボカ
 成長する さえも
 育ちも
- 4036 eoninninke※5
 エオニンニンケ
 頭が そこから 消え消えする(?)
 遅かった。

※1「kan-iyor<上・顔、顔付き>目から額にかけての顔色」(研W370)

※2「ko-rai-kosanu<共に・死ぬ・颯と、急にの意>さつと青ざめた。」(研W370)

※3参考: ukokatkorō-an shiri(萱野茂訳)「今までのいきさつ/お互いに口論した/それらのことを」(教23-161)

※原4綴 Otasambe

※5《原ノートp.94-21金田一メモ》「ソダツノ チヂマル 遅々トススマツ ツマル…」(教I-93)、《萱野茂訳》「育ちが悪く/おがらない(教I-93)、縮まったように/育ちもしない(教IV-6)、さっぱり大きく/なってくれない。(教26-117)」

- 4037 A-resu aine,
アレス アイネ(←アヒネ)
我が・～を育て た～して
われが育てているうちに、
- 4038 tane shinen ne
タネ シネン ネ
今 一年 で
ようやくこの一年で
- 4039 yaibaroshuke ka
ヤイバ^ラオシケ カ
自分に 食事を与えて養う も
一人前に煮炊きも
- 4040 eashkai wa kusu,
エア^シカイ ワクス
に関して 出来る して 故に
出来るようになったから、
- 4041 shinennebo
シネン ネボ
一人である+(指小辞)
たったひとりで
- 4042 a-hopba wa,
アホ^バ ワ
我が・～を置いて行っ て
われは妹を館に残して、
- 4043 irukai ari
イルカイ アリ
少しの間 と
ほんの短い間と
- 4044 yainu-an koro
ヤイヌ アン コロ
考え・我が ながら
思いながら、
- 4045 Tono moshiri
トノ モシリ
殿、武士の 国
倭人の国
- 4046 a-kouimam.
アコウイマム
我が・に向かって 交易に行く
へ交易しに出かけました。
- 4047 Kamuitono sonno
カムイトノ ソンノ
神殿 本常に
倭人の殿様はまことに
- 4048 i-kateomare
イカテオマレ(←イカツエオマレ)
我に・形 そこについて 入れる
われに親愛の情を示し、
- 4049 a-kateomare,
アカテオマレ
我が・敬愛する
われもまた親しみを覚え、
- 4050 keshito i-shikoante
ケシト イシコアンテ
毎日 我を・自分 の方にいさせる
毎日一緒に過ごして
- 4051 i-eham-an
イエハム アン
我を・引き留める・人々が
引き留められて
- 4052 aine moire-an.
アイネ(←アヒネ) モイレ アン
た～して 遅れる・我が
いて、こんなに遅くなってしまった。
- 4053 A-tureshi
アトゥレシ
我が・妹
わが妹が
- 4054 a-enisomap,
アエニソマ^プ
我が・気がかりだ
心配になり、
- 4055 Kamuitono
カムイトノ
神殿
倭人の殿さま
- 4056 utar tura
ウタ^ラ トウ^ラ
たち と一緒に
たちと共に
- 4057 uhobunipka-^{※1}
ウホブニ^プカ
互いを 立ち上がることをさせる(?)
(不詳)(皆で立ち上がった?)
- 4058 an kor
アン コロ
我が ながら
(不詳)(て?)
- 4059 chikimattekka-^{※2}-an
チキマツテ^クカ(←チキマテ^クカ) アン
自分を 急がせる・我が
われが急いで
- 4060 yan-an awa,
ヤナン(←ヤン アン) アワ
上陸する・我が たところが
帰路に向かったところ、
- 4061 koekarino^{※3}
コエカリノ
共にそこに 回るよく
めぐり合わせに
- 4062 tapne kane
タ^プネ カネ
このような 状態で
かくかくしかじかの
- 4063 shiriki inu-an,
シリキ イヌ アン
その様 聞く・我が
ことを聞き、
- 4064 eashka
エア^シカ
それこそ
ほんとうに
- 4065 chinankapsakka^{※4}
チナンカ^プサクカ
～のこと 顔皮 無くす
ひどい恥を
- 4066 a-i-y-ekarkar.
アイエカラ^ラカラ(←ア イ エカラカラ)
人が・我に ~を施す
われはかかされました。
- 4067 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう
- 4068 ene a-ye i
エネ アイエ イ
こう 我が・言う こと
なんとはいようも
- 4069 ene a-kar i isam.
エネ アカリ(←アカラ イ) イサム
こう 我が・作る こと 無い
しようもありません。
- 4070 A-wenutari
アウエン ウタリ
我が・悪い 同族
わがくされ同族
- 4071 kor wemburi^{※5}
コロ ウエムブリ(←ウエンブリ)
持つ 激しい 感情
がした悪行
- 4072 ki ewembe
キ ウエムベ(←ウエンペ)
する 悪い 事
奴がした悪事
- 4073 anakne a-korbe
アナクネ アコロベ
は 我が・持つ 者
はわが縁戚
- 4074 ne kusu, sonno
ネ クス ソンノ
である から 本常に
なのだから、まことに
- 4075 keutum oshiwano
ケウトウム オシワノ
心 の中から
心から
- 4076 a-wenyubi
アウエン ユビ
我が・悪い 兄
わがくされ義兄について(?)
- 4077 kotchake ta
コツチャケ タ
前の所 で
御面前で(?)
- 4078 yayababu-an na.
p.90 ヤヤバブアン(ヤイアパブアン) ナ
自身 悔いる・我が よ
われがあやまりまする。
- 4079 Rametok anakne
ラメトク アナクネ(←アンヤクネ)
勇者 あるならば
真の勇者というもの
- 4080 utarpa anakne
ウタ^ラ パ アナクネ
仲間 頭 は
族長たるものは
- 4081 ear irenka
エア^ラ イレンカ
一つの 主張
片一方の言い分だけで(?)
- 4082 mashkino
マシキノ
あまりに
あまり
- 4083 yairushkarep
ヤイルシカレ^プ(←ヤイルシカレ^プ?)
自身を 怒らせるもの(?)
気分を害する(?)もの
- 4084 somo tap okai na.
ソモ タ^プ オカイ ナ
(否定) これ ある ぞ
ではありませんぞ。

※1 参考:「【自動詞】《複数》(単数の用例はない)u-hopunpa-re<互いを・起き上がる、立ち上がる・させる>(二人以上が皆)いっせいに起き上がる、立ち上がる」(田750)

※2 chikimattekka 「《幌別》急ぐ」(方158-18)

※5 wemburi《萱野茂訳》「のろいの心」(教24-125)

※3 「ko-ekari-no<共に・そこに・回る・よく>回り合わせに(金I-80)、わざわざそちからやつて来て(研677)」

※4 「nan-kap sakka<顔・皮・無くす>顔の皮をはぎとるとは、‘ひどく恥をかかした」(金III-316)

7-7 オタサムびと来訪

- 4085 Keke hetak !
ケケ ヘタ^ク
さあさあ 早く
さあさ早く、
- 4086 chitusare wa※1
チトウサレ ワ
自身を 治さ せ て
われらを助けると思っ(て?)
- 4087 ratchire wa
ラッチレ ワ
平穩にさせ て
機嫌を直して(?)
- 4088 i-kore kunak
イコレ クナ^ク(←クン ヤ^ク)
我らに・与える べきであると
くだ
- 4089 ramu yan !
ラム ヤン
思い なさい
され。
- 4090 Kerai anakne※2
ケライ アナ^クネ
さすが は
それと合わせて(?)
- 4091 taban imakake ta
タバ^ン イマカケ タ
この それの 後の 所 で
これから後は
- 4092 utashba bakno
ウタ^シバ バ^クノ
相互い ほどに
お互いに
- 4093 anun a-ne a yakka
アヌン アネ ア ヤ^クカ
他人 我ら・であつ た が
他人同士であつても、
- 4094 uwebe-an,
ウエベアン(←ウ エ ペ アン)
互いに 食事をする・我らが
共に飲み食いする—
- 4095 tambe reikoro
タムベ(←タン ペ) レイコロ(←レ コロ)
このこと 名前を持つ
これがいわゆる
- 4096 uchebe※ irkar ari
ウチェベ イリ カ^ラ アリ
(不詳) 姻戚になると
食べ合う(?)親戚と
- 4097 a-borsep ne,
アボロセ^プ ネ
人が と言うものである
言われているもので、
- 4098 hushkotoiwano
フシコ トイ ワノ
古く (強意) から
昔から
- 4099 ene ene hawashi
エネ エネ ハワシ(←ハワシ イ)
こう こうと 話をすること
こう言うことは
- 4100 makananita
マカナニタ(←マカン アンイタ)
どのようにある 時に
時としては、
- 4101 sonno irwak utar
ソンノ イリワ^ク ウタ^ラ
本当の 兄弟姉妹 たち
まことの兄弟姉妹
- 4102 kasuno
カスノ
を凌ぐ+(副詞語尾)
以上に
- 4103 uchebe irkar
ウチェベ イリ カ^ラ
(不詳) 姻戚になる
食べ合う(?)親戚が
- 4104 iyotta pirika
イヨッタ(←イ オ^ロ タ) ピリカ
物の中で いい
最もよい
- 4105 iyotta uwekatarotke
イヨッタ ウウエカタロツケ
最も 互いと仲よくする
いちばん仲がいい
- 4106 ari hawash na.
アリ ハワシ ナ
と 言う よ
といひますぞ。
- 4107 Nekona ne ya ?
ネコナ ネ ヤ
どう である か
いかがかな?
- 4108 Sonno ne yakne
ソンノ ネ ヤ^クネ
本当 である ならば
本来なら
- 4109 anun a-ne wa
アヌン アネ ワ
他人 我ら・であつ て
他人同士のわれら
- 4110 ne a yakka,
ネ ア ヤ^クカ
であつ た としても
ではあつても、
- 4111 irukai hene
イルカイ ヘネ
少しの間 でも
ちょっとだけでも
- 4112 e-kor kamui huchi
エコロ カムイフチ
汝の 神 婆さま
そなたが祭る火の婆神
- 4113 teksamake
テ^クサマケ
手の横の所
の炉端
- 4114 a-ehorari kane,
アエホラリ カネ
我は・そこに 尻を押さえる 状態で
に座つて
- 4115 kamui turanno
カムイ トウランノ
神 と共に
神々ともども(?)
- 4116 chikoyayunashke※3
チコヤユナシ^ケ(←チコヤイウナシ^ケ)
~のこと~に 自身 悔いる
謝罪や
- 4117 chikoyayababu
p.91 チコヤヤバブ(←チコヤイアバブ)
~のこと~に 自身 悔いる
お詫びを
- 4118 a-kip ne koroka,
アキ^プ ネ コロカ
我は・を する 物 である けれども
するのでありますが、
- 4119 tap a-yei korachi
タ^プ アイエイ コラチ
今しがた 我が・言うこと のごとく
たつた今われが申し上げたように
- 4120 setakno kane
セタ^クノ カネ
ほんのわずかの間 の状態
しばらく
- 4121 a-ewak ushike
アエワ^ク ウシ^ケ
我が・住む いつも~する 所
わが館を
- 4122 a-hoppa.
アホ^プパ
我は・後に残す+(複数語尾)
われはほつたらかにしてきました。
- 4123 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 4124 oar oar
オア^ラ オア^ラ
全く+(重複)
非常に
- 4125 nisomap ruwe ne.
ニソマ^マ ルウエ ネ
心配する 事実 である
非常に気がかりです。
- 4126 Tane chikimattekka-an
タネ チキマツテ^クカアン
今 自身を 急が せる・我は
すぐにも大急ぎで
- 4127 hoshibi-an rusui.
ホシビ アン ルスイ
戻る・我は を 欲する
われは戻りたくあります。
- 4128 Ponno yakka
ポンノ ヤ^クカ
少し でも
いささかでも
- 4129 yayiraike shirosh
ヤイライケ シロシ
感謝する 印
感謝のしるしを
- 4130 a-ante rusui.
アアンテ ルスイ
我は・を 居させる を 欲する
われは置いて行きたく存ずる。
- 4131 Orowa inau ta okai
オロワ イナウ タ オカイ
それから 木幣 に いる(an複)
それからイナウにいらつしやる
- 4132 kamui ne yakka
カムイ ネ ヤ^クカ
神 であつ ても
神々も

※1参考: Keeke heta/itusare wa/iratchire wa/ikore yan!「いざいざ、/我を生かし/我を助けて/くれよかし」(研841)

※2kerai anakne《金田一メモ》「サスガニ(教 I 原ノートp.72-17)、《萱野茂訳》「<流石 だから>それと合わせて(教 I -71)、<さすが は>(教 X VI-88)」

※3原綴 chikoyunashke

- 4133 uikoituibap※1
ウイコイトウイバ^プ
互いに羨むもの
欲しいもの
- 4134 ne nankoro kusu,
ネ ナンコロ クス
である だろう 故に
であろうから、
- 4135 a-uimamkarbe
ア ウイマムカラ^ベ
我が・交易をしたもの
われが交易で手に入れた品々―
- 4136 Tono ku tonoto
トノ ク トノト
殿、武士 飲む 酒

倭人の殿が飲むお神酒^{みき}や
- 4137 tono e amam hene
トノ エ アマム ヘネ
殿 が食べる 穀物 でも
倭人が食す米でも
- 4138 nep ne yakka
ネ^ッ ネ ヤッカ
何で あっ ても
何でも、
- 4139 tono e kerambe
トノ エ ケラム^ベ(←ケラ アン ペ)
殿 が食べる 味 あるもの
倭人が食べるおいしい甘いお菓子
- 4140 hene nimara
ヘネ ニマラ
でも その半数
なども、その一部を
- 4141 eashi nusa
エ アシ ヌサ
そこに ~を立てる 木幣
立ち並んでいるヌサ
- 4142 nusa teksama
ヌサ テ^ッサマ
木幣 そのわき
その木幣のすぐそばに
- 4143 a-uitek utara
ア ウイテ^ク ウタラ
我が・召使う 者ども
わが召使いたち
- 4144 a-earekar.
ア エアレカラ^ラ
我は・そこに 座ら せる+(他動詞語尾)
に置かせます。
- 4145 Tambe kusu
タム^ベ(←タン ペ) クス
この こと 故に
それゆえ
- 4146 e-utari utar tura
エ ウタリ ウタラ トウラ
汝の・同胞 たち と一緒に
御身の同族たちと共に
- 4147 kamuinomi wa
カヌイ ノミ ワ
神 拝みして
神をまつて
- 4148 uwenubetne wa
ウ ウエ ヌベツネ ワ
互いと共に 喜んで
皆さまで楽しんで
- 4149 i-kore kunak
イコレ クナ^ク(←クン ヤ^ク)
我に・与える べきであると
くだ
- 4150 ramu yan!
ラム ヤン
思い なさい
され。
- 4151 Orowa tapokai
オロワ タ^ブ オカイ
それから ここにある
それから今ここにある
- 4152 tono ehayok
トノ エ ハヨ^ク
殿様が それで 鎧う
倭人の殿の武装や
- 4153 eshibopkep
エ シ ボ^ブケ^ブ
それで 自身を 暖くするもの
着衣や
- 4154 kamuikorbe
カムイコロ^ベ
神が 所有する 物
大事な^{じゅうき}什器祭器を
- 4155 yayababu
ヤヤバ^ブ(ヤイ ア^パ)
自身 悔いる
お詫びの
- 4156 ikkeu shirosh ne
イクケウ シロシ^ネ
大事な元 印 として
証拠として(?)
- 4157 a-tekehe ari
ア テケヘ アリ
我が・その手 でもって
わが手ずから
- 4158 e-kore-an
p.92 エコレ アン
汝・に与える・我が
御身に差し上げ
- 4159 rusui na."
ルスイ ナ
欲する ぞ
たいのですよ」
- 4160 ari itak kane,
アリ イタ^ク カネ
と 言う 状態で
と言って、
- 4161 tono tombuku
トノ トム^ブク
殿さまの 道服(羽織?)
倭の殿さまが着る羽織(?)を
- 4162 imut※2 turanno
イムツ トウランノ
刀 と一緒に
刀や
- 4163 kasa turanno
カサ トウランノ
兜 と一緒に
兜とともに
- 4164 yaikoare
ヤイコアレ
自身 に向かって 座ら せる
脱ぎ、
- 4165 ukoraiba
ウコ ライバ
相共に やる(raye複)
ひとまとめにして
- 4166 tan rik beka
タン リ^ク ベカ
この 高い所 から
上の方から
- 4167 tarara hawash awa…
タララ ハワシ アワ
差し伸べる そう言っ たところ
差し出してそう言ったところ…。

※1 原綴 ukoituibap 参考: ikoituypa「《幌別》羨む」(方165-32)、eikoituiba「欲しい」(語法)「《沙流方言》ikoytupa …ものを欲しがる」(田227)

※2 imut「帯ぶるもの、刀」(研816)

7-8 イヨチびとの返答

- 4168 Shiriki chiki,
シリキ チキ
その様をし たら
そうしたら
- 4169 amset ka wa
アムセツ カワ
広やかな 台 上 から
高床の上から
- 4170 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アン ペ)
神 のように ある 者
神のようなイヨチびとが
- 4171 chirikibuni
チリキ ブニ
自身を 高く 上げる
起ち上がり、
- 4172 omanso ka ta
オマンソ(←オマイソ) カ タ
座敷 上 で
宝壇が置いてある上座に
- 4173 renne kema※1
レンネ ケマ
だるい 足
しびれた足を運ぶみたいに
- 4174 tuimaturi.
トウイマトウリ
遠くに 伸ばす
ゆっくり大股に出て来ました。
- 4175 Isenram kusu
イ センラム クス
物事を いつもどおり 故に
いつものとおり
- 4176 tumba maikan
トウムバ マイカン
刀の鏝 金が触れ合って鳴る 音 末
武具が触れ合う音の余韻が
- 4177 tununitara.
トウヌニタラ(←トウントウン イタラ)
澄んだ高い音 鳴り続く
美しくひびきます。
- 4178 I-oshmake
イ オシマケ
私の・後ろの所
わたしの後ろ
- 4179 urekushte,
ウレ クシテ
足を通らせる
を通り、
- 4180 a-koturirip
アコトウリリッ
人が・に 伸ばし伸ばしする 物
差しのばされた
- 4181 kunip uina wa
クニッ ウイナ ワ
はずの物 受け取って
それらのものを受け取って、
- 4182 rikunruke
リクンルケ(←リッ ウンルケ)
高く置く
高くささげ
- 4183 raunruke
ラウンルケ
低く置く
低く差し入れてささげて
- 4184 koonkami.
コ オンカミ
～に 拝礼する
拝礼しました。
- 4185 Tap orowa
タッ オロワ
それ から
それから
- 4186 Otasamunkuru
オタサム ウン クル
砂浜 隣に住む お方
オタサムびと
- 4187 santeke uina,
サン テケ ウイナ
出る その手 を受け取る
の手をとり、
- 4188 yupke kishma
ユブケ キシマ
強く つかむ
強くつかみ
- 4189 toiko kishma kane,
トイコ キシマ カネ
ひどく 握る 状態で
ぎっちり握って、
- 4190 kurkashike
クルカシケ
その上
その上で
- 4191 itakomare hawe
イタク オマレ ハウエ
言葉を入れる その声
話したことが
- 4192 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには、
- 4193 "Utarpa kushta !
ウタラ パ クスタ
仲間 頭 の故+(感動)
「さすがは族長
- 4194 rametok kushta !
ラメトク(←ラム エトク) クスタ
心の 先端 故+(強意)
さすがは勇士ゆえの
- 4195 irayapka
イラヤッ カ
人を 感心する させる
何とたまげた
- 4196 iramasurenno
イラマスレノ
人を 面白く思わ せる+(副詞語尾)
なんと素晴らしい
- 4197 kamui irenka,
カムイ イレンカ
神の おきて
神のようなご決断、
- 4198 pirika eashkai
p.93 ピリカ エアシカイ
よい に関して 上手だ
まことに見事な
- 4199 buri pirika hawe
ブリ ピリカ ハウエ
やり方 よい その声
さいはい
采配のお言葉、
- 4200 iyairaikere.
イヤイライケレ
感謝する
感謝致します。
- 4201 Aokai anakne
アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ)
我 あるならば
われは
- 4202 ponno hene
ポンノ ヘネ
少し でも
いささかも
- 4203 irushka-an
イルシカ アン
怒る・我は
腹を立てても
- 4204 shiyante-an
シヤンテ アン
腹立つ・我は
怒っても
- 4205 somoki.
ソモキ
(否定) する
おらぬ。
- 4206 PonTeseu un kuru
ポンテセウ ウン クル
小テセウに住む お方
ポンテセウびとの家系が
- 4207 hushkotoiwano
フシコ トイ ワノ
古く(強意) から
昔から
- 4208 tu shinrit ka ta
トゥ シンリッ カ タ
二つの 祖先 上 に
ずっと遡^{さかのぼ}った祖先から
- 4209 re shinrit ka ta
レ シンリッ カ タ
三つの 祖先 上 に
何代にもわたって
- 4210 usa rametok
ウサ ラメトク
色々な 勇猛な人
いろいろな勇者や
- 4211 usa bawetok
ウサ バウエトク
それぞれの 雄弁な人
それぞれの雄弁家を
- 4212 korba hawe,
コロバ ハウエ
を持つ+(複数語尾) その話
輩出しているという話は、
- 4213 tu kotan kama
トゥ コタン カマ
二つの 村 をまたぐ
たくさん村々を越え
- 4214 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 をまたぐ
幾つもの村々を越え
- 4215 shiasurashte
シアスル アシテ
自分の 噂を立てさせる
評判を立てられている

※1 renne kema/tuimaturi「荒々しくなく、いそがず静かに出て来たのを云った句、renne はしびれたる、だるき意。だるい時ゆつくり足を運ぶそのやうにゆつくり出て来た意(研920)、力なき足を/とほくのばし(研647)、しづかなる足どりを/大股に運ぶ。(研920)」「萱野茂訳」「弱った足を/引きずるように/歩いて行き」(教X-123)

- 4216 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のような方々
- 4217 ne rok awa,
ネ ロク アワ
であった ところが
であったが、
- 4218 tap korachi
タッ コラチ
この 如く
このように
- 4219 base ubashkuma
バセ ウバシクマ
重く尊い 物事を教え伝え合う昔話
重要な昔語りを
- 4220 echutkonno
エ チュツコンノ
それに関して まちがう
まちがって
- 4221 ki i hene
キ イ ヘネ
する こと でも
いもうとご
妹御に教えたことや
- 4222 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 4223 kotumisanke kusu
コトウミ サンケ クス
に 戦さを出す ために
に戦さをしかけようと
- 4224 ikichi i hene,
イキチ イ ヘネ
物事をする こと でも
することなのは、
- 4225 oar yairamma
オアラ ヤイラムマ(←ヤイラム ワ)
まったく 自分の心 から
まったく自分の意志から
- 4226 somo ne kuni
ソモ ネ クニ
(否定)である はずと
ではないと
- 4227 a-ramu.
アラム
我は・思う
われは思う。
- 4228 Ikeshkep※1 renkaine
イクシケブ レンカイネ
我らを・邪魔する者 意図として
誰かわれらをねたむ者
- 4229 inonchip※2 renkaine
イノンチブ レンカイネ
ねたむ者 意志で
いたずらする者が勝手にしたの
- 4230 somo ne ya
ソモ ネ ヤ
(否定)である か
ではないのか
- 4231 arinokane
アリノカネ
と+(?) 状態で
というように

- 4232 yainu-an.
ヤイヌ アン
考える・我は
われは考える。
- 4233 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
この こと 故に
それゆえ
- 4234 ouse kamui batek
オウセ カムイ バテク
ただ 神 ばかり
われはただ神にのみ
- 4235 tomo-a-ekokanu※3 wa
トモ ア エコカヌ ワ
真ん中・我・～に任せ て
委ねて
- 4236 an-an awa,
アナン(←アン アン) アワ
あつ・我が たところが
いたのであったが、
- 4237 heru asuru batek
ヘル アスル バテク
ただ その噂 ばかり
ただその評判だけを
- 4238 kamui asunne
カムイ アスン(←アスル) ネ
神の 噂 として
神々の噂として
- 4239 a-nu a
アヌ ア
我が・聞いた
われが聞いていた
- 4240 Otasamunkuru
オタサムウンクル
砂浜 隣に住む お方
オタサムびと
- 4241 kamui rametok
カムイ ラメトク
神の 勇者
神の勇者が
- 4242 pirika kuni ne
ピリカ クニ ネ
良い ように
いいあんばいに
- 4243 a-kor kotani
アコロ コタニ
我が・持つ その村
わが村の
- 4244 repke kush
レブケ クス
沖の所 を通る
沖を通ってくださった
- 4245 kushkeraibo,
p.94 クシケライポ
おかげ+(指小辞)
おかげで、
- 4246 tane anakne
タネ アナクネ(←アン ヤクネ)
今 ある ~すれば
ようやく
- 4247 pirika irenka ne
ピリカ イレンカ ネ
立派な おきて として
立派な裁定を(?)

- 4248 kar wa i-kore
カラ ワ イコレ
作っ て 我らに 与える
してくださった
- 4249 batek ne yakka
バテク ネ ヤクカ
ばかり であつ ても
だけでも
- 4250 a-eyairaike ko,
アエ ヤイライケ コ
我は・それに 感謝する と
ありがたいのに、
- 4251 sui taban tewano
スイ タバン(←タバ アン) テワノ
また 今 ある ここ から
さらにまた、これからは
- 4252 uwebe-an
ウエペアン(←ウ エ ペ アン)
互いに 食事する・我らが
飲み食いし合う
- 4253 shine utan ne
シネ ウタン(←ウタラ) ネ
一つの 同族 として
一族として
- 4254 ukobayekai-an
ウコ バイェカイ アン
お互いに行く、歩き回る・我らが
われらが行き来
- 4255 eashkai hawe,
エアシカイ ハウエ
できる という事
できるということは、
- 4256 sonno nepka kasuno
ソンノ ネブカ カスノ
本当に 何 凌ぐ+(副詞語尾)
まことに何にもまさる
- 4257 iyotta
イヨッタ(←イ オ タ)
物の所で
最も
- 4258 a-chibachiba
アチバチバ
我らが・求め望む
われらが望んでいる
- 4259 hawe ne.
ハウエ ネ
声 である
ことであります。
- 4260 Usa kamui sonno
ウサ カムイ ソンノ
色々な 神 本当に
さまざまな神々が真に
- 4261 enubetne kunip
エヌベツネ クニブ
それを 喜ぶ はずのもの
お喜びになる
- 4262 kamui tonoto hene
カムイ トノト ヘネ
神の 酒 でも
お神酒でも
- 4263 nep ne yakka
ネブ ネ ヤクカ
何 であつ ても
何でも

※1 ikeshkep「われらをそねむ者(研683)、ねたむもの(金 I-411)」

※2 inonchip「愚弄スル、翻弄スル.v.t.To baffle.Syn:Unkeshke.」(B194)、「わが魂をいたむる者(研683)、いたずらするもの(金 I-411)」《萱野茂訳》「お前に唾を吐く者」(教28-186)

※3 原綴 tomo Aekonu

7-8 イヨチびとの返答

- 4264 pirikap batek,
ピリカ **ヅ** バテク
良い物 ばかり
上等なものばかり、
- 4265 kerambe hene
ケラムベ(←ケラ アン ペ) ヘネ
味 あるもの でも
甘いおいしい菓子も
- 4266 boronno
ボロンノ
たくさん
たくさん
- 4267 a-i-eunkerai
アイエウンケライ
人が・我らに・で 頂戴する
お裾分けしていただき
- 4268 a-i-y-eikra **※1** hawe
アイ+(挿入音)エイクラ ハウエ
人が・我らに・くれる その話
贈られるというお話し
- 4269 kiroror bakno
キロロロ バクノ
(不詳) ほどに
(不詳)
- 4270 keutum oshiwano
ケウトウム オシ ワノ
心 の中から
心から
- 4271 sonno yairaike-an
ソンノ ヤイライケ アン
本当に 感謝する・我は
われは感謝し、
- 4272 onkami-an
オンカミ アン
拝礼する・我は
拝礼いたし
- 4273 ruwe taban.
ルウェ タバン(←タヅ アン)
事実 これこのとおり ある
まする。
- 4274 Moiretara
モイレタラ
ゆっくりと
ごゆっくりと
- 4275 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アン ペ)
神 のように ある者
神のごときオタサムびとが
- 4276 shirkush wa
シリクシ ワ
辺りを通って
お立ち寄り
- 4277 i-kore i
イコレ イ
我に・与える こと
くださるの
- 4278 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるならば、
- 4279 tutko bakno
トゥッコ バクノ
二日 ほど
二、
- 4280 rerko bakno
レレコ バクノ
三日 ほど
三日
- 4281 ukookai **※2**-an wa,
ウコオカイ アン ワ
一緒にい・我らが て
ともに過ごして、
- 4282 kamui uweneusar **※3**
カムイ ウウェ ネウサラ
神の 互いと一緒に 歓談する
ウウェベケレやユーカラを語ったり
- 4283 a-ki kuni i
アキ クニ イ
我は・~をする べき こと
聞いたりして楽しみたいと
- 4284 sonno a-chibachibap
ソンノ アチバチバ
本当に 我らが・求め望む
まことわれらは望んでいる
- 4285 ne ruwe ne koroka,
ネ ルウェ ネ コロカ
である その事実 だけれど
のでありますが、
- 4286 neino korachi ne
ネイノ(←ネノ) コラチ ネ
そのような ごとく である
そのように早く還りたいと
- 4287 hawe ne a yakne
p.95 ハウエ ネ ア ヤクネ
言う であつた ならば
おっしゃるのならば、
- 4288 okake ta
オカケ タ
後 で
後になつたら
- 4289 ramma
ラムマ
いつも
しょっちゅう
- 4290 unukar kunip
ウヌカラ クニ **ヅ**
互いを見る はずのこと
会うことになる
- 4291 a-ne nankor."
アネ ナンコロ
我ら・である だろう
にちがいないでしょう」
- 4292 ari itak kane
アリ イタク カネ
と 言う 状態で
と言って、
- 4293 arusantek kashi
アルサンテク(←アラ ウ サンテク) カシ
全く互いの 手首から先 の上
その手を取り合つて
- 4294 utashba bakno
ウタシバ バクノ
互いと交換する ほどに
かわるがわる
- 4295 ukoruiruiba kane.
ウコルイルイバ カネ
共に 何度も撫でる 状態だ
さすり合う別れの儀礼をしました。
- 4296 Iyainumare !
イヤイヌマレ
我に 自ら 起き上がら せる
まあ驚いた!
- 4297 inkinebe
インキネベ(←インキ ネ **ヅ** ヘ)
いずれ であるものか
どちらが
- 4298 shiretok otta
シレトク(←シリ エトク) オッタ(←オ **ロ** タ)
様子 先端 の所で
器量においても
- 4299 bawetok otta
バウエトク(←パ エトク) オッタ(←オ **ロ** タ)
口先 の所で
弁舌においても
- 4300 urabokkari wa
ウラボクカリ ワ
互いに 低い所 下 回つ て
優劣がつけられる
- 4301 okai nankor'a !
オカイ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
ある だろう か
存在でしょうか、
- 4302 hawash nankor'a !
ハワシ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
声がする だろう か
雄弁さでしょうか。
- 4303 Tap eashiri
タヅ エアシリ
今 初めて
それこそ
- 4304 sonnonewa
ソンノネワ
本当であつて
まことにもつて(?)
- 4305 ubak shiretok
ウバク シレトク
互いほど 美貌
同じくらいの風格と
- 4306 ubak bawetok ne
ウバク バウエトク ネ
同じ程度の 雄弁さ である
雄弁さを持つ
- 4307 ubak rametok
ウバク ラメトク
同じ程度の 勇者
優劣つけがたい勇士
- 4308 nei ruwe
ネイ(←ネ) ルウェ
その 様
その様
- 4309 nei katu
ネイ(←ネ) カトウ
その 容子
その容子が
- 4310 a-noeraman.
アノエラマン
我は・よくわかる
はっきりわかりました。

※1 参考: eiyekra「e-i-eikra <汝が・われに・くれる>お身がわたしに送ってくれる」(金Ⅱ-347)

※2 ukookai「uko-okai <相共に・在る>同棲。いつしよに暮らす」(研782)

※3 kamui uweneusar《萱野茂記》「<神 四方山ばなし>四方山話」(教Ⅶ-73)

第8章 オタサム村

8-1 別れ

- 4311 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチびと
- 4312 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ(←アン ペ)
神 のように ある者
神のようなお方が
- 4313 i-koshikiru
イコシキル
我・に 自分を回す
わたしにふり向き
- 4314 ene itak i;
エネ イタッ イ
こう 言う ことには
こう言いました。
- 4315 "Hokure!
ホクレ
早く
「さあ!
- 4316 PonTeseu um mat!
ポン テセウ ウム(←ウン) マッ
小 テセウ に住む 女性
ポンテセウ姫よ。
- 4317 Otasamunkuru
オタサム ウン クル
砂浜 隣 に住む お方
オタサムびと
- 4318 pon e-kor yubi
ポン エコロ ユビ
小 汝が・持つ その兄
そなたの婚約者
- 4319 tura kunak
トウラ クナク(←クン ヤク)
同伴する べきであると
と一緒に行き
- 4320 ramu yan!
ラム ヤン
思い なさい
なさい。
- 4321 Kamui ari
カムイ アリ
神 と
たとえ神と
- 4322 a-borsep
アボロセプ
人が と言うもの
呼ばれるもの
- 4323 ka tapne
カ タッ ネ
も こうである
でさえも
- 4324 makan okai ita
マカン オカイ イタ
どんな ある 時に
時には
- 4325 nepka
ネッカ
何か
何か
- 4326 echutkonno
エ チュツコンノ
それに関して まちがう
まちがいを
- 4327 kip ne yak a-ye.
キッ ネ ヤク アイエ
するもの であると 人は・言う
するものだとされている。
- 4328 Tambe kusu
タムベ(←タン ペ) クス
このこと 故に
それゆえ、
- 4329 ainu a-ne wa
アイヌ アネ ワ
人間 我ら・であって
われらは人間なのだから、
- 4330 aokai utar hene
アオカイ ウタラ ヘネ
我 たち でも
われらも
- 4331 makanokaibe
マカン オカイ ベ
どうあるもの
どうかしてしばしば
- 4332 a-oira wa
ア オイラ ワ
我らが・を忘れ て
もの忘れして
- 4333 usaine
ウサイネ(←ウサ ネ)
めいめい別々の である
いろいろ
- 4334 echutkonno
エ チュツコンノ
それに関して まちがう
まちがいを
- 4335 a-kip ne.
ア キッ ネ
我らは するもの である
するものだ。
- 4336 E-kor yubi
p.96 エコロ ユビ
汝が・持つ その兄
そなたの兄ポンテセウびと
- 4337 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も
- 4338 iyoiira kusu,
イヨイラ(←イ オイラ) クス
もの+(挿入音)+を忘れる 故に
物忘れした故に
- 4339 tapne ne a yakka,
タッネ ネ ア ヤッカ
これのように であつた にしても
あのようにだつたにしても(?),
- 4340 sonno kamui renkaine
ソンノ カムイ レンカイネ
本当に 神の 意図+(挿入音)+として
幸いにも神のおかげで
- 4341 pirika kuni ne
ピリカ クニ ネ
良い ように
いい具合に
- 4342 a-uweraman.
アウエラマン(←ア ウ エラマン)
我らは・互いに わかる
われはオタサムびとと合意した。
- 4343 Ponnoka nep ka
ポンノカ ネッ カ
少しも 何も
少しも何も
- 4344 a-rushka somoki.
アルシカ ソモキ
我は・怒る (否定) する
われは怒ってはいない。
- 4345 E-nu i korachi
エヌ イ コラチ
汝が・聞く こと のごとく
そなたが聞いたとおりに
- 4346 taban tewano
タバ(←タッ アン) テワノ
今ここにある ここ から
今から
- 4347 shine irwak ne
シネ イリワッ ネ
一 兄弟姉妹 になる
兄弟姉妹として
- 4348 uwekatarotke-an
ウ ウェカタロツケ アン
互いと仲よくする・我らは
仲よく
- 4349 eashkai kusu
エ アシカイ クス
に関して できる 故に
できるから
- 4350 sonno nubetne.
ソンノ ヌベツネ
本当に 嬉しい。
本当に喜ばしい。
- 4351 Tap e-ketushi
タッ エケトウシ
今 汝の・長持ち
そなたの嫁入り道具入れは
- 4352 te ta an na,
テ タ アン ナ
ここに ある から
ここにあるから、
- 4353 se yan!
セ ヤン
背負い なさい
しよいなされ」
- 4354 ari itak kane.
アリ イタッ カネ
と 言う 状態だ
とイヨチびとは言いました。
- 4355 Hembaratek
ヘムバラテク
いつちよつと~する
いつのまに
- 4356 nea a-shikehe
ネア アシケヘ
例の わが・荷物
あのわたしの嫁入り道具を
- 4357 uina wa i-kore
ウイナ ワ イコレ
取つ て 我に・与える
拾ってくださった
- 4358 ruwe ne ya?
ルウェ ネ ヤ
その事実 である か
のかしら?
- 4359 Oribak-ambe
オリバクアムベ(←アン ペ)
おそれ敬う・我は 者
わたしはつつしみ深いもの
- 4360 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 4361 shiriebittano
シリエビッタノ
辺り 一面+(副詞語尾)
あたりを

8-1 別れ

- 4362 shikkankari※1 an
シク カン カリ アン
目 末 を回す・我は
キヨロキヨロ見回すことも
- 4363 shikchimchimi※2-an ka
シク チムチミアン カ
目 開け開けする・我は も
まばたきすることも
- 4364 somokino
ソモ キノ
(否定) する+(副詞語尾)
せずに、
- 4365 an-an awa,
アナン(←アン アン) アワ
あっ・我が たところが
いたところ、
- 4366 amset kesh wa
アム セツ ケシ ワ
広やかな 台 下手端 から
イヨチびとは高床の下手の端から
- 4367 neia a-shikehe
ネイア(←ネア) ア シケヘ
件の 我が・荷物
あのわたしの荷を
- 4368 sanke wa
サンケ ワ
出 して
出して来て
- 4369 i-sam ta are.
イ サム タ アレ
我が・側 に 座らせる
わたしのそばに置きました。
- 4370 Shiso sam ta
シソ サム タ
本 座 側 に
右座がわには
- 4371 pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
若い婦人イヨチ姫が
- 4372 eashka oribak wa
エアシカ オリバク ワ
本当に 慎ん で
それこそ慎み深く
- 4373 okai rokwa,
オカイ ロクワ
あつ たところが
座っていらして、
- 4374 tane anakne
タネ アナツネ(←アン ヤツネ)
今 ある すれば
とうとう
- 4375 i-omante-an
イ オマンテ アン
我を・行かせる・人が
わたしを嫁に送り出す
- 4376 hawe nu chiki,
ハウエ ヌ チキ
その声 を聞く なら
声を聞いたから、
- 4377 katu ne kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただあたりまえに
- 4378 i-shihobinupkap
イシ ホピ ヌ ッ カブ
我を・惜しむ(?)もの
わたしを名残惜しく思うの
- 4379 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるのなら
- 4380 kotom korokaiki,
p.97 コトム コロカイキ
ふさわしい けれど+(物事 をする)
いいのに、
- 4381 chirikibumba
チリキ ブムバ
自身を 高く 上げる(chirikipuni複)
起ち上がって、
- 4382 i-sam ta arki wa
イサム タ アラキ ワ
我が・側 に 来 て
わたしのそばにいらして
- 4383 eashka
エアシカ
本当に
それこそ
- 4384 chish turanno
チシ トウランノ
泣く を伴って
泣きながら
- 4385 i-shikoruye,
イシコルイエ
我を 自分 の方へ しめつける
わたしを抱きしめ、
- 4386 ene ene
エネ エネ
このように こうこうと
こうこうしかじかと
- 4387 okake ta sui
オカケ タ スイ
後 で 再び
後でまた
- 4388 pirika unukar
ピリカ ウヌカラ
よい 互い を見る
よき再会
- 4389 a-ki kuni i
アキ クニ イ
我らは・~をする べき こと
をしましよと
- 4390 utashba
ウタシバ
互いと交換する
それぞれお互いに
- 4391 uruiruye-an
ウルイルイエ アン
互いに 撫でる・我らは
頭から腕までさすり合う別れの
- 4392 kane a-ye.
カネ アイエ
状態で 我らは・~を言う
挨拶をしながら言いました。
- 4393 Oribak tura
オリバク トウラ
慎み と共に
おそれつつしみながら
- 4394 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチ に住む お方
イヨチウンクルー
- 4395 kamui ne ambe hemem
カムイ ネ アムベ ヘメモ
神 のように ある 者 でも
神のごときお方にも
- 4396 a-koyairaike kane
アコヤイライケ カネ
我は・~に 感謝する 状態で
感謝して
- 4397 chirikibuni-an.
チリキ ブニ アン
自身を 高く 上げる・我は
わたしは起ち上がりました。
- 4398 Pom menoko
ポム(←ポン) メノコ
若い 女
イヨチ姫は
- 4399 soi orobakno
ソイ オロバクノ
外 の所 にまで
外まで、
- 4400 a-shikehe ani wa
アシケヘ アニ ワ
我が・その荷物 手に持っ て
わたしの荷物を持って出て、
- 4401 kamui ne ambe
カムイ ネ アムベ
神 のように ある 者
神のごときお方イヨチびと
- 4402 hemem soine.
ヘメモ ソイネ
も 外に出る
も外に出ました。
- 4403 Soita soyumba-an
ソイタ ソユムバ(soine複) アン
外に 戸外に出る・我らが
わたしたちが館の外に出て
- 4404 orowa hemem
オロワ ヘメモ
そこから も
からも
- 4405 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある 者
神のごとき方々は
- 4406 uetutkobak
ウエトウツコバク
(不詳)
(不詳)
- 4407 tu pirika itak※3
トゥ ピリカ イタク
二つの いい 言葉
たくさんのかづけることば
- 4408 re pirika itak
レ ピリカ イタク
三つの いい 言葉
数々のはげましの言葉を
- 4409 utashbare.
ウタシバレ
互いと交換させる(utasare複)
交わしました。

※1 shik-kan-kari「<眼・上、末・うごかす>目をおちつけてみずに、あたりをきよろきよろするのは wenkur の行儀として卑しめられる」(研W289)

※2 参考: shiki chimimi「shiki+chimi-mi<その目+開け+開けする>《ホロベツ》まばゆくてまばたきする」(人415)

※3 tu pirika itak/re pirika itak「《平賀サダモ》力になることを言い交わす」(金V-161)

- 4410 Aokai utar
アオカイ ウタ^ラ
我 たち
わたしたち三人
- 4411 newa ne yakka
ネワ ネ ヤ^カ
であった に しても
にしても
- 4412 arukorachi
アルコラチ(←ア^ラ ウ コラチ)
全く 互い 同様
同じように
- 4413 konepkeukata! ※1
コネ^ッケウ カタ
(調律) 何 体 上 (感動)
どうしてなのか
- 4414 konepkashita!
コネ^ッカシタ
(調律) 何 上 (感動)
何とまあ悲しかったことか。
- 4415 Iyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 4416 kamui ne ambe
カムイ ネ ア^ム ベ
神 のように ある 者
神のごときお方は
- 4417 i-ekoobi
イエコオビ(←イエコホピ)
我に・それに対して 尻 引く
わたしに背を
- 4418 shikirba ko,
シキ^リバ コ
自分 を回す(sikuru複) と
向けて、
- 4419 tu okne ibor
トゥ オ^ッネ イボ^ロ
二つの 悲しみの 顔色
濃い憂いの顔色
- 4420 re okne ibor
レ オ^ッネ イボ^ロ
三つの 悲しみの 顔色
深い悲しみの色を
- 4421 enuratkire ruwe
エヌラッキレ ルウエ
そこに十分に 漂わ せる その様
浮かべる様子を
- 4422 a-nukar chiki,
アヌカ^ラ チキ
我は・~を見る なら
見たら、
- 4423 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ^カ
我 であつ ても
わたしの方も
- 4424 a-sambe bake ※2
アサムベ バケ
我が・心臓 の上端
心の隅
- 4425 a-sambe kese
アサムベ ケセ
我が・心臓 の下端
々までかきむしられるように
- 4426 koebuyuse,
コエブユイセ
そこにあふれ出る
せつなくなり、
- 4427 hese buira
p.98 ヘセ ブイラ
息 孔
息の孔も
- 4428 a-i-koseshke
アイコセシケ
人が・我に・対して ふさぐ
ふさがれてしまった
- 4429 semkorachi
セムコラチ
するように
かのように
- 4430 yainu-an kane.
ヤイヌ アン カネ
思う・我は 状態だ
苦しい気持ちになりました。
- 4431 Inkar-an ko,
インカラン(←インカ^ラ アン) コ
眺める・我が と
見れば、
- 4432 tam boro nusa
タム(←タン) ボロ ヌサ
この 大きな 幣
この壮大な祭壇
- 4433 nusa teksam ta
ヌサ テ^ッサム タ
幣 手側 で
その幣場のそばに
- 4434 a-ye rokokai
アイエ ロ^クオカイ
人々が・言っ たある
話に聞いていたところの
- 4435 tono ku tonoto
トノ ク トノト
殿 飲む 酒
倭人の殿が飲むお神酒
- 4436 ne kotomno
ネ コト^ムノ
である らしく
であるらしい
- 4437 hemanta
ヘマンタ
何
何か
- 4438 ruye chikuni
ルイエ チクニ
太い 木
大木の
- 4439 a-ehumnatuiba ※3
アエフ^ムナトウイバ
人が・それを 断片 に切る(tuye 複)
切り株
- 4440 apkoro okaibe
ア^ブコロ オカイ ベ
まるで~するかのようにあるもの
みたいなものの
- 4441 boro ikiri,
ボロ イキリ
大きな 列
大きな列や
- 4442 usa amam taraha
ウサ アマ^ム タラハ
種々の 米 の俵
いろいろな米俵
- 4443 ikiri moshma
イキリ モシマ
の列 の他に
の列の他に、
- 4444 hemanta tutukko
ヘマンタ トウトウ^クコ
何 包み
何かの包みの
- 4445 boro ikirihi
ボロ イキリヒ
大きな その列
大きな列が
- 4446 okai ne shiran
オカイ ネ シラン(←シリ^ン アン)
ある である 様子ある
あるようすを
- 4447 a-nukar kane,
アヌカ^ラ カネ
我は・~を見る 状態で
わたしは見ながら、
- 4448 pon a-kor yubi
ポン アコ^ロ ユビ
小 我が・持つ その兄
婚約者オタサムびとの
- 4449 seturkashike
セトゥル カシケ
背の上に
あとへすぐびったり
- 4450 a-yairarire.
アヤイラリレ
我は・自分を 押しつけ させる
付き従いました。

※1 konepkeukata konepkashita「かなしや(脚注:nepkewkata 何の理由で、どうして)/なさけなや(脚注:nepkashita どういうわけで>同義の語の語勢的反復)(金Ⅱ-184)、ああなんとしたことだ/ああどうしたことだ(金Ⅱ-123)」「何とまあ/かなしいことだろう」(久137)

※2「わが肝のかしら/わが肝の末/沸きかへりたり。(脚注…肝いづばいの意。sampe はアイヌは、きもと譯せど心臓のこと)(研767)、「我が肝がしら/わが肝の尻/たかぶり来る(金Ⅳ-219)」「<心臓の頭部から/心臓の尾部から/いっしょにしぼられて水がたれる…>《幌別、沙流》五臓六腑をかきむしられるよおにせつない思いをした」(人624)

※3 原綴 aehumnatuba 「hum-na-tuye<断片・に・切る>、《知里説》ぶつりと切る」(金Ⅰ-348)

8-2 船出

- 4451 Atui sam ta
アトウイ サム タ
海 側 に
海辺に
- 4452 sap-an ko,
サプ アン コ
出る・我らが と
出ると、
- 4453 tu okkaipo
トゥ オクカイ ポ
二 男+(指小辞)
二人の青年
- 4454 shino rametok
シノ ラメトク
真の 勇者
まことの勇士
- 4455 nei kotomno
ネイ(←ネ) コトムノ
である ごとく+(副詞語尾)
であるらしい
- 4456 okaibe obittano
オカイベ オビッタノ
ある者 すべて
者たちが二人とも
- 4457 tono koshiyukbap
トノ コシユクバプ
倭の殿 に対する 装束を着る者
倭風の装束を着ている
- 4458 konep ne kusu,
コネッ ネ クス
(調律)+であるもの である 故に
ものだから、
- 4459 kani kosonte
カニ コソソテ
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装
- 4460 kosonte tum-
コソソテ トウム
小袖 中
の着物を
- 4461 ourebumba※1 kane,
オウレブムバ カネ
そこから足を上げる(?) 状態で
重ね着して(?),
- 4462 huihuinawano
フイフイナワノ
どここの方から
どこからどこまで
- 4463 a-koerayapno※2
アコエラヤプノ
我が・感嘆する+(副詞語尾)
感心するほど
- 4464 pirika ruwe okaibe
ピリカ ルウェ オカイベ
美しい その様 ある者
立派な風体の者たちは、
- 4465 tanebo konna
タネボ コンナ
今+(指小辞)こそ
今はじめて
- 4466 i-nukarba
イヌカラバ
我を・見る+(複数語尾)
わたしに会った
- 4467 kunip ne kusu
クニプ ネ クス
はずの者 である 故に
ものだから、
- 4468 oribak tura
オリバク トウラ
慎み と共に
うやうやしく
- 4469 i-kotekrikikur-
イコテクリキクル
我ら・向かって手を高々と+(助辞)
両手の掌を上へ向けて
- 4470 bumba kane
p.99 ブムバ カネ
挙げる(puni複) 状態で
ゆったりと上下させながら
- 4471 i-koonkamiba.
イコオンカミバ
我に・対して 拝礼する+(複数語尾)
拝礼しました。
- 4472 Pon chip ari※3
ポン チプ アリ
小さな 舟で
小舟でもって
- 4473 kaibokka un
カイボクカ ウン
波うちぎわ 上にある
なぎさから
- 4474 i-kusa-an,
イクサアン
我を・渡す・人々が
わたしを渡し、
- 4475 taban rokunte※4
タバ(←タッ アン) ロクンテ
今ここにある 大船
この大船の
- 4476 chipshike kashi
チプシケ カシ
船荷 の上に
甲板に
- 4477 a-i-y-eare.
アイイエアレ
人が・我を・そこに座らせる
わたしは座らせられました。
- 4478 Tu okkaipo
トゥ オクカイ ポ
二 男+(指小辞)
二人の青年は
- 4479 chibo※5 ne kunip
チボ(←チプ オ) ネ クニプ
舟を漕ぐ である はずの者
舟をこぐのに
- 4480 kohokushhokush kane,
コホクシホクシ カネ
に倒れに倒れる 状態で
前後に身体を倒し倒し、
- 4481 pon a-kor yubi
ポン アコロ ユビ
小 我・が持つ その兄
婚約者オタサムびとは
- 4482 nanuisamka ta
ナヌイサムカ(←ナン ウン サム カ) タ
船首のわき上 に
へさき側にいて
- 4483 wororatkip
ウオロラッキプ(←ウオロ オロ ラッキ プ)
水中に下がるもの
ともがい(權の一種)で
- 4484 be kotobo
ベ コトボ
水 とともに 回す
海中をかき返し
- 4485 be korewe
ベ コレウエ
水 とともに 曲げる
かき回す
- 4486 koyaimakna-
コヤイマクナ
共に 自身を 後ろの方に
たびに体をぐっと後ろに
- 4487 teshba kane.
テシバ カネ
反らす(←tesu 複) 状態である
反らしています。
- 4488 Atuiso ka wa
アトウイソ カワ
海原 上から
沖の方から
- 4489 Inkar-an ko,
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
眺めると、
- 4490 Iyochi kotan
イヨチ コタン
イヨチ 村
イヨチ村
- 4491 pirika kotan
ピリカ コタン
美しい 村
立派な村の
- 4492 kotan kurkashi
コタン クルカシ
村 その上面
村一帯が
- 4493 kotesnatara.
コテシナタラ
に対して 反らし続けている
広やかにずらっと見渡せました。
- 4494 Kotan noshki
コタン ノシキ
村の 真ん中
村中央に
- 4495 kamui kar
カムイ カラ
神 が造る
神がお造りになった

※1 参考:「Urepuni,ウレプニ,歩ム, v.i. To walk.」(B540) kani chikirbe/tumoureuni[金襴豪華な着物/を重ね着し(?)](教57-105)

※2 原綴 koerapno

※3 ari「aniの如く持つ意味があつて、makiri ari tuye(小刀で切る)」(研W528)、「aniの変化したもの【助詞】(以格)で、でもって」(語法)、「～で(道具・手段を導く)」(切247)

※4 rokunte「大船、軍艦」(研W301)、「大船、弁財船」(語法)、「帆掛け船」(萱479)、「rokuntew【名詞】客船《平賀サタモ》」(田583)

※5 chipokohokush「chip-o-ko-hokush<舟・乗る・に・仆れる>舟を漕ぐために前後に仆れるように動いて見える」(金I-335)

- 4496 tapkop ka ta
タ^プコ^ブ カ タ
孤立した山 接した上 に
山頂にある
- 4497 tam boro chise
タム(←タン) ポロ チセ
この 大きな 家
この大館の
- 4498 soike yakura kurka
ソイケ ヤクラ クルカ
外 櫓 表面
外やぐらの上に
- 4499 kamui ne okaibe
カムイ ネ オカイベ
神 のように ある者
神のごときイヨチのお二方が
- 4500 chieroshki,
チエ ロシキ
自身を そこに 立てる(as 複)
並んで立ち、
- 4501 neita bakno
ネイタ バッノ
どこ まで
いつまで
- 4502 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も
- 4503 ioshno※1
イ オシノ
人 のあとから+(副詞語尾)
引き続き
- 4504 inkarba noine
インカラバ ノイネ
見る+(複数語尾)らしく
見送っているように
- 4505 iramu-an.
イラム アン
ものを 思う・我は
思われました。
- 4506 Atuiso ka ta
アトウイソ カ タ
海原 上 に
沖に向かって
- 4507 taban kani rokunte
タバ^ン(←タ^ブアン) カニ ロクンテ
今ここにある 金の 大船
この輝く大船が
- 4508 kotbok riri
コツボク リリ
直前 の波
へさきに当たる波を
- 4509 tososatki,
トソサツキ(←トソ^シトソ^シ アツキ)
ザザッ、ドサドサし続ける
ザァザァ蹴立てて
- 4510 hoyubu humi
ホ ユブ フミ
尻 を締める その音
走っていく気配
- 4511 an-ekisarsutu
アネキサ^ラストウ(←アン エ キサ^ラ ストウ)
我は・それでもって耳元
でわたしの耳元
- 4512 maukururu.
マウ クルル
気 がかすめる
に風がうずまき起こる。
- 4513 Tane Iyochi kotan
タネ イヨチ コタン
今は イヨチ 村
もうイヨチ村は
- 4514 a-okaturainu.
ア オカトウライヌ
我は・あと 見失う
見えなくなりました。
- 4515 Pirika neto
ピリカ ネット
よい 風
穏やかな風
- 4516 kurkashike
クルカシケ
その上面一帯
その風の海面が
- 4517 maknatara.
マ^ナタ^ラ
輝く
広々とうち開けています。
- 4518 Atuiso kurka
アトウイソ クルカ
海 面 の上
海面に
- 4519 rakrakyatay,
ラ^クラ^ク バイェ
ふわりふわり行く
ゆらゆら浮かぶ
- 4520 netokotchikap
ネットコツチカ^ブ(←ネット コロ チカ^ブ)
凧いだ海を持つ鳥
海鳥や
- 4521 netokottori
ネットコトリ(←ネット コロ トリ)
凧を持つ禽
沖の鳥が
- 4522 raribe hawe
ラ^リベ(←ラ^ラ イベ) ハウエ
潜水して 食う その声
水にもぐって餌をあさる声
- 4523 oroneambe
オロネアム^ベ(←オロ ネアン^ベ)
全く+(強め辞)
たいそう
- 4524 bebunitara.
ベブニタ^ラ(←ベブン イタ^ラ)
ペブンという音 続いている
にぎやかです。
- 4525 Ineapkus
イネ ア^クス
どうしたもの ゆえに
なんとまあ
- 4526 a-ekiroroan wa
ア エキロロアン ワ
我が・それを 面白いと思っ て
わたしは面白く思った
- 4527 humash nankor'a!
フマ^シ(←フム ア^シ) ナンコ^ラ(←ナンコロ ヤ)
気がする だろう か
ことでしょうか。
- 4528 Eashka
エア^シカ
それこそ
ほんとうに
- 4529 nuchattek-an
ヌチャツテ^ク アン
顔 晴れる ちよつと~する・我は
わたしはほがらかな気分にな
- 4530 kane. Yakka,
カネ ヤ^クカ
状態である けれども
りました。しかし
- 4531 makan ne ko
マカン ネ コ
どうか なる と
時々
- 4532 a-keutum konna
ア ケウトウム コンナ
我が・気持ち+(語調)
わたしの心は
- 4533 chishkot kane.
チシコツ カネ
泣き死ぬ 状態だ
泣き死してしまいそうになります。
- 4534 Annitnekamui
アンニツネ(←ア^ラ ニツネ)カムイ
全くこちこちに堅い 神
凶悪な魔神が
- 4535 i-eyaiturashinot
イエヤイトウラシノツ
我を・~で自身と共に遊ぶ
わたしをもてあそび、
- 4536 i-wente ruwe
イウエンテ ルウエ
我を・悪くならせる その事実
とり殺そうとしたことを
- 4537 a-eshikarun ko
ア エシカルン コ
我は・~を思い出す と
思い出すと、
- 4538 shisembir unwa,
シセムビルンワ(←シセム^ビリ ウンワ)
自分の 後ろ へ
後ろへ
- 4539 shikiru-an ko,
シキル アン コ
自分を回す・我は と
わたしはふり向いて、
- 4540 tu nubur nube
トゥヌブルヌベ
二つの 濃い 涙
はらはらと
- 4541 re nubur nube
レヌブルヌベ
三つの 濃い 涙
熱い涙を
- 4542 a-yaikoranke,
アヤイコランケ
我は・自分に 落とす
流し、
- 4543 shinankabiru-an kane.
シナンカビルアン カネ
自分の 顔面をぬぐう・我は 状態だ
涙をぬぐっていました。

※1 原綴 iosshino

8-3 到着

- 4544 Ine hunak ta
イネ フナク タ
どう どこ に
どこかに
- 4545 arki-an ko,
アキ アン コ
来る・我らが と
わたしたちが来て、
- 4546 moyotek kotan
モヨ テク コタン
少数の ちよつと 村
住民が少しばかりの村
- 4547 kotan kurkashi
コタン クルカシ
村 その上面
その村全体が
- 4548 kotesnatarā.
コ テシナタラ
に対して 反らし続けている
ずらっと見渡せました。
- 4549 Kotan noshkike
コタン ノシキケ
村の 真ん中の所
村中央に
- 4550 chibuni tapkop
チ ブニ タッコ
自身を 起こす 孤立した山
ぽこんと独立した山が
- 4551 kamuinish kashi
カムイ ニシ カシ
神の天 の上
天空に
- 4552 kotaprikikur-
コ タプリキクル
に向かって 山頂 高く+ (助辞)
山頂高々と
- 4553 bumba kane.
ブムバ カネ
を持ち上げる(puni 複) 状態だ
そびえ立っています。
- 4554 Kotan rake
コタン ラケ
村 低い所
その村のしもて
- 4555 a-eshireba.
アエシレバ(←ア エ シリ エバ)
我らは・その 土地 に着く
にわたしたちは到着しました。
- 4556 Kamui ne ambe※1
カムイ ネ アムベ
神 のように ある者
神のごときオタサムびとが
- 4557 chibehenkusa hau※2
チベヘンクサ(←チ プ エ ヘン クサ) ハウ
舟で(?)を渡す 声
(不詳)
- 4558 ashte kane.
アシテ カネ
立つさせる 状態だ
を発しました。
- 4559 (後編に続く)

※1 原綴 kamui Ambe

※2 参考:「chip-e-kusa<舟・にて・渡す>(船に積んで)舶来する」(金 I -434)